令和3年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業

事業報告

令和4年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

障害者の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**」）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「**ニーズ**」と開発や研究者等の「**シーズ**」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ニーズとシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する「**マッチング交流会**」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価を行う機会等を創出すことを目的とした交流会を開催した。

今年度は、山口県及び東京都に於いて会場開催を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、山口会場での開催は中止することとし、Ｗｅｂ開催に切り替えた。一方、東京会場では新型コロナウイルス影響もあり、一般来場者は例年より落ち込んだものの約２６０名の来場あり、出展者と来場者が活発に意見交換されている姿が見られた。Ｗｅｂ開催では「**Ｗｅｂ交流プラットフォーム**」を４か月間設け実施した。試作中の出展機器を検索して紹介動画を視聴したり、問合せフォームや掲示板を使って出展者へ問い合わせできる仕組みを構築し、交流プラットフォームのアクセス数は、１月末までに９５００件を超え、多くの方々に来場いただいた。

また、新しい試みとして「**個別の意見交換会、アドバイス支援事業**」を実施した。協会がシーズとニーズの間に入りコーディネートすることにより、これまでの受動的なスタンスから能動的なスタンスが生まれ、多くの企業と関係機関等の間で交流を図ることができた。今後も、こうした取り組みを継続的に実施し、支援機器開発の一助になれば幸いである。

本報告書は、事業結果を取り纏めたものであり、本事業の実施にあたり、ご協力いただいた障害当事者の団体、職能団体、出展企業等、多くの方々に心から御礼を申し上げる。

令和４年３月

公益財団法人テクノエイド協会

目次

第１部（本編）.....**1**
１．目的.....1
２．事業概要.....1
（１）企画委員会の設置.....1
（２）シーズ・ニーズマッチング交流会の企画.....2
（３）Ｗｅｂ開催の内容.....5
（４）交流会開催後のフォローアップ.....6
（５）ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信.....6
（６）実施スケジュール.....6
３．事業結果.....8
（１）企画委員会の開催結果.....8
（２）出展者の募集から決定までのプロセス.....8
（３）交流会の周知.....12
（４）交流会の開催結果.....15
（５）意見交換会、アドバイス支援の実施結果について.....30
（６）参加人数及びアンケート結果.....34
（７）今後の交流会の在り方について.....42

第２部（資料編）.....**45**
１．併催イベント講演資料.....45
２．交流会関係資料.....144
（１）交流会チラシ.....144
（２）公式パンフレット.....145
（３）出展企業等出展要項.....162
（４）体調管理チェックシート.....178
３．意見交換会、アドバイス支援の実施.....182

第１部（本編）

１．目的

障害者の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**」）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「**ニーズ**」と開発や研究者等の「**シーズ**」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ニーズとシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する「**マッチング交流会**」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価を行う機会等を創出することを目的とした。

２．事業概要

（１）企画委員会の設置

支援機器に関する障害関係団体及び医療・福祉専門職等から構成する、「**シーズ・ニーズマッチング交流会　企画員会**」を当協会に設置し、シーズ・ニーズマッチングのコーディネート機能及び体制を構築した。

本委員会ではシーズ・ニーズマッチング交流会の企画及び運営に係わる審議を行うとともに、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。本委員会を構成する障害関係団体の皆様には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくこと。②本交流会では、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的にご参加いただくこと。また、③交流会の成果を着実に支援機器開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて相談やアドバイス支援を行うこととともに、関係する障害者等をご紹介いただくこととした。

企画委員会　委員名簿

（委員）　（五十音順・敬称略）

氏　名	所　属
逢坂　　忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
安藤　信哉	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
小川　光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
岸川　忠彦	一般社団法人 日本ＡＬＳ協会
小磯さおり	川崎市社会福祉事業団　れいんぼう川崎
小山万里子	ポリオの会
佐藤　加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田　尚美	ＮＰＯ法人 日本失語症協議会
橋間　信市	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
増澤　高志	ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

（オブザーバー）　　（敬称略）

氏　名	所　属
只野　　肇	国立研究開発法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部
齋田信二郎	国立研究開発法人　情報通信研究機構　デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
下田　　修	国立研究開発法人科学技術振興機構 起業支援室
田上　未来	厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　企画課自立支援振興室
坂本　和香	厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　企画課自立支援振興室
南谷　　毅	厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　企画課自立支援振興室

（２）シーズ・ニーズマッチング交流会の企画

障害当事者のニーズを的確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズとニーズのマッチング交流会を開催した。

本交流会では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設け。

本年度は、Ｗｅｂ開催（４ヶ月間）、山口会場及び東京会場（各２日間）の開催を予定した。Ｗｅｂ開催では、出展企業及び機器の紹介動画を掲載すると共に、「問合せフォーム」、「掲示板」を使用してオンライン上での意見交換や、各種セミナー、講演の常時配信や定期配信が視聴できるようＷｅｂ交流プラットフォームを構築した。

東京会場では、感染症予防等の徹底を図り、開発中の試作機等の展示及びデモンストレーション、意見交換等を行った。また、併催イベントとして、基調講演、福祉機器の利用事例とニーズの発信、福祉機器開発の現状、令和３年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業による成果報告会等を行った。

※）全国的な新型コロナウイルス感染症が急速に増加したことを受け、令和３年８月下旬に山口会場については、感染症予防等の徹底を図るため、会場開会を中止することとし、Ｗｅｂ開催に変更することとした。

本交流会の対象者は以下とした。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者　等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関　等

シーズ・ニーズマッチング強化事業は、次頁のとおり、「障害者自立支援機器等開発促進事業」の一環として実施されるものであり、ニーズに基づいた実用的な支援機器開発が促進されるよう、意見交換を行える場を提供するとともに、モニター評価を行う機会を得ることを狙いとするものでもある。

① 開催日程及び内容

● Ｗｅｂ開催　　令和３年１０月１日（金）～令和４年１月３１日（月）

【時間】　１０：００―１７：００

【配信会場】　テクノエイド協会　Ｗｅｂ交流プラットフォーム内

【企画内容】

・Ｗｅｂによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
・講演動画の常時配信および定期配信の実施

● 山口会場　　令和３年１０月９日（土）～１０日（日）２日間

<u>※オンライン開催へ切り替えを決定</u>

【時間】　１０：３０－１７：００／９：００－１７：００

【会場】　海峡メッセ下関（展示見本市会場）

※第１０回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会　同時開催

【併催イベント】

・Ｗｅｂによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
・Ｚｏｏｍウェビナーを使用した講演のリアルタイム配信

● 東京会場　　令和３年１２月７日（火）～８日（水）２日間

【時間】　９：００－１７：００（両日ともに）

【会場】　東京都立産業貿易センター浜松町館（２階展示室）

・Ｗｅｂによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
・開発中の試作機等の展示及体験、意見交換等
・会場講演及びウェビナーを使用したリアルタイム配信の実施

山口会場

【海峡メッセ下関　外観】

【１Ｆ　展示見本市会場】

※オンライン開催へ切り替えたことにより、実際には使用していない

東京会場

【東京都立産業貿易センター浜松町館　展示室】

② 出展企業等の募集

出展要項を作成のうえ、５０か所程度、一般募集することとした。
Ｗｅｂ開催の参加は必須とする。※Ｗｅｂ開催のみの参加は認めないこととした。

- ・Ｗｅｂ開催　５０企業
- ・山口開催　５０企業＋１０企業（地域推薦枠）
- ・東京開催　５０企業

③ 会場開催に伴う留意

会場での開催にあたっては、開催時の状況に応じて、基本的には国及び開催自治体の方針に従うこととし、以下の事項について原則遵守することとした。

- ● 三密を避ける。
  - ・会場内の換気を定期的に行う。
  - ・出展者の間隔を十分にあける。
  - ・参加者の座席の間隔を十分にあける。
  - ・入場は室内定員の５０％以内とする。
- ● 手指の消毒やマスクの着用を要請することとした。
- ● 開催２週間前から体調管理表を作成し、事務局へ提出いただくこととした。

会場開催では、感染症予防等の徹底を図るとともに、Ｗｅｂ開催については、出展機器等の動画を作成し、期間中の交流を推進することとした。

（３）Ｗｅｂ開催の内容

本交流会専用サイト内に、「Ｗｅｂ交流プラットフォーム」を設け、出展事業・機器を紹介する動画コンテンツの視聴、問い合わせフォーム及び掲示板を利用した出展者の意見交換、各種セミナー、講演の常時配信、定期配信の視聴ができる仕組みを構築した。

また、Ｗｅｂ交流プラットフォームは、ログインの必要は不要であり、多くの方々がアクセスしやすい仕組みとした。

（交流会での動画配信）

- Ｗｅｂ交流プラットフォーム（交流会の専用ページ）をＷｅｂ上に設け、作成した動画を出展企業等の個別ページで常時配信することとし、シーズとニーズの交流を推進することとした。
- 出展企業等一覧は、Ｗｅｂ交流プラットフォーム上で各障害分野別やフリーワードでの検索を可能とした。なお、動画はサーバー容量の都合上、YouTube のサイトへ移動して動画の閲覧ができるようにした。
- 期間中に企画する基調講演及び特別講演、開発の成果報告等については、リアルタイムで配信することとした。
- セミナー等の資料については、講演者より資料提供が可となったものについてダウンロード可とした。

（基本的な考え方）

- 動画は、本交流会の目的を踏まえた内容と構成に仕上げることとし、出展企業及び招待団体・機関の動画コンテンツをＷｅｂ上に掲載した。
- 出展企業の動画は、原則、各自で作成すること。但し、事務局では様々な状態の障害者に配慮した動画コンテンツとなるよう、出展企業からの要請に応じ必要な支援を行った。（作成に必要な費用は各社負担。）
- 協会では、販売目的を中心とする単なる製品ＰＲとならないよう、動画の内容や構成、長さ等、厳格に指定し確認することとした。
- 障害当事者団体・開発支援機関の動画については、昨年作成した動画を使用することを基本とし、必要に応じて各自で作成することも可とした。

（動画の目途）

- 出展企業　５０～６０本
- 障害当事者団体・開発支援機関　１３本

（４）交流会開催後のフォローアップ

担当職員による相談窓口を設置し、交流会開催後の成果を支援機器の開発に繋げるため、企画委員や関係団体等と協力しながら、開発企業等に対して継続的に必要な支援を行った。

具体的には、以下の取り組みを実施した。

（相談窓口の設置）

開発側やユーザー側からの相談に応じる専用窓口を設け、常時対応した。

（モニター評価実施にあたっての支援・協力）

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図りモニター評価の実施施設や想定するユーザー等を紹介した。

具体的には、「**福祉用具ニーズ情報収集・提供システム**」を活用して、開発中の機器や実用化して間近な機器に対して、モニターやアドバイスにご協力いただける機関（施設や事業所など）を募り、開発企業へ繋いだ。

（意見交換会やアドバイス支援の実施）

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバス等の開発支援を行った。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会ＨＰから各方面へ発信し、シーズとニーズのマッチングを推進するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起した。

訪問及び状況に応じてオンライン会議を行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。

（その他）

必要な支援を関係団体等と連携して行った。

（５）ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信

「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用することにより、支援機器に係るニーズとシーズの収集・提供を行った。

（６）実施スケジュール

次ページを参照のこと。

令和3年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業 実施スケジュール（年間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
委員会			企画委員会の設置		★第1回企画委員会 8/4	
交流会	会場の検討・選定・仮約	委託先の公募・決定 出展要項の作成・配布	出展者募集 6/29 締切	出展者の確定 6/30-7/6 出展者説明会①7/15 併催イベント演者検討・内諾 正式の講演依頼	動画締切 8/20 Web掲載動画撮影、動画コンテンツの作成・編集	出展者説明会 ②9/24 オンラインテスト
ホームページ		交流会専用HPの設置、PR		ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信		
交流会フォローアップ				意見交換・アドバイス支援の実施（オンライン又は対面）		

	10月	11月	12月	令和4年1月	2月	3月
委員会						★第2回企画委員会 3/10
交流会	Web開催 10/1-1/31 Web交流プラットフォームを活用したオンライン交流 ※仙台開催 10/9-10 シーズ・ニーズマッチング交流会の開催 公式パンフレット作成及び配布 ※8月下旬に会場開催中止の連絡		東京開催 12/7-8			
交流会フォローアップ	交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行う 意見交換・アドバイス支援の実施（オンライン又は対面）					
その他						事業報告の作成

３．事業結果

（１）企画委員会の開催結果

「シーズ・ニーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

①第１回シーズ・ニーズマッチング交流会　企画委員会

【日時】：令和３年８月４日（水）１４：００～１５：３０
【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）
【実施内容】：

- 本事業の概要について
- 出展者の募集及び選定状況について
- 日程表及び併催イベント（案）
- 山口会場を盛り上げる提案内容（案）
- 参加登録票の提出について
- Ｗｅｂ交流プラットフォームイメージ
- Ｗｅｂ交流の実施方法
- 動画等の作成依頼について
- 意見交換会、アドバイス支援の実施について
- 今後のスケジュール

②第２回シーズ・ニーズマッチング交流会　企画委員会

【日時】：令和４年３月１０日（木）１０：００～１１：３０
【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）
【実施内容】：

〇報告事項
- 本事業の実施について
- 実施結果の報告について
  - 出展者の選定及び開催の周知
  - 交流会の企画及び併催イベント
  - 交流会の企画及び併催イベントの開催結果
  - 意見交換会、アドバイス支援の実施結果
  - 開催結果及びアンケート結果

〇検討事項
- 今後の交流会等の在り方について（意見交換）

（２）出展者の募集から決定までのプロセス

①企業等の募集について

募集は「シーズ･ニーズマッチング交流会｢出展企業等｣募集要項」を作成のうえ、郵送又はホームページへの掲載を行い、周知を行った。

また、山口会場については締め切り後も、出展予定数に達していなかったため、専用ホームページやメール等で継続募集を実施した。

②申込方法

出展の申込方法に関しては、従来の書面での申し込みから、Ｇｏｏｇｌｅ　Ｆｏｒｍを使用したＷｅｂ上での申し込み方法に変更した。

③募集の期間

１、通常募集　令和３年６月１日（火）～６月２９日（火）１７時必着

２、追加募集　通常募集終了後～８月２０日（金）１２時必着

④周知の方法、周知先

１、郵送

・発送数　　：１，６９５ヵ所

・主な送付先：

過去の開発促進事業応募企業
過去のシーズ・ニーズマッチング交流会出展及び来場企業
福祉用具情報システム（ＴＡＩＳ）登録企業（抽出）
介護ロボット関連企業　都道府県・政令市　報道機関、地方産業組織　等

２、専用ホームページの開設

出展の申込方法に関しては、従来の書面での申し込みから、Ｇｏｏｇｌｅ　Ｆｏｒｍを使用したＷｅｂ上での申し込み方法に変更した。

３、メール、その他

A)　過去の交流会参加企業及び開発促進事業採択企業への周知

過去に交流会に出展した企業及び来場した開発企業に対し、参加の周知を行った。（令和３年６月３日実施）

B)　産業振興課から開発企業へのご紹介

山口県産業振興課にご協力をいただき、産業振興課で設置している「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会」の会員宛てにご紹介いただいた。（令和３年６月５日実施）

C)　福祉用具情報システム（ＴＡＩＳ）登録企業に対する周知
ＴＡＩＳに登録されている国内の福祉用具製造事業者・輸入事業者、約８００社の担当社に対して、電子メールにて周知した。（令和３年６月１８日、７月８日実施）

D)　日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会からのご紹介
大会長及び世話人より、関連企業等へ周知のご協力をいただいた。（令和３年６月２６日、７月８日実施）

E)　厚生労働省による事務連絡の発出等
各都道府県、指定都市、中核市の障害保健福祉主管課に対し、周知を行っていただいた。（令和３年７月１５日実施）
厚生労働省のフェイスブックにも掲載いただいた。

F)　障害関係団体等へ周知のご協力
企画委員が所属する障害関係団体を通じて、交流会の開催の周知及び開発企業のご紹介をいただいた。（令和３年７月１３日実施）

G)　福祉医療機構のワムネットへ掲載周知
福祉医療機構のワムネットにバナーを設けて掲載いただき、開催及び追加募集を周知いただいた。（令和３年８月５日実施）

⑤出展企業の選定及び選定結果について

事務局では、応募のあった企業の中から、以下の観点及び障害の種別等を勘案して、全７０企業等の選定を行った。

（選考にあたっての観点）
- 交流会の目的及び要件に合致しているか
- 新規あるいは交流を踏まえて改良する意思があるか
- 採択又は推薦があるか
- 動画等を作成することができ、希望する交流の内容が明確となっているか

〇各会場の出展募集及び決定

会場	定員	決定
山口会場	60	38
東京会場	50	50

〇出展者の決定

会場別　選定結果	
東京会場と山口会場、Web 開催	18
山口会場と Web 開催	20
東京会場と Web 開催	32
不可	18
辞退	5
合計	93

参加の希望は、会場での出展を原則とし、「山口会場とＷｅｂ開催」、「東京会場とＷｅｂ開催」、「山口会場及び東京会場とＷｅｂ開催」の３つから選択することとした。東京会場の出展を希望する企業等が多かった。

山口会場について、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、出展希望していた企業等のうち、５件ほど辞退の申し出があった。

〇出展機器の障害種別（山口会場、東京会場）

障害種別	応募	決定
身体障害（肢体不自由）	47	32
視覚障害	10	7
聴覚障害	8	8
高次脳機能障害（失語症等）	2	2
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	3	3
精神障害（発達障害を含む）	5	3
障害児（身体・知的・精神）	8	7
その他	10	8
合計	93	70

（３）交流会の周知

①交流会専用ホームページの開設

【期間】令和３年５月２０日（木）～

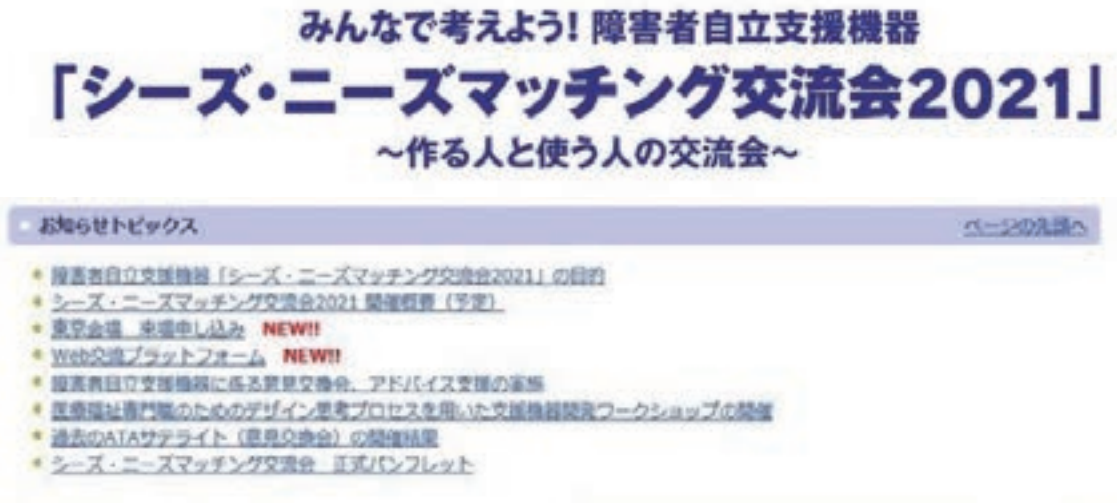
【周知方法】協会ホームページより、順次最新情報になるよう更新を行った。

テクノエイド協会にアクセスすると、上部に交流会のバナーを表示させ、バナーをクリックすると交流会専用サイトに移る仕組みとした。

＜専用サイトの画面＞

http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml

以下、２０２２年１月末時点の交流会専用ホームページ



障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2021」の目的

ページの先頭へ

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「**機器を使う側（ニーズ）**」の方々と、開発企業、大学、研究機構、産学官交流振興組織などの「**機器を作る側（シーズ）**」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者　等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関　等

各都道府県等障害保健福祉主管課宛　厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室（令和3年6月29日）

- 「障害者自立支援機器　シーズ・ニーズマッチング交流会2021」の開催について　（PDF形式：2.33MB）

- シーズ・ニーズマッチング交流会　正式パンフレット（PDF形式：6.56MB）　**NEW!!**

シーズ・ニーズマッチング交流会2021 開催概要（予定）

ページの先頭へ

令和3年10月1日（金）～
令和4年1月31日（月）
10:00～17:00

会　場　：　テクノエイド協会
Web交流プラットフォーム内

令和3年10月9日（土）～10日（日）

10:30～17:00／9:00～17:00

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場での開催を断念することとなりました。
（開催中止のお知らせはこちら）

併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え、上記日程にて開催いたします。
視聴サイトや視聴方法は後日に本ページにアップしますので、ぜひご視聴ください。

令和3年12月7日（火）～8日（水）

9:00～17:00

場　所　：　東京都立産業技術センター消費者館（2階展示室）

アクセス　：　浜松町駅（北口）より徒歩5分
ゆりかもめ竹芝駅より徒歩2分
東京モノレール浜松町駅（北口）より徒歩5分
都営浅草線大門駅より徒歩7分
都営大江戸線大門駅より徒歩7分

シーズ・ニーズマッチング交流会　正式パンフレット（PDF形式：6.56MB）
NEW!!

シーズ・ニーズマッチング交流会　チラシ（PDF形式：2.50MB）

②チラシ及び公式パンフレットの作成、配布

【期間】：令和３年１０月上旬～

【周知方法】：郵送、メール等

【送付物】：公式パンフレット、交流会チラシ

【主な送付先】

〇障害団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体　等）
〇開発企業（過去の採択企業、ＴＡＩＳ登録企業、過去の交流会出展企業　等）
〇行政（都道府県、市町村の障害主管課）
〇過去の交流会一般来場者
〇職能団体（都道府県の理学療法士協会、作業療法士協会事務局）
〇介護実習・普及センター
〇全国のリハビリテーションセンター
〇全国の更生相談所
〇介護ロボット関連企業または施設
〇義肢製作所
〇特別支援学校等
〇報道機関
〇その他（賛助会員、個人あて）

計　６，５３１ヵ所・部

③関係団体への周知

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ交流会開催を周知した。主な周知先は以下のとおりである。

〇日本作業療法士協会：会員向けＨＰに掲載
〇埼玉県作業療法士協会：ＨＰへの掲載
〇神奈川県作業療法士協会：ＨＰへの掲載
〇日本言語聴覚士協会：機関紙、ＨＰへの掲載
〇ロボット革命・産業 IoT イニシアチブ協議会：ＨＰに掲載
〇独立行政法人福祉医療機構（ＷＡＭ）：イベントセミナーＨＰに掲載
〇日本障害者リハビリテーション協会：会員へ周知のお願いを実施
〇ＪＡＳＰＡ：会員へ周知のお願いを実施
〇バリアフリー展：会員へメルマガの送信、ＨＰに掲載
〇日刊工業新聞：関係者各位へメーリングリストにて周知のお願いを実施
〇福祉新聞：開催情報を掲載
〇厚生労働省：Ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｔｗｉｔｔｅｒ、厚生労働（雑誌）より周知

④その他（出展企業等を対象にした説明会）

出展企業等を対象として、本事業の目的、内容や紹介動画の製作依頼、今後のスケジュール等についてオンラインによる説明会を２回実施した。なお、原則、出展企業等は参加を必須とした。

〇第１回 出展企業等を対象にした説明会

【実施日】令和３年７月１５日（木）１３時３０分～１４時３０分

【内容】・交流会の目的及び内容について

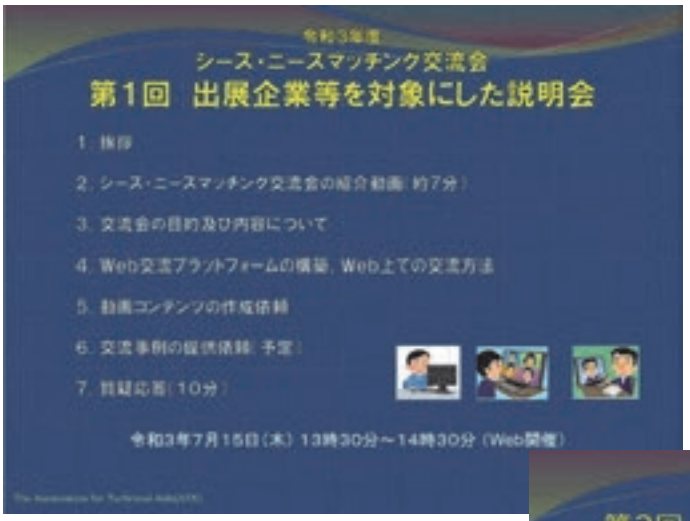
・Ｗｅｂ交流プラットフォームの構築、Ｗｅｂでの交流方法
・動画コンテンツの作成依頼
・交流事例の提供依頼
・質疑応答

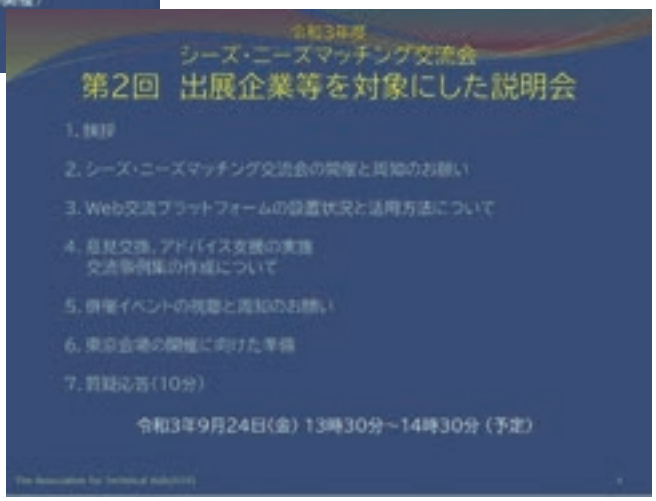
○第２回 出展企業等を対象にした説明会

【実施日】令和３年９月２４日（金）１３時３０分～１４時３０分

【内容】・交流会の開催と周知のお願い

・Ｗｅｂ交流プラットフォームの設置状況と活用方法について
・意見交換、アドバイス支援の実施について
・併催イベントの視聴と周知のお願い
・東京会場の開催に向けた準備
・質疑応答





（４）交流会の開催結果

令和３年１０月９日～１０日の山口会場においては、新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、会場での開催は中止することとしたが、予定していたセミナーについては、ＺＯＯＭウェビナーを活用してオンライン配信することとした。また、シーズとニーズの交流については、交流プラットフォームを活用して交流することとした。

開催概要は以下のとおりである。

〇Ｗｅｂ開催

【開催期間】：令和３年１０月１日（金）～令和４年１月３１日（月）　４ヵ月間
【時間】：９：００～１７：００
【会場】：テクノエイド協会　Ｗｅｂ交流プラットフォーム内
【開催イベント内容】：
Ｗｅｂによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
講演動画の常時配信および定期配信の実施

➢ **常時配信**

・シーズ・ニーズマッチング交流会２０２１開催にあたってのご挨拶
・Ｗｅｂを活用した交流の進め方
・自立支援機器における現状と課題
・支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告

➢ **定期配信　※毎月イベントの内容を更新した**

１０月配信
・【特別講演】視覚・聴覚障害者用支援機器への期待
・厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告①
・障害者自立支援機器等開発促進事業

１１月配信
・【特別講演】３Ｄプリンタ―で造る自助具とリハビリ器具の可能性
・厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告②
・ＮＥＤＯ福祉事業のご紹介～福祉用具実用化開発の支援～

１２月配信
・【特別講演】意思伝達装置の利用にあたり
・厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告③
・ＮＩＣＴ 情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度の案内

１月配信
・【特別講演】活動行動範囲を広げよう
・厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④
・ＪＳＴの産学連携支援事業と福祉機器開発事例

○山口会場（オンライン開催へ変更）

【開催期間】：令和３年１０月９日（土）～１０月１０日（日）　２日間
【時間】：１１：００～１６：２０／１０：００～１６：００
【会場】：テクノエイド協会　Ｗｅｂ交流プラットフォーム内
【開催イベント内容】：
Ｗｅｂによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
Ｚｏｏｍウェビナーを使用したリアルタイム配信
【併催セミナータイトル】：
・【基調講演】『歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発』
・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
・（セミナー）バイオデザイン手法の紹介
・つながる、たのしむ、相談できるスマホでつむぐ重症児支援の未来
・【特別シンポジウム】『好事例表彰の受賞とその後』
・福祉機器の利用と開発の報告
・障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
・（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ

山口会場の会場開催中止の連絡は、協会ホームページのお知らせ欄に情報を掲載したことや出展者、関係者へ一斉メールを実施して周知を図った。

○東京会場

【開催期間】：令和３年１２月７日（火）～１２月８日（水）　２日間
【時間】：９：００～１７：００
【会場】：東京都立産業貿易センター浜松町館２階展示室
【開催イベント内容】：
Ｗｅｂによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
会場及びＺｏｏｍウェビナーを使用したリアルタイム配信
【併催セミナータイトル】：
・【基調講演】『障害者の自己決定』
・福祉機器の利用事例とニーズの発信
・厚生労働省「令和３年度 障害者自立支援機器等開発促進事業」成果報告①
・出展企業による福祉機器開発の現状報告
・失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器
・厚生労働省「令和３年度 障害者自立支援機器等開発促進事業」成果報告②
・（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ

①東京会場の開催結果

東京会場（令和３年１２月７日～８日）の２日間の出展者の内訳は以下のとおりである。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、機器出展は行わずに資料のみ配布に変更となった３社も含める。

区分	出展数
身体障害（肢体不自由）	２１
視覚障害	4
聴覚障害	8
高次脳機能障害（失語症等）	2
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	2
精神障害（発達障害を含む）	3
障害児（身体・知的・精神）	5
その他	4
障害当事者団体・開発支援団体	１３
合計	６２企業・団体

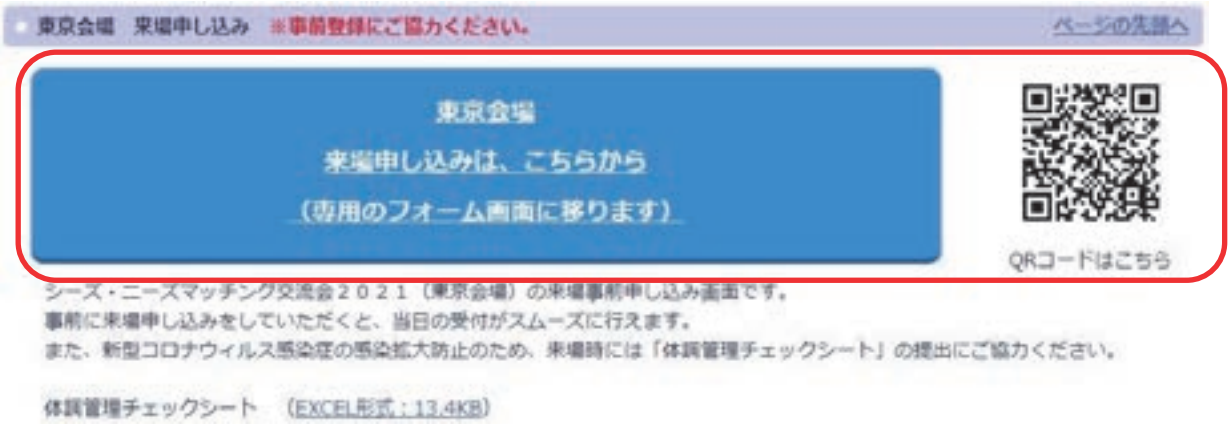
②交流会の申込について

本年度は入室しやすいよう、上記の情報登録は不要とし、交流会ホームページ内に交流プラットフォームを設け、自由に出展者動画や出展者と意見交換ができるようにした。

コロナに関係もあり、東京会場においては、事前申し込みを基本的に必須とし、サイト内に事前申し込みのフォームを設置した。

申込は携帯からも容易に行えるようにした。

また、出展者や事務局も含め、来場者には健康状態の確認をすることを目的として体調管理表チェックシート（体温、咳、喉の痛み等）の提出を求めることとした。

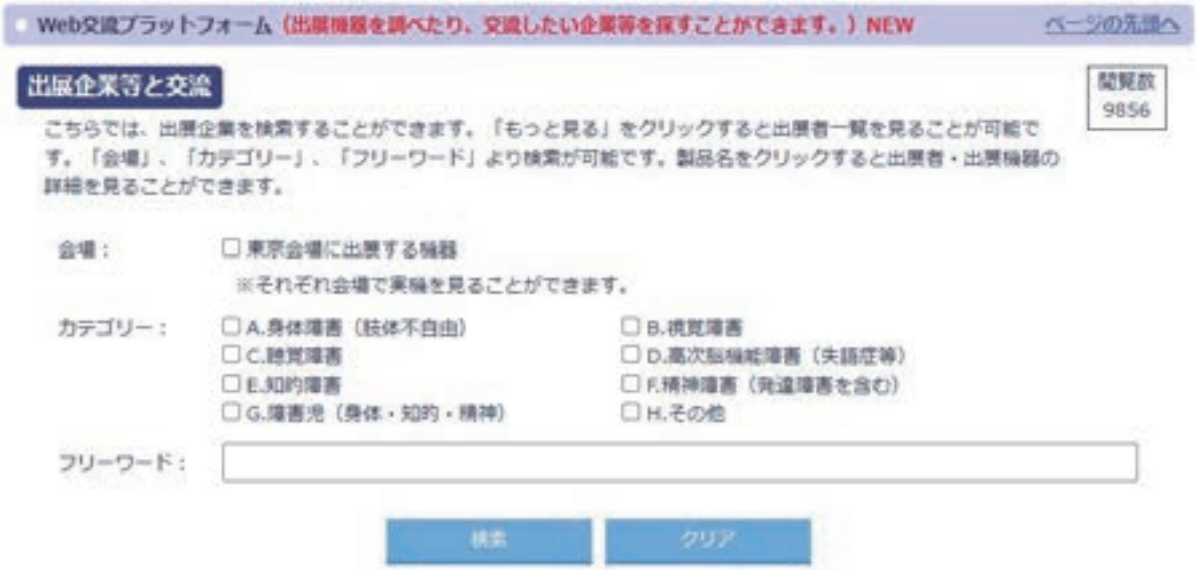


③Ｗｅｂ交流プラットフォームについて

出展企業等や出展機器情報の掲載、掲示板・問い合わせフォームからの意見交換、併催セミナーの視聴、セミナー資料のダウンロードを可能にしたプラットフォームを構築した。出展企業等や出展機器情報は、「**カテゴリー**」、「**フリーワード**」より検索を可能とした。

また、出展企業ごとに出展者のページを作成し、「**掲示板**」もしくは「**問合せフォーム**」を使って意見交換ができるよう仕組みを構築した。なお、本プラットフォームは、Ｗｅｂ開催開始日の令和３年１０月１日から令和４年１月３１日まで公開期間とした。

以下、Ｗｅｂ交流プラットフォーム画面



出展者	製品名	製品概要	製品画像	カテゴリー	会場	掲示板	問合せ
フジホーム株式会社	室内用立上り機能付き歩行車（仮称）	椅子やベッドからの立ち座りを補助して、そのまま歩行が可能な自立型歩行補助器にて、在宅中でも介護者無しに移動する事が可能になる。また、座った状態での食事や読書等が出来る、高さ調整機能付きテーブル付属。		身体障害（肢体不自由）	東京 A-19	掲示板	問合せ

＋ もっと見る

当事者団体・開発支援機関等と交流

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリー	会場	掲示板	問合せ
公益社団法人 全国聴覚障害者連合会	-	障害当事者団体	東京	掲示板	問合せ
一般社団法人 全日本難聴者・	中途失聴・難聴者の当事者団体です。 日本語や周囲の音をより聞きやすい音声、より明瞭な視覚的言語、視覚・触覚的情報等で知りたいと望んでいます。 身体障害者手帳を持つ聴覚障害者は国内に約30万人います。聞こえにくさを自覚している人は国内に1400万人以上いるとみられていますが、その多くは難聴の自覚がありません。	障害当事者団体	東京	掲示板	問合せ

＋ もっと見る

〈出展企業ページ〉

身体障害（肢体不自由）　ページの先頭へ

フジホーム株式会社 フジホーム カブシキガイシャ

今までの閲覧数 298

室内用立上り機能付き歩行車（仮称）

出展者情報

東京会場に出展　会場では実機を見ることができます。

住所：	〒104-0033 東京都中央区新川2-12-15 ヒューリック八丁堀ビル7F
担当部署：	代表取締役
氏名：	岡野　健
TEL：	03-3523-1631
FAX：	03-3523-1632
メールアドレス：	okano-ta@fujihome.toso.co.jp
企業ＨＰ：	http://www.fujihome.co.jp/
その他：	

出展機器

出展機器	室内用立上り機能付き歩行車（仮称）
型番	
障害種別	身体障害（肢体不自由）
機器の概要	椅子やベッドからの立ち座りを補助して、そのまま歩行が可能な自立型歩行補助器にて、在宅中でも介護者無しに移動する事が可能になる。また、座った状態での食事や読書等が出来る、高さ調整機能付きテーブル付属。

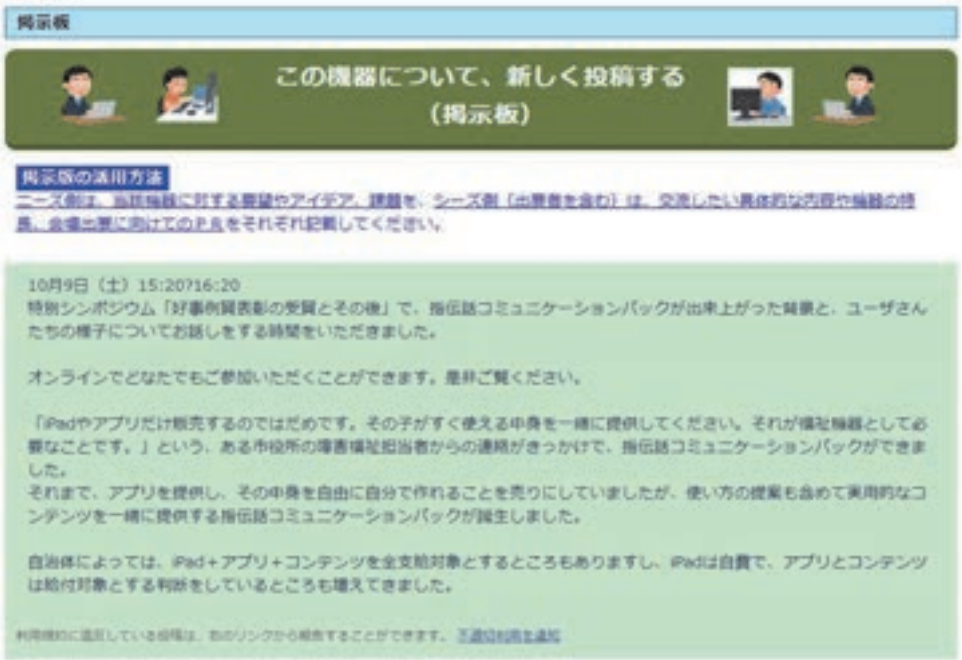
交流したい内容

在宅介護及び施設内にて自立歩行時の課題や問題等について確認したい。

出展者情報には、出展者の連絡先、紹介動画、機器の概要、交流したい内容を記載し、交流の目的を明確化することとした。交流方法として、「問合せフォーム」又は「掲示板」の機能を設け、出展者への連絡を２４時間いつでも可能とした。

問合せフォームは、来場者と出展者が１対１でやり取りすることが可能となっており、来場者が下記フォームに必要事項を入力すると、出展者のメールアドレスへ通知が届くシステムとした。また、掲示板は、来場者全体とやり取りすることが可能であり、投稿内容は掲示板に公開される。出展者は出展機器に関係する情報発信、告知等にも使用できることとした。

例）実際に掲示板に投稿された内容



④交流会の申込について

Ｗｅｂ開催においては、Ｗｅｂ交流プラットフォーム内にて、「常時配信」と「定期配信」に分け、視聴できる環境を構築した。常時配信はＷｅｂ開催開始から終了までの４ヵ月間はいつでも視聴可能とし、定期配信は１ヶ月毎に配信内容を変更して配信を行った。

山口会場はＺＯＯＭウェビナー、東京会場においては、会場配信及びＺＯＯＭウェビナーを活用してオンライン配信を実施した。参加者は各セミナーにおいて５０～２０名程度の視聴者数であった。

なお、各セミナーの講演資料は、講演前にからプラットフォーム上に掲載しており、演終了後もダウンロードできるようにした。

東京会場併催セミナーの視聴（リアルタイムで配信します）　ページの先頭へ

視聴はこちら（それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。）

日程は併催セミナープログラムをご覧ください。

【Zoom】アプリのPC・スマートフォンへのインストール方法はこちら

音声認識アプリ（UDトーク）を使用した字幕配信の設定方法はこちら

山口会場併催セミナー資料

【令和3年10月9日（土）～10日（日）】

講演情報	資料
「歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発」 国立大学法人 名古屋工業大学　大学院 つくり領域　教授　佐野明人　先生	
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり 代表世話人　昭和病院　田中　恵　氏	
つながる、たのしむ、相談できる　スマホでつむぐ重症児支援の未来 一般社団法人オンライン臨床　代表理事　ぴいどろ　代表　言語聴覚士　長岡栄都子　氏	
特別シンポジウム「好事例表彰の受賞とその後」 NPO法人iCareほっかいどう　佐藤美由紀　氏	
特別シンポジウム「好事例表彰の受賞とその後」 かえるキッズのお助け隊　大泉えり　氏	
福祉機器の利用と開発の状況報告　シーズへのヒント 日本ＡＬＳ協会　常務理事・事務局長　岸川忠彦　氏	
福祉機器の利用と開発の状況報告 九州工業大学生命工学研究科　人間知能システム学専攻　山崎　駿　氏	
障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告 株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部　加藤善崇　氏	

▶ 常時配信及び定期配信の視聴（定期配信は、毎月更新します。）　ページの先頭へ

常時配信

講演情報	動画	資料
令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） **シーズ・ニーズマッチング交流会２０２１開催にあたってのご挨拶** 公益財団法人テクノエイド協会 理事長　大橋 謙策		－
令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） **1．シーズ・ニーズマッチング交流会の実施（Webを活用した交流の進め方）** 公益財団法人テクノエイド協会　宇田川竜吾		
令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） **2．自立支援機器における現状と課題** 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官　田上未来　氏		－
令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） **3．支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～** 一般社団法人　日本リハビリテーション工学協会		－

定期配信

令和４年１月配信中　※1月1日～1月31日 配信の予定です。

講演情報	動画	資料
【特別講演】 1月1日～1月31日（20分） **10．福祉機器を活用して、活動行動範囲を広げよう** 日本医療科学大学　保健医療学部リハビリテーション学科 教授　小林　毅　氏		－
1月1日～1月31日（20分） **11．厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④** **「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に資する出口を規定した開発プロセスに関する調査研究」** **（障害者総合福祉事業）** 一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員　八木雅和　氏		－
1月1日～1月31日（20分） **12．JSTの産学連携支援事業と福祉機器開発事例** 科学技術振興機構（JST）　企業支援室 下田　修　氏		－

<併催セミナープログラム一覧>

Web 開催

令和3年10月1日（金）～ 令和4年1月31日（月）（4ヶ月間）

9：00 ～ 17：00

Web 交流プラットフォームを活用し、
期間中は常時交流が可能です。

併催セミナーは毎月更新いたします。

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

（常時配信）

1. **シーズ・ニーズマッチング交流会の実施（Web を活用した交流の進め方）**
   テクノエイド協会　半田川竜吾
2. **自立支援機器における現状と課題**
   厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
   福祉工学専門官　田上未来　氏
3. **支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告**
   ～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～
   一般社団法人　日本リハビリテーション工学協会

（定期配信） 月によって視聴内容は異なります

【10月1日～10月31日　配信予定（各20分）】

1. **視覚・聴覚障害者用支援機器への期待**　特別講演
   筑波技術大学保健科学部情報システム学科　准教授　小林　真　先生
2. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告①**
   「障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究」
   （厚生労働科学研究費　障害者政策総合研究事業）
   東北大学大学院医工学研究科　教授　出江紳一　氏
3. **障害者自立支援機器等開発促進事業**
   厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
   福祉工学専門官　田上未来　氏

【11月1日～11月30日　配信予定（各20分）】

4. **3Dプリンターで造る自助具とリハビリ器具の可能性**　特別講演
   工房 SERA　代表　稲住義憲　氏
5. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告②**
   「障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実践する人材の育成プログラム開発のための研究」（厚生労働科学研究費　障害者政策総合研究事業）
   東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授　二瓶美里　氏
6. **NEDO 福祉事業のご紹介　～ 福祉用具実用化開発の支援 ～**
   NEDO イノベーション推進部 主幹　只野　肇　氏

【12月1日～12月28日　配信予定（各20分）】

7. **意思伝達装置の利用にあたり**　特別講演
   中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科　教授　井村　保　先生
8. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告③**
   「リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発」
   （厚生労働行政推進調査事業費）
   国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長　井上剛伸　氏
9. **情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度のご案内**
   NICT 情報バリアフリー推進室 室長　舞田信二郎　氏

【1月4日～1月31日　配信予定（各20分）】

特別講演

10. 活動行動範囲を広げよう
日本医療科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科　教授　小林　毅　氏

11. 厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④
「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に資する出口を想定した開発プロセスに関する調査研究」（障害者総合福祉事業）
一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員　八木雅和　氏

12. JSTの産学連携事業と福祉機器開発事例
JST 企業支援室　下田　修　氏

山口会場

令和3年10月9日（土）～10日（日）（2日間）

講演開始 11:00～16:20／10:00～16:00

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。

オンラインでも視聴
(https://us06web.zoom.us/j/86133851012)

1日目

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

AM

1. 11:00-12:00　(60分)
「歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発」
国立大学法人 名古屋工業大学
大学院 つくり領域　教授　佐野明人　先生

基調講演

PM

2. 12:10-12:30（20分）
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
代表世話人　昭和病院　田中　恵　氏

※3. 13:30-14:30（60分）
（セミナー）バイオデザイン手法の紹介
株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生

4. 14:40-15:10（30分）
つながる、たのしむ、相談できる　スマホでつむぐ重症児支援の未来
一般社団法人オンライン臨床　代表理事
びぃどろ　代表
言語聴覚士　長岡葉都子　氏

下関発！

5. 15:20-16:20（60分）
特別シンポジウム「好事例表彰の受賞とその後」
NPO法人 iCare ほっかいどう　佐藤美由紀　氏
かえるキッズのお助け隊　大泉えり　氏
有限会社オフィス結アジア　高橋宣盟　氏

特別シンポジウム

2日目

AM

6．10:00-11:00（30分×2者）
福祉機器の利用と開発の状況報告
日本ＡＬＳ協会　岸川忠彦　氏
九州工業大学 学生団体 すぐ創る課　山崎　駿　氏

7．11:10-11:40（30分）
障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部　加藤善崇　氏

PM

○ 13:00-16:00
事務局だより
○Ｗｅｂ交流プラットフォームの活用方法の紹介など
○常時配信と今月の定時配信の内容をリアルタイム配信
公益財団法人テクノエイド協会

※ 8．13:00-16:00（180分）
（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ
株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生
東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員（理学療法士）　柿花隆昭　先生

東京会場

令和３年12月７日（火）～８日（水）（２日間）

９：00～17：00　／　９：00～17：00

東京都立産業貿易センター浜松町館　２階展示室

〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩２分
JR「浜松町駅」北口より徒歩５分
東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩５分
都営地下鉄「大門駅」B2 出口より徒歩７分
※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。

オンラインでも視聴
(https://us06web.zoom.us/j/89473466124)

1日目

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

AM

1．11:00-12:00　(60分)
「障害者の自己決定」
土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事
浅野史郎　先生

基調講演

PM

2．13:00-14:00（30分×2者）
福祉機器の利用事例とニーズの発信
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　小川光彦　氏
日本視覚障害者団体連合　遠坂　忠　氏

3．15:00-16:00（20分×3者）
厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告①
網膜投影型視覚支援機器の開発
株式会社 QD レーザ
AI 制御による表現豊かに歌える歌唱型人工喉頭の開発
株式会社電制
障がい児用シャワーチェアの開発
タカノ株式会社

2日目

AM

4．10:00-11:00（30分×2者）
出展企業による福祉機器開発の現状報告
国立大学法人 大阪大学　横田純己　氏
株式会社オレンジアーチ　宇田竹信　氏

5．11:10-11:40（30分）
先語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（仮称）
一般社団法人日本言語聴覚士協会　白波瀬元道　氏

PM

6．12:30-（20分×3者）
厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告②
聴覚視覚発話刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発
シスネット株式会社
座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする
"The e（座位）-balance　trainer" の開発
学校法人藤田医科大学
障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手と自助具
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

7．14:00-17:00（180分）
（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ
株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生
東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員（理学療法士）　柿花隆昭　先生

〈東京会場のセミナー及び意見交換の様子〉

B-03
㈱QDレーザ

（５）意見交換会、アドバイス支援の実施結果について

①開催のねらい、目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととした。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会のＨＰ等を通じて広く周知し、シーズとニーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとした。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器について、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方について、シーズ・ニーズ対等の立場にたって自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとした。

②期間

令和３年１０月１日～令和４年１月末

③実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザーの団体等へ繋ぐこととした。
実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。なお、東京会場の場面についても積極的に活用することとした。

１、実施予定数

１０件程度

令和３年９月２４日に開催する「第２回・交流会出展企業等を対象にした説明会」において、希望者を募集した。

令和３年１０月１日（金）以降、先着順とし、応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施の可否を決定した。

不明瞭な記載や内容に不備がある場合、また本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととした。

２、シーズとニーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する先を基本とすることとし、適切な団体等が見当たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すこととした。但し、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとした。

３、応募の手続き及び流れについて

A) シーズ側（応募開発企業）は「様式１　シーズ・ニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼書」を作成する。

B) テクノエイド協会では、応募開発企業より提出された依頼書を確認し、ニーズ側（意見交換・協力機関）へ依頼案件の紹介をする。

C) ニーズ側は、依頼書を確認の上、「様式Ａ　障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援　実施希望書」をシーズ側へ提出する。

D) 実施希望書を確認したシーズ側は、ニーズ側へ「シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　選定書」をテクノエイド協会へ提出する。

E) テクノエイド協会は、シーズ側及びニーズ側へ「実施機関決定通知書」を送付した。

F) シーズとニーズ側の双方が日程を調整の上、対面もしくはオンラインにて実施する。基本、テクノエイド協会は同席することとした。

G) シーズ側は、意見交換会、アドバイス支援実施の成果を「様式２　シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　実施報告書」へまとめ、テクノエイド協会へ提出することとした。

④募集結果

全９社の依頼があり、そのうち７社・１２件が希望するニーズ側とマッチングをすることができた。

マッチング結果は以下のとおり。マスコミに大きく取り上げられる事例もあった。

案件番号	機器名称	応募開発企業等	意見交換・協力機関
03-01	指伝話コミュニケーションパック(各種オプション)	有限会社オフィス結アジア	NPO法人 日本失語症協議会
			ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会
			ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れんぼう川崎
03-02	sööt(ソット)	株式会社岩多屋	ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れんぼう川崎
03-03	自動排泄処理装置キュラコ	株式会社ウィズ	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れんぼう川崎
03-04	FILLTUNE CLEAR	FILLTUNE株式会社	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
03-05	自分の声ソフトボイスター	株式会社ヒューマンテクノシステム	一般社団法人 日本言語聴覚士協会
03-06	パンダナビ	しんしゅうアソシエイツ	一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会
03-07	室内用立上り機能付き歩行車	フジホーム株式会社	ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れんぼう川崎
03-08	ライジングエイド クリップ「ラ・クリップ」Sキャリー	株式会社東海技研工業	
03-09	異動洗髪器・足洗浄器	有限会社ビューティフルライフ	

協会では、提出された実施報告書をもとに、マッチング成果の実施報告を作成することとした。報告のイメージは、以下のとおりである。

<事例集イメージ>

<意見交換会、アドバイス支援の様子>

〇東京中日新聞　令和４年１月１９日　朝刊一面

https://www.chunichi.co.jp/article/402661

点字ブロック 声で導く　金沢出身 視覚障害ある芝田さん アプリ開発

突起にリング、スマホで読み取り

（６）参加人数及びアンケート結果

①東京会場

１、東京会場 事前登録者数　　※登録重複者は除く

	合計
東京会場事前登録（出展者も含める）	４１９名

２、来場者数

会場	使う人	作る人	一般来場者・出展者
東京会場（１２月７日～８日）	１３４名	１２５名	２５９名

②Ｗｅｂ交流プラットフォーム

１、Ｗｅｂ交流プラットフォーム　アクセス数

	合計
Ｗｅｂ交流プラットフォームトップ画面　総アクセス数 （令和３年１０月１日～令和４年１月３１日の期間）	９,７８１回

２、出展者ページ閲覧数　上位５者

出展者	回数
１、フジホーム株式会社	２９０回
２、パラマウントベッド株式会社	２３４回
３、しんしゅうアソシエイツ	２３２回
４、株式会社コーポレーションパールスター	２１２回
５、シスネット株式会社	１５４回

３、出展機器紹介動画再生回数　上位５者

出展者	回数
１、株式会社ＱＤレーザ	８５０回
２、東洋電装株式会社	１０２回
３、社会福祉法人 全国盲ろう者協会	８８回
４、フジホーム株式会社	８３回
５、有限会社オフィス結アジア	７７回

③一般来場者アンケート結果（東京会場）

本交流会来場者に行ったアンケート結果は以下のとおりである。

会場	回答数
東京会場	９５件

１、基本情報

○来場者属性について　Ｎ＝９５

I.あなた自身についてうかがいます	No.		件数	割合
当てはまる項目に○を付けてください	1	障害者	8	8.4%
	2	障害者家族	7	7.4%
	3	施設関係者	8	8.4%
	4	医療関係者	5	5.3%
	5	支援機器開発企業	8	8.4%
	6	行政	12	12.6%
	7	研究機関・団体	10	10.5%
	8	学校・教育関係者	3	3.2%
	9	一般企業（今後、支援機器の開発を目指す企業を含む）	27	28.4%
	10	その他	7	7.4%
		合計	95	100.0%

「一般企業」、「行政」、「研究機関・団体」の順にアンケート回答者が多かった。

○参加日数について　Ｎ＝９３

I.あなた自身についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
ご参加いただいた日数について教えてください	1	1日のみ（1日目・2日目いずれかのみ）	87	93.5%
	2	2日間	6	6.5%
		合計	93	100.0%

９割以上が１日のみの参加者であった。

○交流会開催の情報収集源について　Ｎ＝９５

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
この交流会をどのように知りましたか	1	テクノエイド協会からの案内	44	46.3%
	2	テクノエイド協会のホームページ	12	12.6%
	3	所属する障害団体からの案内	4	4.2%
	4	経済振興団体からの案内	0	0.0%
	5	所属する職能団体からの案内	3	3.2%
	6	自治体などからの案内・広報誌など	9	9.5%
	7	友人・知人からの紹介	11	11.6%
	8	新聞・テレビ・ラジオなど	0	0.0%
	9	その他	12	12.6%

「テクノエイド協会からの案内」の割合が多く、次いで「テクノエイド協会ＨＰ」、「友人・知人からの紹介」を見て来場されていた。「その他」には、出展者や所属する協会、友の会などであった。

○来場の目的について・複数回答　Ｎ＝９５

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1	具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった	10	10.5%
	2	機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	65	68.4%
	3	特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	6	6.3%
	4	普段困っていることについて相談したかった	6	6.3%
	5	その他	14	14.7%

「機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった」が多く、「その他」と記入された方の中には、「どのようなイベントか興味があった」、「実際に最新機器を見て学びたかった」、「情報収集」、「参加企業全体のお話をうかがいたかった」等であった。

○会場の立地、利便性について　Ｎ＝９５

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1	大変満足している	48	50.5%
	2	ある程度満足している	35	36.8%
	3	どちらとも言えない	11	11.6%
	4	あまり満足していない	1	1.1%
	5	全く満足していない	0	0.0%
		合計	95	100.0%

今年度より、従来の有明の会場から浜松町の会場へ変更したが、半数が「大変満足している」であり、８割以上が満足している結果となった。

○会場内の配置や展示について　Ｎ＝９５

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1	大変満足している	34	35.8%
	2	ある程度満足している	50	52.6%
	3	どちらとも言えない	8	8.4%
	4	あまり満足していない	2	2.1%
	5	全く満足していない	0	0.0%
		無回答	1	1.1%
		合計	95	100.0%

８割以上が満足している結果となった。

○次回の開催について　Ｎ＝９５

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
来年も参加したいと思いますか	1	ぜひ参加したい	39	41.1%
	2	参加したい	43	45.3%
	3	どちらともいえない	10	10.5%
	4	参加したくない	0	0.0%
	5	全く参加したくない	0	0.0%
		無回答	3	3.2%
		合計	95	100.0%

８割以上が来年も参加したい結果であった。

２、具体的な交流内容（自由記述）　※一部のみ抜粋

- 試作段階の製品に対して、意見が伝えられた。
- 利用者側の施設の意見をメーカーに伝えることができると共に、メーカー側からも有益な使い方を教えていただくことができた。
- 知っている機器について、メーカーの方と深い議論ができた。知らない機器も多く、障害者の自立支援に多くの方が努力されていることが分かった。
- 製作されている方の思いが伝わり、今後の福祉の世界がより広く周知され、皆が生活しやすい世の中になるのではないかと感じた。
- 細かく丁寧に説明をしていただけた。１５年ほど色々な福祉機器をみてきたが、当事者家族としてここまで話しができたのは初めてだった。
- 開発中の機器を全てみて回り、話もできてうれしく思っている。
- 現物を見ながら相談ができてよかった。
- 色々な障害に対する福祉機器メーカーの意気込みが分かった。
- 企業同士で交流ができた。
- 興味のある技術を持つ企業と面識を持てた。外部団体とご挨拶の場を持つことができた。

３、本交流会全般に関するご意見・感想・今後来てほしい企業等（自由記述）
※一部のみ抜粋

- 今後も継続して欲しい。
- オンラインではなく、展示はリアルがよい。
- オンラインでは、展示物を体感することが難しいので、このような実開催を今後も続けて欲しい。
- ブースの分け方が分かりやすかった。講演会が大変ためになった。
- 新しい機器の開発段階がよく分かり、大変参考になりました。色々とアドバイスすることができた。
- 会場を間違えてしまった。
- 傘立てはあってもよかった、荷物を置く場所や小休止する場所があると良い。
- 規模を大きくしてほしい。

④出展者アンケート結果（東京会場）

出展者へ行ったアンケート結果は以下のとおりである。

会場	回答数
東京会場	６０件

１、基本情報について

○回答者の属性について　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	開発企業	43	71.7%
2	障害団体	10	16.7%
3	開発支援団体	3	5.0%
4	職能団体	1	1.7%
5	その他	3	5.0%
	合計	60	100.0%

○過去の本交流会への参加状況について　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	過去全て参加している	9	15.0%
2	過去６度参加している	3	5.0%
3	過去５度参加している	4	6.7%
4	過去４度参加している	3	5.0%
5	過去３度参加している	9	15.0%
6	過去２度参加している	6	10.0%
7	過去１度のみ参加している	8	13.3%
8	今回初めて参加した	18	30.0%
	合計	60	100.0%

○過去の交流会において、その後の機器開発や団体活動において有意義な交流ができたか

Ｎ＝４２

No.	選択肢	件数	割合
1	大変有意義であった	19	45.2%
2	ある程度有意義であった	18	42.9%
3	どちらともいえない	4	9.5%
4	あまり有意義でなかった	0	0.0%
5	有意義でなかった	0	0.0%
	無回答	1	2.4%
	合計	42	100.0%

○交流会を通して「障害者自立支援機器等開発促進事業」などの国の開発補助事業に応募したいと思ったか。　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	是非、応募したい（応募を検討したい）	12	20.0%
2	応募してみたい（応募を検討してみたい）	22	36.7%
3	どちらともいえない	26	43.3%
4	補助事業に関心はない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

約半数が開発補助事業の応募に興味を持っている結果であった。

２、来場者との交流について

○交流を行った概ねの人数　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	２０人未満	23	38.3%
2	２０人～５０人未満	30	50.0%
3	５０人～１００人未満	7	11.7%
4	１００人以上	0	0.0%
	合計	60	100.0%

出展者の多くが２０人から５０人の交流数であった。

○交流の具体的な内容について　※複数回答　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	機器に対する要望や改善点が聞けた	30	50.0%
2	日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた	31	51.7%
3	今後の具体的な開発協力や連携に関して話ができた	22	36.7%
4	自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた	33	55.0%
5	その他	7	11.7%

交流内容は多岐にわたる内容にある傾向であった。

３、運営・交流会全般について

○交流会の満足度　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	23	38.3%
2	ある程度満足している	29	48.3%
3	どちらとも言えない	5	8.3%
4	あまり満足していない	3	5.0%
5	全く満足していない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

８割以上が満足している結果であった。

○会場の立地や利便性について　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	23	38.3%
2	ある程度満足している	29	48.3%
3	どちらとも言えない	5	8.3%
4	あまり満足していない	3	5.0%
5	全く満足していない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

８割以上が満足している結果であった。

○展示ブースの配置について　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	20	33.3%
2	ある程度満足している	29	48.3%
3	どちらとも言えない	9	15.0%
4	あまり満足していない	2	3.3%
5	全く満足していない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

８割以上が満足している結果であった。

○展示ブースの配置について　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	ぜひ出展したい	28	46.7%
2	出展したい	19	31.7%
3	どちらとも言えない	12	20.0%
4	出展したくない	1	1.7%
5	全く出展したくない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

７割以上が満足している結果であった。

○来年も出展を希望する場合、どのような参加方法を希望するか　Ｎ＝６０

No.	選択肢	件数	割合
1	会場開催に参加	32	53.3%
2	Webのみ参加	2	3.3%
3	会場開催とWebの両方に参加	25	41.7%
4	その他別の参加方法	1	1.7%
	合計	60	100.0%

多くが「会場開催に参加」、「会場開催とＷｅｂの両方に参加」のいずれかを希望する結果となった。

４、具体的な交流内容（自由記述）　※一部のみ抜粋

- 患者の困りごとと、同業者の意見の双方を広く聞くことできたことで、立場の違いをあらためて認識できた。
- 既に弊社製品を所有している方や、ご存知の方からの質問対応が多かった。
- デモに関して、かなりの方に評価いただけた。
- 当社出展試作機の効用について概ね高い評価を受けた。製品化について経験のある方々から、最後まで実施してくれるメーカーを慎重に見極めるようアドバイスを受けた。
- コロナ渦という事もありこの２年間お会いする機会がなかった方々とこの交流会でお話しする事で、よりコミュニケーションが図れたと感じた。
- 弊社開発商品についての要望や提案（新案）などを使用者や医療従事者から直接聞くことが出来きて試作段階での改良や商品化した後のモデルチェンジなど未来的構想が広がった。
- 実際に販売をスタートし利用者が購入いただいた製品もあり、利用してみた生の感想をヒアリング出来て良かった。
- 福祉用具販売企業からコンタクトがあり弊社製品に興味を持って頂き、開発協力を得ることや、障害者団体様主催の展示会へ出展のお誘いを受ける事ができた。
- 直接、会場にて各団体の取組みに関する情報収集や商品へのニーズ・改良点を聞くことができました。この機会により、今後、当事者の方など実際に使用検証を行っていくことに繋がった。

５、併催イベントの内容に対するご意見、ご要望（自由記述）※一部のみ抜粋

- 今回は中止になってしまったが、山口開催のように他の学会と並行しての開催などだと集客が見込めるのではないか。
- セミナーの内容が、展示ブースでも聞くことができてよい。
- 時間的に難しいのかもしれないが、基調講演がもっと数多くあると良いと感じた。
- Ｗｅｂ開催により、当事者団体様の情報が事前に把握できて良かった。Ｗｅｂ講演も面白い内容のものがあった。
- 東京会場については浜松町と言う立地面でも交通機関面でも今までよりは便利になった。もう少し来場者数を増やすような試みをお願いしたい。
- ブースでの実況中継、開発製品の解説などを、全国にネット配信ができたらありがたい。

６、その他、運営や交流会全般に関するご意見、ご感想（自由記述）※一部のみ抜粋

- 同時開催の講演会がとても良い。ぜひ、継続お願いしたい。半面、ワークショップにはなかなか参加しづらく、ワークショップ自体の目的を明確にして、関連症状ごとに（身体障害、コミュニケーション障害、知的認知障害など）分けて行われると参加しやすいのではないか。
- 多くの方に体験していただくことができ、感謝いたします。ただ、ブースが狭く車いすでの体験者がスムーズにできなかったのが残念であった。
- コロナ禍の影響が大きかったが、展示会場で人が集まって展示会や講演会があったこ

とは、とても良かった。次回は、コロナ禍の影響が改善して、障害者や、障害者向けサービス事業者の参加が増えるとより良い。

- 出展企業様との交流も充実しており、コラボレーションなどの意見や共同開発などの要望も多々あった。
- オンラインより、リアル会場での開催のほうがニーズを把握しやすく交流しやすい。
- Ｗｅｂ開催について、どのような方が観ていただいたのか？また興味があるのかないのかの情報が分かるとよい。
- 過去の大会に比べて、多くの人がブースを訪問していただけた。
- 自立支援機器が障害者の生活になくてはならないものである事が良く分かった。今後もこの取組が大きく発展して障害者の自立支援につながればと思った。

（７）今後の交流会の在り方について

①今年度の振り返り

今年度は、当初、山口と東京で会場開催を計画していた。しかしながら、１０月の山口については、新型コロナウイルスの急速な拡大に伴い、会場開催を急遽Ｗｅｂ開催に変更する　事態となった。今回、山口では、日本リハビリテーション・ケア研究大会に合わせる形で、土・日の開催を予定したが、併催イベントの視聴者数は、平日開催と同等もしくは若干少ない結果であった。

Ｗｅｂ開催は、１０月から４ヵ月間、当協会のホームページ上に「交流会Ｗｅｂ交流プラットフォーム」を設けて実施した。本年度は、プラットフォームにアクセスすれば、出展機器を検索して動画の閲覧、希望する企業等に問い合わせできる仕組みを構築した。交流プラットフォームのアクセス数は９５００件を超えたが、個々の出展者のページの閲覧数は、想定よりも伸びない結果であった。また、交流手段として設けた「掲示板」や「問い合わせ」のフォームについても、積極的に利用されるまでには至らなかった。

一方、今回、オンラインシステムの活用に関しては、全国どこからでも、好きな時間に交流でき、大変便利であるとする声も聞かれた。今後もＷｅｂによる交流手段の確保は必須なものとし、当協会には活性化するよう、より積極的な周知・広報が望まれる。

東京会場では、新型コロナウイルスの影響もあり、例年の半数程度まで落ち込んだものの約２６０名の来場者があり、出展者と来場者が活発に意見交換されている姿が見られた。来場者アンケートの結果では、「時間をかけて出展者と意見交換することができた」、「試作機を前に相談することができた」等、会場開催ならではの意見が多く寄せられ、出展者、来場者ともに、来年も会場での開催を強く望まれる結果となった。

また、本年度から実施した「個別の意見交換会、アドバイス支援事業」については、協会がシーズとニーズの間に入りコーディネートすることにより、これまでの受動的なスタンスから能動的なスタンスが生まれ、多くの企業と関係機関等の間で交流を図ることができた。一例として、甲府市内で行った個別の意見交換会、アドバイス支援には、多くの地元の視覚障害者が集まり、試作機の体験を通じて、有意義な意見交換を行うことができた。今回の支援事業については、継続した実施を希望する声が多方面から出され、年間通じて行える仕組みの必要性を感じた。

また、動画を通じて配信した利用者ニーズの配信については、少数ながら視聴者から感動する声が寄せられ、この企画については、一時的ではなく、年間通じて見られる環境の確保が必要であると感じた。

②今後の方策について

- 多くの関係者に対して早い段階から「シーズ・ニーズマッチング交流会」の周知を行うとともに、会場及びｗｅｂの両面から交流できる機会を設けることが必要である。
- とりわけ利用者ニーズの発信については、オンデマンド配信を行うなど、年間を通じて情報発信するとともに、企業等からの希望に応じて、いつでも気軽に意見交換できる環境の整備が必要である。
- 本年度から実施した「個別の意見交換会、アドバイス支援事業」について、本年度は企画委員が所属いる障害当事者団体等に限定して行ったところであるが、全国各地の障害者や支援者が参加できるよう、規模を拡大して計画することが望まれる。
- シーズとニーズのマッチングを活性化させる方策として、交流の成果を目に見える形で社会へ発信することが重要である。本年度作成した交流事例集を多くの関係機関へ周知するとともに、来年以降も継続して実施することが望まれる。
- 交流会の開催方法については、新型コロナウイルスの対策が長期化するなか、少しでも多くの障害当事者と支援者、家族が参加しやすいよう、ニーズ側の視点に立った企画の立案が求められる。

第２部（資料編）

障害者の自己決定

浅野史郎

浅野史郎と障害福祉

北海道庁民生部福祉課長
　１９８５年４月から2年
　　知的障害者入所施設のあり方に大きな疑問

厚生省児童家庭局障害福祉課長
　１９８７年９月から１年９ヶ月
　グループホーム制度化、重症児通園モデル

浅野史郎と障害福祉

（株）土屋　土屋総研の特別研究員

重度訪問介護事業を全国展開
　利用者：
　　５２８名（男性２９８名/女性２３０名）
　　うちALS１１８名、筋ジストロフィー５０名

浅野史郎と障害福祉

宮城県知事
　　１９９３年から3期１２年

「みやぎ知的障害者施設解体宣言」発出
　　２００４年２月
重度障害児を普通学級に

障害福祉は
可能性の哲学の
実践

浅野史郎

障害者はあわれで、
不幸で、かわいそう

（今までの）一般市民

障害は不幸ではない、不便なだけ

ヘレン・ケラー、乙武洋匡

身体障害者とは、
　身体的に問題があるために介助を要する人

介助者なんていらない
　ロボットが介助をすればいい

H氏の言葉

当事者主権

障害福祉の歴史はいい方向に進みつつある
特に、世紀またぎで

Nothing about us
without us

我々（障害者）のことは
我々（障害者）なしで決めるな

当事者主権

2010年
「障がい者制度改革推進会議」（内閣府）

構成メンバーの過半数が障がい当事者

行政vs当事者

「これができない、助けて欲しい」（ニーズ）と
障害者（当事者）に頼まれてサービス提供

「何もできない、かわいそうだ」という障害者に
行政がサービスを提供する――（措置という）

障害者自立支援法（2006年）
障害者総合支援法（2013年）

サービスの量と内容を決めるのは

供給者が決める―福祉の措置
財源の範囲内で量が決まる
サービス提供する人員不足で供給なしになる
施しとしてのサービス

当事者の決意

当事者主権とは、私が私の主権者である。私以外の誰も―国家も、家族も、専門家も―私が誰であるか、私のニーズがなんであるかを代わって決めることを許さない、という立場の表明である。

中西正司「当事者主権」（岩波新書）

サービスの量と内容を決めるのは

需要者が決める
障害者のニーズに対応
原則、必要なだけ全部
施し、哀れみによるサービスでなくなる

当事者と家族

「母よ！殺すな」
脳性まひの子殺し　1970年横浜市金沢区

母親への減刑嘆願運動に対して。

横塚晃一　青い芝の会代表

当事者と家族

やまゆり園事件の被害者の家族

葬儀・裁判において被害者の実名なし

「親なきあと」にこの子はどうなる
施設に子どもを入れたい親はいても、
施設で暮らしつづけたい障害者はいない

全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態で尊重される権利を有する。

障害者権利条約第17条

2006年12月　第61回国連総会で採択

当事者と家族

介護はプロに家族は愛を

重度障害者の母親だって妻だって普通に生活したい！！

ノーマライゼーション

Normalization

ノーマライゼーション

デンマークのバンク-ミケルセン

隔離的保護的で劣悪な環境の巨大施設に収容されている知的障害児者の処遇の実態に怒り

1959年法

「知的障害者ができるだけノーマルな生活を送れるようにする」（法律前文）

障害は乗り越えるものではない
共にあるものだ

SMA（脊髄性筋萎縮症）の海老原宏美

Independent　Living
自立生活

家族、施設、病院の支援なしで

介助者と障害当事者との関係

○介助者は単なる日常生活の支援者ではない
○介助者は障害当事者が社会参加し、
夢を追いながら生きていくための支援者である
○当事者と同じ目標を持った同志である
○当事者の人生を一緒にデザインしていく
○当事者と互いに尊重し合い切磋琢磨していく

当事者の決意

私のような障害者が地域で生きていこうとすると、社会の側からは「社会的コスト」だとみなされます。しかし、障害者が暮らしやすい社会になると、生きづらさを抱えた他の人も暮らしやすくなります。だから私は「生ききる」ことが社会を変えることになると信じているのです。それが私の第二の人生です。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）の岡部宏生（ひろき）

旧優生保護法　１９４８年―１９９６年

第一条 この法律は、**優生**上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、母性の生命健康を**保護**することを目的とする。

第二条 この法律で優生手術とは、生殖腺を除去することなしに、生殖を不能にする手術をいう。

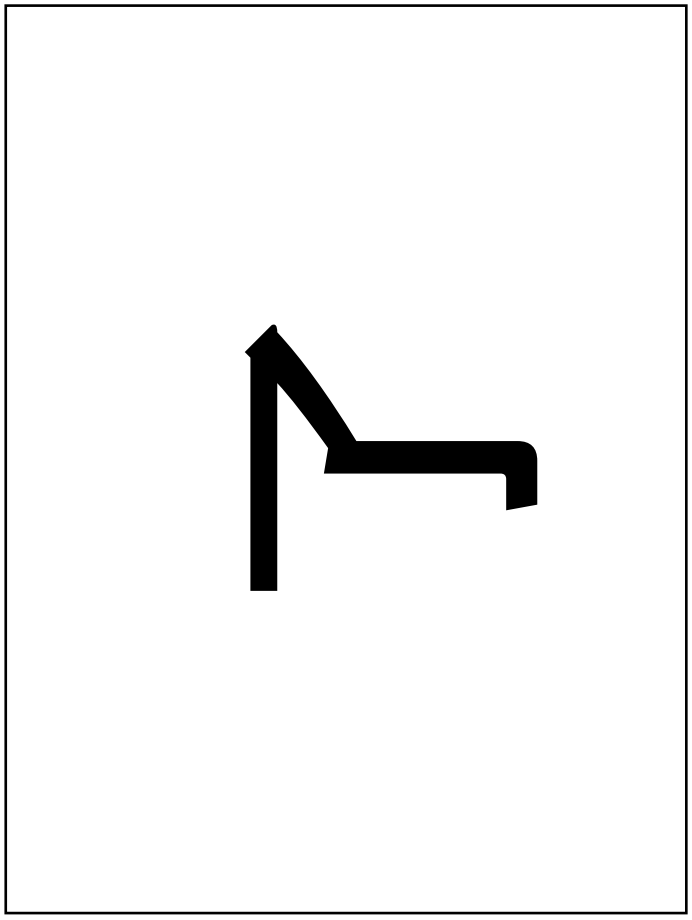
優生思想

身体的、精神的に秀でた能力を有する者の遺伝子を保護し、逆にこれらの能力が劣っている者の遺伝子を排除して、優秀な人類を後世に遺そうという思想

当事者の自負

障害は自分の属性の一つであるが自分の人格まで規定するものではない

自立生活運動のリーダーたち



シーズ・ニーズマッチング交流会 2021

聴障者の利用事例とニーズ

市川駅南口図書館カウンターの好事例

耳マーク

（一社）全日本難聴者
・中途失聴者団体連合会
理事 小川　光彦

1

1　いろんなところで困っています！

画像提供：（公財）共用品推進機構

警笛が聞こえない

放送が聞こえない

話しているのに
気がつかない

講演会で人の話が
聞こえない

呼ばれても
わからない

家の中の音が
聞こえない

2

2　聞こえにくい人の多様性

聞こえにくい方は、聞こえなくなった時期、コミュニケーションの状況等により大きく分けると、次の３パターンに分かれる（推計）。

① 主に手話言語を活用（ろう者）　約 10 万人
② 補聴器・人工内耳等を活用　約 200 万人
③ 補聴器なしの加齢難聴者等　約 1200 万人

→それぞれに適した対応が必要。

（参考）日本補聴器工業会推計（JapanTrak2018）の全国調査では聞こえにくいと自覚している人は 11.3%、そのうち補聴器所有率 14.4%）
※国際的には 4 億 3000 万人がリハビリを要す（WHO、2021 年）

3

3-1　困っていること…2 種類の音声情報

2 つのきこえなさ…聴力の低下と聴能の低下

①「小さな音が聞こえない」聴力の低下
②「音の弁別ができない」聴能の低下　がある

語音弁別能と補聴器装用時のコミュニケーション能力

弁別能（%）	コミュニケーション能力
100 ～ 80%	聴覚のみで会話を容易に理解できる。
80 ～ 60%	家庭の日常会話、普通の会話ではほとんど理解が可能であるが、不慣れな話題は注意の集中が必要。
60 ～ 40%	日常会話で内容を正確に理解できないことがしばしばある。重要な内容は確認やメモ併用が必要。
40 ～ 20%	日常会話においても読話や筆談が必要。
20%未満	聴覚のみの会話理解は不可能。聴覚はコミュニケーションの補助として活用される。

4

3-2　困っていること…2 種類の音声情報

音声情報（言語情報・非言語情報）

非言語情報

- 洗濯終了のブザー
- 家電製品の案内音

音が弱く気づかないことがある

- 玄関のチャイム
- 非常ベル
- クラクション

音が強くなるほど気づくことも増える補聴器等が効果的

言語情報

- テレビ・ラジオ等の音声
- 電話の聞き取り、職場の会議
- 飛行機の搭乗口変更案内
- 電車の事故などのアナウンス
- スーパーのタイムセール案内、
- 学校教育の場、映画や舞台の音声

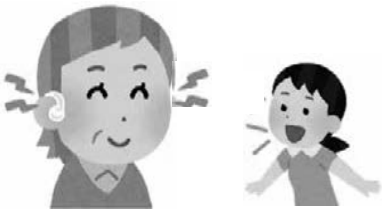
補聴器等で音を大きくしても、重度難聴になるほど何を言っているか正確に聞き取れないことが多い

5

3-3　困っていること…2 種類の音声情報

言語情報が聞こえにくいとき

明るく静かな環境で
相手が見ているのを確認しながら、
１メートル程度の距離で
ゆっくりはっきり話しかけると
聞きとりやすくなります。



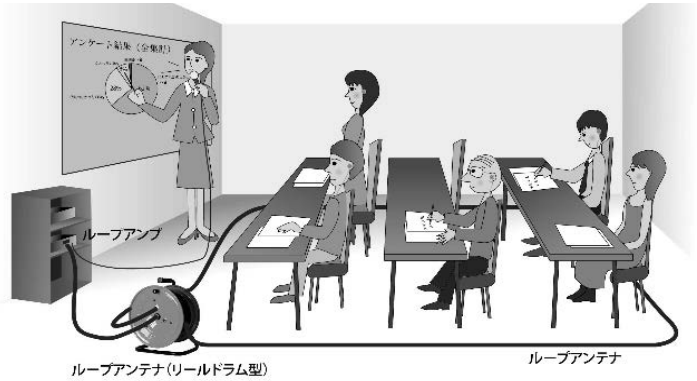
※聞き取りにくいときは
サインや字幕表示などの
視覚的な方法 で補いましょう。

6

4-1　好事例①　ヒアリングループ

音声情報（言語情報）が聞こえにくいとき…よりよく聴く

集団補聴システム・ヒアリングループ（磁気ループ）



画像は（株）ソナール様提供

7

4-2　好事例①　ヒアリングループ

集団補聴システム・ヒアリングループ（磁気ループ）

＜特長＞
マイクで話した音声や外部音源等を、磁気コイル内蔵の補聴器に明瞭に伝えるシステム。磁気の到達する範囲内で使える。音源との距離による減衰や騒音の影響を受けにくい。学校教育の場や、人の集まるホール等に効果。比較的長期間使える。
＜課題＞
固定型・可搬型のシステムがあるが、移動の制約がある。音量調整が必要。

8

4-3　好事例①　ヒアリングループ

集団補聴システム・ヒアリングループ（磁気ループ）

＜課題＞
どこにあるかわかりにくい。聞こえにくい人に設置情報が届かない。ヒアリングループマークなどで、視覚的に案内する必要がある。補聴器ユーザーにまだまだ知られていない。

ヒアリングループマーク
Hearing loop symbol

9

4-4　好事例①　ヒアリングループ

集団補聴システム・ヒアリングループ（磁気ループ）（参考）

厚労省では令和元年度より地域生活支援促進事業に新設した「障害者 ICT サポート総合推進事業」において、貸出用のヒアリングループを整備する取組等を補助対象とする等、聴覚に障害のある方への情報保障を促進することとしている。

10

5-1　好事例②　テレビスピーカー

テレビ・ラジオが聞こえにくいとき…よりよく聴く

テレビ用ワイヤレススピーカーシステム
SP-A-900-W（JVC）実売価格約 18,000 円

テレビから 30m 離れても使用可能。
テレビ本体のボリュームと関係なく、自分の聞きやすい音量に調整可能。比較的シンプルな機能。
イヤホンを使うこともできます。

11

5-2　好事例③　固定電話用アンプ

電話が聞こえにくいとき…よりよく聴く

テレアンプ III　UA-45（自立コム）8,000 円（税別）
ご家庭の電話器と受話器の間に接続して使用。
受話音量を約 30dB、ブースト時には最大約 45dB まで音量増幅。
ビジネスホンや FAX 兼用機で使用可能。試聴可能。

12

6　好事例④　無線補聴システム

会話等が聞こえにくいとき…よりよく聴く

近年無線システムを使用している補聴器等が増えている。音声信号を極力減衰させずに聴かせるために有効な方法である。ex. ロジャーシステム

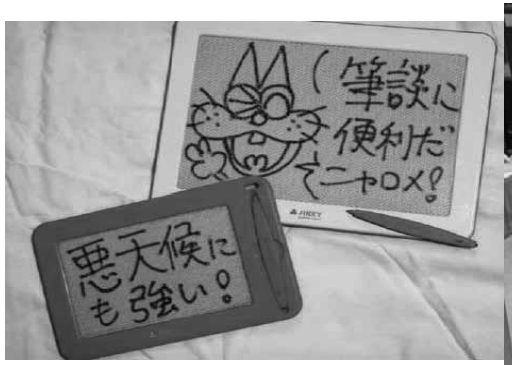
右のマイクの音声を約８m 離れた受信機付き補聴器に、ダイレクトに伝えることができる。
その他、テレビやスマホの音を補聴器に伝えるものもある。

13

7-1　好事例⑤　簡易筆談器

相手の音声言語が聞きとりにくいとき…書いて伝える

簡易筆談器（磁気ボード）各種



7-2　好事例⑤　簡易筆談器

簡易筆談器（磁気ボード）各種

＜特長＞
待機時間なしにすぐ筆談ができる。ホワイトボード、紙とペンでも効果があるが、磁気ボードは消耗品がなく比較的長期間の使用に耐え、コスパが良い。文字が比較的太く読みやすい。安定度が高い。
＜課題＞
ペン (磁石付き) を無くさないよう注意が必要。
文字とバックのコントラストがやや低い。
小さな字は書けない。後に残したいときには不適。

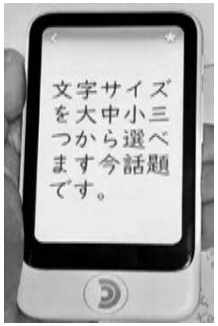
15

8-1　好事例⑥　音声認識

相手の音声言語が聞きとりにくいとき…文字表示する

音声認識各種

スマホで音声認識アプリを使用（ＵＤトーク）



音声認識専用端末を使用（ポケトーク mimi）

16

8-2　好事例⑥　音声認識

音声認識各種

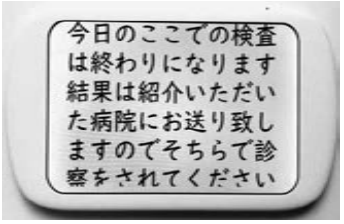
＜特長＞
話した内容を自動的に文字表示する。筆談の手間がない。移動中も使いやすい。比較的伝える側の負担が少ない。近年活用の広がりが著しい。
＜課題＞
音声認識の精度は話者の声、騒音、通信状況などの環境に左右されやすい。難聴者の発音は比較的認識しにくい傾向がある。誤認識に節操がない。
ex. 福井駅→吹く胃液　　推薦者→彗星シャア

17

8-3　好事例⑥　音声認識

タブレット mimi（ソースネクスト）

本体 19,800 円（税込）＋月額利用料 1,430 円



音声認識専用端末。

ボタンを押して話し手の近くに置くだけで、音声を文字に変換、表示してくれます。iPad のような多機能機器ではなく、音声認識の機能に絞られています。

写真は病院の窓口で使用したときのものです。

18

9　どなたにもアクセシブルな製品を

身体障害者手帳を持つ聴覚障害者（聴力 70dB 以上が中心）には、国の制度で福祉給付されることがある。約 30 万人が対象。

軽度～中等度も含めると 1400 万人以上いるが、聞こえに困難があっても、制度の手当はほとんどない。

近年技術開発が進展し、これまでになかった製品で、聴覚障害者に役立つものがたくさん出てきている。JIS 規格（日本産業規格）等で、聴覚障害者をはじめとする全ての障害者に使いやすい製品を作る取り組みも次第に広がってきている。
2001 年発行の国際規格「ISO/IEC ガイド 71」など。

19

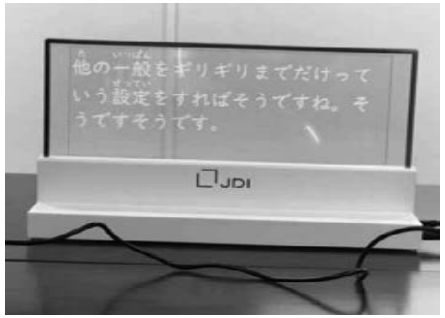
10　こんな機器・システムがほしい！

・電話等の音声を認識し、スマホで表示できるアプリ（常時）
・駅のホームの放送など、音声認識システムを用いて電光掲示板などに表示できる環境（施設）
・寝ていても危険を察知して、聞こえなくてもわかるように振動で教えてくれる端末
・家電製品の状況（来客、家の電話、室温・温度、お風呂、ペット等）をスマホで管理し、必要なタイミングで補聴器や人工内耳に音声・合図音を伝えるシステム
…など！

20

ありがとうございました

一緒に開発してくれませんか !?



21

「福祉機器の利用事例とニーズの発信」

社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
事 業 部　部長　　逢　坂　　忠

１．利用者からの声

日常生活用具の自立生活支援用具である歩行時間延長信号機用小型送信機（シグナルエイド）は、視覚障害者の外出時、特に道路を横断する際の安全な歩行に重要な役割を果たしている。シグナルエイドは、信号機の稼働時間を延長することに加え、信号機に近づくことなく安全に音響式信号機を稼働させることができる。
しかしながら、全ての信号機が音響式ではなく、また、音響式信号機の稼働時間には制限がある。
音響式信号機が稼働していない時間帯に、視覚障害者が道路を横断し事故にあう不幸な事例がいまだに起きている。
このような事故を無くすための対策が急がれる。
シグナルエイドの利用者からは、本機の機能を拡大し、信号機の状況を音や音声で確認できる機能を求める声が寄せられている。

２．生産停止になったことによるニーズ

「テレビが聞ける」ラジオは、視覚障害者が情報を入手するツールの一つとして高い評価を得ている。
本機の主な特徴は次のとおりである。

・テレビはワンセグ方式で地上波デジタル放送（地デジ）が受信できる。

・AM・FM ラジオ対応、ワイド FM 対応。

・主音声・副音声切り替え機能。

・点字表記がある。

・ボタン操作の音声案内がある。

・緊急地震速報受信機能がある。

本機は２０１９年に生産を停止した。
大手家電メーカーからテレビの音声が聞けるラジオが取り扱われているが、点字表記がない、操作時の音声案内がない、緊急地震速報の受信機能がないなど、一長一短である。
視覚障害者が使いやすくてテレビの音声が聞けるラジオの開発に期待する。

３．視覚障害当事者から問い合わせが多い事例

　日視連の用具購買所には、毎日様々な要望や問い合わせがある。
新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「音声対応のパルスオキシメーターの取扱いはないか」という問い合わせが寄せられる。
　独自に調べたところ、「チェスト」というメーカーで生産していたが、すでに生産停止となっており在庫も無いとのことであった。
　１日も早い、音声対応のパルスオキシメーターの開発を要望する。

2021.12.8　シーズ・ニーズマッチング交流会2021　出展企業による福祉機器開発の現状報告

人工肛門患者に対する高機能排便制御デバイスの開発

ー福祉機器開発を医師主導で行う意義ー

国立大学法人　大阪大学

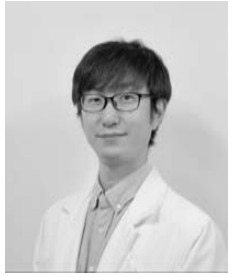
横田 純己

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

本日の内容

- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

自己紹介



氏名:　横田　純己　（よこた　じゅんき）

所属:　大阪大学大学院医学系研究科　心臓血管外科学

専門分野:　心臓血管外科　（特に大血管領域）

資格:　外科専門医、腹部ステントグラフト実施医

経歴:　ジャパンバイオデザインフェローシッププログラム　第6期大阪フェロー

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY　JAPAN OSAKA biodesign

本日の内容

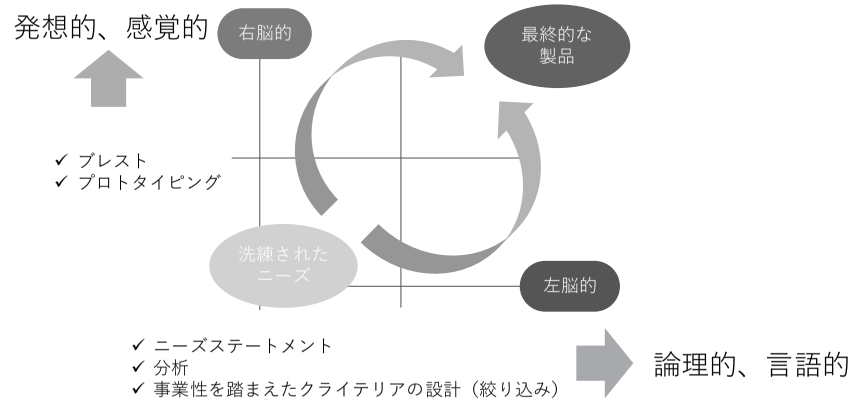
- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

なぜ、心臓血管外科医が人工肛門患者に
対する機器開発に取り組むことになったのか？

ジャパンバイオデザインへの参加

5

バイオデザインの思考・プロセス



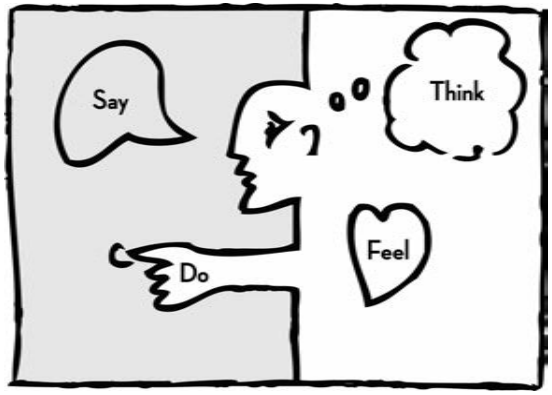
バイオデザインとは？

医療版デザイン思考 ➡ biodesign

医療機器の開発初期段階から、事業化の視点を持って検証・開発を
進めていく**成功確率が高い**医療機器開発方法

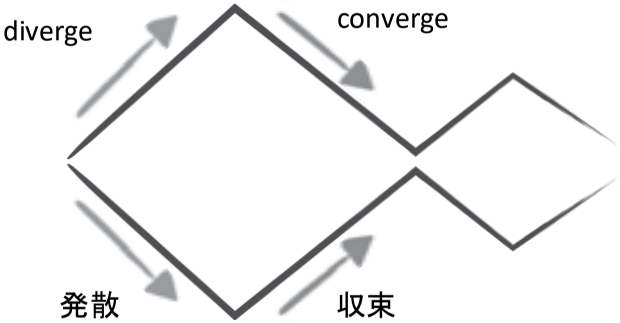
デザイン思考：顧客の潜在的ニーズを掴みにいく

Userの言っていること ≠ 欲しいもの



8

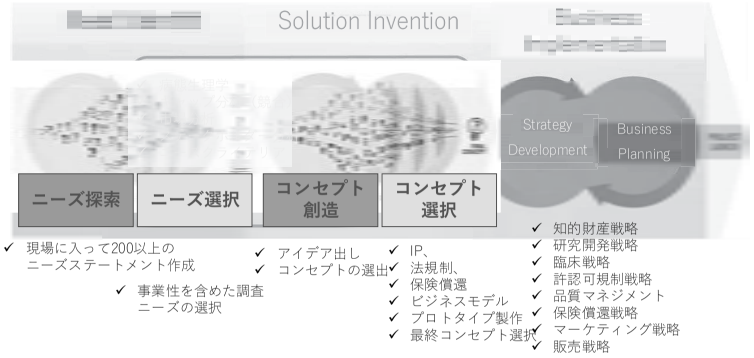
良いアイデアにたどり着くために必要なこと



ジャパンバイオデザイン 第6期　大阪フェロー　チームメンバー

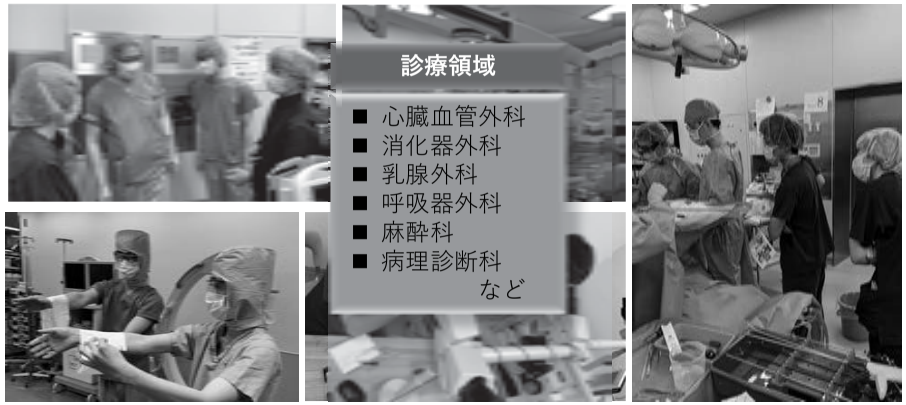
谷亮太朗	横田純己	川本明代	杉原達哉
京都大学	大阪大学	シスメックス(株)	大阪大学
消化器外科医	心臓血管外科医	止血線溶領域、研究者	大学院工学研究科
バイオデザイン学会	バイオデザイン学会	MBA	機械工学専攻講師

バイオデザインプロセス



ニーズ探索

手術領域にフォーカス

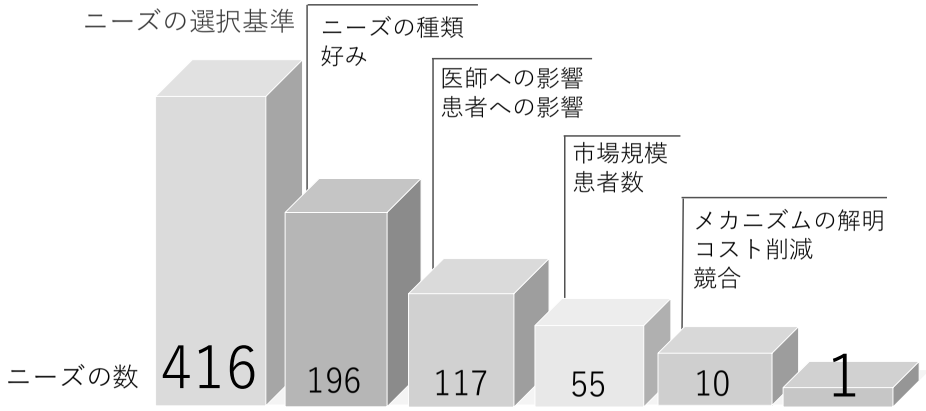


診療領域

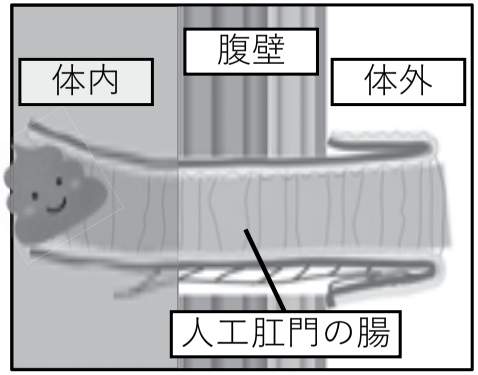
- 心臓血管外科
- 消化器外科
- 乳腺外科
- 呼吸器外科
- 麻酔科
- 病理診断科

など

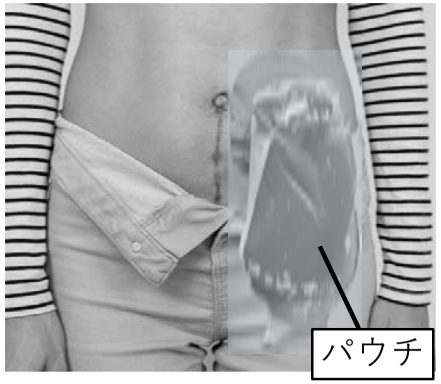
ニーズ選択



人工肛門とは肛門の代替となる便の出口



常時便が流出



24時間袋（パウチ）
をつけて生活

1

人工肛門患者のニーズ

ニーズ –人工肛門の弊害–

実際の患者インタビューより

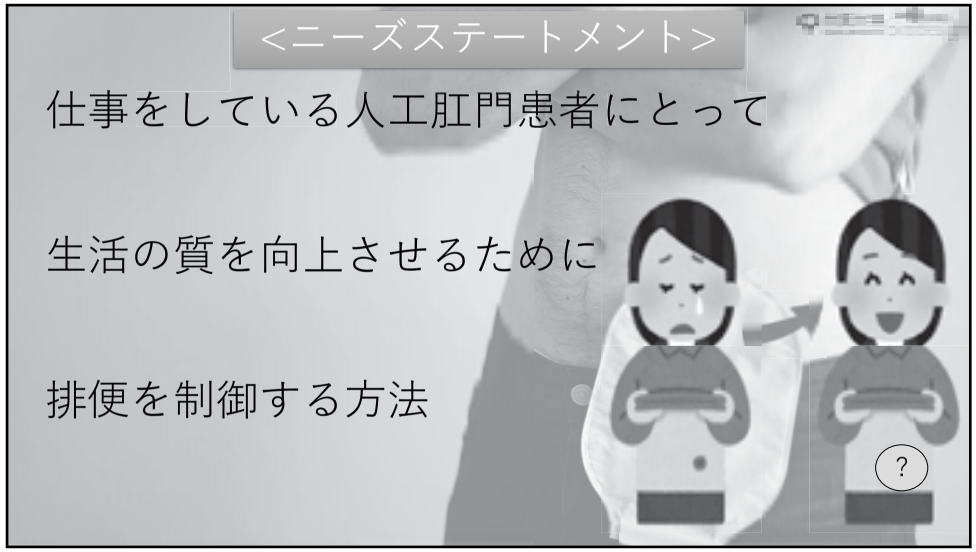
60代　男性

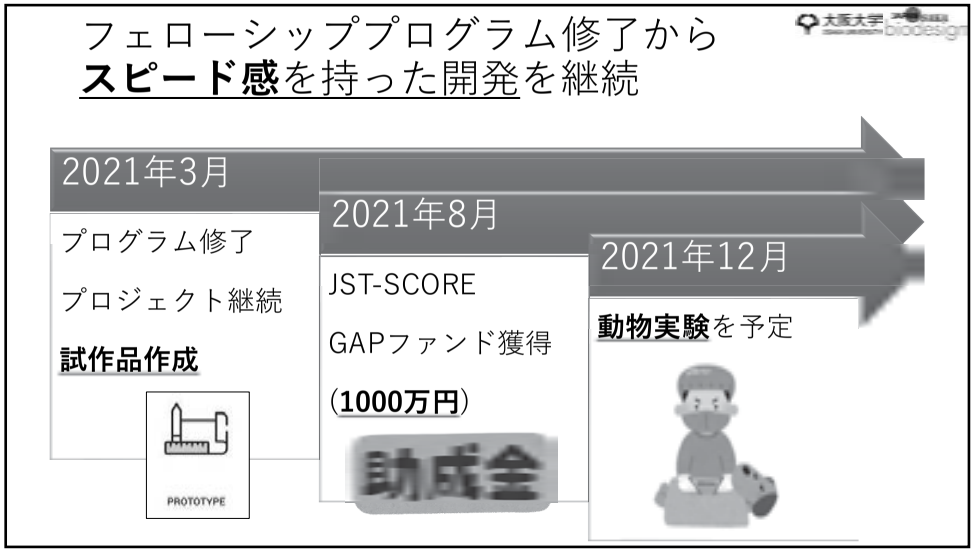
ニーズ –人工肛門の弊害–
実際の患者インタビューより
便の破棄が大変…
時間がかかる…
匂いが充満する…
1日3-5回も…
40代　女性

外れにくい
パウチ
臭いがしない
パウチ
?
しかし、真のニーズは何か・・・

外れにくい
パウチ
便の漏れない
パウチ
臭いがしない
パウチ

便を出したい時だけ
出したい

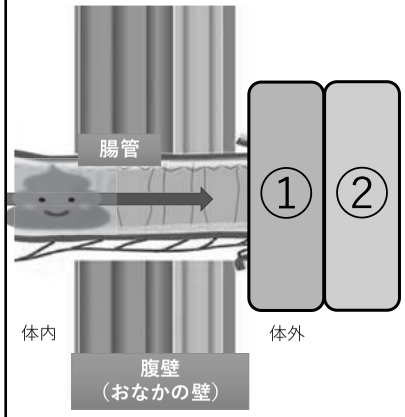




本日の内容

- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

開発デバイスの構造



- 腸管を閉塞させるパーツ①
  - ➢医療機器として開発
- 排泄を簡略化するパーツ②
  - ➢福祉機器として開発

プロトタイプ作成

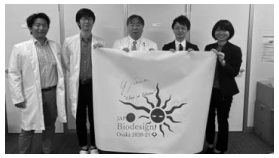
イメージ画像

1000万円の助成金獲得（2021年度）

- 医療機器製造業者に委託
- 3Dプリンターで各パーツを作成
- コアとなる部分は既存の医療機器＋オーダーメイド

今後のスケジュール

2021/2022年度	2023年度	2024年度
非臨床試験	臨床試験	医療機器承認
・ふくしま医療機器開発支援センター	・京都大学消化管外科との連携	・バイオデザイン大阪発イノベーションを目指す



プロトタイプによる実験

ー基礎的なPoC(Proof of concept)検証ー

コンセプトVer1のPoC検証
安全性（腸管壁にかかる圧力値など）
有効性検証（便の漏出の有無）
→新たな課題が発見されVer2を作成

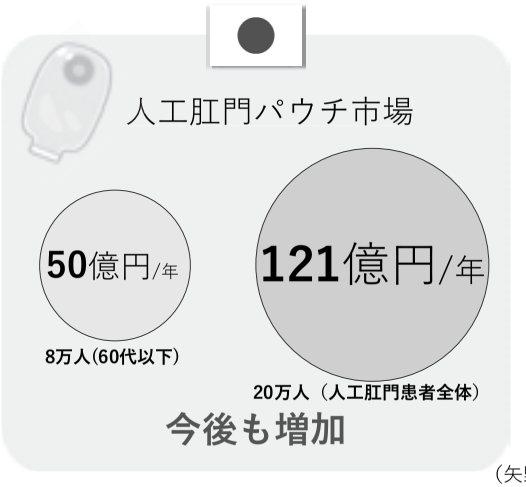
GAP-S
1000万円獲得

コンセプトVer2作成
有効性検証中

本日の内容

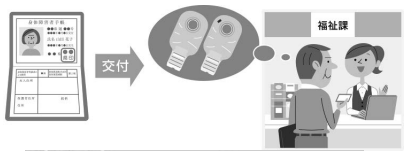
- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

市場規模



（矢野経済研究所より）

人工肛門パウチの現状



ストマ用具：
日常生活用具として、
身体障害者給付金の対象

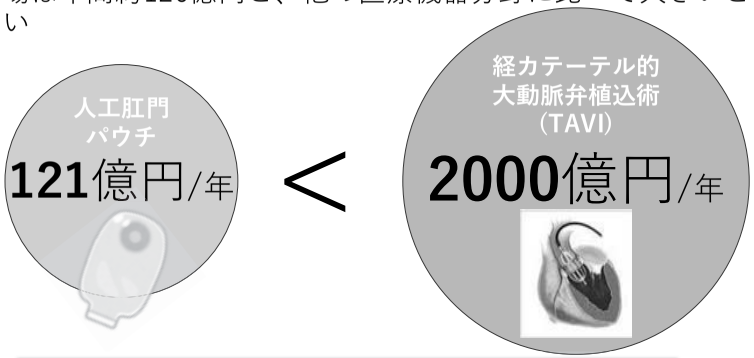
自治体ごとに給付額や給付対象が異なる

身体障害者：
永久ストマを持つ患者で、
ストマの種類に応じて
1-4級が該当

一時的ストマ患者は対象外

市場規模における課題

- 国内市場は年間約120億円と、他の医療機器分野に比べて大きいとは言えない



他分野に比べ、VCなどの投資を受けにくい
⇒ビジネスモデルとして成り立たせるのが困難な可能性

新規デバイス開発における課題

人工肛門に関する新規デバイス

- **医療機器**：薬事承認され保険償還も獲得できれば、ビジネスモデルとして成り立たせやすい
- **福祉機器**：薬事承認や保険償還は不要で上市までのハードルは低いが、患者負担が大きくビジネスモデルとして成り立たせにくい

福祉機器における新規デバイス開発の枠組み整理が必要

医師が携わる意義

＜①ニーズの明確な理解＞

人工肛門患者の、造設前と造設後両方の状態を知っている

↓

患者のニーズをより深く知ることができる

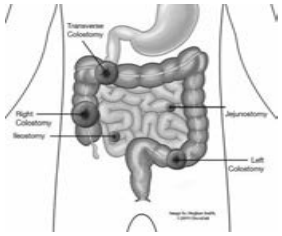
医師が携わる意義

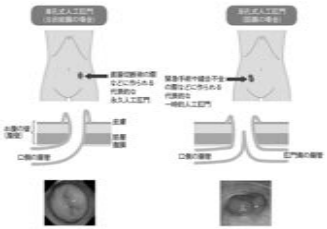
＜②医学的な背景知識＞

人工肛門の構造、特性を理解

↓

現行のソリューション以上の価値を産み出せる





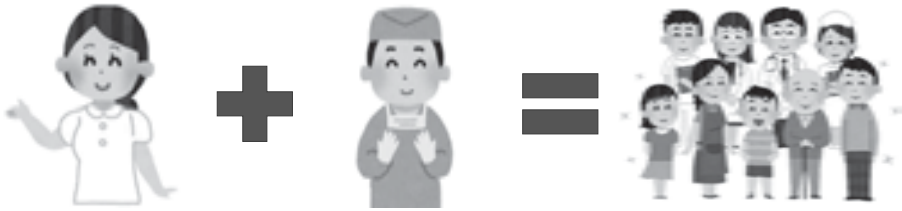
医師が携わる意義

＜③医師が普段関わらないが患者のペインが強い分野への知識の活用＞

人工肛門のケアはWOCナースなどのコメディカルが主体

↓

医師の持つ医学的な専門知識を活用した支援



医師が携わる意義

＜④KOLの存在＞

京都大学
消化管外科
教授　小濱 和貴

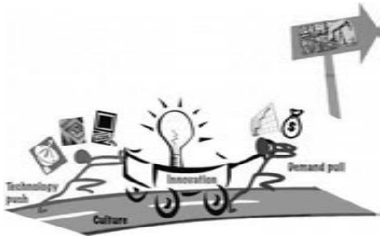
人工肛門の世界が一変する
早急に上市できるよう支援したい

Keyとなる**学会**(消化器外科学会、ストーマ・排泄リハビリテーション学会など)**への働きかけ**を検討

福祉機器開発における医師の役割

①ニーズの明確な理解
②医学的な背景知識
③患者のペインが強い分野への知識の活用
④KOLの存在

福祉機器においても、**ニーズ視点を重視した開発**を行うことで、デバイスの価値を上げることができる



他との差別化を図る時に、本デバイスのように、**医療機器と組み合わせる**ことが一つの大きな差別化となり得る

医療機器 ✖ 福祉機器

まとめ

- 人工肛門患者に関するニーズを発掘し、デバイス開発につなげ、上市までのプロジェクトを進行中である
- 福祉機器開発に医師が携わることは、今後の新たなデバイス開発の流れを加速するためにも非常に重要である
- 福祉機器においても、課題解決の視点を重視した開発手法を用いることが肝要である

シーズ・ニーズマッチング交流会２０２１

福祉機器開発の現状報告

株式会社オレンジアーチ

1

自己紹介

宇田 竹信（うだ たけのぶ）

株式会社オレンジアーチ
　イノベーショングループ プロデューサー

・１９７０年の夏に千葉県の柏市で生まれる
・仕事はずっとIT系
・しかし、最近IT系なのか？と思う仕事も多々
・趣味はドライブと温泉観光
・ゴールドジムに通う…が、効果は出ない

ORANGE ARCH　2

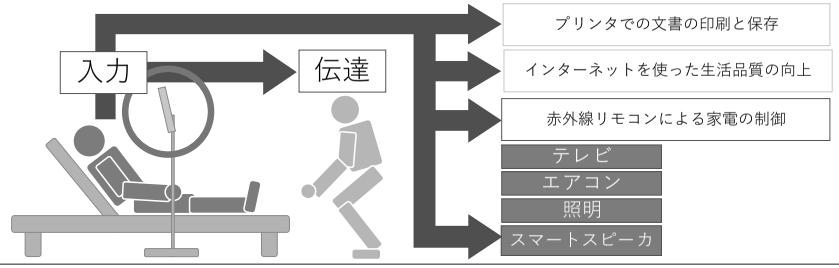
株式会社オレンジアーチのご紹介

　私たちオレンジアーチは、東京の足立区生まれのＩＴ企業です。快適で楽しく、安全安心な社会のために、様々な分野へ向け、情報システムやソフトウェアを提供しています。

ORANGE ARCH　3

今回報告させていただく福祉機器

　意思伝達装置「**eeyes**」（イイアイズ）は、目の動きなど限りなく小さい身体動作で、自分の意思を伝達するための福祉機器です。伝えたい言葉の生成や発声等が出来ます。



ORANGE ARCH　4

ORANGE ARCH

イイアイズの
これまで

5

意思伝達装置「eeyes」の始まり　2014

「東京足立区のICT企業が、なぜ福祉機器を作るの？」とよく聞かれますが、普段より私たち社員や家族が病気や重い障害で、医療や介護の力で助けられているため、何か私たちでお役に立てる事はないかとの考えから、開発を開始しました。

病院や施設の方

医療介護・病気の方

医療や介護の力

ＩＣＴの力

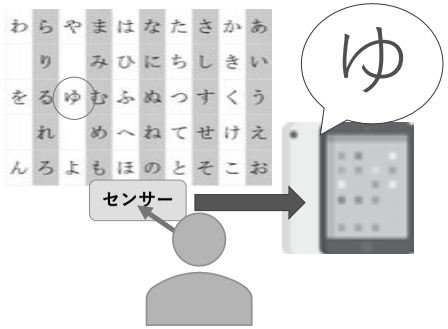
私たち社員と家族

オレンジアーチ

ORANGE ARCH　6

「eeyes」シリーズ１の提供　2015

Ａ３の紙で作った文字盤とタブレットを利用したコミュニケーションツールが「eeyes」の出発点となります。



OMRON
HUMAN SENSING
FRONTIER AWARD #01
クリエイティブ部門
グランプリ

ORANGE ARCH　7

コミュニケーションツールへの理解　2017

シリーズ１の経験をもとに、ご病気の方や介護にかかわる方とお話させていただいたり、患者団体の勉強会にでてみたりして、必要な要素の理解を深めていきました。

- 介護用品の展示場所
- ユーザのお宅
- ＮＰＯ法人のイベント
- 介護施設
- 患者団体の勉強会
- 介護用品の販売店
- ベッドでの実験

ORANGE ARCH　8

「eeyes」シリーズ２の開発

2017

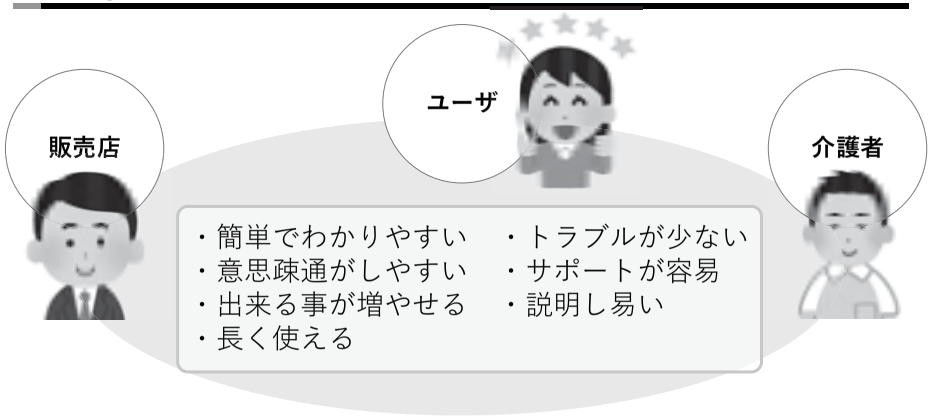
約半年ほどの期間、皆様から多くのご意見を伺った結果、シリーズ２のコンセプトは以下の通りとなりました。

利用者様に対し「**直感的に扱え、疲れにくい**」
- パネルとアイコンによる統一性のあるインターフェイス
- 疲れにくく手間が少ない濁点入力
- 大きく見やすい文字とニュアンスが伝わる絵文字

介護者様に対し「**覚える事が少なく、手間がかからない**」
- 多少ずれても入力できる視線入力の補正機能
- 運用の手間を軽減するショートカット
- 操作しやすい設定画面

ORANGE ARCH 9

「eeyes」が目指す性能



ORANGE ARCH 10

「eeyes」シリーズ２の提供

2018

視線での操作を前提とした新技術の開発や社員を使っての負荷テスト、介護施設でのプロトタイプに対する評価のフィードバックを経て、2018年の10月に無事発売を迎えました。

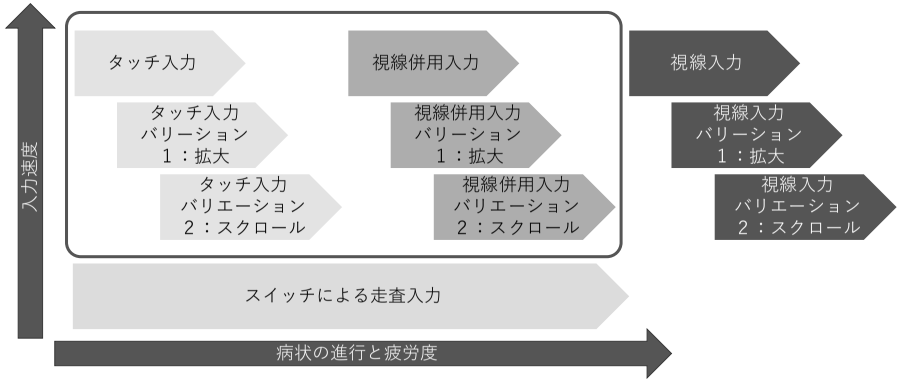
ORANGE ARCH 11

ORANGE ARCH

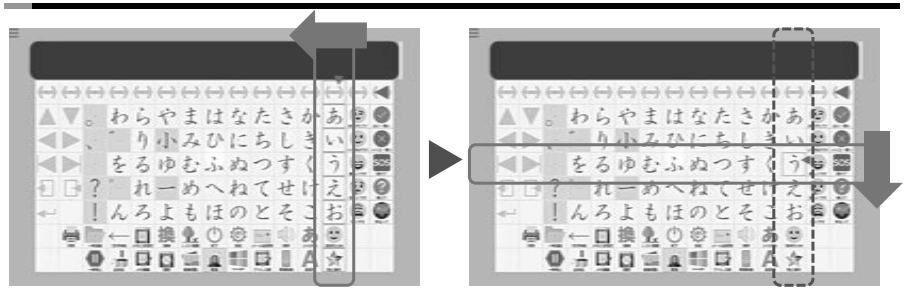
イイアイズの現在

12

入力方法のバリエーション



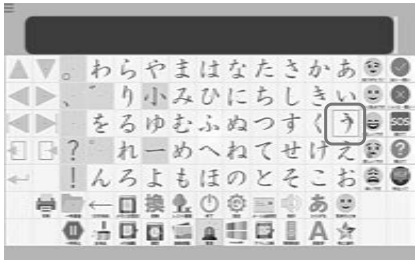
スイッチによる「う」の走査入力



①あ行にオレンジ色のカーソルが来たらスイッチで決定

②続いて「う」にカーソルが来たらスイッチで決定

アイトラッカーによる「う」の視線入力



①オレンジ色のカーソルが見た文字に動くので、「う」にカーソルが来たら決定

見続けて決定

眼だけで操作が可能。見ている時間がカウントされ、一定時間経過後、文字が入力されます。

スイッチで決定

見ている時間のカウントが省略できるので入力速度が向上します。

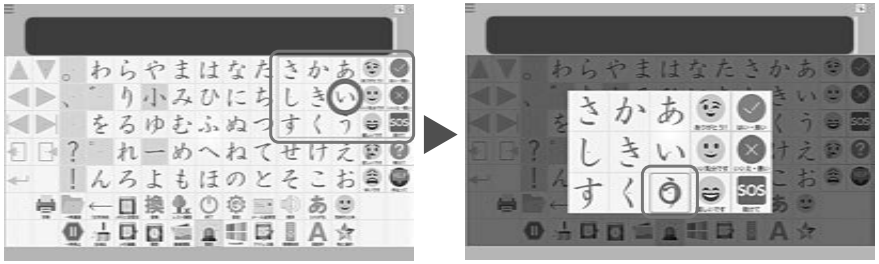
視線入力の課題

視線での入力を行う場合、視線の揺れや視線の検出精度が悪い画面周辺部をどのようにカバーするかが重要となります。「eeyes」では、特許取得の補正機能や、特許出願中の処理方式によるサポートで視線の精度を向上させつつ、より、入力が簡単になるよう、次の入力方法を提供しております。

2段階で画面を**拡大**する事により、視線の検出精度が悪い状況でも利用できる入力方法

画面を**スクロール**させる事により、視線の検出精度が悪い状況でも利用できる入力方法

視線入力バリエーション１：拡大



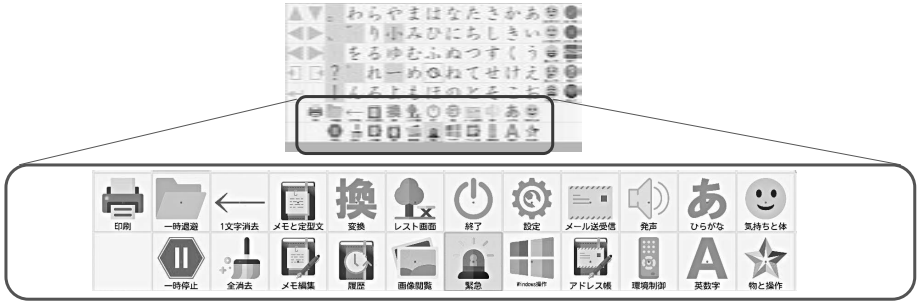
①カーソルが「う」を含む領域に来たら決定
②続いてカーソルが「う」に来たら決定

視線入力バリエーション２：スクロール

①画面が見た方向に一定速度えスクロールするので、
黒いカーソルと「う」が重なったら決定

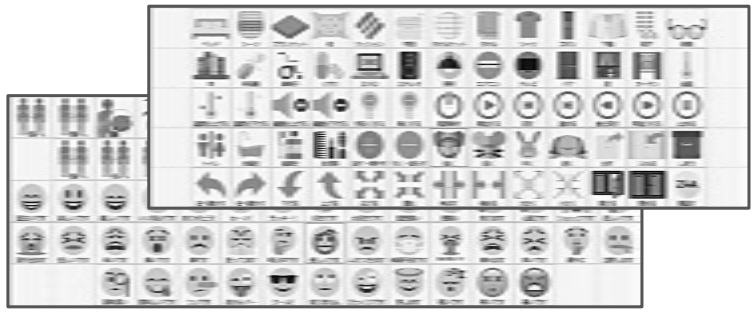
使い心地を向上させる工夫

eeyesの機能は画面下部に集中して配置してあります。様々な機能を選ぶ際に、面倒な画面の移動を少なくすることで、操作時の疲労軽減を目指しています。



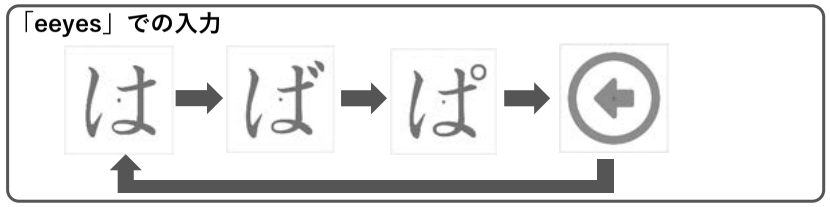
使い心地を向上させる工夫

eeyesのは様々な絵文字を搭載することで、ちいさな言葉の未違いが重大な問題と捉え、言葉のニュアンスまで伝わるよう設計しております。また絵文字を組み合わせる事により、より少ない入力で意志が伝達できるよう工夫しています。



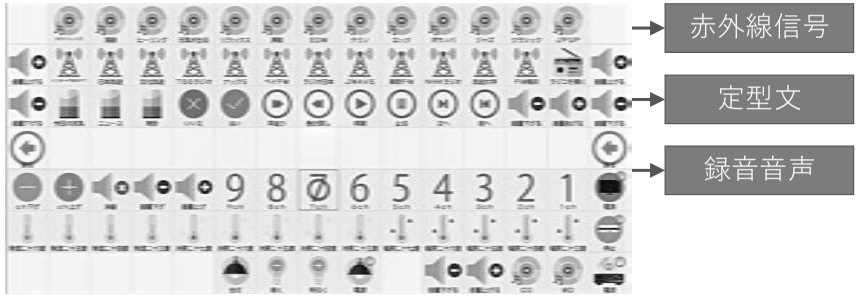
使い心地を向上させる工夫

濁音・半濁音・小書き文字の入力は、入力したい文字に加え記号を入力する方法が一般的ですが、eeyesでは視線入力時の疲労を抑えるため、見続ける事による入力が可能です。



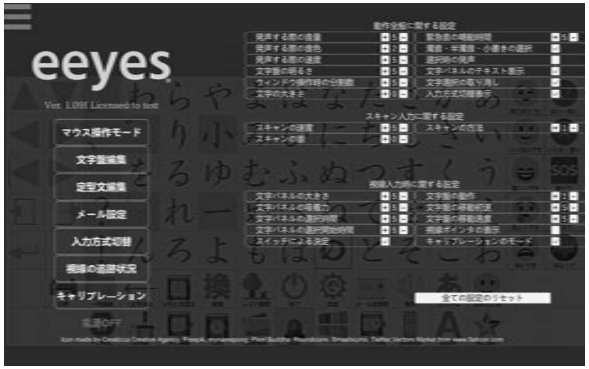
使い心地を向上させる工夫

緑色の環境制御パネルは赤外線信号を学習させたり、定型文の登録、音声の録音が可能です。これらパネルはどの画面にも自由に配置できるため、文章の作成中でも容易に家電やスマートスピーカーへの指示が可能です。



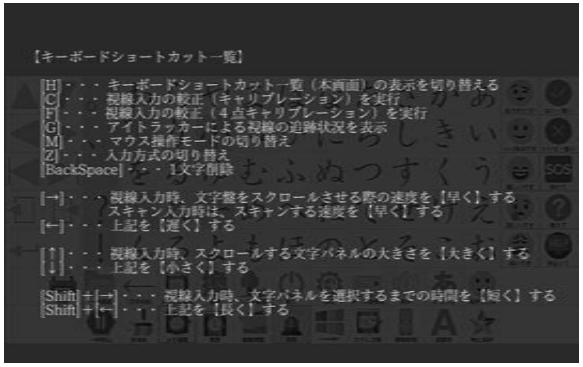
介護の方をサポートする工夫

介護の方がベッド横からでも簡単に利用者様の支援ができるよう、介護者様用の設定画面を用意しています。各設定はマウスカーソルを充てだけで、設定値の意味などのコメントが表示されるため、介護の方が設定を細かく覚える必要はありません。



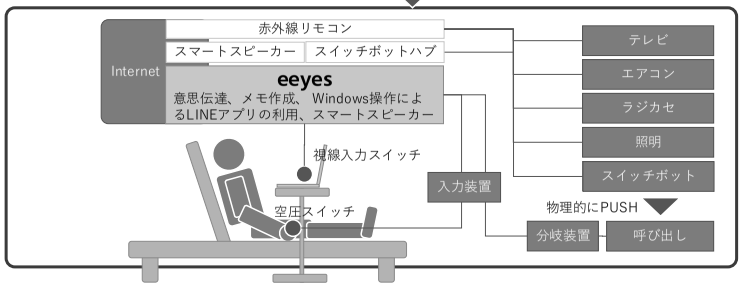
介護の方をサポートする工夫

キーボードの「H」（Help）を押すと介護者用のショートカットキーの一覧が表示されます。日々忙しい介護の方の負担を軽減すべく、なるべく覚える事を少なく、利用者様の状態に簡単に合わせられるよう工夫をしております。



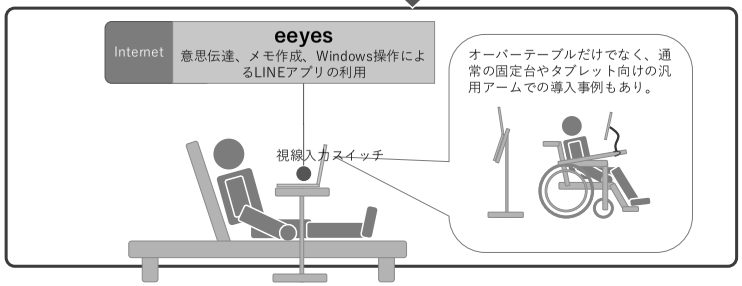
導入事例

状況　：筋萎縮性側索硬化症（ALS）
要求１：病状が進行し、これまで利用していた意思伝達装置が利用できなくなったため、代替が必要。
要求２：高速な入力、LINEアプリの利用、環境制御、ナースコール呼び出し経路の多重化を求める。



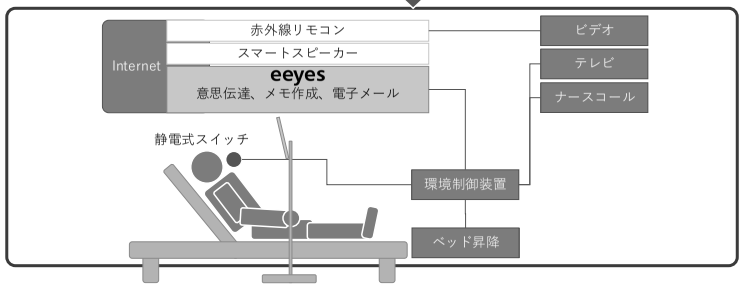
導入事例

状況　：筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多系統萎縮症（MSA）、脳性麻痺
要求１：病状が進行して口頭によるコミュニケーションが困難となった為、補装を要する。
要求２：これまで利用していたLINEアプリでのコミュニケーションを継続したい。



導入事例

状況　：脳幹出血
要求１：これまで利用していた環境制御装置が修理不能になったため、意思伝達機能を加えて新調したい。
要求２：新しい環境制御装置から操作可能な意思伝達装置であること、電子メールとビデオ操作が行えること。



受賞

第３２回「中小企業優秀新技術・新製品賞」を受賞しました。
「中小企業優秀新技術・新製品賞」は、公益財団法人りそな中小企業振興財団と日刊工業新聞社が、中小企業の技術振興と、国内産業の発展に寄与することを目的に、昭和６３年から毎年、中小企業が開発した優れた「新技術・新製品」と「新ソフトウエア」を対象として表彰している賞となります。

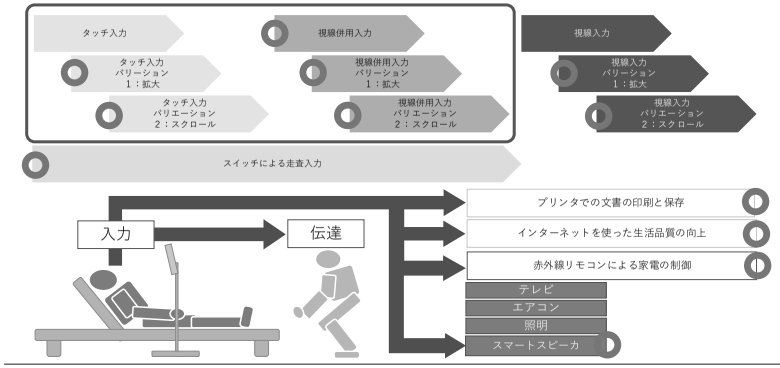
ORANGE ARCH

イイアイズの
これから

29

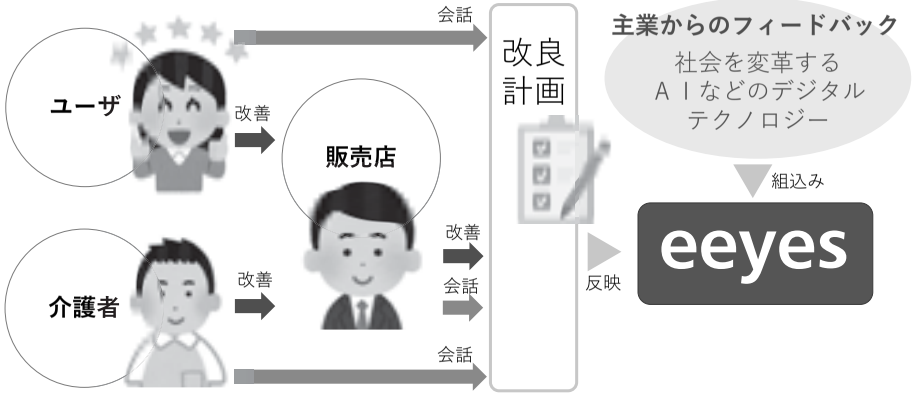
改善と成長

赤丸はユーザ様の声を反映して追加した機能です。Eeyesは日々成長しています。



ORANGE ARCH 30

改善とイノベーション



ORANGE ARCH 31

お問い合わせやご意見

詳細は WEB から eeyes

http://orangearch-labo.com/eeyes/

03-5284-8687 受付時間 ９：００～１７：００（土・日・祝日・GW・お盆・年末年始を除く）

eeyes@orangearch.co.jp

ORANGE ARCH 32

ICTでお客様を成功に導く「架け橋」となります

ORANGE ARCH

http://www.orangearch.co.jp/

シーズ・ニーズマッチング交流会2021　東京

令和３年１２月８日（水）１１：１０～１１：４０

「失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器」

日本言語聴覚士協会
常任理事　白波瀬元道

失語症とは

失語症になると程度の差はあるが、

「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」

といった言語のすべての側面が困難となる。

「計算」をすることにも障害が現れる。

損傷を受けた脳の場所や損傷の大きさによって、障害の現れ方が一人一人異なる。

失語症とは

失語症とは、脳血管疾患等により言語野が損傷されることによって、**一度獲得した言語（日本語・英語など）を使用することが困難になった状態**のこと。

失語症になると、考えていることを言葉にしたり、言葉を理解したりすることが困難となる。

失語症の症状（代表的な症状）

話す

・喚語困難：身近な物の名前が出てこない
・錯語：違った言葉を言ってしまう

読む

・読解障害：文字や文章を見ても意味が理解できない

聴く

・語音認知障害：耳は聞こえるが言葉が聞き取れない
・語義理解障害：言葉を聞き取れても意味が理解できない

書く

・文字想起困難：書きたい文字を思い出せない
・錯書：間違った文字を書いてしまう

失語症とは（疫学）

《失語症者の脳卒中患者に占める割合》

・3．4% 日本失語症研究会失語症全国実態調査委員会.“失語症全国実態調査報告”.音声言語医学(20)1979，160-172

・4．2% 日本失語症研究会失語症全国実態調査委員会.“失語症全国実態調査報告”.失語症研究(15)1995，83-96

⇒概ね４%とすると

脳血管疾患総患者数：約111万人*×４%≒45,000人

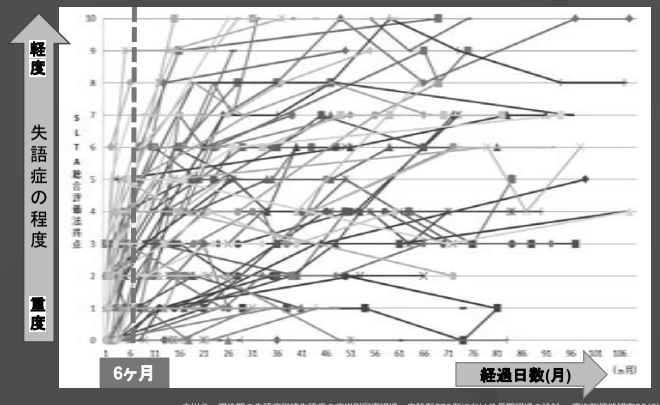
＊平成29年（2017）患者調査の概況 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/17/index.html

脳血管疾患以外の要因（頭部外傷や変性疾患等）で失語症を呈する場合も多い。

＊正確な実態は分かっていないが、**20～50万人**とも言われている。

H26.3.31時点「失語症協議会調査」

失語症のリハビリテーション



中川ら：慢性期の失語症訓練失語症の病巣別回復経過－自験例270例における長期経過の検討－,高次脳機能研究32(2)：258～268，2012

失語症のリハビリテーション

急性期 発症～1ヶ月程度の時期。
症状が変動するため、大まかな言語症状を把握する。

回復期 発症～6ヶ月程度までの時期。
集中的なリハビリが可能。言語機能を精査、言語機能回復訓練や代償手段の検討を行う。

維持期 発症後6ヶ月以降の時期。
身体機能と比較して、年単位で言語機能は回復。
ただし、完全に回復することが困難であることも多く、代償手段の獲得や環境調整を行うことも重要。

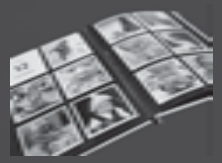
失語症のリハビリテーション

役立つ道具

紙・鉛筆

地図・路線図

写真・アルバム



カレンダー・時計

新聞・チラシ

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（一例）

https://yubidenwa.jp/shitsugo/

高野倉 雅人ら：失語症者のコミュニケーションを支援するアプリケーションの開発，2019

https://udtalk.jp/

https://eastpons.com/

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（活用事例）

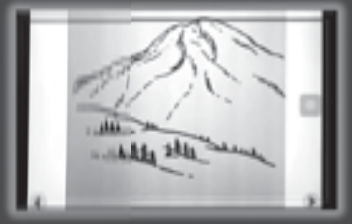
・外来リハビリ通院時のタクシー利用場面において

「めじろ台南まで
お願いします。」

「八王子駅北口まで
お願いします。」

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（活用事例）

・言語訓練に活用（ｉＰａｄ）



呼称訓練（宿題にも活用）

仮名文字の訓練（宿題にも活用）

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（活用事例）

・生活場面で
読み上げ機能を活用

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（活用事例）

・生活場面で
　趣味の話題にも

まとめ

・失語症は程度の差はあるが、「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」といった言語のすべての側面が困難となる。また、一人一人症状の現れ方が異なる。
・失語症は長期間にわたって回復する。
・様々なICT機器が失語症の訓練やコミュニケーションの代償手段の選択肢を増やしている。その効果と限界を知る必要がある。
・一人でも多くの失語症者の社会参加を実現するために、支援機器や人の支援を活用できる環境を整えていくことが肝要である。

失語症者向け意思疎通支援事業

　平成25年4月の「障害者総合支援法」の施行に伴い、意思疎通支援事業は地域生活支援事業の必須事業として位置づけられた。

　手話通訳者や要約筆記者などに加え、失語症者のコミュニケーションの援助も。
　支援者の役割は失語症者のコミュニケーションを支援し、日常生活をサポートする。

障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング交流会2021（山口会場）
基調講演
2021年10月9日（土）

歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発

国立大学法人 名古屋工業大学
教授　佐野 明人

シーズ・ニーズマッチング

共創

ステークホルダーの求める価値

歩く文化

赤ん坊がはじめて歩けた時，皆が喜ぶ．渡り初めなど歩くことに意味がある．美しい歩きに魅了される．再び歩けたときの喜びは感動を呼ぶ．歩くことは文化なり．

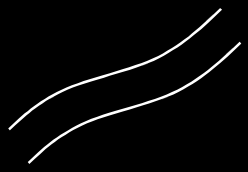
今仙技術研究所

今仙電機製作所

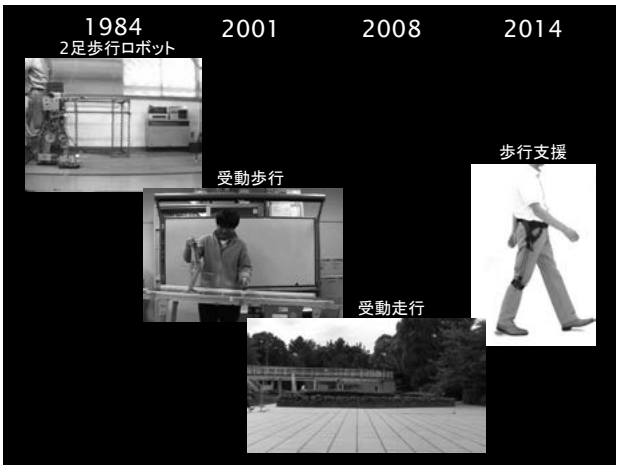
国連の持続可能な開発目標（SDGs）に貢献し得る

本質的な違い

車輪式　　連続



脚式　　離散



ロボットを思い通りに動かしたいですか？

でも，ロボットは好きに動きたいのかもしれない．

ロボットは好きに動きたいはずであり，ならば動き易く設計すべきである．

ロボットを無理にでも思い通りに動かしたいと，思い通りに動かせる設計をする（制御し難いものは排除されやすい）．

その先には，倒れなければ歩けないはずなのに，どんなことがあっても倒れないようにしたいとの強いこだわりが，ロボットの不自然さを生み出す結果となる．

重力で歩き，重力で倒れる．

1990 McGeer

「不安定さを活かした運動性」

「不安定さを消し去る安定性」

重力は無力化できない

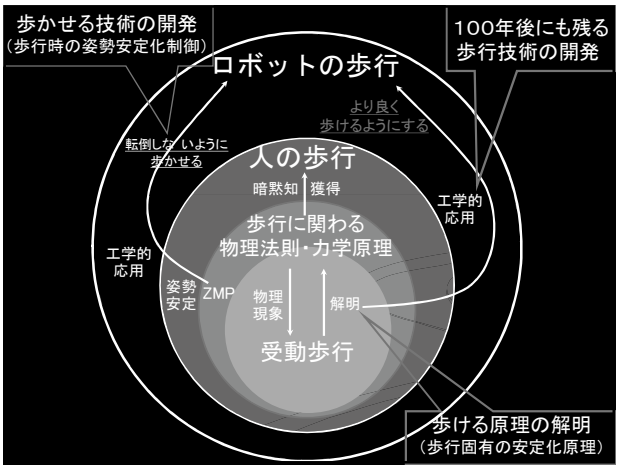
環境との相互作用が身体を持ち動くものすべてに共通する宿命ならば，それを強みにすべきである．

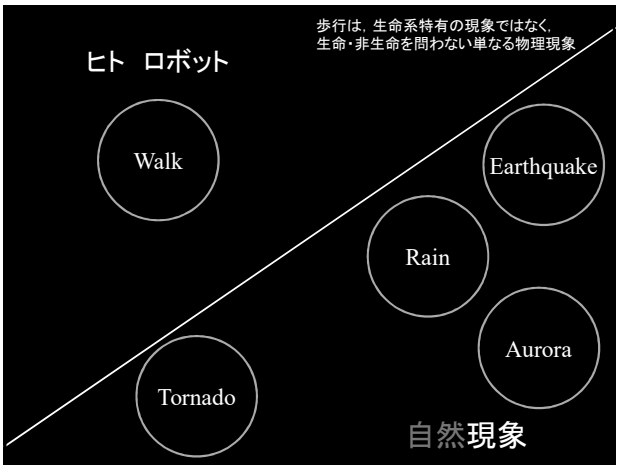
受動歩行とは

モータ，センサおよび制御を一切用いずに，歩行機と環境（スロープ）との相互作用のみによって，緩やかな下りスロープを自然な歩容で歩く．

重力効果のみを用いており，エネルギー効率が高いことで知られ，ヒトの歩行に近いとも言われる．

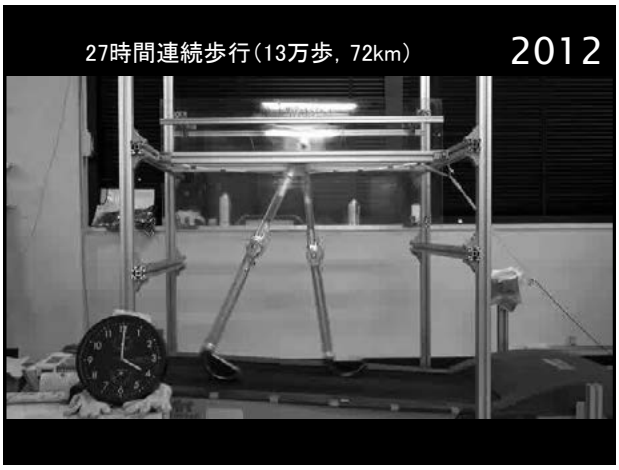
歩行現象の力学的原理（歩行力学）を探究する上で重要である．





受動歩行ロボット

動いているけれども，必ずしも動かしているわけではない．



左膝の不調が見られ，後半は左膝が過伸展した状態での歩容に変化した．腰が引ける感じで，右脚は上体を使った大振りになっている．この歩行は一種の「異常歩行」と捉えることができ，またレバー操作の調整で代償運動を行ったと見ることができる．

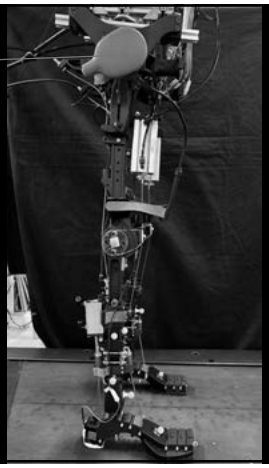
工学的には直ちに修理する事案であるが，異常歩行もまたヒトの歩行だとすると，極めて貴重な実験結果であると考えている．

一般的な歩行ロボットの場合，異常歩行のデータから脚軌道を生成し，目標軌道どおりに制御することになり，事の本質を見誤る可能性がある．

歩行障害を引き起こす原因は，形態異常，筋力弱化，感覚鈍麻，疼痛，運動調節の障害の五つの機能的カテゴリーに分類できると言われている．

ヒトの場合は，これらが複合していることが容易に想像され，その相互関係が複雑化する．一方，本ロボットの場合，力学的な観点で議論することが可能であり，問題の顕在化が期待できる．

同等の異常歩行がヒトでも見られるかは今後検証する必要があるが，改良のヒントが得られれば，それ自身がヒトの歩行支援につながると考えている．



我々は，生れながらにして持っている内臓や皮膚などの柔軟組織による体幹部の動特性が，身体運動にどのように作用しているか自覚できない．

ヒトの床反力は，剛体・非剛体からなる身体の床面との相互作用から複合的に生成されたものだと考えられる．

支える支援

揺れる支援
（揺れるままに歩く）

2009.10.21

2012年モデル

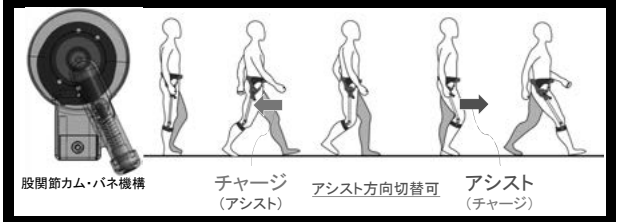
2013年モデル

受動歩行は Passive Walking と呼ばれており，この受動歩行由来の技術が人々の生活を下支え，人々を明るく元気に，前向きに活発にする Active との意味が込められている.

無動力歩行支援機

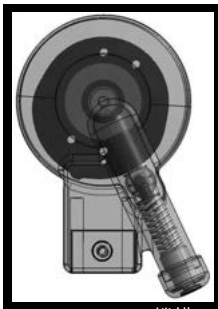
- 無動力・無電装
- 超軽量［500gクラス］
- 安全
- 低コスト
- 簡単装着・低装着感
- 体のひねりがし易い
- 座位，正座，胡坐など
- 静粛
- デザイン性・簡単構造
- オールシーズン
- 持ち運びも簡単

股関節伸展角度の増大



歩行開始：弱めのアシスト

歩幅が狭いと小さなアシスト，広いと大きなアシスト



股関節カム・ばね機構

エネルギー再配分

支持脚期後半：
弾性エネルギーがチャージ
（負担を感じない，過度に減速しない）
※股関節伸展角度の増大

遊脚期前半：
アシストに利用
（足が軽くなる感じ）

適応的アシスト（自動的）

歩行開始：弱めのアシスト

歩幅が狭いと小さなアシスト，広いと大きなアシスト

ACSIVE
装着後

装着前

軽やかな歩行支援

- □ 普段通りに歩くだけで，振り子の動きとバネの力で脚の動きを整える．
- □ 足が軽くなる感じで歩き易く，歩行スピードも上がる．
- □ エネルギーを外部から投入せずともエネルギを上手く再配分することで，自らの力で自らを支援できる（無動力）．

人の歩行におけるレバレッジポイントを最小限の介入で支援するシステム構築の思想は，人のシステムへの過度な依存を回避し，人の尊厳を維持する．

※ レバレッジポイント：小さな力でも大きな変化を起こす．

□ ユーザーからの声

こんな機器を待っていた．

私のために開発されたと思えるほど．

□ 医療現場からの声

リハビリ学習・補助具の用途．症例が広くて稀に見るヒット．

片麻痺の方の歩行練習補助機器の理想形．積極的に活用していきたい．

14種類の症例の方々が利用され，医療現場からも適用症例の広さを高く評価されている．

上位5件：

1. 脳血管障害
2. 股・膝関節症
3. 脊柱管狭窄症
4. 脊椎・頚椎損傷
5. 小脳変性症

また，左右バランスが改善し，歩幅の拡大，歩行速度の増大，筋電位低減などの即時効果が認められ，脱着後のアフターエフェクト（数時間から翌日）も確認されている．

ACSIVE関連の学会発表実績

[1] 青木隆明，鈴木光久，佐野明人，林典雄，服部良，日石智紀，尾藤貴宣，平尾純子，渡辺翼，四井康喬，清水紀仁，加藤忠幸：片脚式歩行支援機構の評価研究，第29回日本義肢装具学会学術大会講演集，2-4-24，2013.10.

[2] 渡辺聖之，渡辺浩司，川村優貴，中澤信，塩野弘季： 受動歩行をモデルとした歩行支援機の臨床応用に関する試み，第2回慢性期リハビリテーション学会抄録集，E-7-2，2015.3.

[3] 木原寿紀，園田康博，末吉祐一郎，平和憲，永田清人：片麻痺患者の無動力歩行支援機による歩行アシスト効果持続に関する研究，リハビリテーション・ケア合同研究大会抄録集，茨城2016，O38-1，2016.10.28

[4] 本多雄一，河井広大，溝口なお，高木祐希奈，松山太士：呼吸器疾患患者における無動力歩行支援機ACSIVEの有用性に関する研究，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会抄録集，2016

[5] 樋口貴之，渡邊亜紀，川井康平：回復期リハ病棟における下肢整形疾患患者に対するACSIVEを使用した歩行練習の効果，第34回大分県病院学会抄録集，2016.11.13.

[6] 近藤玲子，兼岩淳平，井上花奈，福田大輔，工藤慎太郎：脊柱管狭窄症術後患者に対して無動力歩行支援機ACSIVEを用いた治療効果の検討，第3回日本運動器理学療法学会学術集会抄録集，O-44，2016.12.4.

[7] 齋藤恒一：歩行支援機ACSIVEを活用した歩行練習における運動学習効果の運動力学解析，第33回日本義肢装具学会学術大会講演集，2-2-2，2017.10.9.

[8] 川口大輔，伊藤忠，則竹耕治，神谷庸成，鈴木光久，佐野明人：歩行アシスト装具を使用した自宅での歩行訓練を実施し，歩行機能の改善が認められた年長児の一例，第62回全国肢体不自由児療育研究大会抄録集，2017.10.19～20.

[9] 柳本有二，五島満，伊藤智昭，鈴木光久：歩行支援機およびポール活用時の歩行形態変化と快適性について－ウェアラブル脳波計による脳機能変化から－，第7回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会抄録集，25，2017.11.18-19，博多 ※ノルディックポール （一部抜粋）

2013年：1件，2015年：9件，2016年：10件，2017年：7件

歩行をアシストしてくれる機器から，
人生そのものをアシストしてくれた機器へ

TBS「夢の扉＋」（平成26年8月17日）

テレビ東京「ワールド・ビジネス・サテライト」（平成26年9月10日・12月16日）

NHK名古屋「東海モノ語り」（平成26年10月8日）

BS日テレ「木曜スペシャル（医療の今昔物語）」（平成27年2月12日）

Channel JAPAN（平成27年2月・3月複数回、海外向け）

BSフジ「革新のイズム」（平成28年4月1日）

テレビ朝日「スーパーJチャンネル」（平成29年6月17日）
朝日放送「キャスト」（平成29年6月28日）

BSジャパン「未来EYES」（平成29年9月24日）

NHK総合「チコちゃんに叱られる！」（令和元年6月7・8日、8月23日）

第29回中日産業技術賞
特別奨励賞
（2015年）

2019年4月

上海高精医療機器有限公司

中国国立リハビリテーション病院

2020年2月12日
ACSIVE 中国で医療器械登録（第20200068号）

CMEF(China international Medical Equipment Far)2020 出展

中国国際医療機器見本市
(China International Medical Equipment Fair)

業界の学術専門家，企業の代表者，調達機関関係者，病院のバイヤー，流通エージェントなど，150人の専門家と交流し調達と試着体験の対応をした．

現在，中国3級病院にアプローチ

製品の概要と狙い

分　野	福祉分野	健康分野	産業分野
商　標	ACSIVE	aLQ	(Super ACSIVE)
概　要			
アシスト力	小～中	中	大(2倍)
ターゲットユーザー	障害者 ・片麻痺患者他 ・歩行困難者	健常者 ・フレイル(活力低下) ・アクティブシニア	作業者 ・重荷物運搬者 ・極限作業者
販売方法	取扱コーディネーターが対面販売(試着)	店頭・ネット(Amazon)販売	販売未定

September 2020
Conference: ESMAC: European Society for Movement Analysis in Adults and Children **2020**

Unilateral non-electric assistive walking device helps neurological patients to improve gait patterns

Dr.Boris Feodoroff & Vera Blümer
German Sport University Cologne, Germany
Institute of Movement Therapy and Movement-oriented Prevention and Rehabilitation

aLQロボット研究所

隊員になってロボットを完成させよう！

□ ロボットやaLQの調整はこちらが行っていたが，それらを体験してもらうことで，より一層身近に感じてもらう．
□ 孫が受動歩行ロボットについて学び，その学びを通じて祖父母のaLQをより良く調整する．
□ 子供たちが描き形づくったロボットは，感性があふれアート作品になる．

歩けることが実感できる歩行支援の極意

現象（解明） ➡ 本質的な原理（発見） ➡ 必然的な開発（発明）

※ あるものはいかにも単純で美しく，あるものはその原理を聞けば聞くほどその絶妙さに驚かされる．

※ 最低限機能する製品．一つ余計なものを加えるごとに，コストとリスクが上がる．

※ 引き算の技術

□ 歩行・走行と力学の高い親和性
□ 普遍的な原理の存在と工学的応用価値

歩行の支援から人生の支援

シンプルな歩行支援機に出会うことで，リハビリ室から病棟へ，病棟から自宅へとシームレスにつながる．

歩行支援が身近になり，歩行が弱った方の日常生活・旅行や，アクティブシニアの方の歩くレジャーなどのシーンでも利用できる．

生活の中で使えるからこそ，歩行を支援してくれる機器から，人生そのものを支援してくれる機器へと変わり得る．

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり

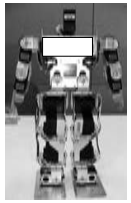
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会
代表世話人　田中　恩

ロボットリハビリテーションとの関わり

- 2007年　昭和病院へ来たときすでにロボットをリハビリテーションに活用する取り組みが始まっていました。

  ☞メンタルコミットロボット「パロ」初期型

  その他ロボットのおもちゃ（オウム、バック転ロボ）



- 2009年より、ARETS（Advanced Rehabilitation Engineering　Team of Showa Hospital：昭和病院先進的リハビリテーション工学チーム、通称アレッツ）というチームを作り、理学療法課、作業療法課、言語聴覚療法課とならんで、第4の部門として活動を開始した。

内　容

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会

10年を振り返り

これからどういう方向で活動していくのか

ロボットリハビリテーションのはじまり

2008年10月
ロボットスーツHAL®
福祉用　リリース

2009年1月
医療法人茜会昭和病院
ロボットスーツHAL®
福祉用導入

パンフレットより引用

昭和病院で使用したロボット等先進機器

- 2005(H17)年～　パロ
- 2009(H21)年1月～ ロボットスーツHAL福祉用(～2015.11)
- 2013(H25)年7月～ Honda 歩行アシスト(モニター1年間)
- 2015(H27)年2月～ ACSIVE
- 2017(H29)年　ウォークエイド
- 2018(H30)年2月～ BASYS
- 2019(H31)年　Reogo-j　その他 IVES、Ness、tDCS など使用

ACSIVE

BASYS

歩行アシスト

デモで体験:バイオニックレッグ
HAL自立支援用単関節タイプ
HAL介護支援用タイプ

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会について

2011年　第1回ロボットリハビリテーション研究会（下関）
2012年　**ロボットリハビリテーション研究会**発足
　　第2回ロボットリハビリテーション**研究大会**in 京都
2013年　第3回ロボットリハビリテーション研究大会in 湯布院
2014年　第4回ロボットリハビリテーション**・ケア**研究大会in 北海道　シーズ・ニーズマッチング交流会2014
2015年　第5回**日本**ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 沼津
2016年　第6回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in HYOUGO
2017年　第7回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 博多
2018年　第8回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 大分
2019年　第9回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 北海道
2020年　**NPO法人日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会**設立
　　※第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会延期
2021年　第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in下関・山口
　　シーズ・ニーズマッチング交流会2021　共同開催

第10回
日本ロボットリハビリテーション・ケア
研究大会in下関・山口

テーマ

加速するロボット・AI・VRの社会実装

～これまでの10年と未来への羅針盤～

第1回ロボットリハビリテーション研究会　2011年5月21日（下関）

特別講演　蜂須賀先生

「ロボットスーツHAL®の可能性」

質疑の様子

パネルディスカッション

第1回ロボットリハビリテーション研究会

ワークショップ

HAL®経験のない方にHAL®による歩行練習を実施するぷっつけ本番企画

企画

10月9日
特別講演
「バーチャルリアリティ技術とリハビリテーションの融合」
講師　安田和弘氏(早稲田大学 理工学術院総合研究所 客員准教授)

事例検討・事例報告(15演題)

10月10日
パネルディスカッション「介護ロボットを活用しよう！」
「介護ロボットをよりよいケア実現のパートナーに！」
社会福祉法人三篠会　介護老人保健施設ひうな荘 森山 由香 氏
「北九州市における先進的介護システムについて」
北九州市保健福祉局　先進的介護システム推進室 堀江 吏将 氏

ロボット・AI・VRの社会実装
先進機器紹介
ミニレクチャー「障害分野におけるロボット技術の活用」

市民公開講演
「再生医療とロボットリハビリテーション」
宇宙再生医療プロジェクト研究センター、広島大学大学院　弓削 類 氏

研究報告(5演題)

第10回研究大会のコンセプト

@参加者の交流活性化・・・垣根を低く
@メーカーとユーザーの交流を活性化
（開発者・販売者と使用するスタッフ・患者）
@ユーザーの声をメーカーへ届けること
@機器体験を充実させること

↓

複数の会場でプログラムを同時進行しない
参加者は同じ空間を共有する

安田　和弘

（やすだ かずひろ / Kazuhiro Yasuda）

早稲田大学
理工学術院総合研究所
研究院客員准教授

特別講演　「バーチャルリアリティ技術とリハビリテーションの融合」
略　歴
人間の感覚運動制御の科学的知見に基づいたインタフェース開発に従事。早稲田大学にて最先端次世代研究開発支援プログラム(内閣府・学術振興会)研究員・同大学研究助手・研究院講師として、脳卒中後の感覚麻痺を補完するインタフェースの開発(日本学術振興会 科学研究費補助金、若手研究B:2015-2016年度・基盤研究C:2017-2019年度)。高齢者の歩行トレーニング用感覚増幅システムの開発(東京都次世代イノベーション創出事業2020)、没入型VRによる半側空間無視に対する評価・介入システムの開発(立石科学技術振興財団助成事業・厚生労働省障害者自立支援機器等開発促進事業)。
早大ベンチャーCCO、厚生労働省「障害者自立支援機器等開発評価委員会」評価委員、日本支援工学理学療法学会評議員 等。

堀江　吏将

（ほりえ　さとし / Satoshi Hori）

北九州市保健福祉局
先進的介護システム推進室
次長

パネルディスカッション
「介護ロボットを活用しよう！」

「北九州市における先進的介護システムについて」

略　歴

1992年に北九州市役所入職。
　情報部門では、税関係のシステム構築やデータベース管理に従事、また地方公営企業の人事、給与、労務、安全衛生等を担当。
2007年から係長として、内部事務管理システムの刷新、総務事務センターの立ち上げ、マイナンバー制度の広報、オープンデータ推進や市官民データ活用推進計画の策定を担当。
2019年から現職。介護施設に時間をうみだす仕組みの構築を担当。
2020年には、市保健所にて新型コロナウイルスの検査・陽性者情報の部門間共有業務をあわせて行う。

弓削　類

（ゆげ るい / Louis Yuge）

広島大学大学院 医系科学研究科
教授
宇宙再生医療プロジェクト　研究センター
センター長

市民公開講演 「再生医療とロボットリハビリテーション」

略　歴

1985年 金沢大学医学部付属病院に勤務
1989年 シアトル大学、アルバータ大学へ留学。留学中、NASAの宇宙医科学開発プロジェクトに参加
1993年 広島大学医学部・助手
2000年 博士（医学）の学位取得
2001年 広島大学医学部・講師
2003年 広島大学大学院保健学研究科・助教授を経て現在に至る
2014年 再生医療とリハビリテーション研究会 設立
2015年 NASAケネディー宇宙センターのAdvisory Committee（諮問委員会委員）に就任（7月）
2015年 宇宙再生医療センター センター長に就任（9月）

森山　由香

（もりやま ゆか / Yuka Moriyama）

介護老人保護施設 ひうな荘
リハビリ部長

パネルディスカッション
「介護ロボットを活用しよう！」

「介護ロボットをよりよいケア実現のパートナーに！」

略　歴

愛媛十全医療学院理学療法学科卒業後、5年間一般脳神経外科病院に勤務。そのうち1年間は特別養護老人ホームに週1回、非常勤として勤務。その後、特別養護老人ホームや在宅、保健・医療サービス等の地域リハビリテーションに従事。
　平成5年より社会福祉法人三篠会老人保健施設ひうな荘リハビリ部長、介護支援専門員、認定リスクマネジャーとして勤務。“出来ることは奪わず、出来ないことは要求せず、埋もれた力を引き出す”ことをリハビリ・ケアの目標として掲げ、多職種協働で取り組む。特に開設当時より福祉機器を活用した環境整備に力を入れ、平成26年より、介護ロボット技術を用いた見守り・コミュニケーション支援機器、移乗介助機器、移動支援機器を導入し、現在50台の介護ロボットを活用している。

オンライン　機器展示　23社

リーフ株式会社	TANOTECH株式会社	株式会社シーエス
有人宇宙システム株式会社	株式会社エスケーエレクトロニクス	株式会社シーエフロボタス
茜会　北九州市立門司病院	株式会社D&I	CYBERDYNE株式会社
エイアイビューライフ株式会社	シスネット株式会社	セノー株式会社
社会福祉法人暁会	合同会社アグリハート	KEEOGO JAPAN株式会社
株式会社AKシステム	株式会社リハサク	伊藤超短波株式会社 メディカル営業部
シーホネンス株式会社	株式会社GLAB	ASSISTMOTION株式会社
橘木メディカル&インターリハ株式会社	パシフィックサプライ株式会社	AI・ICT・VR

見守り機器・介護支援機器・遠隔指導機器
医療機器・リハビリテーション機器　など

マッチングについて

シーズ・ニーズマッチング交流会

真に必要とされる支援機器を開発する

着想段階から

シーズ ⟷ ニーズ

マッチング

実用的な支援機器開発されるよう
ユーザーと開発側が意見交換

すべてオーダーメイドは難しい
レディメイド＋カスタマイズ
調整・工夫・・・支援

人の手

今後の活動内容（予定）

リハビリテーションロボット・介護ロボット
マッチングを推進する

メーカー
機器・ロボット等
販売店

⟷

ユーザー
医療スタッフ
患者・利用者

製品化されている機器のマッチング

製品化前のシーズ・ニーズマッチング

↓

販売前の製品のモニター・治験など
世話人・関連施設でデータ収集
データフィードバック

より実用的なリハビリテーションロボット
介護ロボットの普及・開発

マッチングについて

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会

製品化
されたもの

マッチング

ユーザー
患者・利用者

介入者

人の手

先進機器（ロボット等）を有効に活用
製品とユーザーのつなぎ役が重要

製品の特性を理解＋ユーザーの状態を理解
これらの情報を統合して機器を調整する能力

レベルアップ

今後の活動内容（予定）

リハビリテーションロボット・介護ロボット
普及啓発活動のネットワーク構築
（世話人ネットワーク構築）

定期的にオンラインイベントを開催する
ロボット等実践セミナー
企業プレゼンテーション

＊新規ロボット等導入施設への世話人派遣

最終目標

先進技術と従来型リハビリテーション技術の融合
より効果的なリハビリテーション技術・ケア技術の追求

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会の活動

1)リハビリテーションロボットおよび介護ロボットの普及とこれに関する知識・技術の向上を目指すこと。

2)リハビリテーションロボットを利用したリハビリテーションの質的向上、高度で先進的なリハビリテーション医療の発展を実現すること。

3)介護ロボットを利用した自立支援の推進および介護負担の軽減を実現すること。

そのために以下の行事を行う。

1)日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催(講演・研究報告・機器展示など)。

2)ホームページ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)による情報発信。

特定非営利活動法人
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会
事務局　山口県下関市汐入町３５番１号
昭和病院内
０８３-２３１－３８８８
✉npo.jrrcm@gmail.com
ホームページ：https://robot-reha-care.com/
(NPO法人日本ロボットリハビリテーション研究会)

代表　田中　恩

つながる、たのしむ、相談できる
～スマホでつむぐ重症児支援の未来～

シーズ・ニーズマッチング交流会2021
10月9日(土) 14:40～(30分)

オンラインで、リハビリを革命する。

自己紹介

長岡菜都子(びぃどろ)

重症児の『食べる』を育む専門家
(言語聴覚士)

オンラインリハビリのパイオニアとして、オンラインを活用したこれまでにないサービスを、全国に広げる活動を行っている。

事業

全国各地の重症児デイや、子ども専門訪問看護ステーション、医療機関、介護施設などへ、オンラインでの相談事業を複数運営している。

肩書

- 一般社団法人オンラインケア　理事長
- 一般社団法人オンライン臨床　理事長
- びぃどろ　代表
- はなうた図工室　副代表

経歴

2005年 言語聴覚士免許取得
2005年 山口県内総合病院勤務
2008年 市内訪問看護ステーション勤務
2019年 びぃどろ設立
2020年 一社)オンラインケア設立
代表理事就任
2021年 一社)オンライン臨床設立
代表理事就任

びぃどろ

オンラインリハのはじまり

離れて暮らす友人のもとに生まれた、ダウン症の女の子。彼女は複数の医療的ケアを抱えていました。友人を助けたい、その想いで始めたオンラインでの遠隔リハビリ。哺乳の指導から始まり、離乳食の練習へと着実に進んだことで、彼女の医療的ケアは1つずつ外れ、1歳の誕生日には市内の保育園へ通えるようになりました。
「オンラインでのリハビリには未来がある」そう確信した私は独立し、オンラインでの事業拡大を始めます。

オンライン事業が軌道に乗りはじめた頃、世界的に新型コロナウイルスが猛威を奮い始め、オンラインサービス拡大が一気に加速していきました。

それと同時に、重症児向けのオンラインサービスを複数展開したことで、私のもとには、全国各地からたくさんのSOSが送られてくるようになりました。

「食べさせるのが怖い」

言語聴覚士の私のもとへ届くSOSの多くは、「食べる」に関する悩みでした。当事者の声、重症児を育てる家族の声。そして、その数と同じくらい届くのが、彼らに関わる専門職からの声でした。

「職場にSTがおらず、わからないことばかりです。」
「まだ臨床経験が少なく、リハに自信がありません。」
「誤嚥させたらどうしようと、怖いんです。」

誤嚥性肺炎から守るための10のこと

誤嚥性肺炎から子どもたちを守りたい。
子どもにも、家族にも、そして彼らを支える専門職にも、だれにでも境界線なく、正しい「10の知識」を届けよう。

そうして完成した10の動画(右のリンク参照)。
すでに300名を超す方々のもとに届いています。

コロナ禍だからこそできる、スマホを使ったオンラインでの新しい取り組み。
あなたのスマホにもきっと届くはずです。

特別シンポジウム　『好事例表彰の受賞とその後』

［ 平成３０年　導入利活用部門 ］

“声を失ったパーソナリティ”が
ラジオ番組を継続

iCare ほっかいどう　NPO法人iCareほっかいどう　理事相談員　佐藤美由紀

iCareほっかいどうの活動原点

活動の原点は、コミュニケーションが取れなくなった方の機器によるコミュニケーション支援です。上肢下肢の自由が奪われ、声を出せず、意思疎通が出来なくなった、なりつつある方の意思疎通を支えることが大きな目的です。

出会う方で、声を残したいと考えている人は少なくありません。それぞれの方の思いに寄り添うために、声を残す取り組みを２０１４年から始めました。

自分の声で話したい人の思いは、人それぞれに深い理由があります。

ＡＬＳになったお母さんが、いつまでも自分の声で子供に話しかけられるように、とか、喉頭がんで喉頭摘出をした医師が職場に立ち続けるために、とか。

自分たちは音声技術者ではありませんが、その方の思いに寄り添える、近い位置にいます。

２０１６年にボイスターに出会ったことをきっかけにヒューマンテクノシステムさんとのトライアル収録を始めました。

ＮＰＯ法人　iCareほっかいどうとは

２０１２年に設立

ALSなどの神経難病や重度障害により
コミュニケーションに困難を抱える方の
意思伝達支援を目的に活動しています

２０１６年には医療的ケアの必要な
重度心身障害児のための
放課後デイばおばぶを開設

活動範囲は北海道全域

自分の声ソフトウェア　『ボイスター』とは

◆自由な文字列を 自分の声で読み上げてくれる
　キーボードから自由な文章入力ができる

◆その人らしさを声を介して伝える
　自分の声を想起させる合成音生成にこだわりがある

◆日本語を話せる方であれば 誰の声でも作成できる
　静かな環境で半日程度の時間で録音する

その人らしさの再現とは…

声質だけでなく口調や雰囲気まで再現　・・・　「アイデンティティ」の維持
声を失われる喉頭摘出やALSの方へ提供　・・・　「第二の自分の声」として

気管切開したALS患者によるラジオ番組

ALSのたわごとのご紹介

◆札幌市西区　三角山放送局

・理念「いっしょに、ね」。　広く市民が参加。

◆ラジオパーソナリティ　米沢和也氏

・ALS患者『ALSのたわごと』担当

http://www.sankakuyama.co.jp/contents/2017/03/22/005342.php

・病気の進行に伴う人工呼吸器装着　⇒　気管切開により声を失う

・手術前に音声収録　⇒　ボイスターを作成

・手術後、視線入力ソフトと組合せて日常生活での会話に利用

・**自らのラジオ番組を継続**（2015.6～2020.10）

◆アシスタント　佐藤美由紀

・番組内、あ・うんの呼吸で、米沢氏をサポート

番組制作の流れ

病院や施設の自室

準備

・次回の構想

・**原稿**を作成

スタジオ

収録時

原稿を使って、自分のタイミングで発声

対話

アシスタント

実時間で文字入力発声

収録後

編集（ほぼ何もしない）

自分の声を再現するソフトウェア

「ボイスター」との出会いが人生を１８０度変えた

ヒューマンテクノシステム
渡辺聡　氏

動画抜き

その後、番組は順調に進んでいったが、

ラジオへの思いを残しつつ
２０２０年7月２７日急逝

2021年1月から
ラジオ「ALSのたわごと」はカタチを変えて、第2幕へ

◆三角山放送局「ALSのたわごと」FM76.2MHz
＜インターネット・スマートフォンでも聴取可能＞

◆土曜リレーエッセイ　毎月第4土曜日13時～14時

◆第1回目の放送は、米沢さんの奥様の米沢晴美さんと、生前から親交のあった岐阜の恩田さんがゲスト出演。

◆毎回、患者さんや支援者などをゲストに招いている。

◆**米沢さんが遺してくれた番組を、みんなでタスキを繋いでいる。**

米沢さんが遺した足跡は世界のALS患者に大きな影響を与えた

意思伝達装置を使用したALS患者さんの事例⑥
～声を失ってもラジオを続けたい！ALS患者のパーソナリティの挑戦～

米沢和也さん（北海道札幌市）
- 年齢（写真撮影当時）：59歳
- 「当初、人工呼吸器をつけずにそのまま息を引き取るつもりだった」という米沢さんは、ラジオ番組を担当してALSの研究の話や治療の話を紹介しているうちに、「自分は生きて近い将来できるであろうALSの治療を受けてみたい」と思い、人工呼吸器をつける選択をして声を失いましたが、視線入力の意思伝達装置と自分の声を再生するソフトで、ラジオ番組の担当を続けました。

自分の声を再生するソフトを使用した米沢さんの番組は、下記で一部を試聴可能です。

三角山放送局　声を失ってもラジオを続けたい～ALS患者のパーソナリティ米沢和也さんの挑戦～
http://www.sankakuyama.co.jp/contents/2017/03/22/005342.php
https://www.youtube.com/watch?time_continue=1440&v=3MMXa95CQHs&feature=emb_logo

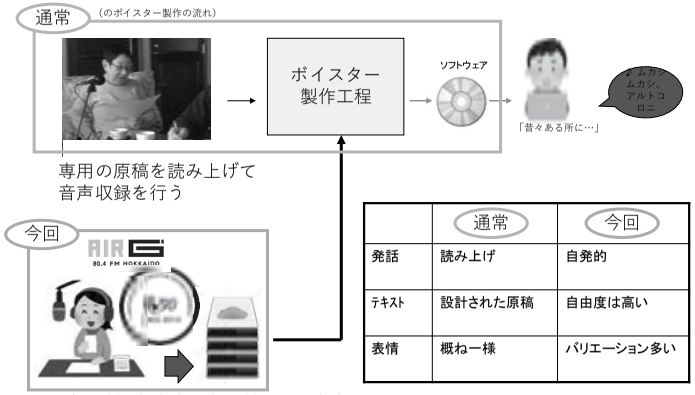
24

大平まゆみさんの事例

◆**プロフィール**
- バイオリニスト。２１年以上に渡り札幌交響楽団コンサートマスタを務める
- ２０１９年にＡＬＳであることを公表。**過去のラジオ出演時の音声からボイスターを作成し、各種メッセージの発信に利用している**

◆**ラジオ番組「From My Heart」 ・・・・・・・** **※Podcastによる番組**
- AIR-G「朝クラ」のスピンオフ番組
- 毎回テーマの異なる**数分間の音声メッセージを「自分の声」で放送**
- ２０２１年２月から放送開始。これまで１３回放送されている。

既存音声を利用したボイスター製作



	通常	今回
発話	読み上げ	自発的
テキスト	設計された原稿	自由度は高い
表情	概ね一様	バリエーション多い

ラジオの音源合成 ■ 道新文化賞の喜び語る

大平さん「肉声」公開へ

ALS闘病中

元札幌交響楽団コンサートマスタ

大平まゆみさん　道新文化賞受賞

2020年〇月〇日

- 受賞のメッセージ

大平さんの『第二幕』

AirG　朝クラ

『FromMyHeart（フロムマイハート）』

放送原稿は、大平さんが意思伝達装置TCスキャンを使い視線で操作して執筆しています

ALSのラジオパーソナリティー「よねざわかずや」氏とは

Special Thanks
米沢和也さん(ALS患者・故人)
米沢晴美さん(米沢さんの奥様)
大平まゆみさん(ALS患者・バイオリニスト)
資料提供 高山秀毅さん(FM AirG)
音声編集 渡辺聡さん(ヒューマンテクノシステム)
渡辺道子さん(ボンボズ)
写真提供 日本ALS協会 青木さん

動画編集 鴨崎有里(iCareほっかいどうボランティア)
助言 蛸島八重子(iCareほっかいどうボランティア)

シーズ・ニーズマッチング交流会2021　2021年10月9日

人工呼吸器を使う子どもと家族のための「かえるのオフロ」ができるまで

～好事例賞受賞とその後～

大泉 えり

かえるキッズのお助け隊

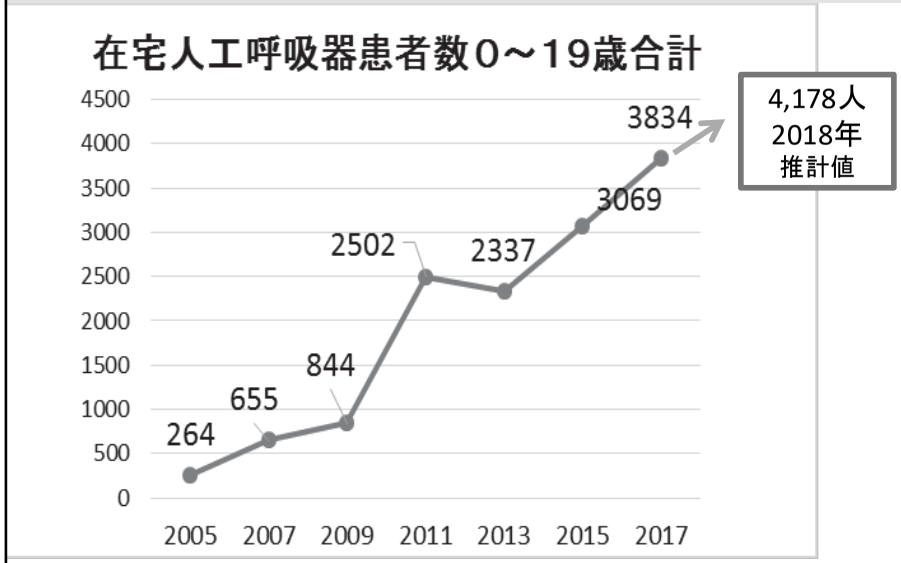
Facebook：大泉江里

Eri.Ohizumi@gmail.com

My daughter

- 脊髄性筋萎縮症（SMA）Ⅰ型
- 超重症児スコア34点
  - 気管切開
  - 人工呼吸器24時間管理
  - 経管栄養（胃瘻）
  - 吸引回数　6回以上/日
  - 体位交換　6回以上/日
- ADL全介助
- 側弯あり
- 意思疎通は良好
- 発話可能だが不明瞭
- 手のスイッチでパソコン操作

背景



奈倉道明：小児在宅医療の実態　医療的ケア児の全国の動向、在宅医療0-100 4(4)、315-320、2019

SMA（脊髄性筋萎縮症）Ⅰ型　とは

脊髄性筋萎縮症（spinal muscular atrophy,SMA）

- 進行性の神経難病
- 生後6か月までの発症は重症型（Ⅰ型）
- 脊髄から先（体幹・手足）の筋力低下と筋萎縮
- 座位保持（定頸）が生涯不可能
- 1歳未満で人工呼吸器によるサポートが必要

（SMA診療マニュアル編集委員会、2012）

入浴方法の変遷

二代目

三代目

四代目

第一フェーズ考察　入浴習慣の成り立ち

住環境

生活リズム

本人の状態

介助者

多様な入浴習慣

SMA Ⅰ型児の在宅入浴習慣の調査

【第一フェーズ】

実態把握
面接調査

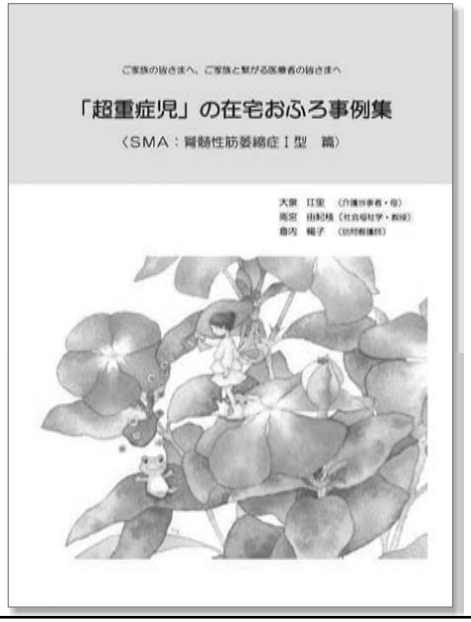
- SMA Ⅰ型児（2-17歳，33歳）を育てる**11家族を訪問**
- **入浴習慣の多様性要因**の抽出
- 2015年 4月～2016年2月

【第二フェーズ】

量的な実状調査
アンケート調査

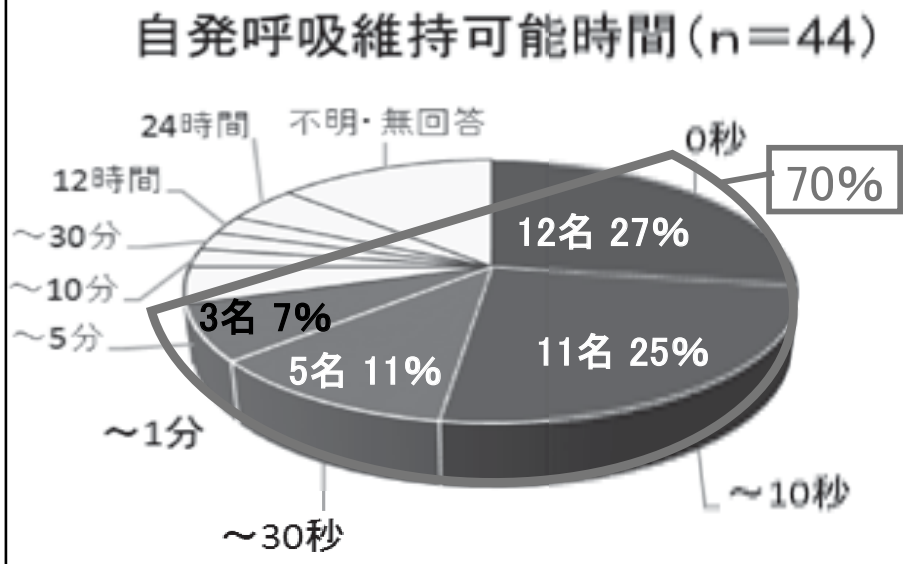
- SMA Ⅰ型児を介護する**保護者に**
- 全国22都道府県から**44人**
  回答率80%→ 関心の高さ
- 母親39・父親5（26-49歳、38.4±5.9歳）
- 男子21・女子22・不明1
  （1-20歳、7.1±4.8歳）
- 2016年 8月～11月

第一フェーズ調査の結果報告



助成いただきました
公益財団法人　在宅医療助成
勇美記念財団HP
「報告書一覧」から
閲覧・ダウンロード
も可能！
（No.1082）

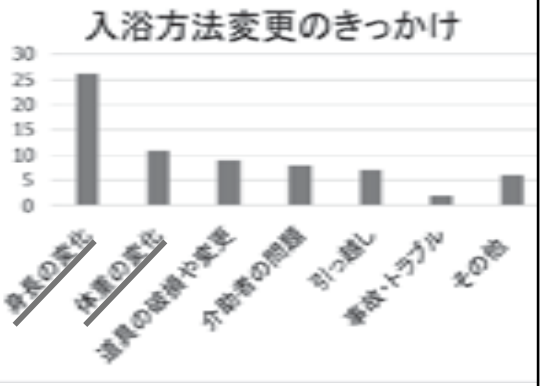
第二フェーズ　調査結果



第二フェーズ　調査結果

ひょろ長い身体

成長に伴う課題



第二フェーズ　調査結果

入浴中の呼吸の安定方法　（n=44　複数回答）	n	（%）
蘇生バッグ（アンビューバッグ等）	26	59%
人工呼吸器	19	43%
酸素吸入	7	16%
その他（人工鼻のみ、持続吸引）	3	7%
吸引	35	80%

入浴中も呼吸確保の緊迫

何が困難か？

頭・首の安定固定

呼吸の確保

気管切開孔に水を入れない！

身長がすごく伸びる！
入浴方法の変更必要

脱臼や骨折

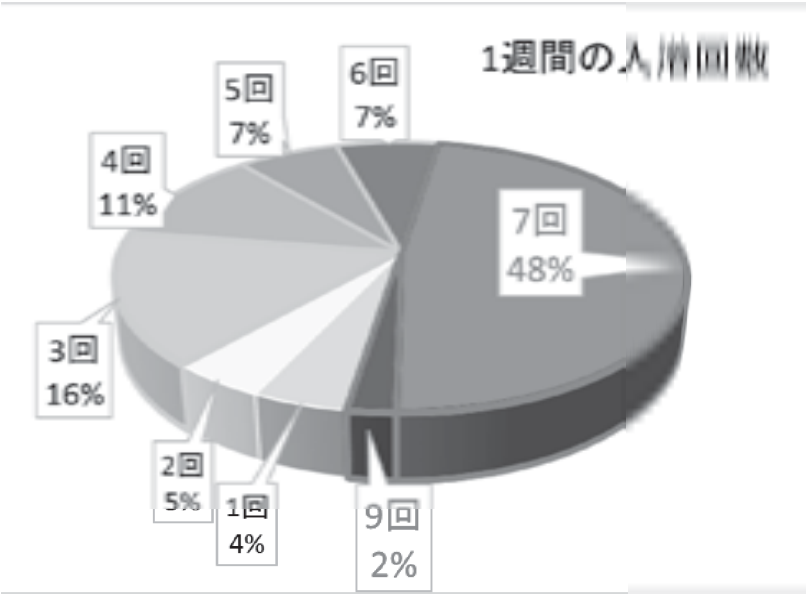
体温調節

救急対応

困難

入浴ケアリスク
とても高い…

第二フェーズ　調査結果



在宅おふろ研究

- 超重症児の在宅おふろ研究
- 介護当事者による看護学会発表

本邦初？！

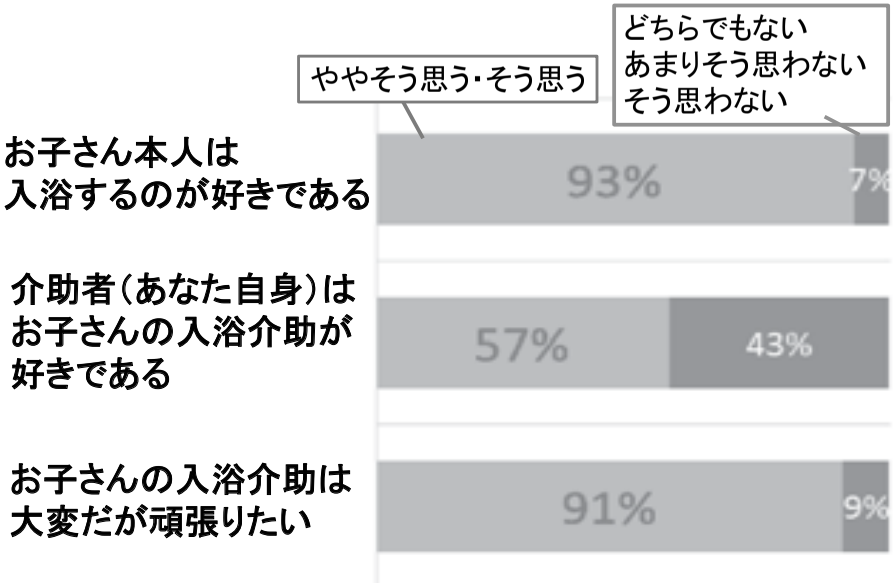
毎日新聞　2017年8月23日朝刊

動画ニュース（2017年8月22日）

反響のメール
切実・・・！

15

第二フェーズ　調査結果



簡易浴槽「かえるのオフロ」開発・販売

人工呼吸器を使う
子どもと家族のための

Facebookや
ネットショップ

かえるキッズのお助け隊

開発のポイント

◎頭をへりに、介助者が手を離せる

◎1回の移乗
洗髪、体洗い、湯に浸かり、
排水まで可能

◎お湯に浸かって
ゆったり♪ゆらゆら♪
★気管切開部：高い位キープ！

◎ビニール素材で
準備、片づけ、持ち運びも楽チン

使い方例（1坪タイプ浴室）

*Sサイズ

*Mサイズ

バスチェアで高さを出しています。
※付属品には入っていません。

安心して使っていただきたいので
医療者とのデモ使用は必須！

開発の難題

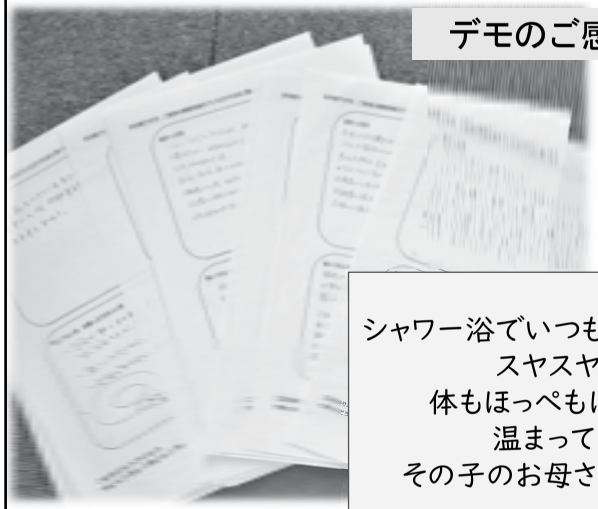
▲肩にお湯がたまる
⇒シャワーヘッドの向きに注意

▲お尻の位置が下がる
⇒スリングの工夫

▲早く、スッキリ、排水
⇒下敷きマット、排水口の工夫

個別性と多様性への余地を残し
最終調整は現場へ託す！

お客様の声



デモのご感想

シャワー浴でいつも泣いていたお子さんが
スヤスヤ寝てしまって
体もほっぺもほんのり赤くなって
温まってよかったです
その子のお母さんも嬉しそうでした。

「お湯に浸かることの大切さ」
改めて・・・

ニーズへの対応

身長120cm以上のニーズが多い！ ➡ 対応できていない

社会資源の活用

・医療的ケア児対応の放課後デイ
・日中一時預かり
・訪問入浴サービス

不足
地域格差

共同創造

当事者と専門家
対等なパートナーシップを
組んで生産するモデル

当事者がもつリアルな力を活用するには？

これからも

ファミリーアドボケイト

（家族の代弁者・社会的アクションの担い手）として

気管切開をした人工呼吸器を使う子どもの入浴ケアは、高度な看護技術と知識が必要。介助者も複数必要。

成長発達の段階に応じて、安全性を確保した入浴を実施できるように、製品開発と情報共有、社会サービスの促進を切望する。

何の数字？

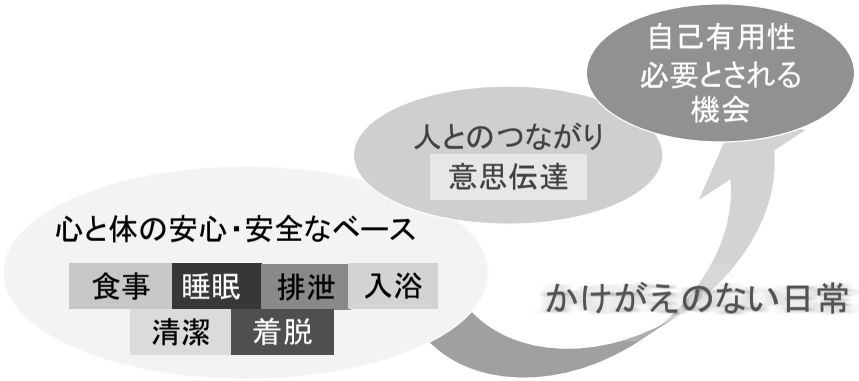
$$\frac{7}{7}$$

好事例賞特別シンポジウムによせて

➢ 製品の先に、人の暮らしが見える

人って、体が清潔になると、不思議とね
前向きな気持ちになったり、お湯に浸かると幸せな気持ちになったりね、笑顔が出るんだよ。健康な人には分からないと思うな～

アースサポート株式会社　森山典明代表取締役社長インタビューより



好事例賞特別シンポジウムによせて

人間の究極の幸せは
愛されること
ほめられること
人の役に立つこと
人に必要とされること
の4つです

引用：日本理化学工業株式会社HP

人は
幸せになりたいと
思い続けてよい

そのための道具、使い方事例
たくさん知りたい。知っていただきたい。

現場コンシェルジュ・伴走型支援へ

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング交流会2021

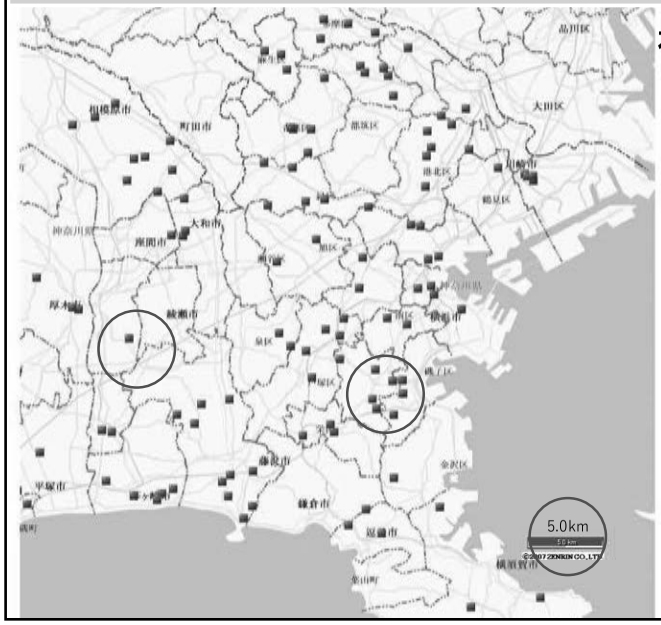
福祉機器の利用と開発の状況報告

シーズへのヒント

2021年10月10日
日本ALS協会
岸川忠彦

1

患者は案外と身近にいます：神奈川県の例



神奈川県支部
患者・家族の会員数
：約100名

加入率が約20％なので点の数は5倍になる

直径5キロの範囲
■1個→5名

直径5キロの範囲
■7個→35名

★

筋委縮性側索硬化症（ALS）について

Amyotrophic筋萎縮性　Lateral側面　Sclerosis硬化(症)

◆特徴　：**運動神経が変性して命令が伝わらなくなって筋肉が動かせず廃用**になり委縮する進行性・原因不明の疾患

◆大まかに**二つのタイプ**

約75%　：はじめに、**手足が動きにくくなるタイプ**

約25%　：はじめに、**しゃべったり飲み込んだり出来なくなるタイプ**

最終的には**手足と口の両方、全身に障害が進みます**

◆発症年齢　：50～74歳が多い→**中途障害者**

◆約95％が孤発性、約5％が遺伝性

◆治療法・薬

リルテックとラジカット

：共に**発症初期の進行抑制効果**が確認されている。

◆患者数　：全国で約**10,000人の患者**

◆発症数　：**毎年約2,300人が発症**

◆男/女比　：1.3～1.4対1.0　男性が多い

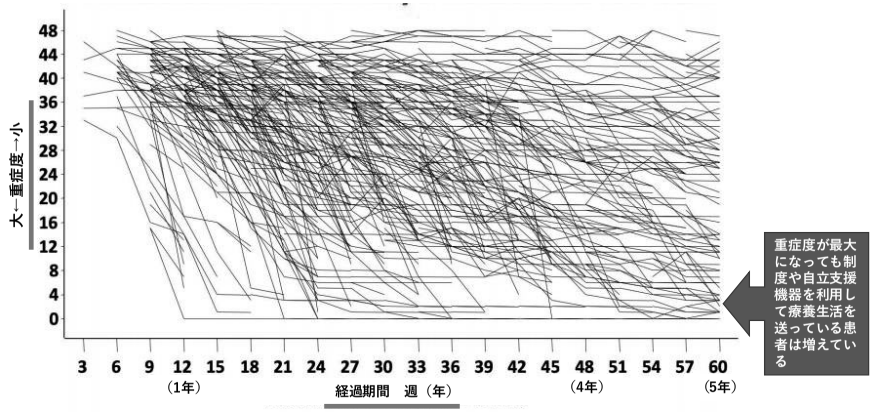
★

2

筋委縮性側索硬化症（ALS）について

Amyotrophic筋萎縮性　Lateral側面　Sclerosis硬化(症)

障害が進行するが、、、進行の様相は一人一人違う（進行の個別性が大きい）



障害が進行　→呼吸筋が動かせない →死に至る病気 →人工呼吸器等医療機器の発展

→死には至らない病気　→死ななければ良い →自立支援機器の発展 →生活の質の向上

→患者・家族は個別性に合わせた自立支援機器の発展に期待を寄せている

★

普段の生活、それを支えているもの

普段の生活		電気/電子機器（ハード）	操作・運用（ソフト）
朝	起床 朝食(薬) 歯磨き 洗顔 着替え トイレ	人工呼吸器・（喀痰）吸引器 電動歯ブラシ・入浴機材 電動ベッド・リフター・トイレ コミュニケーション機器・スイッチ ミキサー・テレビ・照明 ガス・水道・空調・レンジ・ポット	操作・運用は人間だけど・・・自動で出来たらいいな
昼	日中活動（仕事） 昼食(薬) 歯磨き トイレ 訪問入浴		
晩	夕食(薬) 歯磨き 薬 トイレ 就寝(寝返り)		

★

普段の生活：文字盤でのコミュニケーション

日常会話は文字盤で　込入った内容は伝の心（パソコン）で

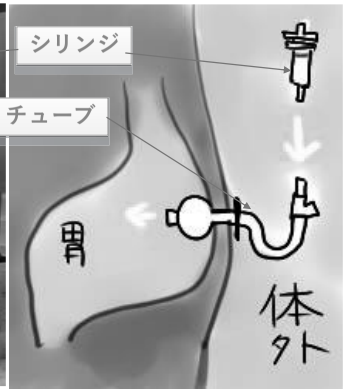
★

普段の生活：アラームスイッチでのコミュニケーション

体が動かず、声も出ない：アラームで呼び出す

普段の生活：胃ろうからの食事（経管栄養）

・口からの飲込みが出来ないので胃ろうから注入して食事
・好物は口からでも大丈夫など、不思議な例外はありますケド、、）



普段の生活:ミキサー食

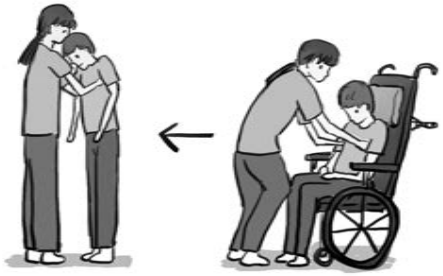
家族と同じメニューをミキサー食にする

ミキサーは空気を噛みこんで食材が酸化しやすいので味が変わるけど栄養成分はどうなのかな

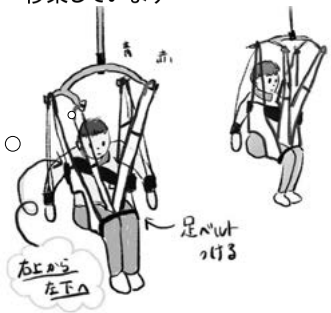
9

移乗（最近はリフトが主）

支えていれば立っていられる時期がありましたが、
最近は足の力が弱くて立つことが難しいです



今は、ほとんどリフトと吊り具で移乗しています



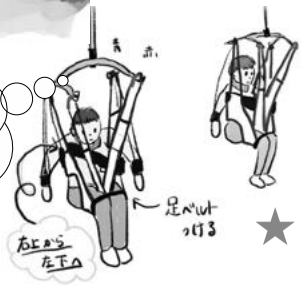
体幹保持機能がなくなると吊り具からずり落ちそうになるんだよね

普段の生活:
歯磨き（口腔ケア）

・歯磨き（口腔ケア）は、誤嚥性肺炎のリスク回避でもあります
・胃ろうからの食事の場合でも、口腔ケアは大事です

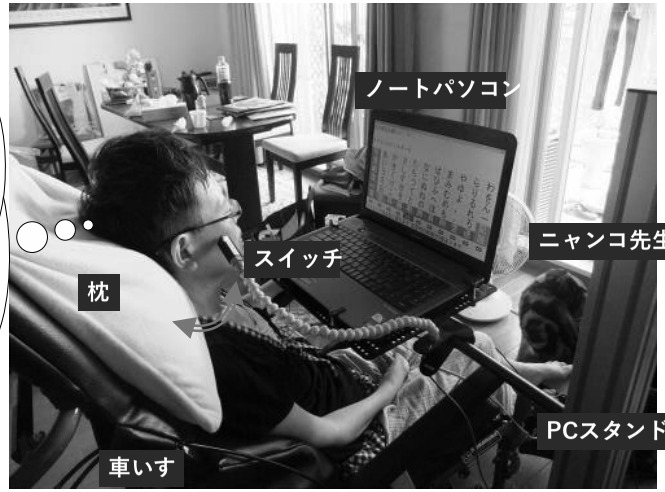
・口が動かなくなったら顎の関節が拘縮しないようなケアも必要

トイレ



狭い家だけどポータブルでなくて家のトイレで用を足したいな

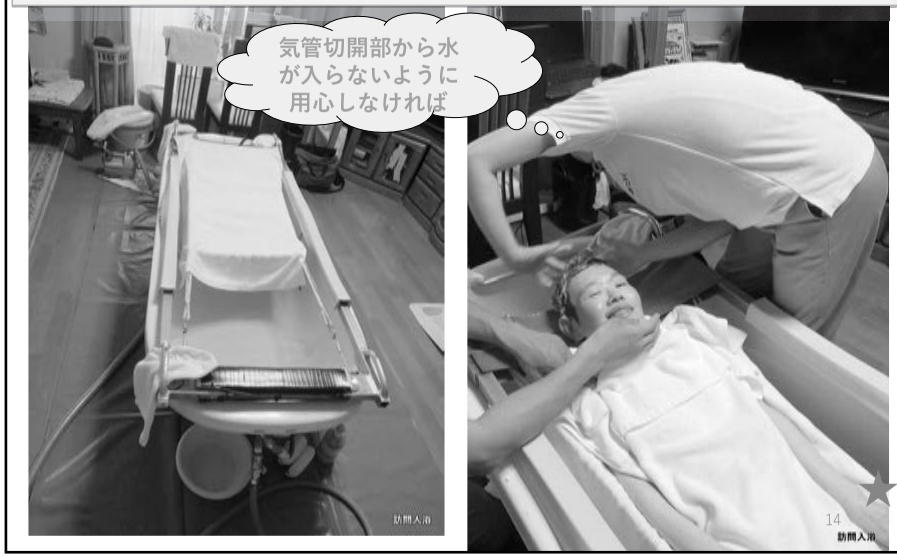
パソコン（伝の心）
メール・執筆・ネット・SNS



視線入力も魅力だけどスイッチで入力も捨てがたい
この先、視線入力やスイッチ操作が出来なくなったらどうしようかな？

普段の生活：訪問入浴

体が全く動かないので家のお風呂は入れない。2-3人体制で入浴



14

普段の生活：
ヘルパーさんと買い物

15

普段の生活：電車で外出

事前に連絡すれば駅員さんが目的地までサポートしてくれます

16

その他

- 鼻をかむ
- テレビのチャンネル・音量
- 手を揉んで欲しい
- お茶を飲みたい
- かゆい所をかいて欲しい
- 本を読みたい
- 吸引

17

就寝

- 寝返り→就寝中は２時間に１回,ときどき吸引。
  １１時３０分～７時の間に３，４回

18

普段の生活：気管切開部からの吸引

いつ、痰がたまるかわからない

常時吸引できる
機器があるけど、
もっとライン
ナップがあると
助かる

常時、見守りが必要

19

普段の生活：吸引機

吸引器は必需品

メインの吸引器（AC電源）

非常用吸引器（足踏み式）

20

災害が起ったら

質問:

体が動かない、発声ができない、
気管切開をしている。
人によっては
人工呼吸器を装着してる･･･
災害が起ったら？

21

日本ALS協会
福祉機器・看護/介護分野の研究・開発への助成

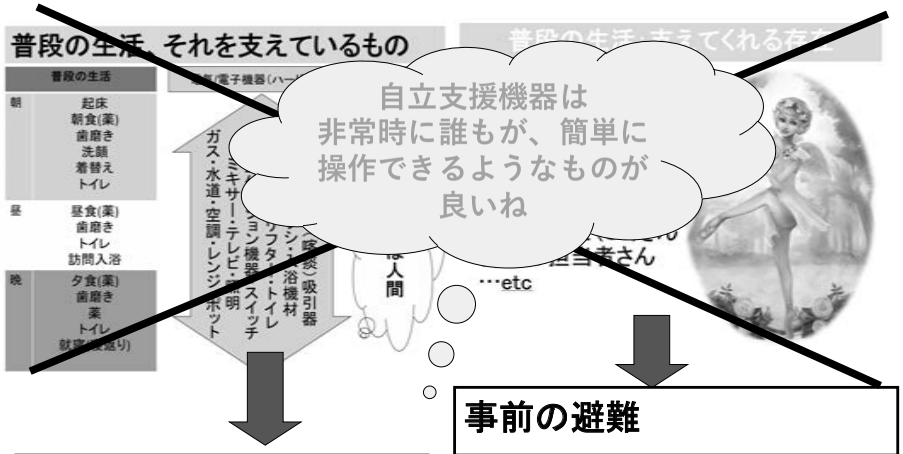
1996～2021年度（H8～令和3年度）の26年間

奨励金交付総額：2,737万円
交付総件数　　：60件

2000年度
山本 真　大分県勤労者医療生協大分協和病院診療部長（当時）
在宅人工呼吸管理下のALS患者に対する、自己制御機能を有する自動吸引装置の開発

2015年度
伊藤 史人　島根大学総合理工学研究科　助教（当時）
ローコスト視線入力装置による意思伝達環境の構築およびマニュアル作成

2019年度
小澤 邦昭　東洋大学　工業技術研究所・客員研究員（当時）
試験データ利用によるYes/No意思伝達装置の正答率向上

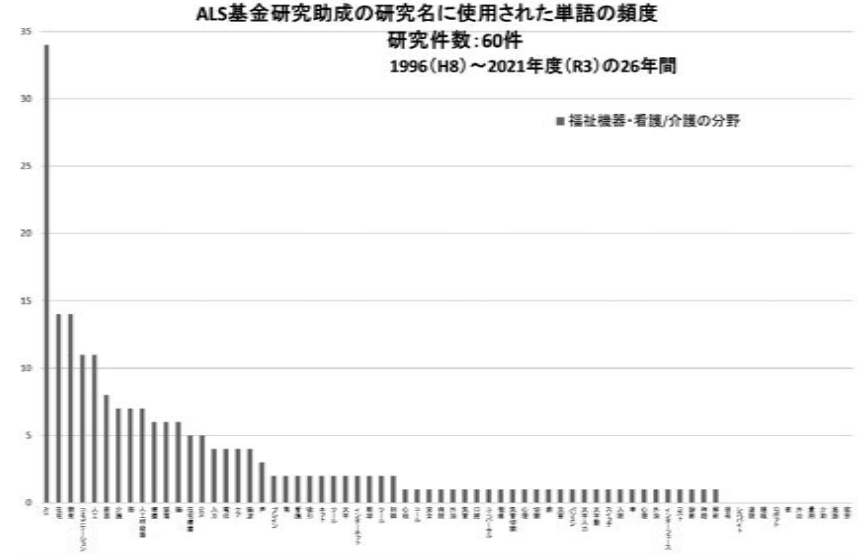


手動の機器
非常電源
（非常発電機・バッテリー）

事前の避難

動けるヘルパー・支援者さん
災害時ボランティア
地域の人々・消防団 ★

日本ALS協会
福祉機器・看護/介護分野の研究・開発への助成



障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング交流会2021

福祉機器の利用と開発の状況報告

シーズへのヒント

ご静聴ありがとうございました

2021年10月10日
日本ALS協会
岸川忠彦

25

福祉機器の利用と開発の状況報告

九州工業大学生命体工学研究科
人間知能システム工学専攻 博士前期課程2年
九工大学生プロジェクト すぐ創る課 課長
山崎 駆

すぐ創る課

質問及びお問い合わせ

yamasakikakeru

@KakeruResearch

質問及びお問い合わせ

すぐ創る課

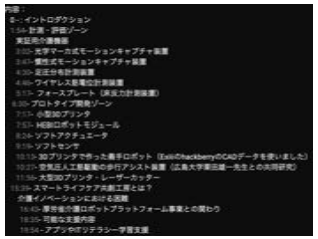
- 2021年度，九州工業大学の学生プロジェクトに認定された九工大公認学生サークル
- 九工大からの支援を受けながら活動
- 地域の個別性が高く研究として非常に取り扱いにくいニーズに、ハードやソフトのプロトタイ ピング技術で応えることを目的とする
- 得た知見を一般化し，福祉機器の開発を行う

すぐ創る課

- メンバーは15名程度
- 大学院生が9割
- 北九州学術研究都市にて活動

スマートライフケア創工房

- すぐ創る課はスマートライフケア共創工房と連携して活動を行なっています.
- 厚生労働省介護ロボットプラットフォーム事業のリビングラボ拠点



スマートライフケア創工房

可能な支援内容

- 複数の大学院教員や、北九州市と連携した幅広い支援
  - ロボティクス、脳科学、福祉工学、AIなどを専門とする大学院教員への相談
  - 九州工業大学や北九州市介護ロボットコンソーシアムの倫理委員会に対する倫理申請に関する助言
  - 共創工房の機器を用いた計測解析やプロトタイピングに関する助言
  - 実証時に取得が必要なデータとその科学的分析方法に関する助言
- 具体的な社会実装の支援
  - スマートフォンを用いた行動認識アプリの紹介
  - 実証や販促に向けた介護ITインストラクタ制度の紹介

国立大学法人 九州工業大学

製作事例

複合現実心拍可視化

車椅子遠隔操作

バランス訓練評価装置

車椅子用ロボットアーム

糸駆動グローブ

相談内容とニーズの紹介

- 今年度(2021年4月から)すぐ創る課が受けた相談内容及びニーズ
- パーキンソン病患者様
  - 立ち上がり補助具
  - 胃瘻ポンプを入れるバックの危険動作検知

相談内容とニーズの紹介

- 先天性ミオパチー患者様
  - 手動呼吸器ポンプの自作アダプタ
  - 屈伸動作リハビリシステム
  - 車椅子につけるスマートミラー
    - 音声認識機能をつけて車椅子の操作やカメラ操作
- 他福祉機器メーカー様
  - 車椅子の立ち上がり検知シート

開発機器の紹介

- UPS-PD(広島大学栗田雄一教授との共同開発)
- スマートウォーカー
- Cloud YouBalance

UPS-PD

- Unplugged Powered Suits for PD patients
- 広島大学栗田教授との共同開発
- パーキンソン病患者様
- すくみ足(FOG)の抑制

FOGの解除

- 一 定の周期的な外部刺激
  - 音声刺激
  - 視覚刺激
- 被験者によって外部刺激による効果が異なる場合

FOGの閾値理論

- 歩行の非対称性の進行，歩幅の減少やケイデンスの増加などに代表される歩容の漸進的な悪化が閾値を超えること
- 歩幅の大きい側の歩行速度を低下させるトレーニングを PD 患者に行うことで歩行の対称性や歩幅の減少の改善がなされた

研究結果

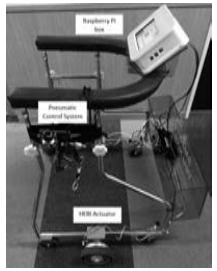
- ケイデンスの改善効果
- UPS-PD の装着がある程度歩行能力の維持された PD 患者において悪影響を 及ぼし歩行を妨げる可能性が低い
- 最大アシ ストカもが6[N]程度

今後の課題

- ガスボンベの容量問題
- 大規模な被験者実験
- 長期使用時の効果に関しての検討

スマートウォーカー

- ロボットモジュールにより制御できる歩行器
- モニターで監視をして，症状等を把握
- 音声認識により距離や速度を決定
- PD患者のケイデンス低下と歩容の改善



UPS-PDとWalker

- 歩行時と立位時の区別ができない
- 装置のトリガーであるカセンサを靴の中に挿入しないといけない
- UPS-PD の駆動時間が空気圧駆動型人工筋に供給可能な CO2 ガスの容量に依存する

期待される効果

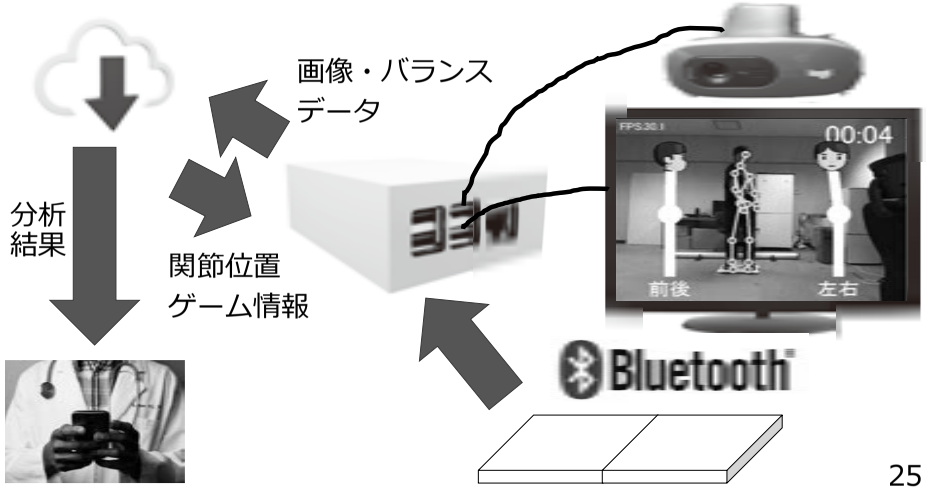
- 健常高齢者と PD 患者とともに，歩行速度が低下するとケイデンスが低下した
- FOG の発生リスクを抑制する
- 個人に合わせた電動歩行器による運動負荷の実現

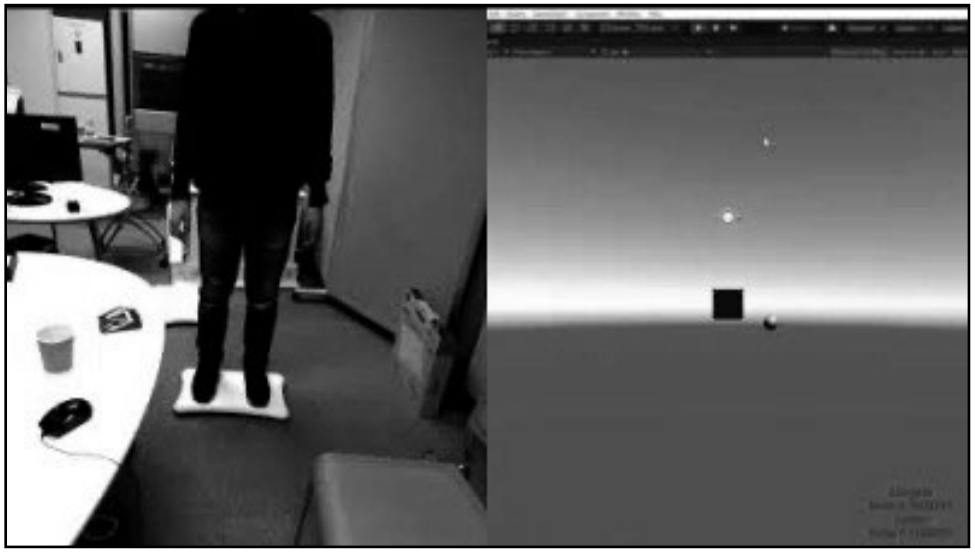
搭載する予定の機能

- 腕置きの圧力検知
- 心拍数の取得機能
- カメラによる症状認識アルゴリズムの開発
- UPS-PDとの統合

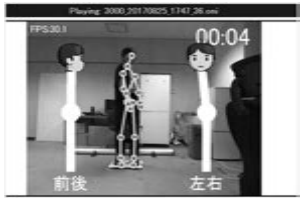
Cloud YouBalance

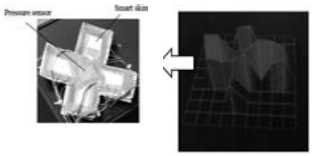
- パーキンソン病患者の前屈症の緩和
- バランスボード情報と骨格情報取得により，後方動揺を誘発する
- 北九州IoT Maker'sのファイナリストに選出
- 現在開発中





カメラを用いた骨格情報取得	・OpenPoseなどによるAIで取得
Balance Board	・持ち運び可能で足圧分布
クラウドサービス化	・何処でもデータにログイン
AIデータ分析	・科学的知見に基づく





https://item.rakuten.co.jp/robotshopjapan/rb-ada-318/ より

私の研究「スマートワークセル」

- 高齢者や障がい者の生産活動をロボットによって支援する生産システム
- セル生産システム
- 多品種少量生産

国立大学法人 九州工業大学　Kyushu Institute of Technology

質問及びお問い合わせ

国立大学法人 九州工業大学　Kyushu Institute of Technology

すぐ創る課の今後

- 福祉機器開発
- シーズ・ニーズの投稿プラットフォームの作成
- 福祉機器作成のためのスタートアップ創出

横浜銀行グループ

令和2年度障害者総合福祉推進事業
「ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業」
実施報告

障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告

令和3年10月10日

株式会社 浜銀総合研究所

地域戦略研究部

副主任研究員　加藤　善崇

はじめに

【会社概要】

名　称	株式会社浜銀総合研究所 https：www.yokohama-ri.co.jp
本社所在地	〒220－8616 横浜市西区みなとみらい3-1-1　横浜銀行本店ビル4F 電話　045(225)2371(代表)
設立年月日	1988年7月21日
資本金	1億円
取引銀行	横浜銀行
社員数	125名（役職員数）（2021年4月1日現在）
経営理念	先見性と創造性と専門性を発揮し、幅広い情報の提供を通じて地域の将来の発展に貢献する

1. 本事業の背景と目的

- 国においては、福祉サービスの生産性向上や職員の負担軽減に向けたサービス提供現場へのロボットの導入促進を政策の柱の1つとして定めている。
- 厚生労働省においても、「ロボット技術の介護利用における重点分野（6分野13項目）」を定め、ロボットの開発・導入に向けた様々な施策が先行して展開されており、その結果として、特別養護老人ホームや有料老人ホーム等を中心に、少しずつではあるがロボット介護機器の導入が進んでいる。

出所：厚生労働省資料

1. 本事業の背景と目的

- 障害福祉分野においても、職員の負担軽減や業務の効率化、支援の質の向上などの観点から大きな期待が寄せられており、実際に一部の施設等においては積極的にロボット介護機器を活用する事例がみられる。
- しかしながら、多くの障害福祉サービス事業所は、ロボット介護機器に関する情報を有していないとみられる。
- また、どのような支援行為にロボット介護機器を活用することが負担軽減や生産性向上を通じた職場環境の改善に効果的かといった点や、ロボット介護機器の活用を前提とした支援手法のポイントなどが整理されていない現状がある。

↓

- こうした状況を踏まえて、弊社では厚生労働省の障害者総合福祉推進事業を活用して、障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究（以下、本事業）を実施

1. 本事業の背景と目的

- 本事業の目的は以下の通り。

【調査目的】

- 障害児者向けのサービス事業所を対象にアンケート調査を実施し、COVID-19状況下における事業所の業務量や業務負担等に関する実態を把握するとともに、ロボット介護機器の導入状況や導入にあたっての課題、期待されるロボット介護機器の機能等について把握。
- 調査結果の分析を通じ、ロボット介護機器の活用により効率化や支援の質の向上が期待されるものを抽出し、支援行為ごとの具体的な機器活用のポイントを検討。
- 既にロボット介護機器等を導入している障害福祉サービス事業所に対して、ヒアリング調査を実施し、ロボット介護機器等を導入する際のポイントやプロセスの実態等について、把握。
- 調査結果および機器活用のポイントを整理し、報告書・概要版を作成。

→関係機関へ配布。ロボット介護機器導入を検討する契機。

4

1. 本事業の背景と目的

出所:浜銀総合研究所「ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業結果報告書」(令和2年度障害者総合福祉推進事業)(以下同様)

6

1. 本事業の背景と目的

【本事業におけるロボット介護機器の範囲】

- 「情報を感知し(センサー系)、判断し(知能・制御系)、動作する(駆動系)」という3つの要素技術の全てあるいはいずれかを有する知能化した機械システムのうち、主としてケアの質の向上や介護者の負担軽減に資する機器。
- 「障害者本人が使用することにより、(結果として)職員の負担軽減にもなる」機器。
- 利用者の体調管理(ウェアラブル端末)や就労のための面接訓練等が可能なVR機器、書類作成補助のためのソフトウェアなどについては、必ずしも「センサー系、知能・制御系、駆動系」という3要素の全てを満たしたものではないが、障害福祉領域におけるロボット介護機器の活用促進の観点から、本調査においては範囲の対象。

5

2. アンケート調査結果

(1)アンケート調査の実施概要

(2)アンケート調査結果(施設票)

(3)アンケート調査結果(職員票)

7

2. アンケート調査結果

(1)アンケート調査の実施概要

- 「施設票」と「職員票」の2種類の調査票を用いて、郵送配布、郵送回収。
- 配布件数は独立行政法人福祉医療機構WAMNETの全国の事業所データから2,000事業所を抽出。
- 実施時期は2020年11月12日～2020年12月11日。(約1か月間)

調査票	回答対象者	調査項目	回収数
施設票	施設入所支援、共同生活援助、障害児入所支援のいずれかのサービスを提供する施設・事業所の施設長	● 施設の状況について ● 施設の職員の業務や業務の負担感について（日勤・夜勤別） ● ロボット介護機器等の導入の可能性について ● ロボット介護機器等の現状について ● ロボット介護機器等の導入のプロセスについて ● ロボット介護機器等の導入促進に向けたご意見ついて ● 施設の人員体制等について	865 件 （回収率 43.3%）
職員票	施設票を配布した施設の中で、下記の条件を満たす常勤職員１名 ① 入所者・利用者に対する直接ケア業務に従事している方。（生活支援員等） ② 2020 年 10 月において日勤および夜勤・宿直のいずれの時間帯でも勤務をしている方。（夜勤や宿直がない施設・事業所の場合、②の条件は除外） ③ 貴施設での勤務年数が 3 年程度 であり、施設内の一通りの業務に対応可能な方	● 回答者自身について ● 現在の業務について ● ロボット介護機器等について	826 件 （回収率 41.3%）

2. アンケート調査結果

(2)アンケート調査結果(施設票)・・・①施設の状況について

- 施設が提供している主な入所系サービスについて、全体では、「施設入所支援」が60.8%、「障害児入所支援(福祉型)」が10.8%、「障害児入所支援(医療型)」が5.0%、「共同生活援助」が20.0%。
- 障害種別にみると、身体障害や知的障害では「施設入所支援」、精神障害では「共同生活援助」がそれぞれ最多。

【施設が提供している主な入所系サービス】(単一回答「以下、SA」)

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
施設入所支援	97.0%	92.4%	1.2%	0.0%	60.8%
障害児入所支援（福祉型）	0.0%	0.0%	0.0%	68.4%	10.8%
障害児入所支援（医療型）	0.0%	0.0%	0.0%	31.6%	5.0%
共同生活援助	0.0%	2.2%	98.8%	0.0%	20.0%
無回答	3.0%	5.4%	0.0%	0.0%	3.5%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【障害種別については以下のとおりに分類しています】（以下同様）
・身体障害：施設が提供する入所系サービスの対象者のうち、最も多い入居者数・利用者数が「身体障害」である施設。
・知的障害：施設が提供する入所系サービスの対象者のうち、最も多い入居者数・利用者数が「知的障害」である施設。
・精神障害：施設が提供する入所系サービスの対象者のうち、最も多い入居者数・利用者数が「精神障害」である施設。
・障害児：入所系サービスの対象者の障害の多少にかかわらず、施設が提供している主な入所系サービスで「障害児入所支援（福祉型）」、あるいは「障害児入所支援（医療型）」と回答した施設。

2. アンケート調査結果

(2)アンケート調査結果(施設票)・・・①施設の状況について

- 施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合について、全体では、「3割未満」が34.0%、「3割以上5割未満」が11.8%、「5割以上8割未満」が11.3%と、多くの施設において強度行動障害のある入所者・利用者が一定程度所在。
- 障害種別では、知的障害では「いない」が9.8%と、多くの知的障害の施設では入所者・利用者の中に強度行動障害の方が所在。

【施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合(SA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
8割以上	0.0%	5.4%	1.2%	1.5%	3.1%
5割以上8割未満	1.5%	21.0%	0.0%	2.9%	11.3%
3割以上5割未満	3.0%	21.7%	0.0%	5.9%	11.8%
3割未満	34.6%	39.8%	3.1%	53.7%	34.0%
いない	57.9%	9.8%	87.7%	30.1%	35.6%
無回答	3.0%	2.4%	8.0%	5.9%	4.2%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. アンケート調査結果

(2)アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 職員が日勤時に従事している業務は「間接業務(利用者に関係すること)」、「健康管理」等で9割以上。他の業務についても、5割以上が従事しているとの回答。
- 「食事」や「入浴」、「排泄」等において、精神障害は5割未満であり、他の障害と傾向が異なる。

【職員が日勤時に従事している業務(複数回答、以下「MA」)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務（利用者に関係すること）	98.5%	99.0%	93.2%	97.1%	97.5%
健康管理	99.2%	98.8%	88.9%	97.8%	96.5%
日常生活支援	97.0%	98.3%	87.7%	91.9%	94.8%
安心・安全対策	99.2%	96.8%	85.2%	94.1%	94.3%
面談、苦情対応	97.0%	94.1%	90.1%	96.3%	94.0%
間接業務（職員や法人に関係すること）	94.7%	94.9%	90.7%	94.9%	93.9%
食事	97.7%	98.8%	44.4%	97.1%	87.7%
社会生活支援	93.2%	95.1%	49.4%	89.7%	85.0%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	95.5%	90.5%	56.2%	86.0%	83.9%
入浴	97.7%	98.0%	24.1%	94.9%	83.2%
排泄	97.0%	97.1%	15.4%	95.6%	81.2%
行動障害への対応	75.2%	96.6%	41.4%	84.6%	80.7%
清拭・身体整容等	94.7%	95.9%	13.6%	91.9%	79.3%
移乗・移動	97.0%	85.9%	5.6%	55.9%	67.4%
機能訓練	88.0%	79.3%	16.0%	66.9%	66.6%
姿勢保持	94.0%	78.3%	3.1%	47.8%	61.7%
体位変換	92.5%	69.5%	4.3%	47.8%	57.7%
無回答	0.8%	0.5%	1.9%	2.2%	1.2%

（注）上位３項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 職員が夜勤時に従事している業務は「安心・安全対策」が最も多く、以下、「排泄」「健康管理」「間接業務（利用者に関係すること）」「行動障害への対応」が上位。
- 障害種別では、全ての障害で「安心・安全対策」が最多。

【職員が夜勤時に従事している業務（MA）】

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
安心・安全対策	99.2%	98.7%	87.3%	98.5%	98.0%
排泄	95.4%	97.0%	21.8%	90.9%	90.1%
健康管理	90.8%	92.2%	54.5%	89.4%	88.7%
間接業務（利用者に関係すること）	86.2%	90.7%	52.7%	90.2%	87.2%
行動障害への対応	69.2%	91.5%	41.8%	80.3%	81.9%
体位変換	93.1%	76.4%	9.1%	40.9%	68.2%
移乗・移動	86.2%	74.2%	7.3%	30.3%	63.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	55.4%	64.7%	38.2%	64.4%	61.1%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	57.7%	64.2%	36.4%	48.5%	58.1%
清拭・身体整容等	62.3%	65.7%	9.1%	43.2%	57.1%
姿勢保持	70.8%	59.9%	1.8%	22.0%	51.0%
食事	38.5%	43.1%	23.6%	35.6%	39.5%
日常生活支援	32.3%	44.6%	23.6%	33.3%	38.9%
面談、苦情対応	30.8%	30.1%	32.7%	25.0%	29.5%
入浴	15.4%	28.6%	9.1%	22.0%	23.8%
社会生活支援	10.8%	17.5%	7.3%	15.2%	15.2%
機能訓練	5.4%	11.8%	1.8%	7.6%	9.3%
無回答	0.8%	0.3%	10.9%	0.8%	1.2%

（注）各項目上位３項目については網掛け。

12

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務は「入浴」や「排泄」「移乗移動」「行動障害への対応」が上位。
- 精神障害については、「日常生活支援」や「安心・安全対策」が上位。

【日勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務（MA）】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
入浴	91.0%	88.8%	9.9%	70.6%	71.0%
排泄	86.5%	75.4%	6.2%	55.9%	60.7%
移乗・移動	83.5%	58.0%	1.9%	36.0%	47.7%
行動障害への対応	16.5%	51.7%	6.8%	55.1%	37.7%
体位変換	45.1%	23.4%	1.2%	22.8%	22.5%
清拭・身体整容等	18.0%	27.3%	2.5%	16.2%	20.0%
間接業務（利用者に関係すること）	9.8%	18.0%	10.5%	16.2%	15.3%
姿勢保持	21.1%	18.0%	0.0%	14.0%	14.6%
食事	15.0%	18.3%	5.6%	11.8%	14.6%
安心・安全対策	9.8%	12.7%	13.0%	16.9%	13.2%
日常生活支援	6.8%	11.5%	21.6%	7.4%	11.9%
健康管理	9.0%	11.5%	8.0%	5.9%	9.6%
社会生活支援	6.0%	10.7%	4.3%	9.6%	8.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	9.0%	7.3%	6.8%	7.4%	7.7%
機能訓練	8.3%	9.0%	0.6%	5.9%	6.7%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	4.5%	6.3%	3.7%	8.8%	5.9%
面談、苦情対応	3.0%	3.9%	5.6%	6.6%	4.5%
無回答	1.5%	2.9%	54.3%	4.4%	13.1%

（注）上位３項目については網掛け。

13

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務は「排泄」が最多。以下、「移乗・移動」「行動障害への対応」が上位。
- 障害種別では、身体障害や知的障害、障害児では「排泄」が5割以上。また、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」も5割以上と、他の障害に比べて高い。

【夜勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務（MA）】

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
排泄	83.1%	78.4%	10.9%	58.3%	70.7%
移乗・移動	63.1%	48.6%	0.0%	20.5%	42.7%
行動障害への対応	16.2%	48.9%	12.7%	47.7%	40.1%
体位変換	58.5%	33.6%	0.0%	25.0%	34.0%
安心・安全対策	36.2%	31.3%	21.8%	31.8%	32.1%
清拭・身体整容等	16.2%	22.3%	3.6%	12.9%	18.1%
間接業務（利用者に関係すること）	9.2%	15.3%	3.6%	15.9%	13.2%
健康管理	10.8%	14.0%	5.5%	15.2%	12.9%
姿勢保持	12.3%	14.5%	0.0%	7.6%	11.7%
入浴	6.2%	15.0%	1.8%	9.8%	11.7%
食事	9.2%	11.3%	1.8%	5.3%	9.4%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	2.3%	6.3%	3.6%	5.3%	5.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	3.8%	5.0%	0.0%	8.3%	4.9%
日常生活支援	0.8%	5.3%	1.8%	4.5%	3.9%
面談、苦情対応	2.3%	2.3%	5.5%	5.3%	3.0%
社会生活支援	0.8%	1.5%	1.8%	2.3%	1.5%
機能訓練	0.8%	1.8%	0.0%	0.8%	1.4%
無回答	3.8%	6.0%	60.0%	7.6%	9.8%

（注）上位３項目については網掛け。

14

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に職員が精神的に強いストレス感じながら実施している業務は、「行動障害への対応」が最多。以下、「面談、苦情対応」「間接業務（利用者に関係すること）」等が上位。
- 障害種別にみると、身体障害では6割以上、知的障害では8割以上、障害児では7割以上が「行動障害への対応」と回答。他方、精神障害は「面談、苦情対応」が最多。

【日勤時に職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務（MA）】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
行動障害への対応	61.7%	83.7%	25.9%	70.6%	66.8%
面談、苦情対応	65.4%	47.6%	45.1%	65.4%	52.6%
間接業務（利用者に関係すること）	45.1%	47.1%	28.4%	38.2%	41.3%
安心・安全対策	45.9%	44.4%	25.9%	40.4%	40.6%
健康管理	32.3%	40.5%	15.4%	33.1%	33.1%
入浴	48.9%	42.0%	1.2%	23.5%	32.1%
排泄	48.1%	42.2%	3.7%	22.1%	32.1%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	30.1%	30.0%	20.4%	29.4%	28.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	30.1%	31.0%	15.4%	25.7%	27.1%
食事	37.6%	31.5%	4.9%	23.5%	26.1%
日常生活支援	23.3%	19.0%	21.0%	10.3%	18.2%
移乗・移動	27.1%	17.3%	0.6%	8.8%	14.0%
清拭・身体整容等	13.5%	16.6%	0.6%	7.4%	11.7%
社会生活支援	8.3%	9.5%	4.3%	2.9%	7.2%
体位変換	9.8%	5.4%	0.0%	2.2%	4.7%
機能訓練	3.0%	6.3%	0.0%	5.1%	4.6%
姿勢保持	3.8%	5.9%	0.0%	3.7%	4.0%
無回答	2.3%	2.2%	23.5%	3.7%	6.9%

（注）上位３項目については網掛け。

15

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に職員が精神的に強いストレス感じながら実施している業務は「行動障害への対応」が最多。以下、「安心・安全対策」「排泄」「健康管理」の順番。

【夜勤時に職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務（MA）】

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
行動障害への対応	47.7%	76.2%	23.6%	63.6%	65.2%
安心・安全対策	65.4%	63.7%	29.1%	58.3%	60.3%
排泄	53.1%	48.9%	7.3%	22.7%	41.5%
健康管理	36.2%	37.6%	16.4%	39.4%	35.9%
間接業務（利用者に関係すること）	28.5%	36.6%	9.1%	27.3%	31.7%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	13.8%	21.6%	10.9%	15.9%	18.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	15.4%	16.3%	3.6%	16.7%	15.5%
面談、苦情対応	16.9%	12.0%	20.0%	19.7%	15.0%
移乗・移動	22.3%	15.3%	0.0%	3.8%	13.1%
体位変換	18.5%	7.3%	0.0%	3.8%	8.0%
食事	6.2%	9.8%	0.0%	6.8%	7.9%
清拭・身体整容等	7.7%	9.5%	0.0%	1.5%	7.2%
日常生活支援	1.5%	5.5%	7.3%	3.0%	4.6%
入浴	2.3%	6.3%	0.0%	1.5%	4.5%
姿勢保持	3.1%	4.8%	0.0%	0.8%	3.4%
社会生活支援	0.8%	2.0%	1.8%	0.8%	1.9%
機能訓練	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	0.8%
無回答	4.6%	4.5%	45.5%	9.8%	8.4%

（注）上位３項目については網掛け。

16

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 日勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務は、「間接業務（利用者に関係すること）」が最多。以下、「間接業務（職員や法人に関係すること）」、「入浴」「移乗・移動」が上位。

【日勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（MA）】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務（利用者に関係すること）	66.2%	69.3%	38.9%	63.2%	61.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	47.4%	53.9%	34.0%	52.2%	48.7%
入浴	63.9%	54.6%	3.7%	28.7%	42.0%
移乗・移動	69.2%	36.1%	0.0%	28.7%	33.3%
排泄	51.9%	30.5%	0.6%	18.4%	26.4%
安心・安全対策	29.3%	26.6%	13.6%	22.1%	23.9%
健康管理	26.3%	27.3%	13.0%	22.8%	23.8%
日常生活支援	20.3%	22.4%	19.1%	19.1%	20.5%
行動障害への対応	17.3%	21.2%	4.9%	19.1%	17.2%
体位変換	33.8%	16.6%	0.6%	15.4%	16.2%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	12.8%	11.7%	4.9%	14.7%	11.1%
食事	15.8%	11.5%	7.4%	9.6%	11.0%
姿勢保持	18.8%	12.4%	0.6%	9.6%	10.5%
清拭・身体整容等	12.0%	9.5%	0.6%	3.7%	7.5%
社会生活支援	9.0%	8.8%	1.9%	8.1%	7.3%
機能訓練	11.3%	9.5%	0.0%	3.7%	6.8%
面談、苦情対応	8.3%	5.6%	5.6%	4.4%	5.7%
無回答	2.3%	4.1%	45.1%	12.5%	13.5%

（注）上位３項目については網掛け。

17

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務は、「間接業務（利用者に関係すること）」や「安心・安全対策」「排泄」が上位。

【夜勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（MA）】

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
間接業務（利用者に関係すること）	49.2%	57.9%	20.0%	33.3%	52.8%
安心・安全対策	36.9%	37.8%	16.4%	66.7%	34.1%
排泄	46.9%	34.8%	3.6%	66.7%	30.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	22.3%	32.8%	9.1%	0.0%	30.2%
移乗・移動	49.2%	27.8%	1.8%	0.0%	26.9%
健康管理	25.4%	25.1%	9.1%	0.0%	24.1%
体位変換	40.0%	17.8%	1.8%	33.3%	19.9%
行動障害への対応	8.5%	19.0%	10.9%	0.0%	16.5%
姿勢保持	11.5%	8.3%	1.8%	0.0%	7.8%
入浴	4.6%	11.0%	1.8%	0.0%	7.8%
清拭・身体整容等	6.2%	9.8%	1.8%	0.0%	7.3%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	6.2%	7.8%	9.1%	0.0%	7.3%
日常生活支援	0.8%	8.5%	5.5%	0.0%	6.0%
食事	5.4%	6.3%	5.5%	0.0%	5.7%
面談、苦情対応	5.4%	2.3%	5.5%	0.0%	3.7%
社会生活支援	0.8%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%
機能訓練	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	1.0%
無回答	10.8%	11.5%	67.3%	33.3%	17.6%

（注）上位３項目については網掛け。

18

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・③ロボット介護機器導入の可能性の有無

- 障害者支援現場において活用可能性のある支援機器について、尋ねたところ、全26種類のうち7種類については、「活用の可能性がある」（「活用の可能性が大いにある」と「活用可能性が多少ある」の合計）との回答が5割以上。

業務に対応すると考えられるロボット介護機器等	「活用の可能性がある」と回答した割合
議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト	62.8%
バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー	60.9%
職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト	57.6%
パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB会議アプリ	56.4%
施設内でのインカム	54.7%
障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ	53.1%
疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末	52.0%

（注）「活用の可能性がある」の回答割合が５割以上の項目のみ掲載。

19

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・④ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等では「既に導入している」が2割弱。（※ただし、パソコン等のビデオ・WEB会議アプリやグループウェアビジネスチャットアプリ等のICT関連の機器も含まれている点に留意）
- 今後のロボット介護機器等の導入意向については「導入予定なし」が約半数。障害種別では知的障害では4割以上、精神障害では7割以上が「導入予定なし」と回答。

【ロボット介護機器等の導入状況（SA）】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	43.6%	17.6%	1.2%	11.0%	17.6%
導入していない	56.4%	81.2%	94.4%	86.8%	80.6%
無回答	0.0%	1.2%	4.3%	2.2%	1.8%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【今後のロボット介護機器等の導入意向（SA）】

	身体障害 n=75	知的障害 n=333	精神障害 n=153	障害児 n=118	全体 n=697
導入予定あり	6.7%	3.0%	0.0%	0.8%	2.6%
導入するかどうか検討中	30.7%	18.3%	2.6%	6.8%	14.2%
導入予定なし	28.0%	42.0%	78.4%	56.8%	51.2%
導入するかどうか未定	32.0%	35.1%	17.6%	33.9%	30.3%
無回答	2.7%	1.5%	1.3%	1.7%	1.7%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・④ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等は全体の7割以上が「ある」と回答。
- 「ある」と回答した施設に具体的な懸念点や課題点等を尋ねると、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」や「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」等、「導入・管理費用」や「ロボット介護機器等の情報」に関する項目が上位。

【（ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等（MA）】

中分類	項　目	身体障害 n=109	知的障害 n=339	精神障害 n=77	障害児 n=102	全体 n=641
導入・管理費用	ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額	75.2%	73.2%	70.1%	77.5%	74.3%
導入・管理費用	ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額	64.2%	65.5%	63.6%	73.5%	66.0%
業務プロセスの変更等	入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい	63.3%	65.8%	53.2%	72.5%	65.2%
ロボット介護機器等の情報	どのようなロボット介護機器等があるのか知らない	51.4%	66.1%	62.3%	61.8%	62.4%
操作やメンテナンス	施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	53.2%	62.2%	66.2%	66.7%	61.3%
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない	39.4%	56.0%	66.2%	60.8%	55.2%
その他	入所者にあったロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない	44.0%	56.6%	49.4%	53.9%	53.2%
その他	ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確	40.4%	56.0%	48.1%	55.9%	52.4%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない	36.7%	54.0%	46.8%	56.9%	50.2%
導入環境の整備	（無線LANの整備や浴室の間ロなど）ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない	42.2%	51.9%	48.1%	53.9%	50.2%
導入環境の整備	施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない	35.8%	48.7%	51.9%	57.8%	48.4%
その他	加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない	33.9%	41.0%	51.9%	54.9%	43.2%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない（機器が壊れやすい・故障しやすい）	33.9%	46.6%	32.5%	42.2%	42.3%
操作やメンテナンス	操作や取り回しが煩雑である	38.5%	42.8%	37.7%	36.3%	40.7%
業務プロセスの変更等	既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	25.7%	42.2%	32.5%	40.0%	39.0%
ロボット介護機器等へのイメージ	入所者へのケアは人の手で行うべきと考える	12.8%	28.9%	24.7%	31.4%	26.4%
ロボット介護機器等へのイメージ	ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる	27.5%	24.2%	14.3%	22.5%	23.2%
ロボット介護機器等の情報	求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない	19.3%	21.2%	20.8%	32.4%	22.8%
ロボット介護機器等へのイメージ	現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい	33.9%	15.6%	15.6%	15.7%	19.0%
業務プロセスの変更等	ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい	17.4%	13.0%	14.3%	16.7%	14.8%
その他	その他	4.6%	3.5%	6.5%	6.9%	4.5%
無回答		0.9%	0.3%	1.3%	0.0%	0.5%

（注）上位５項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・④ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等の導入の有無別では、「ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない」や「ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない」等は、両者で20ポイント以上の差。

【（ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等（MA）】

（ロボット介護機器等の導入の有無別）

中分類	項目	①既に導入している n=124	②導入していない n=514	①－②
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない	29.0%	61.5%	▲ 32.4
ロボット介護機器等の情報	どのようなロボット介護機器等があるのか知らない	51.6%	65.2%	▲ 13.6
ロボット介護機器等の情報	求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない	23.4%	22.8%	0.6
ロボット介護機器等へのイメージ	入所者へのケアは人の手で行うべきと考える	10.5%	30.4%	▲ 19.9
ロボット介護機器等へのイメージ	ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる	21.0%	23.7%	▲ 2.8
ロボット介護機器等へのイメージ	現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい	25.0%	17.5%	7.5
業務プロセスの変更等	入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい	61.3%	66.3%	▲ 5.1
業務プロセスの変更等	既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	25.0%	42.6%	▲ 17.6
業務プロセスの変更等	ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい	18.5%	13.8%	4.7
操作やメンテナンス	操作や取り回しが煩雑である	42.7%	40.3%	2.5
操作やメンテナンス	施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	53.2%	63.4%	▲ 10.2
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない（機器が壊れやすい・故障しやすい）	35.5%	44.0%	▲ 8.5
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない	31.5%	54.9%	▲ 23.4
導入・管理費用	ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額	69.4%	75.5%	▲ 6.1
導入・管理費用	ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額	54.8%	68.9%	▲ 14.0
導入環境の整備	（無線LANの整備や浴室の間ロなど）ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない	41.1%	52.5%	▲ 11.4
導入環境の整備	施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない	38.7%	50.8%	▲ 12.1
その他	ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確	35.5%	56.4%	▲ 20.9
その他	入所者にあったロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない	40.3%	56.4%	▲ 16.1
その他	加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない	34.7%	45.3%	▲ 10.7
その他	その他	4.0%	4.7%	▲ 0.6
無回答		0.8%	0.4%	

2. アンケート調査結果

（2）アンケート調査結果（施設票）・・・⑤ロボット介護機器等の導入のプロセス

- ロボット介護機器等を既に導入している施設に対して、ロボット介護機器等の導入を主導した方を尋ねたところ、「施設長・管理者」が最多。

【ロボット介護機器等の導入を主導した方（SA）】

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
法人の経営者	6.9%	19.4%	0.0%	20.0%	13.8%
施設長・管理者	44.8%	44.4%	50.0%	40.0%	44.1%
現場のリーダークラス	24.1%	15.3%	0.0%	33.3%	19.7%
現場職員	12.1%	5.6%	0.0%	0.0%	7.9%
外部からの働きかけ	3.4%	5.6%	0.0%	0.0%	4.6%
その他	1.7%	2.8%	0.0%	0.0%	2.0%
無回答	6.9%	6.9%	50.0%	6.7%	7.9%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. アンケート調査結果

(2)アンケート調査結果(施設票)・・・⑤ロボット介護機器等の導入のプロセス

- ロボット介護機器等を既に導入している施設に対して、ロボット介護機器等を導入した理由を尋ねたところ、「職員の身体的な負担の軽減のため」が最多。その他については、「サービスの質の向上のため」や「職員の精神的な負担の軽減のため」が上位。

【ロボット介護機器等を導入した理由(MA)】

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
職員の身体的な負担の軽減のため	86.2%	76.4%	50.0%	60.0%	78.3%
サービスの質の向上のため	50.0%	43.1%	50.0%	46.7%	46.7%
職員の精神的な負担の軽減のため	39.7%	37.5%	50.0%	26.7%	36.8%
入居者・利用者の直接ケアの業務の効率化のため	31.0%	41.7%	0.0%	26.7%	34.9%
間接業務の効率化のため	22.4%	20.8%	100.0%	26.7%	23.0%
ロボット介護機器等に関心があったため	20.7%	12.5%	0.0%	6.7%	14.5%
入居者・利用者の自立支援のため	19.0%	9.7%	0.0%	6.7%	14.5%
自法人の経営陣から導入の指示があったため	3.4%	9.7%	0.0%	6.7%	6.6%
自法人の他事業所・本部等から勧められたため	3.4%	4.2%	0.0%	6.7%	3.9%
(導入した製品の)メーカーから勧められたため	3.4%	1.4%	50.0%	0.0%	2.6%
自法人の他施設でロボット介護機器等の導入を進めていたため	5.2%	0.0%	0.0%	6.7%	2.6%
その他	3.4%	15.3%	0.0%	6.7%	9.2%
無回答	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	1.3%

(注) 上位3項目については網掛け。

24

2. アンケート調査結果

(2)アンケート調査結果(施設票)・・・⑤ロボット介護機器等の導入のプロセス

- 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える取組みについて、全体では「導入するための資金助成制度の充実」「ロボット介護機器等自体に関する情報の提供」「他施設における介護機器等の好事例の情報提供」が上位。

【今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える取組み(MA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
導入するための資金助成制度の充実	73.7%	72.0%	54.9%	69.9%	67.9%
ロボット介護機器等自体に関する情報の提供	66.2%	67.6%	46.9%	67.6%	63.0%
他施設における介護機器等の好事例の情報提供	60.2%	67.6%	40.7%	67.6%	60.9%
導入判断における試用等の機会の充実	60.2%	61.5%	36.4%	55.1%	54.8%
ロボット介護機器等の導入を後押しするような加算の新設	55.6%	51.2%	31.5%	57.4%	48.8%
(貴施設に近隣する)身近な場所での展示会等の開催	48.1%	44.1%	31.5%	40.4%	41.4%
ロボット介護機器等の導入を後押しするような人員配置基準の見直し	35.3%	32.7%	24.1%	30.9%	31.0%
導入に関する身近な相談機関の設置	32.3%	29.3%	25.9%	28.7%	28.7%
開発メーカーとの情報交換ができる場の提供	28.6%	22.2%	14.8%	29.4%	22.8%
ロボット介護機器等の導入をリードするような人材の育成	21.8%	22.4%	17.9%	31.6%	22.5%
その他	0.8%	0.2%	3.7%	2.9%	1.4%
無回答	5.3%	4.9%	19.8%	4.4%	8.1%

(注) 上位3項目については網掛け。

25

2. アンケート調査結果

(3)アンケート調査結果(職員票)・・・①職員 (回答者) 自身について

- 2020年10月の1か月あたりの平均勤務日数は20.8日、うち平均夜勤日数は3.1日(夜勤が発生していないケースを除くと4.2日)。
- 夜勤日数について、障害種別にみると、精神障害では「0日」が7割以上と最多。

【2020年10月の1か月に勤務した日数(数値を記入)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
10日未満	0.8%	0.5%	2.0%	1.7%	1.1%
10～19日	13.0%	9.9%	12.2%	14.4%	11.5%
20～24日	82.9%	83.5%	70.1%	79.7%	80.4%
25日以上	0.8%	0.8%	5.4%	0.0%	1.5%
無回答	2.4%	5.3%	10.2%	4.2%	5.6%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平　均	20.7日	21.0日	21.0日	20.1日	20.8日
中央値	21.0日	22.0日	22.0日	21.0日	21.0日

【2020年10月の1か月に勤務した日数のうち夜勤日数(数値を記入)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
0日	15.4%	13.9%	77.6%	8.5%	24.9%
1～2日	11.4%	10.4%	2.0%	11.0%	9.1%
3～4日	33.3%	44.8%	8.8%	44.9%	36.0%
5日以上	35.0%	25.1%	6.1%	31.4%	24.7%
無回答	4.9%	5.9%	5.4%	4.2%	5.3%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平　均	3.5日	3.5日	0.9日	4.1日	3.1日
平　均(夜勤0日除く)	4.2日	4.1日	4.8日	4.5日	4.2日
中央値	4.0日	4.0日	0.0日	4.0日	4.0日
中央値(夜勤0日除く)	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日

26

2. アンケート調査結果

(3)アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に身体に過度な負担がかかっている業務については、「入浴」が最多。以下、「排泄」、「移乗・移動」が上位。
- 障害種別では、身体障害や知的障害、障害児で「入浴」が5割以上。

【日勤時に身体に過度な負担がかかっている業務(MA)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
入浴	67.5%	60.5%	3.4%	52.5%	50.1%
排泄	60.2%	49.6%	1.4%	39.0%	41.3%
移乗・移動	65.9%	40.8%	0.7%	35.6%	37.5%
行動障害への対応	13.8%	38.9%	5.4%	36.4%	28.5%
体位変換	34.1%	20.0%	1.4%	22.0%	20.0%
清拭・身体整容等	13.0%	15.7%	0.7%	16.9%	13.6%
間接業務(利用者に関係すること)	15.4%	14.4%	7.5%	11.9%	13.0%
社会生活支援	7.3%	13.3%	6.1%	8.5%	10.4%
姿勢保持	14.6%	10.1%	0.7%	11.9%	9.9%
安心・安全対策	9.8%	10.4%	4.8%	5.1%	8.7%
日常生活支援	4.9%	11.5%	4.1%	5.9%	7.9%
食事	6.5%	5.9%	0.0%	6.8%	5.4%
健康管理	4.9%	6.7%	2.7%	5.9%	5.4%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	5.7%	4.0%	2.0%	2.5%	3.9%
間接業務(職員や法人に関係すること)	4.1%	4.8%	2.0%	3.4%	3.9%
機能訓練	1.6%	4.8%	0.7%	2.5%	3.1%
面談、苦情対応	4.1%	2.1%	1.4%	1.7%	2.2%
無回答	14.6%	20.0%	84.4%	25.4%	31.4%

(注) 上位3項目については網掛け。

27

2. アンケート調査結果

(3)アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に身体に過度な負担がかかっている業務は「排泄」が最多。以下、「間接業務(利用者に関係すること)」「安心・安全対策」が上位。

【夜勤時に身体に過度な負担がかかっている業務(MA)】

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
排泄	49.0%	44.3%	6.1%	30.6%	41.6%
間接業務(利用者に関係すること)	32.7%	35.6%	9.1%	27.8%	32.9%
安心・安全対策	33.7%	31.0%	12.1%	16.7%	28.2%
清拭・身体整容等	23.1%	26.6%	6.1%	16.7%	24.0%
行動障害への対応	21.2%	28.2%	9.1%	17.6%	24.0%
健康管理	20.2%	22.0%	3.0%	13.0%	19.4%
食事	18.3%	20.1%	0.0%	15.7%	18.2%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	21.2%	16.4%	9.1%	19.4%	17.6%
移乗・移動	25.0%	16.4%	3.0%	9.3%	15.6%
間接業務(職員や法人に関係すること)	11.5%	16.4%	9.1%	8.3%	13.7%
体位変換	22.1%	11.1%	3.0%	9.3%	12.4%
日常生活支援	4.8%	14.6%	6.1%	9.3%	11.5%
姿勢保持	6.7%	5.0%	3.0%	4.6%	4.8%
入浴	1.0%	7.1%	0.0%	2.8%	4.5%
面談、苦情対応	1.0%	3.1%	3.0%	4.6%	2.9%
社会生活支援	2.9%	2.2%	0.0%	4.6%	2.4%
機能訓練	1.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	32.7%	28.8%	78.8%	33.3%	32.4%

(注) 上位3項目については網掛け。

28

2. アンケート調査結果

(3)アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に精神的に強いストレス感じながら実施している業務は、「行動障害への対応」が最多。以下、「面談、苦情対応」「安心・安全対策」等が上位。

【日勤時に精神的に強いストレスを感じながら実施している業務(MA)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
行動障害への対応	59.3%	70.1%	20.4%	61.9%	58.1%
面談、苦情対応	35.8%	36.0%	22.4%	41.5%	34.7%
安心・安全対策	39.0%	38.9%	17.0%	28.0%	33.3%
健康管理	29.3%	32.8%	7.5%	28.0%	27.1%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	35.0%	29.6%	13.6%	20.3%	26.3%
排泄	30.9%	30.7%	2.7%	16.9%	23.8%
間接業務(利用者に関係すること)	26.8%	25.1%	11.6%	17.8%	21.7%
入浴	22.8%	21.9%	2.0%	16.1%	17.7%
間接業務(職員や法人に関係すること)	22.0%	19.2%	8.8%	15.3%	17.6%
食事	22.8%	20.8%	1.4%	16.1%	16.9%
日常生活支援	18.7%	17.1%	8.2%	5.1%	13.9%
社会生活支援	13.0%	16.0%	0.7%	6.8%	11.6%
移乗・移動	12.2%	11.2%	0.0%	8.5%	9.1%
清拭・身体整容等	8.9%	8.5%	0.0%	7.6%	7.3%
体位変換	8.9%	4.3%	0.0%	0.8%	4.0%
姿勢保持	3.3%	2.4%	0.7%	1.7%	2.3%
機能訓練	2.4%	2.1%	0.7%	1.7%	1.8%
無回答	10.6%	15.5%	55.8%	16.1%	22.4%

(注) 上位3項目については網掛け。

29

2. アンケート調査結果

(3)アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に精神的に強いストレス感じながら実施している業務は、「行動障害への対応」が最多。以下、「安心・安全対策」「健康管理」等が上位。
- 障害種別では、身体障害では「行動障害への対応」と「安心・安全対策」、知的障害や障害児では「行動障害への対応」、精神障害では「安心・安全対策」がそれぞれ最多。

【夜勤時に精神的に強いストレスを感じながら実施している業務(MA)】

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
行動障害への対応	49.0%	63.5%	18.2%	46.3%	55.8%
安心・安全対策	49.0%	44.3%	30.3%	35.2%	42.9%
健康管理	26.9%	31.3%	9.1%	19.4%	27.3%
排泄	29.8%	29.1%	6.1%	11.1%	24.2%
間接業務(利用者に関係すること)	16.3%	18.6%	9.1%	13.9%	17.1%
情報入手・意思表出・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援	14.4%	17.0%	6.1%	16.7%	16.5%
間接業務(職員や法人に関係すること)	10.6%	10.5%	3.0%	6.5%	10.0%
面談、苦情対応	13.5%	9.3%	9.1%	8.3%	9.8%
食事	3.8%	9.6%	0.0%	9.3%	7.7%
体位変換	12.5%	5.6%	0.0%	3.7%	6.6%
清拭・身体整容等	5.8%	8.7%	3.0%	3.7%	6.6%
移乗・移動	8.7%	7.4%	3.0%	1.9%	6.3%
日常生活支援	4.8%	5.3%	6.1%	0.9%	4.2%
姿勢保持	2.9%	3.4%	3.0%	0.0%	2.6%
入浴	2.9%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%
社会生活支援	2.9%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%
機能訓練	1.9%	0.6%	0.0%	0.9%	1.0%
無回答	25.0%	22.3%	60.6%	33.3%	26.6%

(注) 上位3項目については網掛け。

30

2. アンケート調査結果

(3)アンケート調査結果(職員票)・・・③ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等は全体の約7割が「ある」と回答。
- 「ある」と回答した職員に対して、具体的な懸念点や課題点等をたずねると、「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」が最多。以下、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」や「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」等が上位。

【(ロボット介護機器等の導入・活用に関する)具体的な懸念点や課題点等(MA)】

中分類	項目	身体障害 n=98	知的障害 n=279	精神障害 n=59	障害児 n=86	全体 n=572
業務プロセスの変更等	入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい	64.3%	68.5%	62.7%	73.3%	67.8%
導入・管理費用	ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額	67.3%	62.7%	64.4%	65.1%	64.5%
ロボット介護機器等の情報	どのようなロボット介護機器等がゆるのか知らない	61.2%	67.4%	50.8%	58.1%	62.9%
操作やメンテナンス	施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	57.1%	63.8%	67.8%	62.8%	62.9%
導入・管理費用	ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額	60.2%	59.1%	57.6%	58.1%	59.3%
その他	入所者にあったロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない	54.1%	54.5%	42.4%	46.5%	52.1%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない	41.8%	53.8%	57.6%	47.7%	51.2%
導入環境の整備	施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない	44.9%	48.0%	50.8%	52.3%	48.8%
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない	45.9%	50.9%	45.8%	52.3%	48.6%
導入環境の整備	(無線LANの整備や浴室の間口など)ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない	42.9%	48.0%	49.2%	45.3%	47.2%
その他	ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確	41.8%	51.3%	40.7%	44.2%	47.0%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない(機器が壊れやすい・故障しやすい)	27.6%	41.2%	37.3%	47.7%	40.0%
業務プロセスの変更等	既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	38.8%	36.6%	33.9%	47.7%	37.8%
操作やメンテナンス	操作や取り回しが項雑である	35.7%	34.1%	33.9%	24.4%	33.9%
ロボット介護機器等へのイメージ	入所者へのケアは人の手で行うべきと考える	21.4%	28.0%	33.9%	31.4%	28.3%
その他	加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない	18.4%	26.9%	49.2%	30.2%	28.1%
ロボット介護機器等へのイメージ	ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる	25.5%	22.2%	13.6%	18.6%	21.2%
ロボット介護機器等へのイメージ	現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい	30.6%	17.9%	11.9%	17.4%	19.9%
業務プロセスの変更等	ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい	23.5%	16.5%	11.9%	11.6%	17.1%
ロボット介護機器等の情報	求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない	18.4%	14.3%	16.9%	12.8%	15.6%
その他	その他	5.1%	3.2%	5.1%	3.5%	3.8%
無回答		0.0%	0.7%	1.7%	0.0%	0.5%

(注) 上位5項目については網掛け。

31

3. ヒアリング調査結果

（1）ヒアリング調査の実施概要

（2）ヒアリング調査から得られたポイント

32

3. ヒアリング調査結果

（1）ヒアリング調査の実施概要

- 前述のアンケート調査（施設票）等において、ロボット介護機器等の導入実績があると回答した施設（7施設）に対して、オンラインによるインタビューを実施。
- 実施時期は2021年1月～2021年2月。

ヒアリング先	支援対象としている主な障害種別	ロボット介護機器の分野
社会福祉法人ありのまま舎	身体障害、知的障害	移乗支援
社会福祉法人県西福祉会	身体障害	入浴支援
社会福祉法人横浜共生会	知的障害	入浴支援
社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会	身体障害（聴覚）	入浴支援 サイネージシステム
社会福祉法人秋田県民生協会	知的障害	見守り支援
社会福祉法人クローバー会	知的障害	移乗支援
社会福祉法人京都総合福祉協会	知的障害	排泄支援

33

3. ヒアリング調査結果

（2）ヒアリング調査から得られたポイント

項　目	ポイント
導入の背景・目的	● 複数の施設において、入浴や移乗、コミュニケーションにあたっての職員の身体的負担が重く、その負担を軽減することが目的。 ● 一部では事業所としての支援の理念（「普通の生活を提供する（湯船につかる）」）を達成することを目的。
導入プロセス、 その中で解決した課題	● 施設内の委員会組織による導入推進や職員間で試行しながら使用マニュアルを策定する事例。 ● 他方、施設長等のリーダーシップのみによって導入を進めた事例も複数。 ● 「最初はロボット介護機器について懐疑的だったが、活用していくうちに徐々に慣れてきた」という意見もあり。
ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	● 職員の身体的負担が軽減され、また利用者も機器の使用によって安心して支援を受けることができているとのこと。 ● 施設内システムについては、十分にシステムの機能を職員や利用者が使いこなしきれてないという課題もあり。

34

3. ヒアリング調査結果

（2）ヒアリング調査から得られたポイント

項　目	ポイント
ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	● 展示会見学や業者との定期的なコンタクトによって、ロボット介護機器の実物に触れておくことや、機会をみながら試行的に導入してみることの重要性を指摘。 ● 多職種の職員で合意を取りながら、自施設の課題を踏まえて導入していくことの重要性。
今後求める政策や開発ニーズ	● 手間がより簡便で、使いやすい機器開発を望む意見。 ● 活用しやすい補助金制度等や、ロボット介護機器の利用を促す加算の整備を要望する意見。 ● 現行のロボット介護機器が身体的な「支援」に偏っており、災害時を含めた情報伝達やコミュニケーションを支援する機器の開発についても重点的に推進する必要性。

35

4. 調査結果からわかったポイント

（1）障害者支援施設における業務実態と業務負担感

- 入浴、排泄、移動・移乗等の支援業務に多くの時間を費やし身体的な負担が大きい。また、間接業務にも多くの時間が費やされている。
- 職員への暴行・暴言等といった「行動障害への対応」が、職員にとって精神的な負担感の大きい業務であることも明らかになった。

↓

- ただし、「行動障害への対応」については効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務と考える施設は少ない。
- 日勤時の業務負担と夜勤の業務負担を比較すると、負担となっている業務がやや異なっており、特に夜勤では、安心・安全対策や排泄といった業務が職員にとって負担が大きくなっている点が特徴的。

36

4. 調査結果からわかったポイント

（2）障害者支援施設におけるロボット介護機器等の導入可能性について

- 主として間接業務に役立つ機器については、障害種別を問わず、活用可能性があるとの回答割合が大きい。
- その他、ウェアラブル端末等の健康管理や、見守りセンサー等の安心・安全対策に関連する介護ロボット機器等も一定の割合で活用可能性があるとの回答がみられる。
- とりわけ、身体的負担が大きい身体障害や知的障害の施設では、幅広い種類のロボット介護機器等で「活用の可能性がある」との回答が多い。

↓

- 現在、高齢者分野で活用されている一部の介護ロボット機器については、障害者支援分野についても、活用の可能性が十分にあると考えられ、開発側にとっても市場拡大の余地が残されていると推察される。
- 他方、精神障害へのロボット介護機器の導入については、コミュニケーションロボットのデイサービス等への活用は一定程度みられるのではないかと推察される。

37

4. 調査結果からわかったポイント

（3）障害者支援施設におけるロボット介護機器等の導入阻害要因について

- 身体障害の施設ではロボット介護機器等を導入している施設が比較的多かったのに対し、精神障害の施設ではほとんど導入していないことが明らかとなった。
- 導入していない施設の5割が今後も「導入予定なし」と回答していると回答する一方で、6割の施設がロボット介護機器等の「関心があり」と回答しており、関心はあるものの、導入するまでには至らないと考える施設が多いと推察される。
- ロボット介護機器等の導入に懸念点や課題点等については、多くの懸念点・課題について機器を導入している施設における回答割合が小さい。

↓

- ただし、一部の課題（業務やケアの方法の変更にかかる負担や、操作や取り回しの煩雑さに関する課題）については、両者で大きな違いがなく、ロボット介護機器等を導入した場合であってもこうした課題は残るものと考えられる。

38

5. まとめ（今後の開発・普及に向けた提言）

（1）今後の開発に向けたポイントについて

1. 障害種別のニーズや課題を踏まえた開発の推進

- 障害種別のニーズや課題に対応した形で、新たなロボット介護機器を開発していくことが必要。

2. 精神障害の施設における業務負担等に対応した開発の推進

- コミュニケーションや安心・安全といった業務にかかる精神的な負担は大きいものと考えられ、当該業務への負担に対応した機器等の開発を進めることが必要。

3. コロナ禍のニーズに対応したロボット介護機器等の開発の推進

- 「with コロナ」時代の障害者施設の業務負担を踏まえた、ロボット介護機器等の開発の推進。
- 「Afterコロナ」時代も見据えたコミュニケーション機器や非接触型技術を活用した機器の開発などを進めることが必要。

39

5. まとめ（今後の開発・普及に向けた提言）

（2）今後の普及に向けたポイントについて

1. 高齢者分野で活用されるロボット介護機器等の活用可能性の検討

- 身体介護にかかる業務負担の大きい施設においては、高齢者分野で既に実用化されているロボット介護機器の活用について検討を進めていくことが重要。
- 行政等においては導入に向けた経済的な補助・助成に加え、高齢者分野で活用されている機器に関する情報提供なども同時に進めていくことも必要。

2. ロボット介護機器等導入の成功事例を活かした取組みの推進

- 一部の業務（排泄、移動・移乗等）は、既に高齢者福祉分野において、ロボット介護機器等の導入が積極的に進められている領域。高齢者福祉分野における成功事例を活かすことで、導入を促進することが可能。
- ロボット介護機器等と入所者・利用者との適合、利用者・家族への同意取得、施設内での合意形成や施設内委員会の設置による活用方法の習熟など、高齢者福祉分野におけるノウハウを障害者支援施設へ移転していくような普及啓発の取組みが有効。

40

5. まとめ（今後の開発・普及に向けた提言）

（2）今後の普及に向けたポイントについて

3. 導入時の意思決定における現場職員の意見やニーズ把握の必要性

- ロボット介護機器の導入後に実際に機器を活用するのは現場職員であることから、導入を決定する際には現場職員の意見を聴取することが重要。

4. 利用者本人に対する倫理面での配慮の必要性

- 機器の活用においては本人の同意や意向の把握も必要。本人の同意取得や意思決定支援のあり方、倫理面の配慮をどのように行うかといった点について検討することが必要。

5. ロボット介護機器等を踏まえた業務モデルやケアモデルの確立の必要性

- ロボット介護機器を導入している施設等を対象とした調査研究を行い、ロボット介護機器を活用した業務やケアの方法論についてモデルケースを確立し、その知見の横展開を図ることが必要。

6. その他

- コスト面に関する課題対応や機器メンテナンスのあり方についても検討することが重要。

41

本調査に関する報告書及び概要版につきましては、弊社ホームページに掲載しています。
ご関心のある方は、是非クリックして頂けたらと存じます。

弊社ホームページ（https://www.yokohama-ri.co.jp/）

「トップページ」 → 「受託調査・研究」 → 「受託・国庫補助事業」
厚生労働省「令和2年度障害者総合福祉推進事業」（ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業）
概要版：https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2020/pdf/hokoku_gaiyo.pdf
報告書：https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2020/pdf/hokoku.pdf

※なお、本調査の前身となっている「障害者支援施設に対して、ヒアリング調査を通じて現状における負担の大きい業務を洗い出し、当該業務と具体的なロボット介護機器との紐付けを試行した」調査研究も掲載しています。（下記参照）

厚生労働省「令和元年度障害者総合福祉推進事業」（障害分野におけるロボット等の導入促進に向けた調査研究事業）
概要版： https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2019/pdf/hokoku_gaiyo.pdf
報告書： https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2019/pdf/hokoku.pdf

本日の講演に関するご意見・ご質問等がありましたら、下記にご連絡ください。

【連絡先】
株式会社浜銀総合研究所　地域戦略研究部　副主任研究員　加藤　善崇
電話番号：045-225-2372
メールアドレス：yt-kato@yokohama-ri.co.jp

42

ご清聴ありがとうございました。

43

Afresh あなたに、あたらしく。

横浜銀行グループ

浜銀総合研究所

みんなで考えよう！

障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング交流会2021

作る人と使う人の交流会

Webを活用した交流の進め方

公益財団法人テクノエイド協会
企画部　宇田川 竜吾

内容

・交流会の目的、出展者情報
・交流の流れ
・交流方法
・Web交流プラットフォームの紹介
・併催セミナーの視聴について
・東京会場のご案内

目　的

シーズ・ニーズマッチング交流会は、障害当事者の方々をはじめとするユーザー側が持つ『ニーズ』と開発側が持つ『シーズ』のマッチングを目的とし、ユーザーのニーズに沿った実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が意見交換できる場を設けるものです。

対象者		
	ニーズ側	障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者 等
	シーズ側	開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等

出展者情報

出展企業等（70社）

- 身体障害（肢体不自由）
- 視覚障害
- 聴覚障害
- 高次脳機能障害（失語症等）
- 知的障害
- 精神障害（発達障害を含む）
- 障害児（身体・知的・精神）
- その他

障害当事者団体（9社）

- 日本視覚障害者団体連合
- 全国脊髄損傷者連合会
- 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- 日本ALS協会
- ポリオの会
- 日本身体障害者団体連合会
- 日本失語症協議会
- 全国盲ろう者協会
- ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

開発支援に係る団体（5団体）

- 国立研究開発法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
- 国立研究開発法人　情報通信研究機構（NICT）
- 国立研究開発法人　科学技術振興機構（JST）
- 厚生労働省
- テクノエイド協会（ATA）

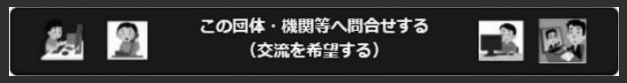
交流の流れ

1. シーズ・ニーズマッチング交流会2021　Web交流プラットフォームにアクセスします。（事前登録不要）
2. 交流したい出展企業や当事者団体・開発支援団体を画面上から確認します。
3. 出展機器又は企業・団体名をクリックすると各詳細ページに切り替わります。
4. 詳細ページ内の「出展者情報」より出展者情報・出展機器の紹介動画を視聴することができます。合わせて、交流したい内容もご確認ください。
5. 『問合せする』もしくは『投稿する』より出展者と意見交換を行えます。

交流方法

2つの交流方法
「問合せする」又は「掲示板」を使って交流を行う。

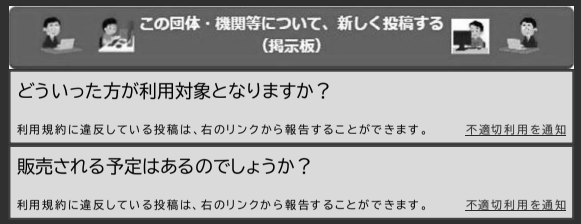
① 問合せフォーム



来場者が1対1で個別に出展者と交流を行いたい場合に使用します。
問合せフォームの問い合わせ種別から電話やオンラインで交流等、交流内容を選択することができます。

交流方法

② 掲示板



来場者がオープン（来場者に公開）で出展者と交流を行いたい場合に使用します。
匿名でも投稿は可能で、投稿内容は蓄積されてきます。
出展者は出展機器に関する「情報発信」、「告知」にも使用します。

・Web交流プラットフォームの紹介
・併催セミナーの視聴について

東京会場のご案内

【日時】 令和3年12月 7日(火) 9:00～17:00
令和3年12月 8日(水) 9:00～17:00

【会場】 東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室
〒105-7501 東京都港区海岸1-7-1
最寄り駅 JR「浜松町駅」、ゆりかもめ「竹芝駅」、都営地下鉄「大門駅」

併催セミナー情報(会場及びオンラインにて配信予定)
◆ 基調講演『障害者の自己決定』
◆ 特別イベント
福祉機器の利用事例とニーズの発信
開発促進事業の成果報告
失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器
出展企業による福祉機器開発の現状報告
ワークショップ

開発改良中の機器展示、体験しながら
シーズとニーズの交流を行います。

東京都立産業貿易センター浜松町館

The Association for Technical Aids(ATA)

ご清聴ありがとうございました

公益財団法人テクノエイド協会
企画部 宇田川 竜吾

The Association for Technical Aids(ATA) 10

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング交流会2021

みんなで考えよう！

入場無料
入退場自由

作る人と使う人の交流会

Web開催

令和３年１０月１日(金)～令和４年１月３１日(月)
10：00～17：00
テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム

山口開催

開催方法変更しました

令和３年１０月９日(土)・１０日(日)
10：30～17：00／9：00～17：00
~~海峡メッセ下関 展示見本市会場~~
[redacted]

東京開催

令和３年１２月7日(火)・８日(水)
9：00～17：00／9：00～17：00
東京都立産業貿易センター浜松町館 ２階展示室

Web開催 イベント内容

Web上による開発企業及び支援機器の紹介動画の発信、掲示板やオンラインによる意見交換の実施

山口・東京開催 イベント内容

支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施

【併催イベント内容】※会場およびオンラインにて配信予定です。

- 基調講演
- 福祉機器の利用事例とニーズの発信
- 福祉機器の開発状況について
- 令和３年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 成果報告
- 障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
- ワークショップ　他

対象者

ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者 等

シーズ側：開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等

公益財団法人テクノエイド協会 The Association for Technical Aids(ATA)　厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

本事業は「令和３年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング交流会2021

みんなで考えよう!

入場無料 入退場自由

作る人と使う人の交流会

Web開催

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) 9:00～17:00

テクノエイド協会Web交流プラットフォーム

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

山口会場

令和3年10月9日(土)・10日(日) 講演開始 11:00～16:20／10:00～16:00

~~海峡メッセ下関展示見本市会場~~

開催方法変更しました

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。
併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。
出展企業等の交流は、Web 交流プラットフォームを活用してください。

東京会場

令和3年12月7日(火)・8日(水) 9:00～17:00／9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館２階展示室

Webコンテンツの紹介と交流方法

本誌P.5をご参照ください。

※オンラインによる交流は令和4年1月31日（月）までとさせていただきます。

併催セミナープログラム

本誌P. 3,4 をご参照ください。

出展機機器

本誌P. 11～30をご参照ください。

Web交流やセミナー視聴に関する問い合わせ

シーズ・ニーズマッチング交流会2021事務局

公益財団法人テクノエイド協会　企画部　宇田川・根石・五島

受付時間：平日8時～12時、13時～16時

TEL:03(3266)6883　メールアドレス:shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

新型コロナウイルスの影響により勤務時間を8時～16時とし、在宅・在勤の交代制とさせて頂いております。

※最新版は、協会ホームページをご確認ください。

202109-ver.03

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング交流会2021

みんなで考えよう!

入場無料 入退場自由

作る人と使う人の交流会

Web開催　令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)

9:00～17:00
テクノエイド協会Web交流プラットフォーム

山口会場　令和3年10月9日(土)・10日(日)

~~海峡メッセ下関展示見本市会場~~　講演開始 11:00～16:20／10:00～16:00

開催方法変更しました

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。
併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。
出展企業等の交流は、Web 交流プラットフォームを活用してください。

東京会場　令和3年12月7日(火)・8日(水)

9:00～17:00／9:00～17:00
東京都立産業貿易センター浜松町館２階展示室

来場される方は、事前登録にご協力ください。近日、当協会のホームページ上に事前登録の窓口を設置します。
新型コロナウイルス感染症を予防するため、体温測定及びマスクの着用、密を避けるための配慮等にご協力ください。

Web開催イベント内容

Web上で、開発企業や障害当事者の全国組織、開発支援機関等と交流が行えます
常時及び定期的にセミナーを配信します
（事前登録不要・無料・入退室自由）

山口・東京会場イベント内容

会場では、開発改良中の展示、体験しながらシーズとニーズの交流を深めます
会場から基調講演や特別シンポジウム、事例発表などセミナーを配信します（無料・入退室自由）

対象者

ニーズ側　障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者 等

シーズ側　開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等

公益財団法人テクノエイド協会 The Association for Technical Aids(ATA)

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

Web交流プラットフォーム

本事業は「令和3年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

詳しくはテクノエイド協会 Web交流プラットフォームまで

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

スケジュール

例年、東京、大阪、福岡の3会場にて開催しておりますシーズ・ニーズマッチング交流会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年もWebによる開発企業及び支援機器の紹介動画の発信や問合せフォーム、掲示板を使用した意見交換をWeb開催で行い、会場開催は山口・東京会場となります。また、各会場の講演等のイベントは会場及びオンラインで視聴が可能です。

Web開催

令和3年10月1日（金）～ 令和4年1月31日（月）9：00 ～ 17：00

テクノエイド協会 Web 交流プラットフォーム

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

Web開催イベント内容　プログラムはP.3をご確認ください。

Web上で、問い合わせフォームや掲示板を利用して、開発企業や障害当事者の全国組織、開発支援機関等と交流が行えます。
毎月新しいセミナーを配信します。（無料・入退室自由）

- **常時配信**
  - Webを活用した交流の進め方
  - 自立支援機器開発における現状と課題
- **定時配信（毎月更新）**
  - 視覚・聴覚障害者支援機器への期待
  - 3Dプリンターで造る自助具とリハビリ器具の可能性
  - 意思伝達装置の利用にあたり活動行動範囲を広げよう
  - その他、盛り沢山
  （事前登録不要・無料・入退室自由・24時間視聴可能）

※）視聴（参加）には、別途事前申し込みが必要となります。詳しくは協会ホームページをご確認ください。

東京会場　※事前登録にご協力ください

令和3年12月7日（火）～ 8日（水）9:00～17:00／9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室

※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩２分／JR「浜松町駅」北口より徒歩５分
東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩５分／都営地下鉄「大門駅」B2 出口より徒歩７分

東京会場イベント内容　プログラムはP.4をご確認ください。

開発改良中の展示、体験しながらシーズとニーズの交流を深めます。会場から基調講演や特別イベント、事例発表などのセミナーを配信します。（無料・入退室自由）

- **基調講演**
  - 障害者の自己決定
- **特別イベント**
  - 福祉機器の利用事例とニーズの発信
  - 開発促進事業の成果報告
  - 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器
  - 出展企業による福祉機器開発の現状報告
  - ワークショップ※
  （無料・入退室自由）

■併催セミナーをオンライン視聴

https://us06web.zoom.us/j/89473466124

山口会場

令和3年10月9日（土）～ 10日（日）　講演開始 11:00～16:20／10:00～16:00

~~海峡メッセ下関　展示見本市会場~~

~~JR「下関駅」徒歩７分　下関駅よりバス停「豊前田」下車徒歩２分~~

山口会場イベント内容　プログラムはP.3～P.4をご確認ください。

開発改良中の展示、体験しながらシーズとニーズの交流を深めます。
会場から基調講演や特別イベント、事例発表などのセミナーを配信します。
（無料・入退室自由）

- **基調講演**
  - ロボット技術を応用した福祉機器の開発について
- **特別イベント**
  - 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
  - 支援機器開発ワークショップ※
  - 福祉機器の利用と開発の状況報告
  - 障害分野におけるロボット技術の活用研究報告
  - 特別シンポジウム
  （無料・入退室自由）

■併催セミナーをオンライン視聴
それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

https://us06web.zoom.us/j/86133851012

企画展示コーナーの設置

○テーマ　**『機械ではなく機会の創出、日常生活を快適に!』**
○内　容　障害者のコミュニケーションに係わる機器や技術、サービスを有している企業が参集し、コミュニケーションが困難な利用者の[illegible]える展示・デモンスト[illegible]を行います。
○展[illegible]定）
・[illegible]ス結アジア
・パ[illegible]ドベッド株式会社
・株式会社エンファシス
・システムデザインラボ
・HOYA株式会社
他

特別シンポジウム

○テーマ　**『好事例表彰の受賞とその後』**
○内　容　平成30年度、好事例表彰を受賞した3社を会場にお呼びし、表彰の内容と表彰後の活動などについて、ご報告や可能性について意見交換を行います。
○[illegible]（60分）会場及びウェビナーにてオンライン配信
○[illegible]
・NPO法人iCareほっかいどう
佐藤美由紀 氏
・かえるキッズのお助け隊
大泉えり 氏
・有限会社オフィス結アジア
高橋宜盟 氏

試用体験コーナー

○テーマ　**『最先端の支援機器を体験してみよう!』**
○内　容　広いスペースを利用して最先端の支援機器を体験・意見交換等を実施します。
○実　施　10月9日（土）、10日（日）
・株式会社アルファクス・フード・システム（業務支援）
・[illegible]
・有限会社であい工房（移動支援）
・有限会社ビューティフルライフ（[illegible]）
・ライフスペース研究所（移動支援）
・九工大学生すぐ創る会（歩行支援）
・秋田未来（座位バランス測定）
・ViXion株式会社（視覚支援）
・ユニコーン株式会社（コミュニケーション支援）

開催方法変更しました

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。
併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。
出展企業等の交流は、Web 交流プラットフォームを活用してください。

併催セミナープログラム

Web 開催

令和３年 10 月１日（金）～ 令和４年１月 31 日（月）（４ヶ月間）

９：00 ～ 17：00

Web 交流プラットフォームを活用し、期間中は常時交流が可能です。

併催セミナーは毎月更新いたします。

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

（常時配信）

1．シーズ・ニーズマッチング交流会の実施（Web を活用した交流の進め方）
テクノエイド協会　宇田川竜吾

2．自立支援機器における現状と課題
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
福祉工学専門官　田上未来　氏

3．支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告
～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～
一般社団法人　日本リハビリテーション工学協会

（定期配信）月によって視聴内容は異なります

【10 月 1 日～ 10 月 31 日　配信予定（各 20 分）】

1．視覚・聴覚障害者用支援機器への期待　特別講演
筑波技術大学保健科学部情報システム学科　准教授　小林　真　先生

2．厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告①
「障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究」
（厚生労働科学研究費　障害者政策総合研究事業）
東北大学大学院医工学研究科　教授　出江紳一　氏

3．障害者自立支援機器等開発促進事業
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
福祉工学専門官　田上未来　氏

【11 月 1 日～ 11 月 30 日　配信予定（各 20 分）】

4．３Dプリンターで造る自助具とリハビリ器具の可能性　特別講演
工房 SERA　代表　稲住義憲　氏

5．厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告②
「障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実践する人材の育成プログラム開発のための研究」（厚生労働科学研究費　障害者政策総合研究事業）
東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授　二瓶美里　氏

6．NEDO 福祉事業のご紹介　～ 福祉用具実用化開発の支援 ～
NEDO イノベーション推進部 主幹　只野　肇　氏

【12 月 1 日～ 12 月 28 日　配信予定（各 20 分）】

7．意思伝達装置の利用にあたり　特別講演
中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科　教授　井村　保　先生

8．厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告③
「リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発」
（厚生労働行政推進調査事業費）
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長　井上剛伸　氏

9．情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度のご案内
NICT 情報バリアフリー推進室 室長　齋田信二郎　氏

【1 月 4 日～ 1 月 31 日　配信予定（各 20 分）】

10．活動行動範囲を広げよう　特別講演
日本医療科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科　教授　小林　毅　氏

11．厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④
「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に資する出口を想定した開発プロセスに関する調査研究」（障害者総合福祉事業）
一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員　八木雅和　氏

12．JST の産学連携事業と福祉機器開発事例
JST 企業支援室　下田　修　氏

山口 会場

令和３年 10 月９日（土）～ 10 日（日）（２日間）

講演開始 11:00 ～ 16:20 ／ 10:00 ～ 16:00

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。

オンライン でも視聴
（https://us06web.zoom.us/j/86133851012）

1日目

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

AM

1．11:00-12:00（60 分）
「歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発」　基調講演
国立大学法人 名古屋工業大学
大学院 つくり領域　教授　佐野明人　先生

PM

2．12:10-12:30（20 分）
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
代表世話人　昭和病院　田中　恩　氏

※3．13:30-14:30（60 分）
（セミナー）バイオデザイン手法の紹介
株式会社ライフトゥデイ 代表　取締役（医師）　原　陽介　先生

4．14:40-15:10（30 分）
つながる、たのしむ、相談できる　スマホでつむぐ重症児支援の未来
一般社団法人オンライン臨床　代表理事
びぃどろ　代表
言語聴覚士　長岡菜都子　氏　　下関発！

5．15:20-16:20（60 分）
特別シンポジウム『好事例表彰の受賞とその後』　特別シンポジウム
NPO 法人 iCare ほっかいどう　佐藤美由紀　氏
かえるキッズのお助け隊 大泉　えり　氏
有限会社オフィス結アジア　高橋宜盟　氏

2日目

AM

6．10:00-11:00（30 分 ×2 者）
福祉機器の利用と開発の状況　報告
日本ＡＬＳ協会　岸川忠彦 氏
九州工業大学 学生団体 すぐ　創る課　山﨑　駆　氏

7．11:10-11:40（30 分）
障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
株式会社浜銀総合研究所 地域　戦略研究部　加藤善崇　氏

PM

◎ 13:00-16:00
事務局だより
〇Ｗｅｂ交流プラットフォームの活用方法の紹介など
〇常時配信と今月の定時配信の内容をリアルタイム配信
公益財団法人テクノエイド　協会

※ 8．13:00-16:00（180 分）
（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ
株式会社ライフトゥデイ 代表　取締役（医師）　原　陽介　先生
東京大学医学部附属病院心臓　外科特任研究員（理学療法士）柿花隆昭　先生

東京会場

令和３年 12 月７日（火）～８日（水）（２日間）

９：00 ～ 17：00 ／ ９：00 ～ 17：00

東京都立産業貿易センター浜松町館　２階展示室

〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩２分
JR「浜松町駅」北口より徒歩５分
東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩５分
都営地下鉄「大門駅」B2 出口より徒歩７分
※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。

オンラインでも視聴
（https://us06web.zoom.us/j/89473466124）

1日目

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

AM

1．11:00-12:00（60 分）
「障害者の自己決定」　基調講演
土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事
浅野史郎　先生

PM

2．13:00-14:00（30 分 ×2 者）
福祉機器の利用事例とニーズの発信
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　小川光彦　氏
日本視覚障害者団体連合　逢坂　忠　氏

3．15:00-16:00（20 分 ×3 者）
厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告①
網膜投影型視覚支援機器の開発
株式会社 QD レーザ
AI 制御による表現豊かに歌える歌唱型人工喉頭の開発
株式会社電制
障がい児用シャワーチェアの開発
タカノ株式会社

2日目

AM

4．10:00-11:00（30 分 ×2 者）
出展企業による福祉機器開発の現状報告
国立大学法人 大阪大学　横田純己　氏
株式会社オレンジアーチ　宇田竹信　氏

5．11:10-11:40（30 分）
失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（仮称）
一般社団法人日本言語聴覚士協会　白波瀬元道　氏

PM

6．12:30-（20 分 ×3 者）
厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告②
聴覚視覚発話刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発
シスネット株式会社
座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e（座位）-balance　trainer" の開発
学校法人藤田医科大学
障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手と自助具
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

※7．14:00-17:00（180 分）
（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ
株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生
東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員（理学療法士）　柿花隆昭　先生

※）視聴（参加）には、別途事前申し込みが必要となります。詳しくは協会ホームページをご確認ください。

Webコンテンツの紹介と交流方法

Web 交流プラットフォーム

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) 9:00～17:00

■ 出展機器を調べたり、交流したい企業等を探すことができます。

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

出展企業等と交流

こちらでは、出展企業を検索し交流することができます。

「会場」、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索が可能です

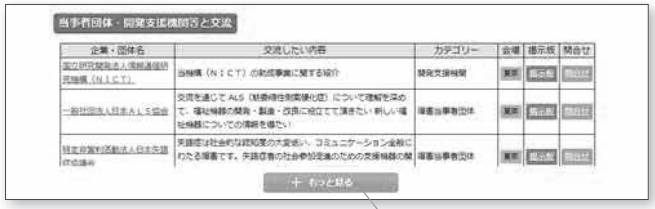
製品名をクリックすると出展者・出展機器の詳細を見ることができます

「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です

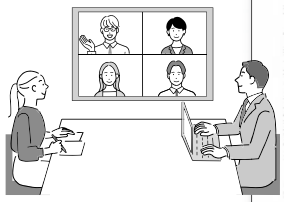
掲示板　ニーズ側とシーズ側（出展者を含む）ともに、交流したい内容等の掲示版としてご活用ください。

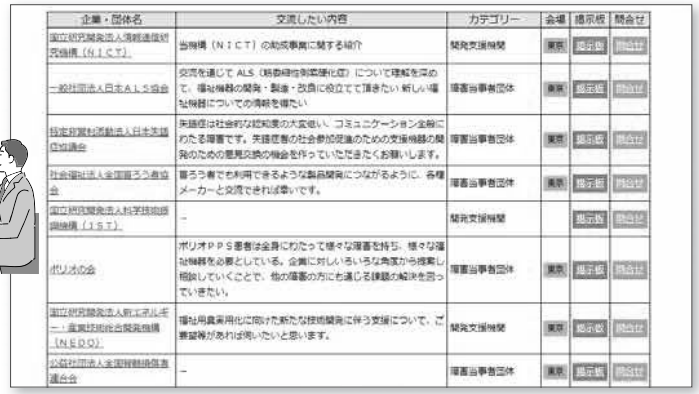
問合せ　出展企業等との意見交換や交流したことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

当事者団体・開発支援機関等と交流



「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です





併催セミナーの視聴

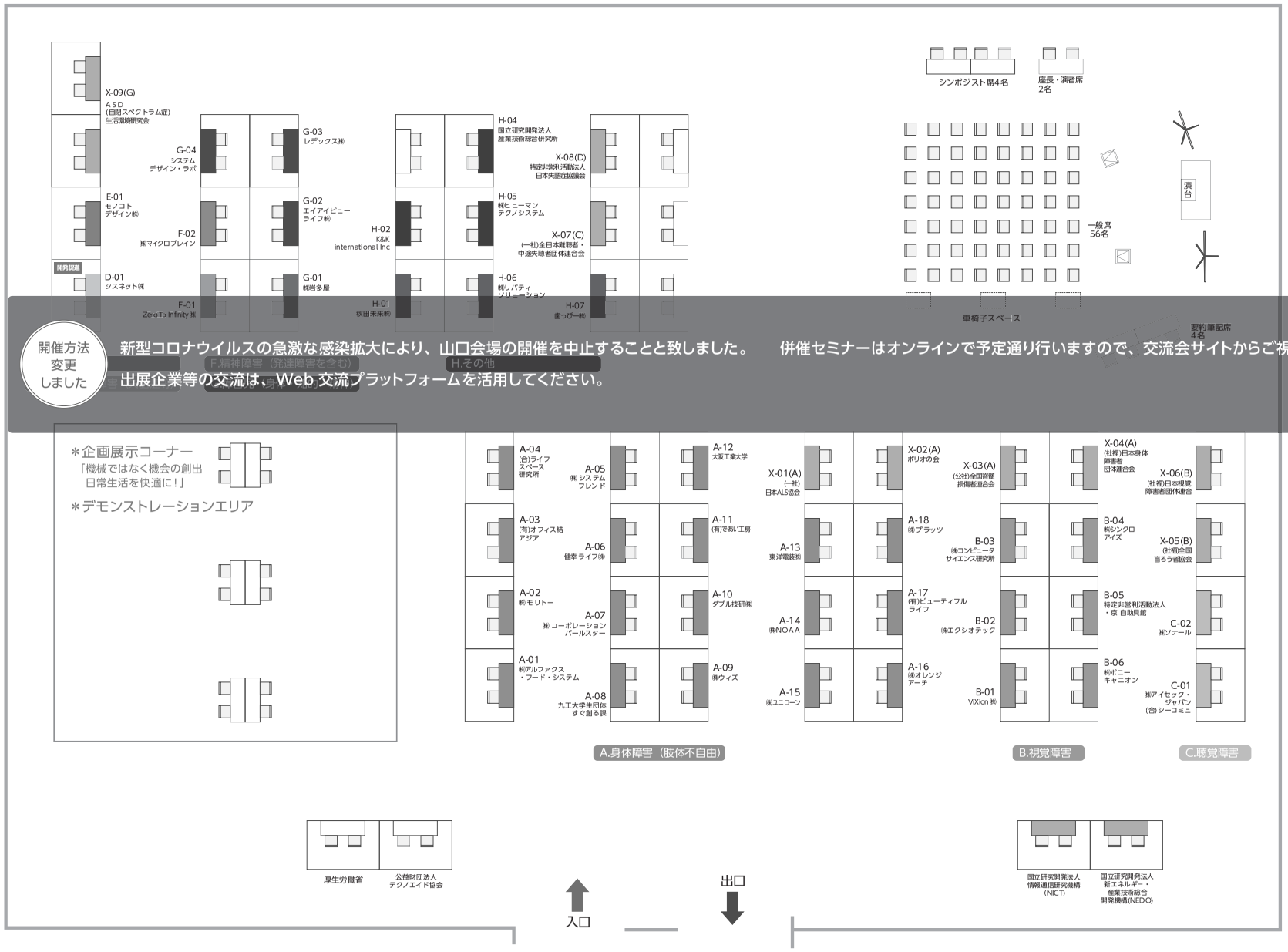
併催セミナーのプログラムに沿って配信します。配信は、それぞれ定刻となりしだい視聴可能となります。

■ 併催セミナープログラムはP.3をご覧ください。

■ 視聴に関する問い合わせ　事務局 03−3266−6883

山口会場

令和3年10月9日（土）～10日（日）　講演開始　11:00～16:20 ／　10:00～16:00　~~海峡メッセ下関　展示見本市会場~~



分野別カテゴリ

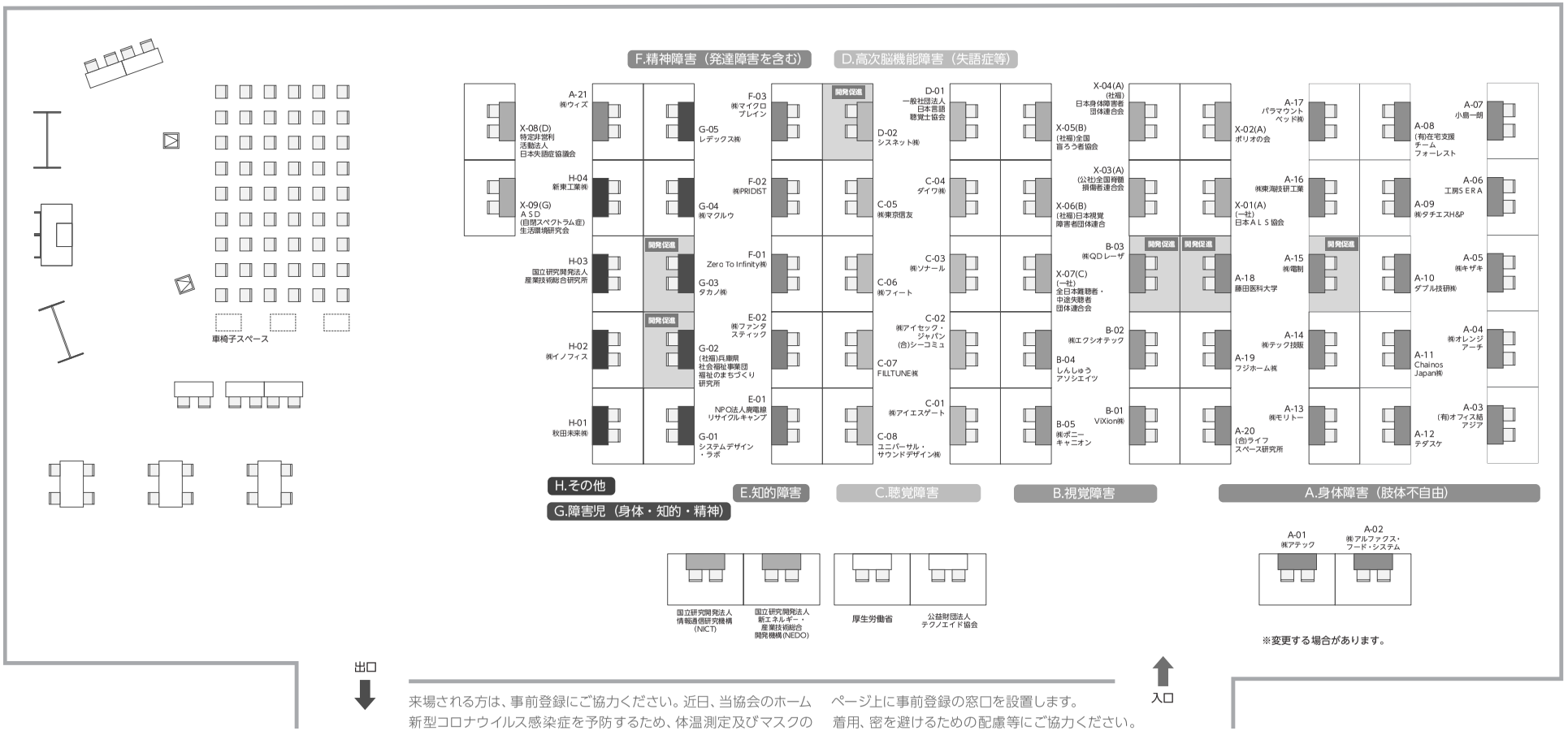
- A. 身体障害（肢体不自由）
- B. 視覚障害
- C. 聴覚障害
- D. 高次脳機能障害（失語症等）
- E. 知的障害
- F. 精神障害（発達障害を含む）
- G. 障害児（身体・知的・精神）
- H. その他
- X. 障害当事者団体

開発促進

令和3年度　開発促進事業の採択案件となります。東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います。

東京会場

令和3年12月7日（火）～8日（水）9:00～17:00／9:00～17:00　　**東京都立産業貿易センター 浜松町館 2階展示室**



来場される方は、事前登録にご協力ください。近日、当協会のホームページ上に事前登録の窓口を設置します。
新型コロナウイルス感染症を予防するため、体温測定及びマスクの着用、密を避けるための配慮等にご協力ください。

分野別カテゴリ

- A. 身体障害（肢体不自由）
- B. 視覚障害
- C. 聴覚障害
- D. 高次脳機能障害（失語症等）
- E. 知的障害
- F. 精神障害（発達障害を含む）
- G. 障害児（身体・知的・精神）
- H. その他
- X. 障害当事者団体

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります。東京会場にて成果報告を行います。（P.4参照）

アクセス

東京都立産業貿易センター浜松町館　2階展示室

〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

- ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩２分
- JR「浜松町駅」北口より徒歩５分
- 東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩５分
- 都営地下鉄「大門駅」B2 出口より徒歩７分

※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。

出展機器

A. 身体障害（肢体不自由）

アテックミスト

50μmのミストで身体洗浄するアテックミスト、ベッドが濡れません。

株式会社　アテック
東京都練馬区貫井4-16-10

希望する交流の内容
在宅介護者　ケアマネージャー

Web交流の連絡先
担当部署：会長
担当者氏名：芦田　拓也
TEL：03-3577-5466　FAX：03-5241-1580
E-Mail：t.ashida@atecjp.com

東京A-01

サービスショット

自律走行する「AI除菌ロボット」は、人が集まる場所、仕事場などを除菌する事で安心・安全な空間を作りのお手伝いをします。

株式会社アルファクス・フード・システム
山口県山陽小野田市千崎128番地（江汐公園内）

希望する交流の内容
当社のAI除菌ロボットが、障がい者施設で勤務される方々の除菌にかかる作業時間を少しでも軽減、短縮していただく事が目的です。各々の施設で働く方々が朝一番でされる業務が、施設内において、一番多く接触する箇所の除菌作業からだとお聞きしました。玄関周りや廊下の手すり、待合室のテーブルの椅子、訓練前の理学療法室、作業療法室内の備品等…、大きな施設では各階においてもこの作業が及びます。コロナ禍におけるこのような作業を少しでも軽減する為、医療従事者の方々へ微力ではありますが、お役にたちたいという強い思いから、弊社のAI除菌ロボットを皆様方に見て頂きたいと思い、今回申し込みさせて頂きました。

Web交流の連絡先
担当部署：マーケティング本部
担当者氏名：井手　修一
TEL：0836-39-5151　FAX：0836-39-6448
E-Mail：ide@afs.co.jp

山口A-01
東京A-02

キュラコ

排泄物を感知、吸引、洗浄、乾燥までの全ての過程を自動で処理する寝たままで排泄できる洗浄機能付きトイレ

株式会社ウィズ
大阪府吹田市穂波町19-25

希望する交流の内容
キュラコのレシーバーと装着カバーを身体に当てた時の密着感や痛みなどを情報収集し改善のためのご意見を頂戴したいです。また、神経難病など進行性疾患の方にとって、夜間帯などの排泄ケアに有効的かどうかの意見をお聞きしたいです。

Web交流の連絡先
担当部署：AS事業部
担当者氏名：淵上　敬史
TEL：06-6310-9090　FAX：06-6310-9600
E-Mail：support@hello-with.com

山口A-09
東京A-21

空気圧人工筋を用いた小児用動力義手

本製品は，小型軽量で動作スピードが速い小児用の動力義手です。

大阪工業大学
大阪府大阪市北区茶屋町1番45号

希望する交流の内容
交流会では，小児用義手の試作機を持参し，デモ展示を予定しています．特に，当事者であられる義手ユーザ様，ユーザの保護者様との交流を期待します．試作機を試していただき，率直なご意見を頂戴したいです．また，義肢メーカ様，医療従者様らとの交流も期待します．専門家からのご意見も頂戴し，さらに発展させていきたく思います。

Web交流の連絡先
担当部署：ロボティクス&デザイン工学部ロボット工学科
担当者氏名：谷口　浩成
TEL：06-6147-7631
E-Mail：hironari.taniguchi@oit.ac.jp

山口A-12

※変更する場合があります。

A. 身体障害（肢体不自由）

指伝話コミュニケーションパック

iPadで使用するコミュニケーションアプリ。簡単な操作で会話や機器操作を行う仕組みが用意されています。

有限会社オフィス結アジア
神奈川県藤沢市村岡東3-12-10

希望する交流の内容
個々の福祉機器ごとに機能を紹介し合うのではなく、実際の日常生活の中で様々な機器やサービスを使用する場面を想定し、その中で各々が提供する製品があるという見せ方をユーザにする必要があると考えます。私たちのコミュニケーション機器は、単に用事を伝える機能を提供するのではなく、会話のきっかけを提供すること、自立した生活のための機器操作環境を提供します。これを使う場面は、ベッドの上や車椅子の上であったりします。ベッドや車椅子抜きに弊社製品だけを語るのは現実の利用方法に則していません。シーズ側との交流を深め、協力してニーズ側へのソリューション提供を行う方法を構築するために、交流会での出会いを求めています。

Web交流の連絡先
担当部署：本社
担当者氏名：高橋　宣盟
TEL：0466-21-7448　FAX：0466-21-7996
E-Mail：info@yubidenwa.jp

山口A-03
東京A-03

重度障害者用意思伝達装置「eeyes」

神経性の難病により会話が困難な方をサポートする、目の動きなどの極小さい身体動作でも操作できる福祉機器

株式会社オレンジアーチ
東京都足立区千住一丁目11番2号

希望する交流の内容
意思伝達装置「eeyes」のご紹介やデモンストレーションを通じ、製品の機能や使い心地および製品開発のロードマップについて、ユーザ様ご自身やご支援をされる方からのご意見を頂き、製品へのフィードバックを行うと共に、視線による入力技術や画像解析技術を応用した製品に関するニーズについてご意見を頂き、新製品の開発に生かしていけたらと考えております。

Web交流の連絡先
担当部署：イノベーショングループ
担当者氏名：宇田　竹信
TEL：03-5817-4476　FAX：03-5817-4477
E-Mail：uda.takenobu@orangearch.co.jp

山口A-16
東京A-04

スマートポール

上肢や肩の回旋運動によって2足歩行がスムースに行なわれるようにサポートする補助ポールです。

株式会社キザキ
長野県小諸市加増上の平561-2

希望する交流の内容
加齢や障害により歩行が困難で「2 本の足で歩くことが難しい」「脚や腰が痛くて歩けない」「転倒による怪我が怖い」等の歩行における不安を抱えている方。足腰にかかる負担を減らし、人の手を借りずに自分の足で安定した歩行をサポートします。

Web交流の連絡先
担当部署：事務部
担当者氏名：小林　泉
TEL：0267-22-1354
E-Mail：kizaki@kizaki-net.co.jp

東京A-05

人工筋付きスマートウォーカー

フィードバック制御を行う歩行器に、カメラなどのセンサを付与し患者にあったリハビリを提供します。

九工大学生団体 すぐ創る課
福岡県北九州市若松区ひびきの2-4

希望する交流の内容
九工大の学生プロジェクトの一つであるすぐ創る課では、地域の個別性が高く研究として非常に取り扱いにくいニーズに、ハードやソフトのプロトタイピング技術で応えることを目的として開発を行なっております。障がい者をはじめとしたハンディキャップを抱えた方々の「こういうものがあったら、こんなに生活の質が"上が"るのに」といったニーズ"を交流によっていただきたいと考えています。加えて、すぐ創る課という活動を多くの方々に知っていただき、実際に活用していただく機会になれば良いと考えております。

Web交流の連絡先
担当部署：九工大学生
担当者氏名：山﨑　駆
TEL：080-2785-0219
E-Mail：yamasaki.kakeru990@mail.kyutech.jp

山口A-08

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口出展　~~山口会場に出展する機器~~　**東京出展**　東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

A. 身体障害（肢体不自由）

無垢木標準タイプ

一本の国産杉をくり抜いて制作。生産者の想いと無垢木の温もりを肌で感じられ、とても気持ちが良いです。

健幸ライフ株式会社
福岡県福岡市博多区東比恵1-2-3

希望する交流の内容
身体に障害をお持ちの方から、自分たちができる運動器具がないと、ご相談を受けたことがあります。負荷が掛かりすぎるものは、出来る人と、そうでない人に分かれるため、負荷が掛からず、どのような方でもできる運動器具は少ない、というご意見から開発いたしました。座りっぱなしの生活では、血流も悪くなり、筋肉や関節が固くなり、体調悪化の原因となるそうです。当該製品は木製で電気やモーターを使用しない簡単な構造です。ご高齢の方でも簡単に自力で足を動かす運動なので、多くの方に体験して頂き、どのようにお役に立てるのか?ご意見をお伺いしたいと思います。

Web交流の連絡先
担当部署：あしふみ事業部
担当者氏名：園田　俊彦
TEL：092-260-8941　FAX：092-433-3810
E-Mail：ashifumi@kenkolife.co.jp

山口A-06

片手で靴ひも結び(自助具)

手に代わって靴紐を仮固定する自助具を3Dプリンターで作りました。

工房SERA
相模原市南区相模大野2-14-3

希望する交流の内容
「どんな福祉用具があったらいいのか?」生の声を聴かせてほしい。

Web交流の連絡先
担当部署：代表
担当者氏名：稲住　義憲
TEL：090-4136-8423　FAX：042-743-1184
E-Mail：yk-inazumi@jcom.home.ne.jp

東京A-06

小島式運転補助装置『アクセルアシスト装置』

現行車の様なペダル操作が左右の踏み替えではなく、足を前後に動かして、てこの原理で操作する装置。

小島一朗
神奈川県相模原市緑区　上九沢4

希望する交流の内容
ニーズがどれだけあるのか!?この障害で、この車輌に乗れるのか?乗りたい車種等、交流したいです。企業様が興味をもってくれるか?製作可能な企業様と交流したいです。

Web交流の連絡先
担当部署：小島　一朗
担当者氏名：小島　一朗
TEL：070-4441-1562
E-Mail：wwcool356@gmail.com

東京A-07

ズレない・ムレない楽らくクッション

帝人ナノフロントと備長炭・ポリエチレンチップを使用した通気性の良い座位安定クッションです。

株式会社コーポレーションパールスター
広島県東広島市安芸津町三津4424

希望する交流の内容
座位保持に求められる理想的なクッションの情報及び現在製造しているクッションの評価、改良点等の指摘並びに使用している素材の応用可能な製品開発に関する情報。現在必要とされている製品や、その製品に対する要望など。

Web交流の連絡先
担当部署：製造部
担当者氏名：大草　寛
TEL：0846-45-0116　FAX：0846-45-0150
E-Mail：parlstar@pastel.ocn.ne.jp

山口A-07

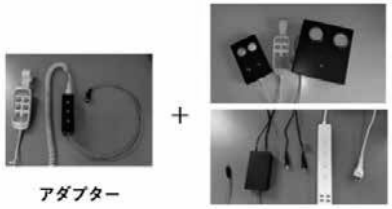
※変更する場合があります。

A. 身体障害（肢体不自由）

音声制御ベッドユニット

音声制御により介護用ベッドを操作することが可能となるユニットを開発しました。

有限会社在宅支援チームフォーレスト
宮城県仙台市宮城野区岩切谷地15−1



希望する交流の内容
身体障害者向けのスマートホームによる環境制御について

Web交流の連絡先
担当部署：代表取締役
担当者氏名：望月　謙一
TEL：022-396-0030　FAX：022-255-1161
E-Mail：kanriforest@yahoo.co.jp

東京A-08

Mobile Motion Visualizer 鑑AKIRA

鑑AKIRAは非接触センサーによる関節可動域測定・3次元動作計測ができるクラス1医療機器です。

株式会社システムフレンド
広島県広島市佐伯区五日市駅前

希望する交流の内容
鑑AKIRAのマーカー不要の3次元計測について、まずは現状の製品をご覧いただきたいと思っています。一連の計測を計測側が「1人で」しかも「短時間で」行えること、また計測した動画や結果レポートを使った「フィードバックの手軽さ」をご覧いただくことで、現場での使用をイメージいただけます。ここで歩行計測などの「動作計測コース」のニーズについてのヒアリングや、動作計測の結果レポートでどういったデザインが有効であるか等について改善や応用の可能性をご意見いただく、あるいはご相談させていただきたいと考えています。ご興味をお持ちいただけたお客様には、オンラインデモを行うことも可能です。

Web交流の連絡先
担当部署：未来福祉グループ
担当者氏名：岸本　一哉
TEL：082-943-9530　FAX：082-943-9531
E-Mail：kishimoto@systemfriend.co.jp

山口A-05

車椅子用クッションマット

車いす用クッションマットにコイルバネを用いたマットの快適性向上を提案。

(株)タチエスH&P
東京都青梅市末広町1−7−8

希望する交流の内容
市販の車いすに本品を組み合わせて展示し、車いすユーザー様の悩みを聞き、本品の有効性や使い勝手（座り心地、乗り心地）について、ユーザー様との意見交換したい。

Web交流の連絡先
担当部署：技術部　設計課
担当者氏名：橋本　聡
TEL：0428-30-1924　FAX：0428-30-1925
E-Mail：s-hashimoto@tachi-s.co.jp

東京A-09

新心語り　単語発信プラス

閉じ込め状態でも脳血流を検出し、はい・いいえの選択が出来、その二択を選んで単語発信も可能になりました。

ダブル技研　株式会社
神奈川県座間市栗原920-7

希望する交流の内容
ALS等の難病により、意思の伝達が困難な方々、及びご家族ご支援者様の皆様にコミュニケーションツールとして少しでも役に立てればという思いで製品作り及び発展に励んでおります。現在、ユーザー様が実施する事が複雑な設定を自動化し、調整方法を一般化して、多くの患者様に使えるように被験者を増やして研究しております。更に、正答率向上の研究を続けるとともに、新しい挑戦を試みており、一つは五十音表から文字を選択する試みであり、もう一つは意識障害者の意識の有無を判定することであります。より多くの方にご覧いただき今後の改良のきっかけを頂きたく存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

Web交流の連絡先
担当部署：福祉事業部
担当者氏名：堀込　貴嗣
TEL：046-206-5611　FAX：046-253-7711
E-Mail：horigome@j-d.co.jp

山口A-10
東京A-10

開発促進 令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口出展 ~~山口会場に出展する機器~~　**東京出展** 東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

A. 身体障害（肢体不自由）

AI見守りカメラ

見守りを必要とする方を対象とし、駆け付ける必要のある動きをきっかけにメールでの通知を実施し、看護者が駆かつけ必要な看護を実施できる。

Chainos Japan 株式会社
埼玉県川口市南鳩ヶ谷2−13−6

希望する交流の内容
対象者にとって安心カメラのより有効な使い方をヒアリングしたいと思います。様々なユースケースがあると思うのでそれらのユースケースを開発に生かしたい。

Web交流の連絡先
担当部署：経営企画
担当者氏名：山田　静也
TEL：080-3024-7443　FAX：048-287-3685
E-Mail：yamada@chainos.jp

東京A-11

tatti-E(タッチ-E)

身体障害者の立位保持や、立位での様々な活動・参加を可能にする移動式の電動立位保持装置。

有限会社であい工房
広島県廿日市市宮内3300

希望する交流の内容
tatti-Eの施設・病院での有効活用について意見交換を希望します。施設・病院の立位訓練器具としてティルトテーブルが広く普及していますが、[変形・拘縮があるケースに対応しづらい]「離床できないと利用できない」「高額」「広い設置場所が必要」などの制約が伴います。tatti-Eはこれらの制約を解消することで、本来人間にとって座位や臥位と同じように必要な姿勢である立位を、24時間の姿勢ケアに取り入れるための環境構築をお手伝いします。例:①高齢者・障害者の入所施設やデイサービスにおける機能訓練やレクへの活用（実例あり）、②ICUにおける早期リハビリ、回復期における離床促進、ALS等の呼吸リハビリなどへの活用。

Web交流の連絡先
担当部署：—
担当者氏名：矢賀　洋
TEL：0829-39-0041　FAX：0829-39-8504
E-Mail：deai-fitters@mva.biglobe.ne.jp

山口A-11

自立支援の歩行補助車「ラクベン」

歩行訓練や体力の維持、トイレへの移動も簡単。使いやすさと軽量化を考えた歩行補助車です。使う人に合わせたまた、使う場所に合わせた歩行補助車を作ります。オーダーメイド福祉用具

テダスケ
富山県富山市婦中町羽根1272

希望する交流の内容
利用者側からの追加の希望があれば、改良の参考としたい。

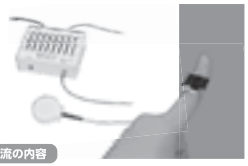
Web交流の連絡先
担当部署：代表
担当者氏名：中島　豊志
TEL：090-4320-0807　FAX：076-469-5055
E-Mail：toyoshi@tk9.so-net.ne.jp

東京A-12

ゆびレコリハビリモデル

中枢神経障害の感覚・運動機能障害に対する触知覚弁別フィードバック型感覚代償トレーニング装置。

株式会社テック技販
京都府宇治市大久保町西ノ端1-22



希望する交流の内容
京都府の補助金で開発中の装置です。脳卒中片麻痺患者さんの感覚障害の改善を目的に開発しています。脊髄・頸椎損傷の患者や脳腫瘍摘出による失調症状の患者さんにも効果があるようです。運動は目視で改善が判定できますが、感覚の改善は判定しにくいのが現状です。リハビリテーションの現場でも運動機能改善が中心となり感覚機能の改善まで行われることは余りありません。我々の提案する装置では、感覚機能改善を進めることが可能ですので、患者さんのQOL向上を目的としています。感覚機能が改善すると運動機能も向上しますので例えばスプーンしか使えなかった患者さんがお箸を使って食事ができるなど、巧緻性の向上が見込めます。

Web交流の連絡先
担当部署：技術企画室
担当者氏名：和田　潤
TEL：0774-48-2334　FAX：0774-48-2242
E-Mail：j.wada@tecgihan.co.jp

東京A-14

※変更する場合があります。

A. 身体障害（肢体不自由）

AI制御による表現力豊かに歌える歌唱型人工喉頭

事前の音符入力と呼気のAI制御により、好きな楽曲を表現力豊かに歌うことができる人工喉頭。

株式会社電制
北海道江別市工栄町8-13

開発促進

希望する交流の内容
・歌唱型人工喉頭の使用感、操作感、実際に歌唱できるかどうか
・音符入力装置による音符入力方法に関するご意見、ご要望
・呼気センサーと頸部へ固定するベルトの使用感
・呼気による歌唱表現付与の操作性

Web交流の連絡先
担当部署：商品開発室
担当者氏名：田森　雄介
TEL：011-378-9923　FAX：011-380-2123
E-Mail：yuusuke_tamori@dencom.co.jp

東京A-15

「ラ・クリップ」セパレートタイプ

「引く力」で楽に立ち上がりや移乗ができる、自立を支援する福祉用具がバージョンアップされました。

株式会社 東海技研工業
岐阜県中津川市中津川932-325

希望する交流の内容
使う方やその支援者の方の困り事や「あるといいな」「こんな道具が欲しい」などの声を聴かせていただきたいと考えています。また、日ごろお使いの福祉用具がどのように生活の中で役立っているかを教えていただければと願っています。そして、施設等で働く介護職員の方や医療・福祉関係の従事者の皆様に、実際に体験していただき感想やご意見をお伺いする機会になればと思っています。

Web交流の連絡先
担当部署：aidチーム
担当者氏名：山口　三恵
TEL：0573-65-6888　FAX：0573-65-0162
E-Mail：m-yamaguchi@tokaigikenkogyo.co.jp

東京A-16

お薬ボックスわたるくん

【お薬ボックスの使い方】 1. ハンドルを回す　2. 袋をカットする　3. そのまま飲める!　※繰り返し分包が入った段ボールをセットするだけで、すぐに使えます。

東洋電装株式会社
広島県広島市安佐南区緑井4丁目22-25

希望する交流の内容
お薬ボックスは軽くハンドルを回すだけで、1回分がパックされた繰り返し分包の一包分が出てきて、プラスチックの付属カッターで袋の口を開けるようにカットできます。開発は、上肢に麻痺のある方とのやり取りがきっかけに。麻痺があると薬を取り出すこともひと苦労です。そこで、どういう動作ならできるのか確認したところ、手首を動かすことならできるということで原型を考えるに至りました。脳血管疾患、交通事故、先天性の麻痺等、身体不自由な方は世の中にたくさんいます。お薬ボックスでリハビリしながらひとりでもお薬管理ができるようにしたいです。今後はクラウドシステム管理や自動まで考えておりますので宜しくお願い致します。

Web交流の連絡先
担当部署：介護医療システム事業
担当者氏名：生田　渉
TEL：082-831-3772　FAX：082-831-2588
E-Mail：ikuta.wataru@t-denso.com

山口A-13

NOAA MOBILE-X（ノア モバイル エックス）

超軽量小型折畳式で携行可能なハンドル型電動車いす。タクシーのトランクに楽々収納できます。

株式会社NOAA
東京都中野区鷺宮3-1-8

希望する交流の内容
長時間の歩行が困難な方々が気軽に旅行に出ることは容易ではありません。当該製品(NOAA　MOBILE-X)は、電車やタクシーに容易に車載携行できるので、旅をあきらめていた方々のお役立ちが可能です。東京都アクセシブルツーリーズム推進派遣事業の指導を受け、東京都ホームページにも紹介されています。高尾山にて行われた実証実験が映像に収録され、YouTubeに上がっています。ケーブルに乗って薬王院まで楽々な旅です。
https://www.youtube.com/watch?v=5oQK1RSW-c8
旅行関係者、バスタクシー、旅情報誌などお出かけ、旅に関係する方との交流を希望します。

Web交流の連絡先
担当部署：足の駅事業部
担当者氏名：西原　基成
TEL：03-5356-9333　FAX：03-5356-9334
E-Mail：nishihara@noaa.jp

山口A-14

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

~~山口出展~~　~~山口会場に出展する機器~~　東京出展　東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

A. 身体障害（肢体不自由）

楽匠プラスシリーズ用「ベッド操作アプリ」

電動ベッドを安全・安心・便利に操作できるiPad・iPhone用アプリです。

パラマウントベッド株式会社
東京都江東区東砂2丁目14番5号

希望する交流の内容
電動ベッドを使用している・使用したいというご利用者様に、現在の寝室環境に対するお困りごと・要望をヒアリングさせていただくとともに、iPadに接続した外部スイッチや音声でのベッド操作を実際にお試しいただき、ご評価・改善点に関して意見交換させていただきたいと思います。

Web交流の連絡先
担当部署：技術開発本部要素技術部
担当者氏名：下川　真人
TEL：03-3648-2700
E-Mail：app_support@paramount.co.jp

東京A-17

フォーケアウォッシュサポート(頭・手・足洗浄器)

持ち運べる昇降可動式洗浄器、施設や訪問(看護・介護・美容)ケア、家族による四肢洗浄～洗髪等の衛生保持器。

有限会社ビューティフルライフ
大分県大分市椎迫4組の2

希望する交流の内容
「モノが人に合わせる」をコンセプトに開発したウォッシュサポート(洗髪・四肢洗浄器)は、訪問理美容の洗髪や形成外科等でフットケア(足洗浄・足浴・治療)や手浴を目的に導入されています。身体衛生保持器として個人購入をされる方もおられ、今後の在宅ケアでの四肢洗浄や洗髪などでの必要性や需要、利用者の要望等の意見交換を希望します。現製品は洗髪や四肢洗浄を1台で可能にする機器ですが、今後の改良・開発では、洗髪や洗面を主体にした製品と足洗浄やフットケアを主体にした製品の2タイプに分ける考えをしています。在宅ケア時、家族による利用者の衛生保持器として希望する点や価格など具体的な要望や意見をお聞きしたい。

Web交流の連絡先
担当部署：管理部
担当者氏名：加嶋　忍
TEL：097-546-0666　FAX：097-546-6999
E-Mail：info@be-life.info

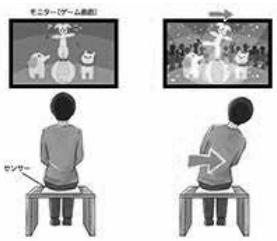
山口A-17

座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする"The e(座位)-balance trainer"

対象者が能動的に、また効率的かつ効果的に座位バランスを評価・練習できるゲーム型エクササイズシステム。

藤田医科大学
愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪1-98

開発促進



希望する交流の内容
開発システムに対するご意見を肢体不自由者ご本人や関係者の方々から広く頂戴したい。

Web交流の連絡先
担当部署：保健衛生学部リハビリテーション学科
担当者氏名：上原　信太郎
TEL：0562-93-9000
E-Mail：suehara@fujita-hu.ac.jp

東京A-18

室内用立上り機能付き歩行車(仮称)

高さ調整テーブル付き、立ち座り補助&自立歩行が可能な室内用歩行車。

フジホーム株式会社
東京都中央区新川2−12−15

希望する交流の内容
在宅介護及び施設内にて自立歩行時の課題や問題等について確認したい。

Web交流の連絡先
担当部署：代表取締役
担当者氏名：岡野　健
TEL：03-3523-1631　FAX：03-3523-1632
E-Mail：okano-ta@fujihome.toso.co.jp

東京A-19

※変更する場合があります。

A. 身体障害（肢体不自由）

スイッチ接続キット

意思伝達装置によるベッドの操作を可能にするための接続キットです。

株式会社プラッツ
福岡県大野城市仲畑2-3-17

希望する交流の内容
・製品のデモンストレーション
・製品についての改善点・要望等のヒアリング
・障がい者支援機器のニーズ集め
・給付販売に対応している販売店との関係性の構築

Web交流の連絡先
担当部署：営業企画課
担当者氏名：野口　愛海
TEL：092-584-3433　FAX：092-584-3436
E-Mail：manami.noguchi@platz-ltd.co.jp

山口A-18

歩けるスリング ぶらん歩

介護リフトの活用を飛躍的に発展させ、ご利用者の生活をアクティブな日常に変化できる「吊り具」として開発。

株式会社モリトー
愛知県一宮市東島町3−36

希望する交流の内容
ぶらん歩の使用感は個々人によって異なり、どの程度の乗り心地が要求されるのか？(クッション)様々な容態に応じて、一日何時間、何回、使用されるのか？ぶらん歩に乗ったまま、車いすへ移乗することについて使用者の意見をお聞きしたい。重度の方への装着の方法、手順についてこれまでの吊り具との比較、適合するサイズの基準設定について、S・M・Lで良いのかお聞きしたい。

Web交流の連絡先
担当部署：営業部
担当者氏名：加藤　良治
TEL：0586-71-6151　FAX：0586-72-4555
E-Mail：kato@moritoh.co.jp

山口A-02
東京A-13

重度障害者用意思伝達装置

文字等走査方式を基本とした意思伝達装置。スイッチを使った文字入力、メール環境制御を 行うことができます。

株式会社ユニコーン
広島県広島市安佐南区西原4丁目14−13

希望する交流の内容
身体が不自由であったり、知的能力が低いからといって、パソコンが使えないわけではありません。簡単なボタン操作で特定のアプリや情報にアクセスできるようにするだけで、多くの障がい者がパソコンを使えるようになるのです。障がい者が「自分で楽しむ・自分が働く」ということに対して積極的に取り組むことによって、自己効力感が高まりますし、自尊心も形成されます。私たちは、障がい者の自立支援に寄与するための製品づくりをしています。

Web交流の連絡先
担当部署：AT推進本部
担当者氏名：西尾　由紀子
TEL：082-850-1020　FAX：082-850-1024
E-Mail：nishio@e-unicorn.co.jp

山口A-15

仮)ペットを抱いて片手で走行できる ユニバーサルデザインの車いす

両手でも片手でもこぐことができます。昨年出展した「片手操作可能な車いすの駆動装置」の改良型です。

合同会社ライフスペース研究所
北海道札幌市南区川沿4条5丁目7-23

希望する交流の内容
車いすユーザーの方と、ペットを抱いたり物を持ったり手を自由にできる具体的な走行例を話題にして、QOLの向上をテーマに交流したい。昨年の出展機器におけるハンドリムの握り方の簡便な操作性と軽量化を図った改良点(特許登録済み)について、またユニバーサルデザイン(使い方の自由度・単純性)に基づいて両手でも片手でも操作できる「両手片手両用車いす」の共同開発について、ユーザーならびにメーカーの方々と意見交換したい。

Web交流の連絡先
担当部署：所長
担当者氏名：齊藤　徹
TEL：011-571-2585　FAX：011-571-2585
E-Mail：tsaitoh@email.plala.or.jp

山口A-04
東京A-20

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

~~山口出展~~　~~山口会場に出展する機器~~　東京出展　東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

B. 視覚障害

暗所視支援眼鏡

暗所視支援眼鏡は夜盲症の方に明るい視界を提供。

ViXion株式会社
東京都新宿区高田馬場二丁目14番2号

希望する交流の内容
夜盲症など暗いところの見え方でお困りの方に暗所視支援眼鏡をお試しいただきご意見を伺いたい。

Web交流の連絡先
担当部署:技術管理部　特許室
担当者氏名:滝沢　茂
TEL:03-6205-9548　FAX:03-6205-9568
E-Mail:shigeru.takizawa@vixion.jp

山口B-01
東京B-01

①音声標識ガイドシステムとシグナルエイド(歩行時間延長信号機用小型送信機)②多目的・多機能トイレ用音声案内装置「M.F.T. DUO(ユニットA・ユニットB)」③緊急情報システム「EIS(Emergency information system for Deaf people)」

①②視覚障がい者向け音声誘導システム(入口、エレベータ、トイレ等)③聴覚障がい者向け緊急情報システム。

株式会社エクシオテック
東京都北区十条台1-6-38

希望する交流の内容
視覚障がい者向けおよび聴覚障がい者向けの様々な支援システムを取り揃え、自治体関連、交通機関、金融機関など全国約3,800施設へ導入しておりますが、視覚および聴覚に障がいをお持ちの方、また幅広い施主様、事業者様の理想にまだまだお応えできていないかもしれません。現行製品の高性能化や新製品の開発に繋がるきっかけなど、皆さまの忌憚の無いご意見、ご要望をお待ちしております。

Web交流の連絡先
担当部署:情報通信事業本部 営業本部 ソリューション営業部 福祉グループ
担当者氏名:鈴木　智志
TEL:03-5948-4205　FAX:03-3909-7574
E-Mail:tomoyuki.suzuki@exeo-tech.co.jp

山口B-02
東京B-02

RETISSA Super Capture

網膜投影技術の焦点フリーとデジタルカメラの特性を融合して、網膜症の方も支援できる視覚機器。

株式会社QDレーザ
神奈川県川崎市川崎区南渡田町1−1

開発促進

希望する交流の内容
共同開発(研究)先の探索。国内外のユーザーに届ける際のパートナーの探索。出展機器を試用し評価のフィードバック出来る企業、団体、病院との交流。

Web交流の連絡先
担当部署:レーザデバイス事業部
担当者氏名:森野　誠治
TEL:044-333-3338　FAX:044-333-3308
E-Mail:retissa@qdlaser.com

東京B-03

弱視児用書見台タブレット台付

書見台にタブレットを固定できると、利便性がかなり高まる。

特定非営利活動法人・京 自助具館
京都府京都市下京区梅湊町83-1

希望する交流の内容
早くから弱視者はタブレットを利用しておられますが、デジタル教科書の導入に伴い同時に2台使うようになるのかどうかを、実際に使っていらっしゃる方のお話を聞きたいと思っています。先生も生徒さんも模索中だと思いますが、お一人でも多くのご意見感想、アイデアを集めたいです。

Web交流の連絡先
担当部署:製作部
担当者氏名:近藤　千津子
TEL:070-2662-3115
E-Mail:kyoto.jijyogu@gmail.com

山口B-05

※変更する場合があります。

B. 視覚障害

EyeNavi

周囲の情報提供と目的地までの道案内を行い、視覚障害者の行動に自由をもたらすスマートフォンアプリです。

株式会社コンピュータサイエンス研究所
福岡県北九州市八幡東区東田2−5−7

希望する交流の内容
開発中のβ版の試用による利用者からの感想の取得や、開発パートナーとの交流。

Web交流の連絡先
担当部署:本部
担当者氏名:高田　将平
TEL:093-482-6750
E-Mail:takata@computer-science.co.jp

山口B-03

パンダナビ

点字タイルに複数の黒いリングをはめ、その配置をスマホで読み取ることにより、視覚障害者を音声でガイドするしくみです。

しんしゅうアソシエイツ
山梨県北杜市小淵沢町1535-5

希望する交流の内容
すでに歩行者用のアプリはできています。タイルを登録するためのアプリ(プロトタイプ)も8月にできる予定です。パンダナビが使われるためには、パンダタイル(仮称)がインフラとして広く普及することが前提になります。そのためには、関連業界、障害者団体、官公庁が力をあわせて推進しなければなりません。私は、目の悪い個人にすぎません。でも、全国の点字ブロックがパンダタイルになる日を夢見ております。共感していただける皆さんのお力ぞえをおねがいします。

Web交流の連絡先
担当部署:代表
担当者氏名:芝田　真
TEL:0551-45-7339
E-Mail:inform@shinshu-a.com

東京B-04

読書支援サービス YourEyes

ユアアイズは、スマートフォンで本のページや印刷物を撮影する事でスムーズに内容を読み上げるサービスです。

株式会社ポニーキャニオン
東京都港区六本木1-5-17

希望する交流の内容
本サービスの使用感、改善案を含む様々な感想を、視覚に障害をお持ちの方、またそのサポートをする方から直接お伺いしたい。

Web交流の連絡先
担当部署:経営本部
担当者氏名:黒澤　格
TEL:070-6987-1878
E-Mail:itaru-k@ponycanyon.co.jp

山口B-06
東京B-05

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口出展　~~山口会場に出展する機器~~　東京出展　東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

C. 聴覚障害

（仮称）がん・がん検診に関する聴覚障害者向け情報提供システム

聴覚障害者の方々に、がんやがん検診に関する有益な情報を届けるためのシステムです。

株式会社アイエスゲート
東京都墨田区押上二丁目20番2-401号

希望する交流の内容
聴覚障害者の方々に、がんやがん検診に関する有益な情報を届けるためのシステムの事を多くの方々に知っていただければ幸いです。

Web交流の連絡先
担当部署：開発営業部
担当者氏名：シーズ・ニーズマッチング交流会担当者宛
TEL：03-5879-4527　FAX：03-5879-4528
E-Mail：seeds-needs_info@isgate.co.jp
東京C-01

字幕電話シーコミュ

聴覚障害者向け電話リレーサービスである文字付き電話。聴覚障害者が掛け先の応答を文字で見ることが可能。

株式会社アイセック・ジャパン、合同会社シーコミュ
沖縄県うるま市字川崎468番地

希望する交流の内容
聴覚障害者の利用希望者に実証実験のモニターとして参加してもらいたい。ただ、今までと違い定額の利用料をお願いします。

Web交流の連絡先
担当部署：本社
担当者氏名：一瀬　宗也
TEL：098-972-6888　FAX：098-987-5627
E-Mail：m.ichise@iscec j.co.jp
山口C-01
東京C-02

車載型ヒアリングループシステム

（バス・自動車等）に設置することで、難聴者の社会参加を促進し、生活の利便性が高まる。

(株)ソナール
京都府京都市下京区中堂寺粟田町93

希望する交流の内容
全国の公共施設をはじめ、あらゆる場所に「聞こえの支援」は必要です。ヒアリングループは難聴者・聴覚障害者の聞こえを社会インフラとして支援する設備です。障害者支援の関係者、施設の運営管理者、施設設計者など担当者にヒアリングループの有用性を認識していただきたい。

Web交流の連絡先
担当部署：営業技術
担当者氏名：緒方　正平
TEL：075-315-5561　FAX：075-315-5625
E-Mail：ogata@sonar-loop.jp
山口C-02
東京C-03

(仮称)Ultrasonic speaker system.

音声情報・標識情報を認識しづらい方の改善に役立ち、様々な応用が期待されるスピーカシステムです。

ダイワ株式会社
堺市北区百舌鳥梅北町5−427

希望する交流の内容
基本システムは開発済みです。本交流会でデモンストレーションを行い、ご意見・ご要望を頂き、実際の利用用途にマッチした改善を重ねて行きたいと考えています。

Web交流の連絡先
担当部署：総務
担当者氏名：開発担当
TEL：7056672320
E-Mail：info@daiwa-kabu.co.jp
東京C-04

※変更する場合があります。

C. 聴覚障害

シルウォッチシステム

インターホンの音を送信器で感知して無線電波を送信し、腕時計型受信器で振動と文字で来客情報を伝えます。

株式会社東京信友
東京都新宿区富久町16-15

希望する交流の内容
シルウォッチシステムを知らないお客様へ知っていただきたいということと、現状の商品でお客様からの改善要望や他の商品開発に向けてのニーズなどを把握したいと考えています。

Web交流の連絡先
担当部署：営業部
担当者氏名：田家　慎平
TEL：03-3358-8000　FAX：03-3358-6330
E-Mail：taie@shinyu.co.jp
東京C-05

「こえとら」アプリ

NICTの高精度な音声認識技術により聴覚障害者と健聴者との会話を支援するスマートフォン向けアプリ。

株式会社フィート
東京都新宿区大久保1-1-7

希望する交流の内容
聴覚障害者会話支援アプリ「こえとら」及び「SpeechCanvas」の周知拡大と、ご利用対象者の生活の質を高める意見収集を目的とした交流を希望します。また、雇用企業、聾学校や特別支援学校ほか教育機関、自治体福祉支援、聴覚障害者支援センター、及び、リハビリテーションセンター等の関係機関において、効果的な利用方法などについて研修会実施も可能です。

Web交流の連絡先
担当部署：総務グループ
担当者氏名：鈴木　麻友美
TEL：03-5287-7391　FAX：03-3204-5984
E-Mail：exhibit-staff@feat-ltd.jp
東京C-06

FILLTUNE CLEAR

平成25年障害者自立支援機器等開発促進事業で採択・実証された感音性難聴補聴具のフルワイヤレス・モデル。

FILLTUNE株式会社
東京都港区南青山4丁目15-5

希望する交流の内容
弊社製品で音楽を聴いたり日本語100語音認知検査を行ったりして、各利用者の弁別能がどこまで回復できるのかを体験していただき、意見交換を通して子供の言語習得、大人の社会参加を可能にするための更なる改良に役立てたい。また、使用感や取り扱い方法について率直な感想をうかがうことで、日常的に快適に装用いただける製品の開発に役立てたい。

Web交流の連絡先
担当部署：経営企画担当
担当者氏名：並木　素子
TEL：03-5770-5823
E-Mail：namiki@filltune.com
東京C-07

リスニングモニター comuoon pocket

卓上型対話支援機器コミューンで培った高精細音響技術SonicBrainRを採用したポケット型集音器。

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
東京都港区海岸1-9-11

希望する交流の内容
ご来場者へ試作機を活用しての試聴とアンケートへのご回答をお願いしたい。希望された方へ検証協力の募集を実施したいと考える。

Web交流の連絡先
担当部署：コーポレート戦略本部
担当者氏名：石川
TEL：070-6471-9336
E-Mail：sa-ishikawa@u-s-d.co.jp
東京C-08

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

~~山口出展~~　~~山口会場に出展する機器~~　**東京出展**　東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

D. 高次脳機能障害(失語症等)

VR型半側空間無視リハビリ支援システム Vi-dere(ウィデーレ)

VR型半側空間無視リハビリ支援システム(Vi-dere)は三次元的無視領域の評価とADLを含めた介入機能を搭載しています。

シスネット株式会社
大阪府大阪市北区太融寺町2-18

開発促進

希望する交流の内容
高次脳機能障害(特に視覚認知機能障害の方)や、高次脳機能障害を支援する立場のセラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医師)の方に対して、機器の体験を通して、ご意見や現場で困っている事などをお聞きし、今後の製品としての機能向上につなげたいと考えております。

Web交流の連絡先
担当部署:ヘルスケア事業部
担当者氏名:諸藤　久和
TEL:06-6364-0554　FAX:06-6364-2759
E-Mail:morofuji.hisakazu@sysnet.co.jp

山口D-01
東京D-02

意見交換

自立支援機器を使用される方と開発される企業との意見交換。

一般社団法人日本言語聴覚士協会
東京都新宿区新小川町6-29

希望する交流の内容
自立支援機器を使用される方と開発される企業との意見交換。コミュニケーション障害による生活のしづらさの解消についての相談なども行います。

Web交流の連絡先
担当部署:職能部門総括
担当者氏名:内山　量史
TEL:0553-26-4126　FAX:0553-26-4366
E-Mail:uchiyama@kasugai-reha.com

東京D-01

E. 知的障害

卓上型剥線機(はくせんき)

卓上に置き、障がい者が座って剥線作業が出来、特に障がい者向けとして挿入部を含め安全な機械です。

NPO法人廃電線リサイクルキャンプ
千葉県千葉市稲毛区山王町335-1

希望する交流の内容
廃電線から銅資源リサイクルと知的障がい者の就労支援を目的として、NPO廃電線リサイクルキャンプが、廃電線を事前に短尺化や直線化の前処理ををし、剥線作業は知的障がい者が機械の操作をしたり排出した銅と樹脂を分別する作業を行うモデルを立ち上げたので、このモデルを広げたい。

Web交流の連絡先
担当部署:経営
担当者氏名:中根　昭
TEL:043-304-7511　FAX:043-304-7512
E-Mail:akira@sanritsu-machine.com

東京E-01

※変更する場合があります。

E. 知的障害

ファンタスティックeyes

センサータグ×無線通信×クラウドAIで位置・動態情報をリアル音声通知する介護見守りシステムです。

株式会社ファンタスティック
千葉県千葉市中央区登戸1-23-16

希望する交流の内容
これまでの介護・医療施設の見守りシステムには、ナースコール離床マットセンサーの音による通知方式、壁固定型式ドップラーセンサーによる状態通知方式が主流です。当社介護見守りシステム『ファンタスティックeyes』は、今までにない新方式で、要介護者に装着されたIoTセンサータグから無線ネットワークを通じ、クラウド上でAI判定した位置情報(居室・トイレ・玄関・廊下等)や動態(深睡眠・浅睡眠・寝返り・起床等)を24H365日・リアルタイムに音声とデータで通知します。オムツセンサーやバイタル(体温・脈拍・心拍)センサーも現在開発中です。

Web交流の連絡先
担当部署:営業企画部
担当者氏名:加藤　雅敏
TEL:043-330-3405　FAX:043-243-1413
E-Mail:m.katou@fantastic-care.co.jp

東京E-02

介護、グループホーム向けスマートロック

鍵のシェアに特化した、鍵の紛失、複製、台帳管理などなく、施設のセキュリティが向上します。

モノコトデザイン株式会社
東京都中央区日本橋本町3−3−6

希望する交流の内容
現在販売中のスマートロックの拡張機能により、これまでの鍵の紛失や複製の防止、鍵の貸し出し台帳管理だけでなく、介護ホームの玄関や入所者個室ドア、介護施設の倉庫など、不特定多数の方が出入りする箇所の入退出記録の透明化や、施設管理者への夜間通用口の異常アラームのリアルタイム通知など、介護施設の課題や実情に即した利用シーンについて、また、宅配ボックス活用による置き配達により、非接触、職員不在時でも配達してもらえることで、利便性が向上するような荷物(日用品、お薬など)の受け取り需要の可能性につきましても、是非、情報交換の機会を頂戴できればと考えております。

Web交流の連絡先
担当部署:経営
担当者氏名:谷口　勝男
TEL:080-5492-8755　FAX:03-6202-7507
E-Mail:k.taniguchi@monokotodesign.co.jp

山口E-01

F. 精神障害(発達障害を含む)

精神障害者の体調悪化兆候検知システム HaCha

パソコンやスマートフォンで障害者の勤怠の乱れにつながる体調悪化傾向を検知して、早期対応することにより安定的な就労につなげるAIシステム

Zero To Infinity株式会社
東京都新宿区新宿2丁目12番13号　新宿アントレサロンビル 2階

希望する交流の内容
実証実験を3か所で展開しているが、使いやすいデザインや望まれるアウトプット情報などをより突き詰めていきたい。もっと多くの実証実験先を探したい。

Web交流の連絡先
担当部署:障害者就労AI開発
担当者氏名:佐川　亜希
TEL:090-9112-3419
E-Mail:sagawa@zti.co.jp

山口F-01
東京F-01

開発促進　令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

~~山口出展~~　~~山口会場に出展する機器~~　東京出展　東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

F. 精神障害（発達障害を含む）

Time Tapper

タブレット画面に1日のToDoリスト一覧が表示されチェックとアラームの両方で忘れ防止を防ぐ自立支援システム。

株式会社PRIDIST
神奈川県平塚市宝町11-1

希望する交流の内容
本システムが介助を希望する方に対し効果的で、自立支援に繋げることが可能なのか、また介助者にとっても負担軽減になるのかどうかを現場の目線でご意見をお聞きしたい。インターフェースや操作性も問題なく分かりやすく実用的か。介護者がいなくても一人で理解し操作できるか。

Web交流の連絡先
担当部署：営業部
担当者氏名：武藤　優貴
TEL：0463-23-7830
E-Mail：muto@pridist.com

東京F-02

口腔ケア支援ソフト「はっするでんたーFor iPad」

イラストや動画を用いて治療の不安や恐怖を減らすことを目的とした、口腔ケア支援ソフト。

株式会社マイクロブレイン
埼玉県さいたま市見沼区大和田町1-958-1

希望する交流の内容
障害者（自閉症児や発達障害など）の歯科治療においては三次医療機関等の専門病院に患者が偏り、地域の歯科診療では治療が受けづらくなっています。専門の歯科病院では、絵カードを使って治療の先の見通しを付けることが治療による不安を軽減しています。この「はっするでんたー」はiPadのカメラ機能を使用して、オリジナル絵カードを作成することで、その複数枚のカードをセットとして患者に適したカードセットを作成できます。全国の専門医でも現在は活用されており、地域の歯科診療機関へ販路を拡大していきたいと思っています。

Web交流の連絡先
担当部署：本部
担当者氏名：金子　訓隆
TEL：048-687-9841　FAX：048-687-9716
E-Mail：noritaka@microbrain.jp

山口F-02
東京F-03

G. 障害児（身体・知的・精神）

可愛い！あったらいいな！の声から生まれた服

「障がいをもった子どもの洋服は可愛いものがあまりない」そんな言葉から生まれた可愛く機能的なお洋服。

株式会社　岩多屋
山口県山口市小郡上郷3541-3

希望する交流の内容
障がい、医療ケア児の親御様に意見、試着して頂き開発している服ですが症状は様々なのでより多くの方の意見をお聞きし、より良い形に改良しあったらいいなを形にできるよう意見をお聞きしたい。

Web交流の連絡先
担当部署：福祉事業部山口
担当者氏名：原田　麻衣
TEL：083-972-2037　FAX：083-973-1745
E-Mail：h_suwazono@iwataya-net.co.jp

山口G-01

※変更する場合があります。

G. 障害児（身体・知的・精神）

自立支援型 介護見守りロボット A.I.Viewlife

介護現場を「見える化」することで入居者様の自立支援促進と重度化を防止、現場の生産性の向上に役立ちます。

エイアイビューライフ株式会社
東京都千代田区隼町2番13号

希望する交流の内容
1. モニター貸出し（短期貸出）、2. 障碍者施設での活用用法

Web交流の連絡先
担当部署：事業推進課
担当者氏名：横沢　俊幸
TEL：03-6261-6327　FAX：03-6261-6328
E-Mail：t.yokosawa2525@aiview.life

山口G-02

テンプラー筋電位電動車いすコントローラ

テンプラーシステム使った重度の四肢障害者用筋電位電動車いすコントローラ WH1。

システムデザイン・ラボ
奈良県奈良市西大寺小坊町4-5

希望する交流の内容
テンプラーシステムは顎の動きを検出してモノを操作するシステムです。電極の配置もラフで調整の必要性もわずかです、また乾式電極でランニングコストもかからない優れた特性を持っています。現在、CPの2名がこのステムで電動車いすの操縦を練習しています。
うち1名は緊張も入らずにこのシステムでパソコンやスマホを日常的に操作しています。このようにテンプラーシステムは優れたシステムですが筋電位を扱った支援者や経験した当事者が非常に少ない状況です。多くの人に筋電位を体験して筋電位がどのようなものかを知ってもらい、フィッティングができる支援者を増やしたいと思っています。

Web交流の連絡先
担当部署：開発
担当者氏名：杉本　義己
TEL：0742-49-3990　FAX：0742-47-0520
E-Mail：ac@sdl.to

山口G-04
東京G-01

シャワーチェア（仮）

障がい児用シャワーチェア。シート部を防水クッションにすることで防カビ・座位保持性を高めています。

タカノ株式会社
長野県伊那市西春近下河原5331

開発促進

希望する交流の内容
障がい児用のシャワーチェアのニーズ。機能と価格のバランス。

Web交流の連絡先
担当部署：開発課
担当者氏名：末田　大二郎
TEL：0265-98-5126　FAX：0265-72-3203
E-Mail：sueda@takano-net.co.jp

東京G-03

上肢欠損児の両手動作を促進する福祉用具

上肢欠損児の両手動作を促進するための筋電義手及び自助具です。両手による動作の可能性が広がります。

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所
兵庫県神戸市西区曙町1070

開発促進

希望する交流の内容
小児用の筋電義手があることを知らない潜在的なユーザ（医師・作業療法士・市町村の窓口担当者・当事者の親族等）ならびに国の設計制度に関わる方々に対して、現状をお伝えしたい。

Web交流の連絡先
担当部署：ロボットリハビリテーションセンター課
担当者氏名：石井　寛隆
TEL：078-925-9283　FAX：078-925-9284
E-Mail：info00@assistech.hwc.or.jp

東京G-02

開発促進 令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

~~山口出展~~ ~~山口会場に出展する機器~~　**東京出展** 東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

出展機器

G. 障害児(身体・知的・精神)

らくらくターン

方向転換しやすく小回りの利く小児用6輪歩行器、可愛いデザイン、高さと幅調整可能、超軽量マグネシウム製。

株式会社マクルウ
静岡県富士宮市山本286−1

希望する交流の内容
障害児の保護者、PT/OT等専門家への商品のご紹介、フィードバック(使い勝手など)をいただける交流を希望します。

Web交流の連絡先
担当部署:常務取締役
担当者氏名:安倍　信貴
TEL:0544-24-5900　FAX:0544-29-6320
E-Mail:n_abe@macrw.xsrv.jp

東京G-04

生活機能発達支援プログラム Life Skills(ライフスキル)

生活・社会機能を身につける方法を提供するクラウド・サービス。専門家の助言DBと認知トレーニングで構成。

レデックス株式会社
東京都町田市南つくし野1-3-6

希望する交流の内容
障がいをもつ子どもに関わる施設の方々に、本サービスをより有用なものに改善するためのご意見をいただきたい。また、本サービスと組み合わせて、個別相談に対応したり、オーダーメイドの発達支援プログラムを作成したりする人的サービスの構築を検討しており、それに協力していただける団体等を見つけたい。

Web交流の連絡先
担当部署:代表
担当者氏名:五藤　博義
TEL:042-799-0269　FAX:042-799-0741
E-Mail:info@ledex.co.jp

山口G-03
東京G-05

H. その他

動的座位バランス計測装置

運動機能低下などによる歩行時転倒リスクの予測/車いす生活での作業時の体幹バランス測定など。

秋田未来株式会社
秋田県にかほ市院内字カナヤ16-2

希望する交流の内容
出展装置を実際に使っていただき、使いやすさや機能をプラスして欲しいなどの装置完成に向けた利用者の率直な意見を聞きたい。

Web交流の連絡先
担当部署:技術営業
担当者氏名:六平　澄人
TEL:0184-74-3090　FAX:0184-74-3091
E-Mail:musaka@a-mri.jp

山口H-01
東京H-01

※変更する場合があります。

H. その他

マッスルスーツEvery

腰部の補助に特化し、電力不要で使う場所や稼働時間の制限がない、装着型の作業支援ロボット。

株式会社イノフィス
東京都新宿区神楽坂4-2-2

希望する交流の内容
介護者の腰を守る為に多くの方にご利用いただきたいです。そこでマッスルスーツをどんな場面(シーン)でご使用いただけるか、また改善要望などのニーズを把握したいと思っております。可能であれば主に介護職員の方にご使用いただき、ご意見をフィードバックしていただきたいです。

Web交流の連絡先
担当部署:営業企画部
担当者氏名:長澤　幸佑
TEL:03-5225-1083　FAX:03-6285-2545
E-Mail:k-nagasawa@innophys.jp

東京H-02

パワースーツ

リハビリ初期、もしくは後遺症にて歩行が困難な方に装着し、歩行介助を行う器機を扱う会社です。

K&K international Inc
東京都港区南麻布3−20−1

希望する交流の内容
利用者からのフィードバック。

Web交流の連絡先
担当部署:代表
担当者氏名:木村　智彦
TEL:080-7739-4445　FAX:03-3783-5386
E-Mail:kentointernational@gmail.com

山口H-02

アザラシ型ロボット・パロ

アザラシ型ロボット・パロとのふれあいによるリハビリテーションの研究。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
茨城県つくば市梅園1-1-1

希望する交流の内容
アザラシ型ロボット・パロは、ふれあう人の心身や脳に働きかけるバイオフィードバック機能により、心の安静化や、元気付け・動機付けし、心身の状態の改善や、リハビリもできることが臨床研究により示されている。パロへ注視による半側空間無視のリハビリ(脳卒中後、「音読」を対照群にしたランダム化比較試験(RCT)による結果)、パロを抱っこ・なでることでファイン・モーター・スキルの向上、パロへの話しかけ・歌いかけによる言語機能や嚥下機能の向上、パーキンソン病者の安静時振戦の改善、ハンチントン病者の不随意運動の改善、知的障害者や精神障害者の社会スキルの向上等が報告されており、パロにふれながら参加者と意見交換する。

Web交流の連絡先
担当部署:人間情報インタラクション研究部門
担当者氏名:柴田　崇徳
TEL:029-862-6586
E-Mail:shibata-takanori@aist.go.jp

山口H-04
東京H-03

Aiserv排泄検知システム

ウエアラブルセンサで「排泄検知」をサポートします。

新東工業株式会社
愛知県豊川市穂ノ原三丁目1番地

希望する交流の内容
排泄ケアでお困りのご利用者のご意見をいただきたいです。

Web交流の連絡先
担当部署:新規事業プロジェクト推進 アイサーブ事業グループ
担当者氏名:松本　光泰
TEL:0533-95-4020　FAX:0533-85-3342
E-Mail:info-aiserv@sinto.co.jp

東京H-04

開発促進 令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口出展 ~~山口会場に出展する機器~~　東京出展 東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

H. その他

染め出しライト

染め出しライトは歯垢着色液を必要としない光を当てるだけの新しい歯垢の可視化方法です。

歯っぴー株式会社
熊本県熊本市北区鶴羽田町1041番地57

希望する交流の内容

ケアマネージャーや介護スタッフ、リハビリなど口腔状態の知識を持たない人でも誤嚥性肺炎などの口腔の介入が必要と考えている方との交流や意見交換をしたい。 また、口腔機能向上に注力している、もしくはこれから注力したいと考えている方と交流や意見交換を行いたい。

Web交流の連絡先

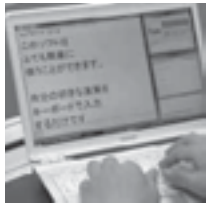
担当部署：—
担当者氏名：小山　昭則
TEL：050-5374-4859
E-Mail：Akinori.Oyama@100years.life

山口H-07

自分の声ソフトウェア ボイスター

ボイスターは、声を失われる人に向けた「自分の声」で語り掛けるための音声合成ソフトウェアです。

株式会社ヒューマンテクノシステム
東京都中央区日本橋人形町1-6-10



希望する交流の内容

・ALSや喉頭がんをはじめ、様々な発話障がいを伴う当事者に対して本製品を紹介し、個別のニーズに関するヒアリング・意見交換を行う。
・医療・リハビリ・介護スタッフの方に対し、現場におけるニーズ等に関するヒアリング・意見交換を行う。
・現状製品について、製作過程やデモンストレーション、利用事例等を交えた紹介を行い、改善要望やその実現性について意見交換を行う。

Web交流の連絡先

担当部署：プロダクツ事業部
担当者氏名：渡辺
TEL：03-5847-1206　FAX：03-5847-1207
E-Mail：voistar@kkhts.com

山口H-05

Liberty DECALT(リバティデカルト)

LibertyDECALTは排尿、排便をセンサーが検知。自動で排泄物を吸引、陰部洗浄、送風乾燥をし、清潔な状態に保ちます。

株式会社リバティソリューション
島根県松江市西嫁島1丁目2番7号

希望する交流の内容

LibertyDECALTはカップユニットに内蔵されたセンサーが排尿・排便を検知し、自動運転を開始する機能を搭載。肌に直接装着するカップユニットの素材は人口乳房にも使用されている素材で、粘着性があり長時間にわたり装着しても体に害はなく、尿漏れ、便漏れを解消した。今後最も適した製品づくりの為に、装着時の尿漏れ、水漏れなどの有無や感触、一方で介護者の利用をする上の利便性等の利用者のご意見を積極にお聞きしたい。

Web交流の連絡先

担当部署：経理部
担当者氏名：福間　英夫
TEL：0852-61-3999　FAX：0852-61-2399
E-Mail：fukuma@liberty-s.co.jp

山口H-06

※変更する場合があります。

開発促進 令和3年度　開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口出展 ~~山口会場に出展する機器~~　**東京出展** 東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。 併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。 出展企業等の交流は、Web 交流プラットフォームを活用してください。

行政・開発支援団体・当事者団体等

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

東京都新宿区西早稲田2-18-2
担当部署：事業部
担当者氏名：達坂忠
TEL：03-3200-0011(代)　FAX：03-3200-7755(代表)
E-Mail：aisaka-t@jfb.jp／jigyou@jfb.jp

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

東京都目黒区緑が丘2-15-14 村上ビル101
担当部署：事務局
担当者氏名：吉谷香織
TEL：03-6421-4588　FAX：03-6421-4665
E-Mail：yoshitani@zensekiren.jp

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F
担当部署：情報文化部
担当者氏名：小川光彦
TEL：03-3225-5600（※極力メールまたはFAXでお願いいたします）
FAX：03-3354-0046
E-Mail：zennancho@zennancho.or.jp／
VZQ03313@nifty.ne.jp（問い合わせ、掲示板通知用）

一般社団法人 日本ALS協会

東京都千代田区九段北1丁目1番7号 カーサ九段405
担当部署：本部事務局
担当者氏名：岸川忠彦
TEL：03-3234-9155　FAX：03-3234-9156
E-Mail：jalsa@alsjapan.org

ポリオの会

東京都台東区三ノ輪1-6-5-602 小山方ポリオの会
担当者氏名：小山万里子
TEL：03-3872-7359　FAX：03-3872-7359
E-Mail：koyama@mrg.biglobe.ne.jp

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

東京都豊島区目白3-4-3
担当者氏名：佐藤加奈
TEL：03-3565-3399　FAX：03-3565-3349
E-Mail：jfod@nissinren.or.jp

特定非営利活動法人 日本失語症協議会

東京都杉並区久我山2-10-23 園田方
担当者氏名：園田尚美
TEL：03-5335-9756　FAX：03-5335-9757
E-Mail：office@japc.info

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

東京都新宿区早稲田町67番地 早稲田クローバービル3階
担当部署：事務職
担当者氏名：機間信市
TEL：03-5287-1140　FAX：03-5287-1141
E-Mail：info@jdba.or.jp

ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会

担当部署：事務局
担当者氏名：増澤高志
TEL：072-444-8814
E-Mail：JZA00265@nifty.ne.jp

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー20F
担当部署：イノベーション推進部プラットフォームグループ
担当者氏名：只野肇、白井総一郎、小松奈央
TEL：044-520-5175　FAX：044-520-5178
E-Mail：fukushi@nedo.go.jp

国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)

東京都小金井市貫井北町4-2-1
担当部署：デプロイメント推進部門　情報バリアフリー推進室
TEL：042-327-6022　FAX：042-327-5706
担当者氏名：武井康人
E-Mail：kakusa@mi.nict.go.jp

国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)

東京都千代田区五番町7 K's五番町 JST東京本部別館
担当部署：起業支援室
担当者氏名：下田修
TEL：03-6380-9014
E-Mail：entre@jst.go.jp

厚生労働省

東京都千代田区霞が関1-2-2
担当部署：社会・援護局 障害保健福祉部
TEL：03-5253-1111(代)

公益財団法人 テクノエイド協会

担当部署：企画部
担当者氏名：宇田川、根石、五島
TEL：03-3266-6883　FAX：03-3266-6885
E-Mail：shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

シーズ・ニーズマッチング交流会 2021　併催セミナープログラム（予定）

令和３年９月29日現時点の予定となります。
変更する場合があることにご留意ください。

Web 開催

令和３年 10 月１日（金）～ 令和４年１月 31 日（月）（４ヶ月間）

９：00 ～ 17：00

Web 交流プラットフォームを活用し、期間中は常時交流が可能です。

併催セミナーは毎月更新いたします。

http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20

（常時配信）

1. **シーズ・ニーズマッチング交流会の実施（Web を活用した交流の進め方）**
   テクノエイド協会　宇田川竜吾
2. **自立支援機器における現状と課題**
   厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
   福祉工学専門官　田上未来　氏
3. **支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告**
   ～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～
   一般社団法人　日本リハビリテーション工学協会

（定期配信）月によって視聴内容は異なります

【10 月１日～ 10 月 31 日　配信予定（各 20 分）】

1. **視覚・聴覚障害者用支援機器への期待**　特別講演
   筑波技術大学保健科学部情報システム学科　准教授　小林　真　先生
2. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告①**
   「障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究」
   （厚生労働科学研究費　障害者政策総合研究事業）
   東北大学大学院医工学研究科　教授　出江紳一　氏
3. **障害者自立支援機器等開発促進事業**
   厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
   福祉工学専門官　田上未来　氏

【11 月１日～ 11 月 30 日　配信予定（各 20 分）】

4. **３Dプリンターで造る自助具とリハビリ器具の可能性**　特別講演
   工房 SERA　代表　稲住義憲　氏
5. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告②**
   「障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実践する人材の育成プログラム開発のための研究」（厚生労働科学研究費　障害者政策総合研究事業）
   東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授　二瓶美里　氏
6. **NEDO 福祉事業のご紹介　～ 福祉用具実用化開発の支援 ～**
   NEDO イノベーション推進部 主幹　只野　肇　氏

【12 月１日～ 12 月 28 日　配信予定（各 20 分）】

7. **意思伝達装置の利用にあたり**　特別講演
   中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科　教授　井村　保　先生
8. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告③**
   「リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発」
   （厚生労働行政推進調査事業費）
   国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長　井上剛伸　氏
9. **情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度のご案内**
   NICT 情報バリアフリー推進室 室長　齋田信二郎　氏

【１月４日～１月 31 日　配信予定（各 20 分）】

10. **活動行動範囲を広げよう**　特別講演
    日本医療科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科　教授　小林　毅　氏
11. **厚生労働省　支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④**
    「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に資する出口を想定した開発プロセスに関する調査研究」（障害者総合福祉事業）
    一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員　八木雅和　氏
12. **JST の産学連携事業と福祉機器開発事例**
    JST 企業支援室　下田　修　氏

山口会場

令和３年 10 月９日（土）～ 10 日（日）（２日間）

講演開始 11:00 ～ 16:20 ／ 10:00 ～ 16:00

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。

オンラインでも視聴
(https://us06web.zoom.us/j/86133851012)

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

1日目

AM

1. **11:00-12:00　(60 分)**　基調講演
   「歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発」
   国立大学法人 名古屋工業大学
   大学院 つくり領域　教授　佐野明人　先生

PM

2. **12:10-12:30（20 分）**
   日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
   代表世話人　昭和病院　田中　恩　氏

※3. **13:30-14:30（60 分）**
   （セミナー）バイオデザイン手法の紹介
   株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生

4. **14:40-15:10（30 分）**
   つながる、たのしむ、相談できる　スマホでつむぐ重症児支援の未来　下関発！
   一般社団法人オンライン臨床　代表理事
   びぃどろ　代表
   言語聴覚士　長岡菜都子　氏

5. **15:20-16:20（60 分）**
   特別シンポジウム『好事例表彰の受賞とその後』　特別シンポジウム
   NPO 法人 iCare ほっかいどう　佐藤美由紀　氏
   かえるキッズのお助け隊　大泉えり　氏
   有限会社オフィス結アジア　高橋宜盟　氏

2日目

AM

6. **10:00-11:00（30 分 ×２者）**
   福祉機器の利用と開発の状況報告
   日本ＡＬＳ協会　岸川忠彦　氏
   九州工業大学 学生団体 すぐ創る課　山﨑　駆　氏

7. **11:10-11:40（30 分）**
   障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
   株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部　加藤善崇　氏

PM

◎ **13:00-16:00**
   事務局だより
   ○Ｗｅｂ交流プラットフォームの活用方法の紹介など
   ○常時配信と今月の定時配信の内容をリアルタイム配信
   公益財団法人テクノエイド協会

※ 8. **13:00-16:00（180 分）**
   （ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ
   株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生
   東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員（理学療法士）　柿花隆昭　先生

東京会場

令和３年 12 月７日（火）～８日（水）（２日間）

９：00 ～ 17：00　／　９：00 ～ 17：00

東京都立産業貿易センター浜松町館　２階展示室

〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩２分
JR「浜松町駅」北口より徒歩５分
東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩５分
都営地下鉄「大門駅」B2 出口より徒歩７分
※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。

オンラインでも視聴
(https://us06web.zoom.us/j/89473466124)

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

1日目

AM

1. **11:00-12:00　(60 分)**　基調講演
   「障害者の自己決定」
   土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事
   浅野史郎　先生

PM

2. **13:00-14:00（30 分 ×２者）**
   福祉機器の利用事例とニーズの発信
   全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　小川光彦　氏
   日本視覚障害者団体連合　逢坂　忠　氏

3. **15:00-16:00（20 分 ×３者）**
   厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告①
   網膜投影型視覚支援機器の開発
   株式会社 QD レーザ
   AI 制御による表現豊かに歌える歌唱型人工喉頭の開発
   株式会社電制
   障がい児用シャワーチェアの開発
   タカノ株式会社

2日目

AM

4. **10:00-11:00（30 分 ×２者）**
   出展企業による福祉機器開発の現状報告
   国立大学法人 大阪大学　横田純己　氏
   株式会社オレンジアーチ　宇田竹信　氏

5. **11:10-11:40（30 分）**
   失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（仮称）
   一般社団法人日本言語聴覚士協会　白波瀬元道　氏

PM

6. **12:30-（20 分 ×３者）**
   厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告②
   聴覚視覚発話刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発
   シスネット株式会社
   座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e（座位）-balance　trainer" の開発
   学校法人藤田医科大学
   障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手と自助具
   社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

※7. **14:00-17:00（180 分）**
   （ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ
   株式会社ライフトゥデイ 代表取締役（医師）　原　陽介　先生
   東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員（理学療法士）　柿花隆昭　先生

※）視聴（参加）には、別途事前申し込みが必要となります。詳しくは協会ホームページをご確認ください。

みんなで考えよう！ 障害者自立支援機器

「シーズ・ニーズマッチング交流会 2021」
～ 作る人と使う人の交流会 ～
「出展企業等」募集要項

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器」。）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものです。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、開発の早い段階からユーザや支援者の「ニーズ」と、開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、開発者はシーズ志向型にならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、障害福祉現場の課題やニーズを的確に捉えて、支援機器を開発することが重要となります。

この交流会では、ユーザ側が持つ「ニーズ」と開発側が持つ「シーズ」のマッチングを目的とした支援機器に関する交流会を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作器等（既に実用化した機器も可。）を用いて想定するユーザと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することと致します。

交流会へ出展（無料）を希望する方は、本募集要項をご留意いただき、所定の期日までに**「出展申込」**を行ってください。※今年度よりＷｅｂからの出展申込となりました。

なお、出展希望が多数の場合には、障害の種別や機器の分野等、全体のバランスを勘案することとし、出展をお断りする場合があり得ることを予めご了承ください。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者　等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関　等

＜ **Web開催（4カ月）** ＞ ※Ｗｅｂ交流プラットフォームの利用を想定しています。

■ 開催日　**令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月）**
■ 時　間　９：００－１７：００
■ サイト　**テクノエイド協会のホームページ内　※動画等の発信とオンラインを活用して交流**

＜ **山口会場（2日間）** ＞

■ 開催日　**令和3年10月9日（土）～ 10日（日）**
■ 時　間　１０：３０－１７：００ ／ ９：００－１７：００
■ 会　場　**海峡メッセ下関（展示見本市会場）**
※第１０回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会同時開催

＜ **東京会場（2日間）** ＞

■ 開催日　**令和3年12月7日（火）～ 8日（水）**
■ 時　間　９：００－１７：００
■ 会　場　**東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）**

※　新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Ｗｅｂ）に切り替えることと致します。

目　次

Ⅰ. 交流会の目的と概要 2

Ⅱ. 出展申込の方法及び募集する数、申込期限 3

Ⅲ. 出展対象者と機器の条件等 5

Ⅳ. 出展小間の仕様、備品等 6

Ⅴ. 新型コロナ対策等について 7

Ⅵ. WEB開催時における出展者の個人ページ 8

Ⅶ. WEB開催に伴う動画等の作成スケジュール 9

Ⅷ. 会場までのアクセス方法 10

Ⅸ. 出展にあたっての注意事項 12

Ⅹ. 招待する関係団体等、問い合わせ先 14

◆昨年度の開催状況について（参考） 15

Ⅰ．交流会の目的と概要

１．交流会の目的

本交流会は、自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族や福祉・医療従事者などの「**機器を使う側（ニーズ）**」の方々と、開発企業や大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「**機器を作る側（シーズ）**」の方々が、じっくり膝を交えて交流することを目的とするものです。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者　等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関　等

２．開催概要

①イベント名称：**障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2021」**

②開催日程・場所：

＜Web開催＞

■ 開催日 ／ **令和3年10月1日（金）～ 令和4年1月31日（月）**
■ サイト ／ テクノエイド協会のホームページ内

＜山口会場＞

■ 開催日 ／ **令和3年10月9日（土）～ 10日（日）**
■ 会　場 ／ 海峡メッセ下関（展示見本市会場）

＜東京会場＞

■ 開催日 ／ **令和3年12月7日（火）～ 8日（水）**
■ 会　場 ／ 東京都立産業貿易センター浜松町館（２階展示室）

※　新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることとします。

③期間中：**支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換等の実施**

Ｗｅｂ開催では、動画やテキスト情報を掲載し、掲示板や個別の問い合わせフォーム、オンラインシステムなどを利用して交流を深めることとします。

④併催イベントの概要（予定）※プログラムは変更する場合があります。

（Ｗｅｂ開催）※オンラインにて定期配信を予定しています。

１．交流会の実施について（Ｗｅｂを活用した交流の進め方）
２．厚生労働省科学研究報告
３．有識者や開発支援団体などによる講演　他

（山口・東京会場）※オンライン配信します。

１．基調講演
２．ロボットリハビリテーション・ケア学会
３．特別企画 支援機器ワークショップ
４．支援機器の利用事例とニーズの提供
５．出展企業による報告　６．開発促進事業の成果報告　他

⑤出展料：「**無料**」（但し、動画等の作成や搬出入に係る費用は自己負担となります。）

Ⅱ. 出展申込の方法及び募集する数、申込期限

１． 申込方法

出展を希望する方は、下記の「**出展申込専用ページ**（Google forms）」より、必ず所定の期日までにお申し込みください。

〇公益財団法人テクノエイド協会　→　http://www.techno-aids.or.jp/
〇出展申込専用ページ　→　https://forms.gle/uHYokCKcQFHPc6nX8

２． 出展募集する数

下記のいずれから選択してください。

◆東京会場と山口会場、Web開催　　50社
◆山口会場とWeb開催　　50社　＋　10社（地域推薦枠）
◆東京会場とWeb開催　　50社

※会場開催のみ又は、Ｗｅｂ開催のみの出展は認められません。

３． 申込期限

令和3年6月29日（火）17:00必着

※締切りを過ぎた後の申込みは受付いたしません。

４． 出展者の決定

過去の出展状況等を勘案し、当協会にて決定いたします。
出展希望が多数の場合には、障害の種別や機器の分野等、全体のバランスを勘案することとし、出展をお断りする場合があり得ることを予めご了承ください。
出展の可否につきましては、協会からメールにて送付いたします。

５． 出展料金

無料（但し、動画等の作成及び出展に伴う駐車料金や搬出入等に伴う費用は自己負担。）

６．出展申込に関する問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会　企画部　担当者　宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号　０３－３２６６－６８８３
電子メールアドレス　shogai-kiki2@techno-aids.or.jp
※現在、新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を８時～１６時としております。

なお、交流会の業務の一部を委託する予定です。本年度の委託先が決定しだい委託先から直接ご連絡がありますので、ご対応ください。

Ⅲ．出展対象者と機器の条件等

１．出展対象者

以下のすべての事項を満たす方とします。

- 障害者向けの支援機器を開発中の企業等で、かつ試作器を出展できる企業・個人等
  ※但し、既に商品化した支援機器であっても、ニーズを踏まえた改良の意向がある場合は参加を認めることといたします。
- 障害当事者等と交流を深めてニーズをくみ取り、良質な支援機器の開発や改良を目指している企業・個人等
- 自社にて出展機器の動画等が作成できる企業・個人等
  ※動画等とは、動画（MP4 形式等）又は、音声や動画が入った PowerPoint ファイルとします。

２．出展機器の条件

- 開発や改良を目的とした機器であること。
- 障害当事者等のニーズを聞き取り、開発や改良、改善を目的とする機器であること。
- 障害者の活動や参加を支援する要素技術等であること。
- 高齢者向けの機器や介護機器は除きます。
- 営業や販売を目的とする機器は除きます。
- 原則１企業、１機器とします。（但し、サイズや型式等の相違は除きます。）

３．出展にあっての留意事項

（１）Ｗｅｂ開催

・ 交流を深める方策として、１０分以内の動画又は、音声や動画が入った PowerPoint（以下「動画等」）を出展者自身で作成いただきます。
・ 動画等には、開発中の製品紹介をはじめ、交流会にて意見交換したい内容、現在の開発にあたっての課題点等のメッセージを入れていただきます。
・ 障害者に対する情報保障は、各社にてお願いいたします。
・ 作成した動画等は、当協会の Youtube アカウントで公開することといたします。
  ◆参考　昨年度の動画
  https://www.youtube.com/channel/UCIFv-6yXArnXyAwQM8rg17A/videos
・ 本交流会は、シーズとニーズのマッチングを目的としているため、販売を促進する内容の動画等は認められません。
・ 動画作成にあたりましては、**出展が確定しだい令和３年７月１５日（木）１３時３０分より、オンラインにて説明会を開催させていただきます**。

（２）山口会場及び東京会場

・ 出展申込をしないで、会場へ支援機器を持ち込むことはできません。
・ 交流会では金銭の授受を含めた販売活動は禁止です。
・ 会場にて来場者や他の出展者等に迷惑行為を行った場合には即時退場を命じます。協会の指示に従ってください。

※ 山口会場は、第１０回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会同時開催となります。

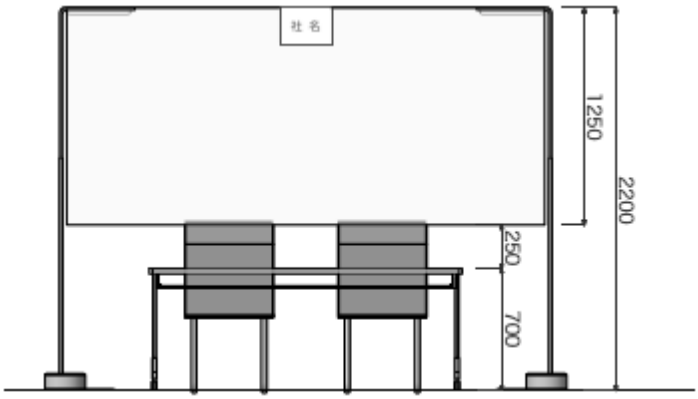
Ⅳ. 出展小間の仕様、備品等

１．出展小間イメージ（山口・東京会場）

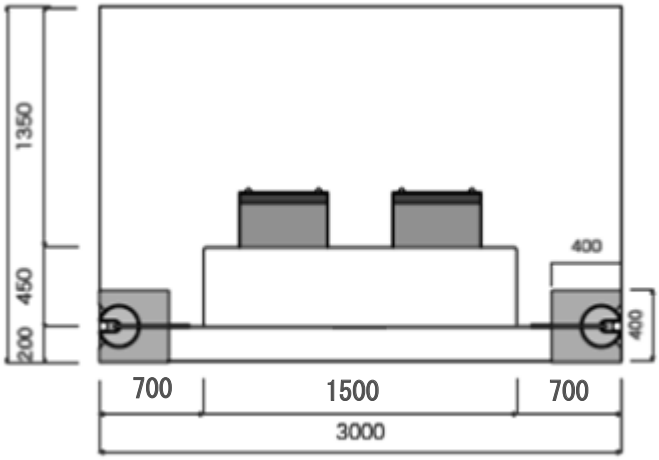
下図の備品は、基本設備となります。
背面に壁やバックパネルの用意はありませんので、各自で準備をお願いします。
但し、新型コロナ対策の一環として、透明ビニールシートは事務局で用意いたします。

東京会場のブースのイメージ

立面図



平面図



２．仕様･備品等

（１）小間の仕様
・展示スペース：２，０００mm×３，０００mm
※　感染防止のため設置するビニールシートを含めた数値です。

（２）基本の設備
・テーブル１台（Ｗ１５００mm×Ｄ６００mm×Ｈ７００mm）
・椅子２脚

（３）追加備品の取り扱い
・パネルを貼るスタンドやカタログスタンド、電源の延長ケーブル等は、必要に応じて自社で用意してください。
・電源（１００Ｖ）が必要な場合には、出展申込時に必ず記載してください。

（留意事項）
山口・東京会場では、会場設営において施工や電気工事業者が入る予定ですが、基本的には自社にて、ご準備いただきますようお願いいたします。
ご不明な点は、事務局までお問い合わせください。

Ⅴ．新型コロナ対策等について

１．会場開催の留意事項

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Ｗｅｂ）に切り替えることといたします。

会場では、以下の事項を徹底することとし、協会及び委託事業者にて以下の感染予防対策を徹底いたします。

①三密を避けること。

- 会場内の換気を定期的に行うこと。
- 出展者の間隔を十分にあけること。
- 参加者の座席の間隔を十分にあけること。
- 入場は室内定員の原則５０％以内とすること。

②来場者等へ手指の消毒やマスクの着用を要請すること。

③参加者の特定できるよう、来場者の連絡先を記載した名簿を作成すること。

④出展者及び来場者の体温検査を行うこと。

また、出展者の皆様、来場される方々におかれましては、以下の感染予防対策をお願い致します。

①開催当日に自宅等での検温

- 来場いただく前に自宅で検温をお願いします。
- ３７．５度以上の発熱、頻回に咳が出る、あるいは少しでも体調に異変を感じる場合は来場をお控えください。
- 開催の両日とも必ず検温をお願いします。

②マスクの着用、手指の消毒

- マスクは自社・自身で用意してください。
- ブースなどで使用される消毒液は出展者にてご用意ください。

③飛沫感染予防を前提とした交流

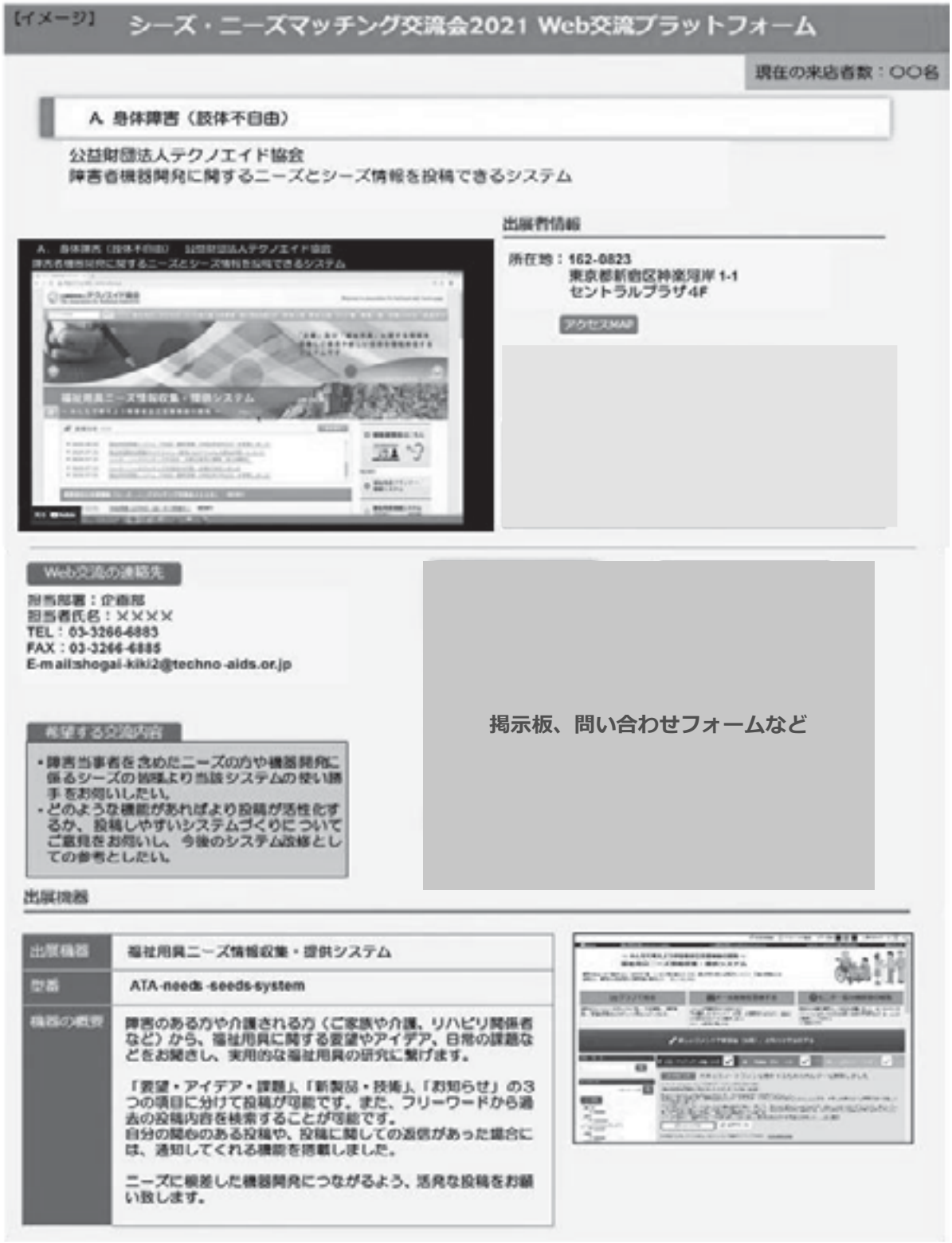
- マスクを外したまま来場者と会話する等、飛沫感染が発生し得るような交流は控えください。
- 出展機器について、随時消毒をするなど、自社・自身で感染症予防を行ってください。

Ⅵ. Web開催時における出展者の個人ページ

１． 出展者の個人ページのイメージ

以下は、昨年度のものです。

出展者ごとの個人ページを設けることにより、来場者は出展者のページに入ることで、製品動画の視聴や掲示板や個別の問い合わせフォーム、オンラインシステムなどを使って意見交換や交流を行うことを想定しています。



※上記はあくまでイメージであり、実際と異なる場合があります。

令和3年度　出展者の動画等作成スケジュール（予定）

No	項目	内容	2021年（令和３年）																		2022年（令和４年）					
			７月			８月			９月			１０月			１１月			１２月			１月			２月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	出展企業の確定	出展申込　6/29 締切厳守																								
		出展者確定																								
2	出展企業へ案内	動画作成ルールの案内（メール）																								
3	交流会で使用する動画の作成	出展者による動画作成		7/15 13:30 出展者説明会①																						
		問い合わせ対応																								
4	提出動画のチェック 企業による修正	事務局による動画チェック																								
		修正指示																								
		修正、再提出																								
5	交流会ホームページへ動画掲載（専用HP）	専用サイトへアップ																								
		Ｗｅｂ開催									9/24 13:30 出展者説明会2		Ｗｅｂ開催の開始													
		山口及び東京会場による開催											交流会 山口会場					交流会 東京会場								

動画作成にあって以下の点に留意してください（必ずご確認ください。）

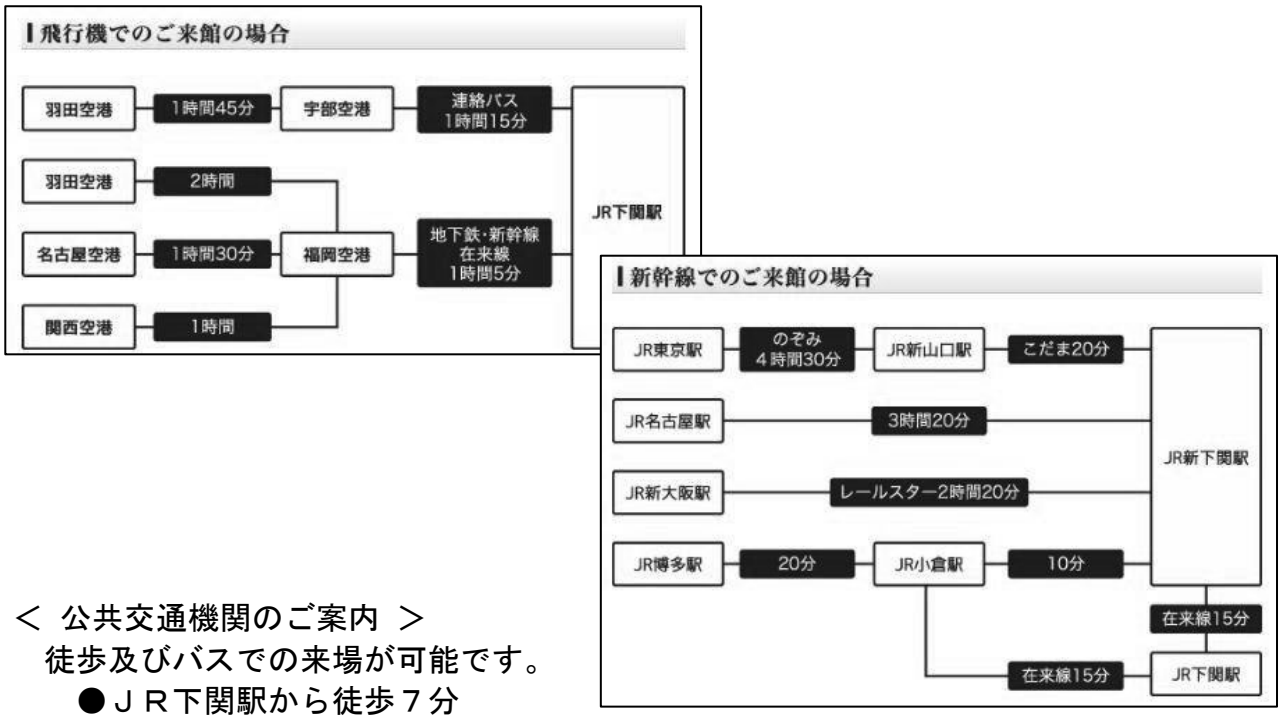
①8月20日までに必ず動画を提供すること。②当協会が規定する内容を必ず盛り込むこと。③内容が沿わない場合は修正すること。④修正などやり取りの進捗によっては、Web開催日にプラットフォームへの動画掲載が間に合わなくなる可能性があること。

動画作成の具体的な事項は、出展者が確定しだいご連絡させていただきますが、現時点で不明や確認したい点がございましたら、事務局まで問い合わせてください。

Ⅷ. 会場までのアクセス方法

１．山口会場　海峡メッセ下関（展示見本市会場）

山口県下関市豊前田町３丁目３番１号



＜ 公共交通機関のご案内 ＞

徒歩及びバスでの来場が可能です。

- ●ＪＲ下関駅から徒歩７分
- ●ＪＲ下関駅からバス１分、「豊前田」下車徒歩２分

＜ 車でお越しの場合 ＞

- ●ＪＲ新下関駅から車で１５分

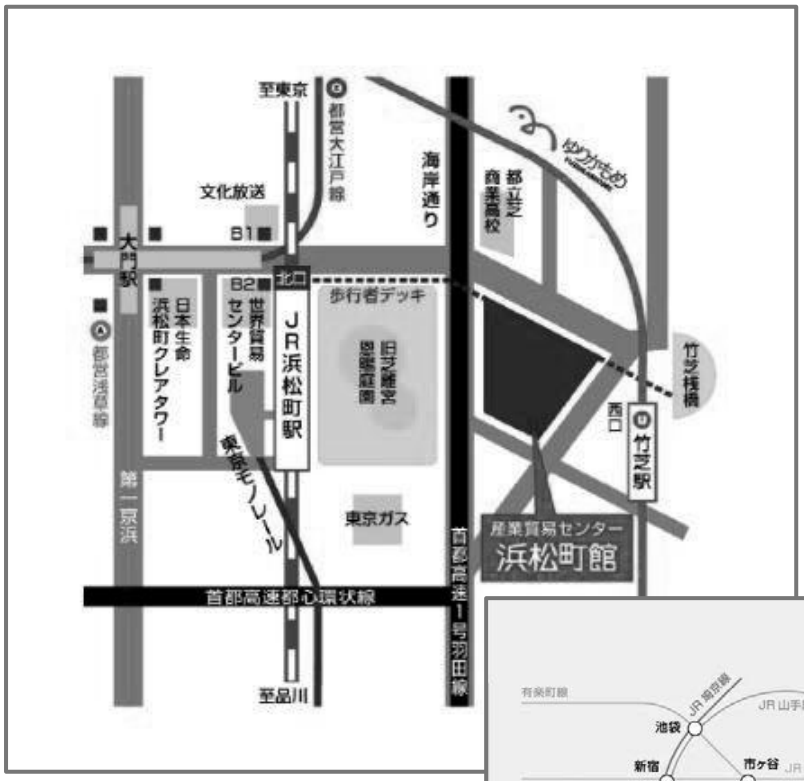
＜ 駐車場のご案内 ＞

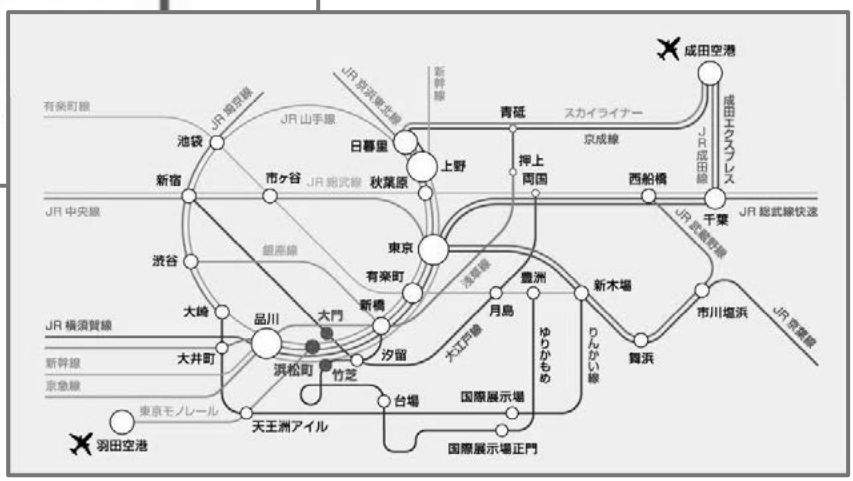
第１駐車場もしくは第２駐車場をご利用ください。

なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

２．東京会場　東京都立産業貿易センター浜松町館（２階展示室）

東京都港区海岸１－７－１
※車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。





＜ 公共交通機関のご案内 ＞

- ●ＪＲ 浜松町駅（北口）から徒歩５分
- ●東京モノレール 浜松町駅（北口）から徒歩５分
- ●ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩２分
- ●都営浅草線 大門駅から徒歩７分
- ●都営大江戸線 大門駅から徒歩７分

車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

＜ 車でお越しの場合 ＞

●都心環状線「芝公園ＩＣ」出口より約１０分、「汐留ＩＣ」出口より約１０分
羽田線「芝浦ＩＣ」出口より約１０分

＜ 駐車場のご案内 ＞

地下１階にビル共有の有料駐車場があります。（産業貿易センター専用の駐車場ではありません）

なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

Ⅸ. 出展にあたっての注意事項

１．出展申込

- 本年度からＷｅｂでの申込とさせていただきました。本出展要項をご確認いただき、期日までに必ずお申込みください。
- 期限を過ぎた申込は受付いたしません。
- 出展内容が交流会の趣旨に合わないと協会が判断した場合、出展をお断りします。これにより生ずる損害に対し、協会は一切の責任を負いません。

２．出展の取りやめ

- 出展の取りやめは、出展の決定から１０日以内とし、書面（任意様式）にて協会に申し出てください。
- 協会の判断により正式な取りやめを決定します。（なお、パンフレット等の作成状況によっては、出展取りやめの依頼をいただいても、情報が掲載されたままとなる場合もあり得ることをご了承ください）

３．提出物について

- 交流会パンフレットや交流会専用ホームページ作成のため、出展者情報や出展機器情報のご提出をお願い致します。その他、事務局より資料等の請求があった場合には事務局の指示に従うようお願いいたします。

４．出展の可否、小間位置の決定

- 障害の種別や支援機器の分野等、全体のバランスを勘案し、最終的には協会にて出展の可否を決定することといたします。また、小間位置の割り当ても協会にて行います。

５．会場内の行為の制限

- 出展者は協会の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。
- 来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

６．駐車場

- 搬出入等で車をご利用の場合は、事務局の指示に従ってください。
- 期間中の駐車場は出展者で確保してください。

７．管理保全

- 協会は管理者としての注意をもって会場全般の管理にあたります。
  ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。協会は出展物の損害に対しての一切の保証を負いません。

８．損害賠償

- 出展者及びその代理人が他社の小間、協会の運営設備又は展示会場の設備及び人身等に損害を与えた場合、また、搬出入時や交流会開催期間中に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、協会は一切の責任を負いません。

- 出展物の輸送及び展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策を講じてください。

９．消防･安全

- 出展者は、会場に適用される消防及び安全に係わる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

１０．交流会の中止

- 協会は天災などの不可抗力により、交流会開催が困難と判断した場合、交流会の開催を延期又は中止することがあります。また、その際に生じた損害について協会は責任を負わないものとします。
- 新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Ｗｅｂ）に切り替えることとします。

１１．法的保護等

- 交流会におけるアイディアの模倣及び交流時等に関するトラブルについて、協会は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

１２．法令、規約の厳守

- 出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、協会が定める一連の規約（募集要項、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。
- 万一、法令、規約に違反した場合、協会は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害に対し、協会は一切の責任を負わないものとします。

１３．アンケート調査、ご協力のお願い

- 交流会は国庫補助事業により開催するものです。
- 交流会参加の目的を明確化するとともに、その成果を評価する必要があります。協会から依頼のあったアンケート調査には必ずご回答ください。

１４．写真等の撮影について

- 交流会では、開発途中の機器等が出展されています。写真や動画を撮影する場合には、必ず協会と撮影する企業等の許可を得てください。
- また、協会では交流会の様子を各方面へ広報するため、交流会の期間中、機器やシンポジウム等の様子を写真や動画撮影しますので、予めご了承ください。なお、写真や動画の撮影を拒否する場合には予めお申し出ください。

Ｘ．招待する関係団体等、問い合わせ先

１．関係団体等（予定）

（１）障害当事者団体（予定）

- 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
- 一般社団法人 日本ＡＬＳ協会
- 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
- 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ポリオの会
- ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
- 特定非営利活動法人 日本失語症協議会
- 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- 社会福祉法人 全国盲ろう者協会

（２）開発支援機関等（予定）

- 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）
- 国立研究開発法人 情報通信研究機構（ＮＩＣＴ）
- 国立研究開発法人 科学技術振興機構（ＪＳＴ）

２．交流会に関するお問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会　企画部　担当者　宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号　０３－３２６６－６８８３
電子メールアドレス　shogai-kiki2@techno-aids.or.jp
※現在、新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を８時～１６時としております。

なお、交流会の業務の一部を委託する予定です。本年度の委託先が決定しだい委託先から直接ご連絡がありますので、ご対応ください。

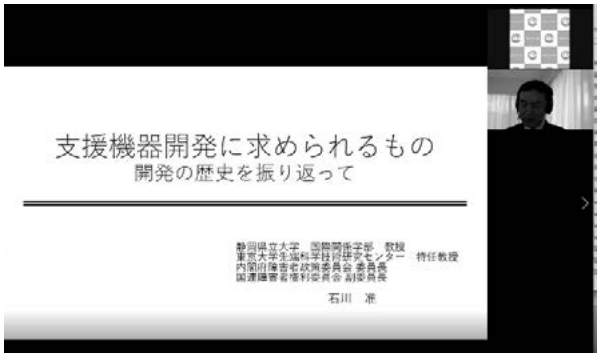
◆昨年度の開催状況について（参考）

令和２年度の交流会の開催状況は、以下のとおりです。

〇専用ホームページ　http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/2020index.shtml
〇開催結果の報告書　http://www.techno-aids.or.jp/research/202103needs_report.pdf

【会期中のログイン者数】
・Ｗｅｂ開催　２０２０年１２月１日～　４日　５９０名
・東京開催　　２０２１年　２月９日～１０日　２３９名

※ 当初は会場での開催を予定しておりましたが、令和２年１２月中旬から首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症が急激に増加したことを受け、東京開催についても感染症予防等の徹底を図るため、Ｗｅｂ開催に変更しました。



障害者自立支援機器
シーズニーズマッチング交流会２０２１東京会場

体調管理チェックシート

氏名　：	記入日 月　　日
企業・団体名　：	体温 ℃

※以下の項目について、該当するものを〇で囲んでください。

過去 14 日以内における体調および状況についてお答え下さい	
平熱を超える発熱がありましたか？	はい　・　いいえ
咳・喉の痛み、たん（痰）が出るなどの症状がありましたか？	はい　・　いいえ
だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がありましたか？	はい　・　いいえ
味覚や嗅覚の異常がありましたか？	はい　・　いいえ
普段より体が重く感じる、疲れやすいことがありましたか？	はい　・　いいえ
過去 14 日以内に、新型コロナウィルスに感染している方との接触がありましたか？	はい　・　いいえ
過去 14 日以内に、新型コロナウィルス感染症の検査中の方との接触がありましたか？	はい　・　いいえ
過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航または当該在住者との接触がありましたか？	はい　・　いいえ
過去 14 日以内に「３密（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集する場所、近距離での密接な会話）」の機会はありましたか? 例：自宅外での複数人での飲食、集会、カラオケ、コンサート、パチンコ、マスクなしでの満員電車・バスへの乗車など	はい　・　いいえ

※『はい』に〇が付いた方や体調に不安のある方は、来場をお控えください。
※この調査票は本交流会のコロナウィルス感染症対策以外には使用いたしません。
※この調査票は１か月後に廃棄いたします。

以上

障害者自立支援機器
シーズ･ニーズマッチング交流会 ２０２１ 東京会場
交流会来場前　体調管理チェックシート

本チェックシートは交流会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、会場で感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要な範囲で保健所等に提供することがあります。

提出日：2021年　　月　　日

企業・団体名：　　連絡先（電話）：

氏名：　　email：

日付		11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日
朝　体温		℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
呼吸器症状	咳	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	鼻水	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	のどの痛み	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
その他	体のだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	下痢	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	頭痛	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	味覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	嗅覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	他の症状									

日付		12月2日	12月3日	12月4日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日		
朝　体温		℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
呼吸器症状	咳	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	鼻水	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	のどの痛み	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
その他	体のだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	下痢	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	頭痛	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	味覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	嗅覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	他の症状									

提出先：東京都立産業貿易センター浜松町館 ２階展示室　交流会受付

シーズ・ニーズマッチング交流会2021 ご来場者様アンケート

この度は交流会にご来場いただき、誠にありがとうございます。このアンケートは、来場された皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるものです。ぜひご協力ください。

※ 代筆などの支援をご希望される方は、受付までお越しください。

Ⅰ．あなたご自身についてうかがいます	
当てはまる項目に○をつけてください（一つに○）	1．障害者　2．障害者家族　3．施設関係者　4．医療関係者 5．支援機器開発企業　6．行政　7．研究機関・団体 8．学校・教育関係者　9．一般企業（今後、支援機器の開発を目指す企業を含む） 10．その他（　　）
ご参加いただいた日数について教えてください（一つに○）	1．1日のみ（1日目・2日目いずれかのみ） 2．2日間

Ⅱ．交流会についてうかがいます	
この交流会のことをどのように知りましたか	1．テクノエイド協会からの案内　2．テクノエイド協会のホームページ 3．所属する障害団体からの案内　4．経済振興団体からの案内 5．所属する職能団体からの案内　6．自治体などからの案内・広報誌など 7．友人・知人からの紹介　8．新聞・テレビ・ラジオなど 9．その他（　　）
（上記で3，4，5を選んだ方）団体名	
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1．具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった 2．機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった 3．特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった 4．普段困っていることについて相談したかった 5．その他（　　）
どのような交流ができましたか	
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1．大変満足している　2．ある程度満足している　3．どちらとも言えない 4．あまり満足していない　5．全く満足していない
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1．大変満足している　2．ある程度満足している　3．どちらとも言えない 4．あまり満足していない　5．全く満足していない
来年も参加したいと思いますか	1．ぜひ参加したい　2．参加したい　3．どちらともいえない 4．参加したくない　5．全く参加したくない

Ⅲ．運営・交流会全般についてうかがいます	
交流会全般に関するご意見・感想があれば記載してください（自由記述）	

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にアンケート回収箱にご提出ください。

シーズ・ニーズマッチング交流会 2021　出展企業・団体様アンケート

この度は交流会にご出展いただき、誠にありがとうございます。出展企業・団体の皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるため、ぜひご協力ください。

なお、出展いただいた会場ごとにアンケートへの回答をお願いしておりますので、お手数ですがよろしくお願いいたします。

※ なお、電子メールでの回答をご希望の方は、テクノエイド協会ホームページ（http://www.techno-aids.or.jp/）より様式をダウンロードのうえ、メール送付ください（メールアドレス：shogai-kiki2@techno-aids.or.jp）

企業・団体名	

Ⅰ．貴社または貴団体についてうかがいます	
当てはまるものに〇をつけてください	１．開発企業　２．障害団体　３．開発支援団体 ４．職能団体　５．その他（　　）
過去の参加状況について教えてください	※テクノエイド協会主催（2014 年度～2018 年度の５回）についてご回答ください １．過去全て参加している　２．過去４度参加している ３．過去３度参加している　４．過去２度参加している ５．過去１度のみ参加している　６．今回初めて参加した
※上記で１～５を選択した方 その後の機器開発や団体の活動において参考になりましたか	１．大変参考になった　２．ある程度参考になった ３．どちらともいえない　４．あまり参考にならなかった ５．全く参考にならなかった
交流会参加を通して「障害者自立支援機器等開発促進事業」など、国の開発補助事業に応募してみたいと思いましたか	１．是非、応募したい（応募を検討したい） ２．応募してみたい（応募を検討してみたい） ３．どちらともいえない　４．補助事業に関心はない

Ⅱ．来場者との交流についてうかがいます	
交流を行った概ねの人数について教えてください	１．２０人未満　２．２０～５０人未満 ３．５０～１００人未満　４．１００人以上
交流の具体的な内容について教えてください （複数回答可）	１．機器に対する要望や改善点が聞けた ２．日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた ３．今後の具体的な開発協力や連携に関して話ができた ４．自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた ５．その他（　　）
交流会の満足度を教えてください	１．大変満足している　２．ある程度満足している　３．どちらとも言えない ４．あまり満足していない　５．全く満足していない
会場の立地や利便性はいかがでしたか	１．大変満足している　２．ある程度満足している　３．どちらとも言えない ４．あまり満足していない　５．全く満足していない
展示ブースの配置はいかがでしたか	１．大変満足している　２．ある程度満足している　３．どちらとも言えない ４．あまり満足していない　５．全く満足していない
来年も出展したいと思いますか	１．ぜひ出展したい　２．出展したい　３．どちらともいえない ４．出展したくない　５．全く出展したくない

Ⅲ．運営・交流会全般についてうかがいます	
その他、運営や交流会全般に関するご意見・ご感想があればお書きください。（自由記述）	

アンケートご協力ありがとうございました。お帰りの際に必ずアンケート回収箱にご提出ください。

シーズ・ニーズマッチング強化事業

障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について

１．目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととする。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設ける。

また、その成果については、協会のＨＰ等を通じて広く周知し、シーズとニーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとする。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器について、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方についてシーズ・ニーズ対等の立場にたって自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとする。

２．期間

令和３年１０月１日～令和４年２月末

３．実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザの団体等へ繋ぐこととする。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととする。なお、山口及び東京会場の場面についても積極的に活用することとする。

（１）実施予定数

１０件程度

令和３年９月２４日に開催する「第２回・交流会出展企業等を対象にした説明会」において、希望者を募集することとする。

令和３年１０月１日（金）以降、先着順とし、応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施を決定する。

不明瞭な記載や内容に不備がある場合、また本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととする。

（２）シーズとニーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する先を基本とすることとし、適切な団体等がみ見たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すこととする。但し、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとする。

（３）応募の書類及び方法について

●提出書類

様式１　シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼書
様式２　シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　実施報告書

様式は、当協会のホームページからダウンロードしてください。

当協会ホームページ：http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/

●提出方法

電子メールにて受け付けること（ＦＡＸによる提出は不可とする。）

公益財団法人テクノエイド協会　企画部　担当者　宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号　０３－３２６６－６８８３
電子メールアドレス　shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

●提出期限

先着順（受付可能な機器や時期、内容等については、当協会までお尋ねください。）

４．問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会　企画部
担当者　宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号　０３－３２６６－６８８３
電子メールアドレス　shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を８時～１６時とし、在宅・在勤の交代制とさせて頂いております。

様式１（シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼書）

令和　　年　　月　　日

公益財団法人テクノエイド協会　殿

（依頼者）
〒
住所

事業者名
担当者所属
担当者名
電話番号
電子メールアドレス

シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼書

貴法人がシーズ・ニーズマッチング強化事業の一環として行う、障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について、下記の書類を提出して依頼します。

記

１．別添「シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼概要書」

２．会社概要（任意様式）
※）会社の概要が簡易なもの

３．これまでの福祉機器に関する実績（任意様式）
※）実績がない場合は、提出不要

（本書類の取扱いと留意事項について）

- ご提出いただく「シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼概要書」は、ニーズ側とマッチングする際に利用します。
  従って、記載内容は、公開可能な範囲で差し支えありませんが、具体的な記載がない場合には、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご了承ください。
- 適切にご協力が得られる障害当事者団体等とマッチングするためにも、記載内容は技術的な事に偏らず理解しやすいものとしてください。
- 協会では記載内容や本事業に関わる各種の相談を受けております。
- 案件によっては、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご留意ください。

企業等

別添

令和　　年　　月　　日

シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼概要書

１．依頼者（企業）の概要

企業名				
担当者名	部署		氏名	
担当者連絡先	住所	〒		
	電話			
	電子メールアドレス			
主たる業種				
主要な製品				
希望する団体や障害等の種別等 希望するものに☑を入れてください 複数選択可	（希望する団体） ☐公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 ☐一般社団法人 日本ＡＬＳ協会 ☐社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合 ☐一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 ☐ポリオの会 ☐ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）生活環境研究会 ☐特定非営利活動法人 日本失語症協議会 ☐社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 ☐社会福祉法人 全国盲ろう者協会 ☐その他：（　　） （障害の種別） ☐身体障害（肢体不自由） ☐視覚障害 ☐聴覚障害 ☐高次脳機能障害（失語症等） ☐知的障害（身体介護が必要ないケースを含む） ☐精神障害（発達障害を含む） ☐その他（　　）			
特記事項				

２．当該機器の開発コンセプト又は試作機器等の概要（可能な限り詳しく記入してください。）

機器名称（仮称可）		
試作機器の有無 機器のコンセプト （写真添付）	試作機器の有無	１．有　・　２．無
	機器の目的及び特徴	

想定する障害者及び使用方法、使用場面	①想定する障害者（又は支援者） ②想定する使用場面 ③想定する使用方法
開発状況及び主な課題	①開発状況 ②現在の課題
特に意見交換やアドバイスを希望する内容	
特記事項	

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

様式２（シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　実施報告書）

令和　　年　　月　　日

シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　実施報告書

１．実施概要

障害種別				
機器名称（仮称可）				
型番				
企業名				
連絡先	電話		メールアドレス	
交流先				
意見交換やアドバイスに係わった担当者（全ての方を記載してください。）	所　属			氏名

２．実施結果

	実　施　日	実　施　方　法　等
意見交換会やアドバイスの実施		
交流のねらい		
交流の成果（写真添付）		
開発等、今後の見通し		
その他		

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

障害者自立支援機器のシーズとニーズの意見交換、アドバイス支援

実施報告

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

はじめに

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**」）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、大変重要な役割を果たすものです。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「**ニーズ**」と、開発や研究者等の「**シーズ**」をマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要となります。

このような背景のもと、当協会では、「**シーズ・ニーズマッチング交流会**」を開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、当協会のホームページ上に「**Web交流プラットフォーム**」を設置し、オンラインによる交流を推進したところですが、本年度は、さらに交流の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業から個別に希望を募り、障害当事者団体等にもご協力を頂き、支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援を実施しました。

この実施報告は、その成果概要を取り纏めたものです。

今後の支援機器の開発にあたり、シーズとニーズが互いの立場を理解しあい、真に必要とされる支援機器の開発・普及に繋がれば幸いです。

令和4年3月

公益財団法人テクノエイド協会

Contents

目　次

視覚障害 **パンダナビ** 開発企業等 しんしゅうアソシエイツ 協力機関 一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会 P.3-P.4
警告点字ブロックに一工夫
簡単に読み取り、目的地までパンダナビがご案内!
視覚障害者団体との体験・意見交換会の実施

聴覚障害 **FILLTUNE CLEAR** 開発企業等 FILLTUNE株式会社 協力機関 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 P.5-P.6
一人でも多くの人に「聴こえを届ける」ために開発!
フルワイヤレス聴覚サポートデバイスFILLTUNE CLEAR

身体障害（肢体不自由） **自動排泄処理装置キュラコ** 開発企業等 株式会社ウィズ 協力機関 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎 P.7-P.8
おむつは不要!寝たままで洗浄から温風乾燥まで
可能な自動排泄処理装置キュラコ

身体障害（肢体不自由） **室内用立ち上がり機能付き歩行車** 開発企業等 フジホーム株式会社 協力機関 ポリオの会 P.9-P.10
立ち上がりから室内の移動はこれで安心、
小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車

身体障害（肢体不自由） **室内用立ち上がり機能付き歩行車** 開発企業等 フジホーム株式会社 協力機関 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎 P.11-P.12
立ち上がりから室内の移動はこれで安心、
小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車

障害児（身体・知的・精神） **sööt（ソット）** 開発企業等 株式会社岩多屋 協力機関 ポリオの会 P.13-P.14
お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに!
障がい児・医療ケア児のためのお洋服の開発

障害児（身体・知的・精神） **sööt（ソット）** 開発企業等 株式会社岩多屋 協力機関 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎 P.15-P.16
お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに!
障がい児・医療ケア児のためのお洋服の開発

その他（コミュニケーション障害等） **指伝話コミュニケーションパック（各種オプション）** 開発企業等 有限会社オフィス結アジア 協力機関 ポリオの会 P.17-P.18
指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに!
日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施

その他（コミュニケーション障害等） **指伝話コミュニケーションパック（各種オプション）** 開発企業等 有限会社オフィス結アジア 協力機関 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎 P.17-P.18
指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに!
日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施

その他（創性麻痺および脳血管障害） **自分の声ソフトボイスター** 開発企業等 株式会社ヒューマンテクノシステム 協力機関 一般社団法人 日本言語聴覚士協会 P.21-P.22
あなたの声で作る、自分の声を再現するボイスター。
失語症や構音障害のへの適応の可能性について意見交換の実施。

障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について

1　目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の支援を行った。

具体的には、開発・改良中の機器に関する課題等を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイスを頂く機会を設けることとした。

また、その成果については、当協会のホームページ等を通じて広く周知し、シーズとニーズのマッチングを活性化するとともに、ニーズを捉えた機器開発を喚起することとした。

支援機器のコンセプトや利活用可能の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能の在り方等について、シーズ・ニーズ対等の立場にたって自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することを目的とした。

2　期間

令和3年10月1日～令和4年2月末

3　実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザの団体等へ繋ぐこととした。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。なお、山口及び東京会場の場面も積極的に活用することとした。※）山口会場は、新型コロナウイルスを予防するためオンライン開催のみとなった。

（1）実施予定数

10件程度

令和3年9月24日に開催する「第2回・交流会出展企業等を対象にした説明会」において、希望者を募集し、令和3年10月1日以降、先着順とし、応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施を決定した。

（2）シーズとニーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する先を基本とすることとし、適切な団体等が見あたらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すことした。

（3）応募の書類及び方法について

●提出書類

様式1　シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　依頼書

様式2　シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援　実施報告書

関係書類：http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/

●提出方法

電子メール（FAXによる提出は不可とする。）

公益財団法人テクノエイド協会　企画部　担当者　宇田川、根石（ねいし）、五島

電話番号　03-3266-6883

電子メールアドレス　shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

●提出期限

先着順（受付可能な機器や時期、内容等については、当協会までお尋ねください。）

4　問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会　企画部

担当者　宇田川、根石（ねいし）、五島

電話番号　03-3266-6883

電子メールアドレス　shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

5　実施結果

障害種別	機器名称	開発企業等	協力機関
視覚障害	パンダナビ	しんしゅうアソシエイツ	一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会
聴覚障害	FILLTUNE CLEAR	FILLTUNE株式会社	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
身体障害	自動排泄処理装置キュラコ	株式会社ウィズ	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れいんぼう川崎
身体障害	室内用立ち上がり機能付き歩行車	フジホーム株式会社	ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れいんぼう川崎
障害児	söötｿｯﾄ	株式会社岩多屋	ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れいんぼう川崎
その他	指伝話コミュニケーションパック（各種オプション）	有限会社オフィス結アジア	ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団　れいんぼう川崎
			特定非営利活動法人 日本失語症協議会
			ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
その他	自分の声ソフトボイスター	株式会社ヒューマンテクノシステム	一般社団法人 日本言語聴覚士協会

視覚障害

パンダナビ

警告点字ブロックに一工夫
簡単に読み取り、目的地までパンダナビがご案内!
視覚障害者団体との体験・意見交換会の実施

開発企業

しんしゅうアソシエイツ

担当者　芝田 真
連絡先　TEL　0551-45-7339
E-mail　inform@shinshu-a.com

意見交換

交流先

一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会

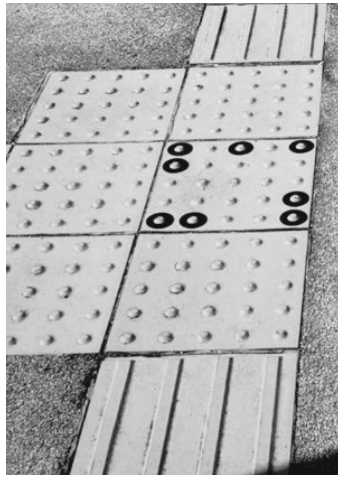
主担当者　堀口 俊二

実施結果

実　施　日：2021年12月19日

実施方法等：パンダナビの紹介および当事者による体験

交流のねらい　パンダナビを実際に試していただき、このような仕掛けが当事者のニーズに即したものであるかどうか確認したい。また、不足している機能、改善が必要な点などについて指摘していただきたい。



交流の成果

参加者は、当事者が20名弱、支援者を含めると25名近くとなり、椅子を追加するほどの盛況であった。室内での説明では、テクノエイド協会より体験会開催にいたる背景、開発者よりパンダナビの説明や開発の経緯など30分ほど実施した。

室内プレゼンの後、会場屋外のウッドデッキにて体験会を実施した。ウッドデッキにあらかじめ設定ずみの警告ブロック(タイル)4枚を離しておき、パンダナビがダウンロードされている4台のスマホにアプリを起動した状態でお渡し、参加者全員に実際に歩いてもらった。ナビの音声や参加者の歓声でとてもにぎやかであった。
参加者の声としては、異口同音に「方向を教えてくれるのがとてもありがたい」等の肯定的なコメントがほとんどであった。

その他としては、
- 左肩に固定するのはよいアイデアだがそれでも抵抗がある。
- タイルの上に乗ってしまったら認識できない。

といった意見もあがった。

ウッドデッキでの体験後、歩道からセンターに分岐するT字路の点字ブロックに、実際に8個のリングをはめて即席のパンダタイルを作成した。この即席パンダタイルを使用してパンダナビの音声入力で登録を行い、それを再生するデモンストレーションを実施した。
　以上のことから、パンダナビのコンセプトがニーズに即していることが確認できた。

今後の見通し

特許出願を含め、基本的に開発者が個人レベルで行うことはほぼ終えている状況である。
パンダナビはスタンドアローンのデバイスと異なり、インフラが絡むシステムとなっている。社会実装の実現にむけて、視覚障害者福祉協会あるいは、その他のNPO等の方々の助けを得ながら進めていくことになると思われる。さらに、事業法人の参画も得たいところである。
そのためには、今回のような活動を積み重ねていくことを含め、知恵を絞っていく予定である。また、多くの方々の助言をいただきたい。

その他

堀口会長、その他甲府周辺の当事者・支援者が集結し、甲府駅周辺を「コード化点字ブロックモデル地域」にする、という構想も考えられる。社団法人にすることで、役所の理解や支援も得やすいのではないか。

※参加者の写真は同意を得た上で掲載をしています。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合	事業部長　逢坂 忠さん
一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会	会長　堀口 俊二さん
一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会	会員の皆様
支援者の皆様	

聴覚障害

FILLTUNE CLEAR

型番 CLR-25

一人でも多くの人に「聴こえを届ける」ために開発!
フルワイヤレス聴覚サポートデバイスFILLTUNE CLEAR

開発企業

FILLTUNE株式会社

担当者　並木 素子

連絡先　TEL 03-5770-5823
E-mail namiki@filltune.com

意見交換

交流先

一般社団法人
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

主担当者　小川 光彦

実施結果

実　施　日：2021年11月2日	実施方法等：Web会議ツールを用いてオンライン上で実施
実　施　日：2021年11月16日	実施方法等：Web会議ツールを用いてオンライン上で実施
実　施　日：2021年12月8日	実施方法等：シーズ・ニーズマッチング交流会東京会場で実際に試聴いただく
実　施　日：2021年12月28日	実施方法等：メールでのやりとり

交流のねらい

音楽を聴いたり、日本語100語音認知検査を用いて語音聞き取り・書き取りテストを実施したりして、難聴者の方の弁別能がどこまで回復できるか、機能評価を行いたい。
難聴度の等級に限らず、聴こえ方は一人ひとり異なるため、具体的にどう聴こえるか、感想を伺い、今後の改良に活かしたい。
所属されている難聴者の方から希望の方を募って試聴いただき、弊社製品でどの程度の難聴度の方まで明瞭度の高い「聴こえ」を届けられるか、の検証を行いたい。

交流の成果

弊社からを「F」、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会からを「Z」として交流の様子を記載する。

【2021年11月2日】

F:「FILLTUNE　CLEAR」の製品概要を説明し、既存の骨伝導製品との違いやどのような技術なのかをお伝えした。

Z:質疑応答あり、従来の骨伝導製品とはコンセプトの違う製品であるとご理解いただいたうえで、会員の方に情報を広げる際に留意すべきこととして以下のご意見をいただいた。

- 従来の骨導補聴器は、「伝音性難聴の方に有効」「対象とする難聴度がそこまで高くないため、高度重度難聴の方には難しい」というイメージがある。
- 難聴の方の中には、新しい製品を試しては満足な聴こえを得られず期待を打ち砕かれるという思いをしている人もおり、試聴協力を依頼する際の表現には注意が必要である。

■試聴会の実施方法について

感染リスクを避けるため、複数人を一会場に集めるのではなく、居住地の近く、1対1で行うことを提案。また、対象範囲は関東圏内で検討しているが、具体的な都県の絞りこみは感染状況を見つつ、これから判断することとした。会員へ送る試聴協力メール内容は弊社で作成。全日本難聴者・中途失聴者団体連合会側には、会員に向けた情報拡散を依頼した。試聴協力の案内をお送りし、賛同いただけた方から弊社に直接ご連絡いただき、日時を決定・試聴会実施する計画とした。

F:2021年11月2日時点で、試聴機ver.1(※1)を使って数人に試聴会を行っており、その際どのくらいの難聴度の方にどういった反応が得られたか口頭で説明。オンライン終了後、試聴レポートをお送りした。

※1 試聴機ver.1:集音機能なし。Bluetooth接続にて音楽再生ができる。試聴レポートには、音楽再生をした感想を記載。

Z:試聴レポートで実施している検証内容について、下記ご意見いただく。
補聴器は一般に人の話し声を聞くように調整されており、高音で約8000Hzまでの範囲に限られる。会話用と別に8000Hz以上の音も聞こえる音楽用のチャンネルを持つ製品も出ている。試聴レポートの中に、補聴器の聞こえと比較して、特に高音部の音楽的な部分がよく聞こえるという意見が複数あるが、補聴器との比較で評価はしにくく、真に比較すべきは語音明瞭度であって、子音の聞き取り具合を比較すれば、効果が客観的につかめるのではないか。

【2021年11月16日】

F:試聴会で検証する内容に会話と日本語100語音聞き取り・書き取りテストを盛り込みたいと考えていること、開発進捗として、集音マイクを搭載した試聴機ver.2が完成したが、まだ調整が必要なため、試聴会実施は試聴機の状態が整ってからとしたい旨、報告する。

Z:日本語100語テストの実施は、客観的なデータ、エビデンスとして有用と考えられるとご意見いただく。

F:試聴実施できる機器が完成したタイミングで、試聴協力依頼文をお送りすることとした。また、12月のシーズ・ニーズマッチング交流会東京会場で、持参した試聴機でどのような聴こえかお試しいただきご意見を伺いたいとお伝えした。

【2021年12月8日】

シーズ・ニーズマッチング交流会東京会場2日目。全日本難聴者・中途失聴者団体連合会のブースにて、小川理事と同席の方2名に試聴機をお試しいただく。
小川理事〈両耳95dB〉には集音機能・音楽再生ともに聴こえを体感いただくことはできず。同席女性の方〈65dB,70dB〉は音楽再生で音を感知したと感想をいただく(メロディーラインはわからず、曲としては理解できないとのこと)。

【2021年12月28日～】

集音マイク機能の調整終了見込みが立ったため、試聴協力のメール文面と添付資料をお送りし、レビューを依頼。表現等の添削と不足情報の指摘をいただき、加筆・修正を行った。今回は東京に範囲を絞り実施することとし、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会内部での確認を経て、1月20日に東京の協会の理事へメール配信された。
その後弊社に試聴希望の連絡はなし。関東圏へ呼びかけの範囲を広げることを提案いただくが、試聴は対面での実施となることや都県をまたいだ移動が発生するため感染が急増している状況では追加での協力依頼は見合わせることとした。

今後の見通し

弊社とつながりのある介護施設の入所者(加齢性難聴の方)や試聴希望をいただいた方(感音性難聴)に試聴機を試していただいた結果、重度難聴の方へ聴こえを届けることは現在の開発段階では難しい可能性が高い。
また、高度難聴の方においては、聴こえ方の改善が試聴者ごとに異なるため、感染状況等に配慮しながら、試聴機を使って感想をうかがったりデータをとることは行っていく方針である。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　理事　小川 光彦さん
一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　理事　小倉 鉄郎さん

身体障害（肢体不自由）

自動排泄処理装置キュラコ

型番 CURA-100-B03　TAISコード　01834-000003

おむつは不要！寝たままで洗浄から温風乾燥まで可能な自動排泄処理装置キュラコ

開発企業

株式会社ウィズ

担当者　淵上 敬史

連絡先　TEL 06-6310-9090
E-mail support@hello-with.com

意見交換

交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団
れいんぼう川崎

主担当者　小磯 さおり

実施結果

実　施　日：2021年11月24日　　実施方法等：WEB会議（ZOOM使用）

実　施　日：2021年12月10日　　実施方法等：れいんぼう川崎にて実機説明・体験及び意見交換

交流のねらい

神経難病や脊髄損傷などの対象者が、自らレシーバーを装着して使用するニーズがあるかどうか。また、レシーバー部分を把持しやすくする改良などが必要かどうかをヒヤリングにより、使用できる対象者像や機器の改良点を確認したい。

交流の成果

11月24日（WEBミーティング）

自分で装着する対象者であれば、尿器やポータブルトイレにて可能であり、必要性については低く対象者が見当たらない。ただ、神経難病などの対象者で、日中や夜間帯問わず、ポータブルを使用する方は、睡眠不足となることがあり安眠できない。その時に、キュラコを数時間でも装着し、睡眠時間を確保することも考えられる。取っ手をレシーバーにつけて自分で装着する必要性は低く、取っ手があれば、逆に邪魔になるのではないか。取外しができれば良い。本体が少し大きいと思う。この大きさがあることで、車いすからベッドへの移乗時などに自分で行う人は、環境に問題が生じると思われる。モーター音が大きい事は、夜間帯に目が覚めてしまい、睡眠不足となるので、音が小さくできないかどうか。
等の意見をいただけた。

12月10日（施設訪問）

機器の説明と操作方法、装着カバー、メンテナンス方法、設定方法の確認を行い、参加者全員に装着体験を実施した。

ニーズとしては、
- 尿意・便意を訴えられる方でポータブルトイレへの移乗が難しいケース。
- 尿のみの自動排泄処理装置や差込便器を使用しているケース。
- 本人ではなく介護職員が装着カバーなしで、直接レシーバーをあてる。
  その場合、自動モードではなく手動モードにする。
- ポータブルトイレへの移乗の介護負担が減る。
- 差し込み便器の場合、お尻を持ち上げなくてはいけなく、意外と労力がいる。また、上手く便を受けられない場合もあり後処理が大変。

意見

- 介護職員がレシーバーを直接当てる場合、取っ手があればやりやすい。
- 介護職員が行うので乾燥はいらない（ペーパーで拭き取れる）
- 介護時間が短縮でき、違う人の介護ができる。
  等の意見をいただけた。

今後の見通し

今回WEB会議及びれいんぼう川崎にて実機説明や体験を行った。その結果、取っ手の必要性については賛否両論あり、ケースによって必要性が異なることであった。そのため、取外し可能な取っ手などの必要性を検証していく必要性が見えてきた。また、レシーバーの洗浄方法やメンテナンス方法については、今後も使用貸出を通じて、ご意見を集め、改良に努めていきたい。

その他

また、神経難病など尿便意はあるが、自分では排泄困難な対象者の方などにどのようなニーズがあるのかご意見を頂戴し、必要な方に提供できるようにしていきたい。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

施設入所係長（サービス管理者）	小磯 さおりさん
生活支援係　係長	金子 渡さん
在宅支援室　作業療法士	庄司 博さん
作業療法士	竹花 絹子さん
理学療法士	安本 弥生さん

身体障害（肢体不自由）

室内用立ち上がり機能付き歩行車

立ち上がりから室内の移動はこれで安心、小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車

開発企業

フジホーム株式会社

担当者　岡野 健

連絡先　TEL　03-3523-1631
E-mail　okano-ta@fujihome.toso.co.jp

意見交換

交流先

ポリオの会

主担当者　丸橋 達也

実施結果

実　施　日：2022年2月17日

実施方法等：ミライロハウス　施設内（Zoomにて実施）

交流のねらい

①開 発 状 況：試作段階にて今回の意見をいただき、改良して量産可能かどうかの判断としたい。

②現在の課題：立ち座り時の補助商品として適正か?また、在宅に於ける室内での歩行補助商品として適正か如何かの確認を取りたい。

交流の成果

使用体験いただいたコメントは以下の通り。
また、ミライロハウスにて業務にあたっている車いすユーザー20代、男女3名にも実機を用いて使用していただいた。

【車いすユーザー若年者からの使用体験の声】

- 2名は立ち上がりも歩行も楽にできるので良いとの評価であった。
- 自宅で歩行練習にも使用できそうだとの前向きな意見があった。但し、少しサイズが大きいのこと、他の家族に迷惑が掛からないように折畳みたいとの意見があった。
- ただ、体重を預けながら歩行するのには軽すぎて怖くて不安だとの意見もあり。安定感を保つために重量調整が出来る仕様が良いのではとの意見があった。

以下、担当者からのコメント

【使用方法について】

- 身体状況によって立ち上がれる人と立ち上がれない人がいる。立ち上がりが難しいのは持つ部分が異なる事が要因もあるため、掴まれるところを色々想定した方が良いのではないか。

【歩行動作について】

- 体重を預けながら歩行する方（車椅子利用者）は、前輪を持ち上げる事が出来ないので方向転換出来ない。また、段差も乗り上げる事が出来ない。

【グリップについて】

- グリップは現在横方向のみだが、縦掴みしたり、肘を乗せる事（馬蹄型）が出来たりバリエーションがある程度欲しい。また、左右でグリップ形状が異なる仕様（片側は手で握れるが片側は肘で支える）も必要ではないか。

【テーブルについて】

- 自宅内で食器類を運びたい需要はとても多いのでテーブルは必要ではないか。
- 持ち上げて使うとなると、テーブルに乗せた物が落ちる可能性が高いので、テーブルに穴等を設けてコップが入れられるようにするとどうか。
- テーブル部分は座れると勘違いする人もいると思われる。

【ニーズについて】

- 施設等に移動する際に車で持ち運びが出来るようにワンタッチで折畳できると便利である。
- 現在、温泉施設には「いざり車（台車みたいな）」があるが、この商品を使えば移動が楽ではないか?
- 洗濯物などを運びたいニーズはあるのでオプションでも良いのでカゴなどが欲しい。
- 前輪が車輪で後輪がスライドと言う考え方は面白い考え方で良い商品ではないか。
- 自宅内で使用するのが主であれば出来るだけコンパクトな商品が欲しい。また、玄関から駐車場の車への移動なども考慮した方が良いのではないか。

今後の見通し

最終的な仕様について検討して2022年度中の発売を目指す。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

ポリオの会　会長　小山 万里子さん
ポリオの会　世話役　丸橋 達也さん
株式会社ミライロ　金井 勇樹さん
ミライロハウス　アルバイト（事前ヒアリング）　3名（車いす利用者）

身体障害（肢体不自由）

室内用立ち上がり機能付き歩行車

立ち上がりから室内の移動はこれで安心、小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車

開発企業

フジホーム株式会社

担当者　岡野 健

連絡先　TEL 03-3523-1631
E-mail okano-ta@fujihome.toso.co.jp

意見交換

交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団
れいんぼう川崎

主担当者　小磯 さおり

実施結果

実　施　日：2021年12月2日

実施方法等：れいんぼう川崎にて実機説明・体験及び意見交換

交流のねらい

①開 発 状 況：試作段階にて今回の意見をいただき、改良して量産可能かどうかの判断としたい。
②現在の課題：立ち座り時の補助商品として適正か?また、在宅に於ける室内での歩行補助商品として適正か如何かの確認を取りたい。

交流の成果

使用体験いただいたコメントは以下の通り。

【外見・重さについて】

- 重量は4.3kg。意外と軽い印象。
- 家の中で使用するのであれば、まずは第一印象が重要。大きく感じてしまう。
  カラーの問題か?

【使用方法について】

- 前を持ち上げて方向変更する事は特に問題無い。
- 歩行器と同じ使い方が主になると思う。持ち上げて使う事が多いのではないか。
- 立ち上がりは正面よりも横又は斜めからの方が立ち上がりやすいのではないか。

【歩行動作について】

- 後ろはスライド式では無く、ストッパー付きのタイヤの方が良いのではないか?
- 後ろのスライド部分に埃等が溜まらないか?
- フローリング、カーペットでの動作確認特に問題無いが、毛足の長いカーペットではどうか。
- 前タイヤは引っ掛からないが後ろが引っ掛かってラグがめくれてしまった。（ラグが敷いてある場所にて）
- 幅は53cmだが片麻痺の方にとっては狭くて脚がぶつかる可能性がある。
- 歩行器よりも長さ方向が長いので安定している。特に、後ろに倒れそうになった場合の支えになる。

【グリップや高さについて】

- 立ち上がり用のグリップ高さは少し低い感じ。歩行用グリップと立ち上がり用グリップの中間ぐらいが良い。
- 歩行用グリップは良い。握らなくても上部から押さえるだけで使用できる。
- 高さ調整ボタンは誤って操作しそうで別の位置が良い。テーブル高さ調整ならばスムーズに操作したい。
- 支柱が若干動くが強度的に大丈夫なのか?

【テーブルについて】

- 持ち上げて使うとなると、テーブルに乗せた物が落ちる可能性が高い。
- 歩行する際にテーブルに脚がぶつかる事がある。
- テーブルに誤って座った場合の強度は大丈夫か?

【ニーズについて】

- 冷蔵庫⇒電子レンジ⇒テーブルに食器類を運びたい需要はとても多い。
- 立ち上がり動作はソファー（特に深く腰掛ける）から立ち上がるのが大変。
  引っ張って立ち上がりたくなる。
- 洗濯物などを運びたいニーズはある。ペットボトルも運びたい。
- 車に乗せる場合などはコンパクトにしたい。

今後の見通し

今後予定されているモニター評価を終えてから、最終的な仕様について検討をおこない、2022年度中の発売を目指す。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

施設入所係長（サービス管理者）　小磯 さおりさん
理学療法士、作業療法士　他6名

障害児（身体・知的・精神）

sööt（ソット）

型番 03-G08-01

お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに!
障がい児・医療ケア児のためのお洋服の開発

開発企業

株式会社岩多屋

担当者　諏訪園 春菜
連絡先　TEL 080-2901-7694
E-mail h_suwazono@iwataya-net.co.jp

意見交換

交流先

ポリオの会

主担当者　丸橋 達也

実施結果

実　施　日：2022年2月8日
実施方法等：事前にサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換会を実施

交流のねらい

病児、障がい児の着替え及び医療的ケアの処置（胃ろう、気管切開など）の際に、保護者もしくは支援者が介助しやすいものとなっているのか。
また、本人の身体への影響（褥瘡などの配慮）及び着心地、インクルーシブの観点からきょうだい児にも着衣が可能であるのかを、当事者の方々及び専門的知識をお持ちの方々にご意見を頂き商品のブラッシュアップを行う。

交流の成果

事前に協力団体へトップス及びスカーフ風スタイのサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換を実施した。
当事者の目線及び専門的な知識をもとに、下記のようなご意見を頂いた。

【ご意見】

「袖口や前身頃が大きく開く点においては、着脱しやすいと思う」
「肩や首元の縫い目がお肌にあたり褥瘡の原因になる場合もあるので、デザインとして縫い目を外に出しても良いのではないか」
「生地に厚みがあり熱がこもりそうなので、季節によって生地の厚みを変えて制作した方が良い」
「袖をまくることが簡単にできる機能が付いていると良い」
「兼用トップスのワンポイントは、取り外し可能なワッペンなどを付けてバリエーションがあるとお子様に喜んでもらえるのではないか」
弊社は、「インクルーシブな衣服」=「医療的ケアや着脱に介助を必要とされるお子様も、兄弟・姉妹・友人みんなで着ることのできる衣服」を制作したいと考えている。
「みんなで着る」ことを考慮してデザイン性及び機能性を追求すると、頂いたご意見のとおり着心地の良さが損なわれてしまうので、できる限り全てが均等になるよう改良を行いたい。
また、お着替えを楽しんで頂くためには「選べる」ことも重要なポイントになるため、ワンポイントの付け方なども工夫したい。

ブラッシュアップのため多くの方々のモニター協力が必要ですが、弊社のネットワークだけでは満足のいく人数の確保は困難な点もあり、モニター協力者に関してはミライロハウス様の幅広いネットワークを活かしたご提案も頂くことができた。

今後の見通し

現在、トップス及びスカーフ風スタイは、クラウドファンディングにて多くの方々にお力添えいただきネットショップ開設に至っている。
今後は、意見交換会にて頂いたご意見及び以前モニターアンケートにご協力いただいた親御様や施設の方々のご意見をもとに商品の改良を行い、使用される方々に寄り添った衣服などの制作を行いたい。そのためにも、より多くの方々にモニターなどご協力いただける体制を整えニーズの把握に努めていきたい。
また、開発した商品の周知・普及も課題となっている。
今回のような周知活動を積み重ね本当に必要な方々に情報が届くよう活動していきたい。
これからも「sööt」のアイテムを通して「お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに」なっていただけるような商品展開をしていきたいと考えている。

その他

子ども用のトップスモニターアンケートの際に、ご要望の多かった大人サイズの衣服も新たに開発中である。
今後、モニターアンケートを募集しモニター実施後、アイテムのブラッシュアップを行いたい。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

ポリオの会　代表　　小山 万里子さん
ポリオの会　世話役　丸橋 達也さん
株式会社ミライロ　　金井 勇樹さん

障害児（身体・知的・精神）

sööt（ソット）

型番 03-G08-01

お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに!
障がい児・医療ケア児のためのお洋服の開発

開発企業

株式会社岩多屋

担当者　諏訪園 春菜
連絡先　TEL 080-2901-7694
E-mail h_suwazono@iwataya-net.co.jp

意見交換

交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎

主担当者　小磯 さおり

実施結果

実　施　日：2021年11月30日

実施方法等：事前にサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換会を実施

交流のねらい

病児、障がい児の着替え及び医療的ケアの処置（胃ろう、気管切開など）の際に、保護者もしくは支援者が介助しやすいものとなっているのか。
また、本人の身体への影響（褥瘡などの配慮）及び着心地、インクルーシブの観点からきょうだい児にも着衣が可能であるのかを、専門職の方々にご意見を頂き商品のブラッシュアップを行う。

交流の成果

事前に協力施設へトップス及びスカーフ風スタイのサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換を実施した。
9名の専門職の方々（PT、OTなど）に、手に取って羽織ったり触れて頂いたりして、実際の着用を想定した意見を頂いた。
お一人おひとり専門家の観点から熱心にご回答いただき、下記のようなご意見を頂いた。

【ご意見】

- 「襟付きのフリルトップスは見た目が可愛い」
- 「生地の伸縮性は充分あるので、筋緊張や拘縮がある方も腕が通しやすそう」
- 「車椅子乗車時や座ることが多い方は、お腹辺りがはだけてしまうので、もう一つボタンがあった方が良いのではないか」
- 「ボタンをとめる際に、硬さがあり押し付ける力が必要」
- 「スカーフ風スタイの見た目はお洒落なので、この薄さでしっかり吸収してくれたらとても良い商品だと思う」
- 「自立という観点から考えると、なかなか社会との関わりを持つことが難しい方も積極的に関わりを持とうと思うきっかけになるような衣服があると良い」

介護服は、まだまだ「可愛い・お洒落」なものが少ないという現状である。
そのことを踏まえて、弊社は、「インクルーシブな衣服」=「医療的ケアや着脱に介助を必要とされるお子様も、兄弟・姉妹・友人みんなで着ることのできる衣服」を制作したいと考えている。
今回、「可愛い・お洒落」、「着脱しやすい」というお声を頂けたので、ニーズに沿ったアイテムが開発できていると感じた。
頂いたご意見をもとに、ボタンの位置及び副素材自体の検討を行い、更に機能性の充実を図りたい。

今後の見通し

現在、トップス及びスカーフ風スタイは、クラウドファンディングにて多くの方々にお力添えいただきネットショップ開設に至っている。
今後は、意見交換会にて頂いたご意見及び以前モニターアンケートにご協力いただいた親御様や施設の方々のご意見をもとに商品の改良を行い、使用される方々に寄り添った衣服などの制作を行いたい。そのためにも、より多くの方々にモニターなどご協力いただける体制を整えニーズの把握に努めていきたい。
また、開発した商品の周知・普及も課題となっている。
今回のような周知活動を積み重ね本当に必要な方々に情報が届くよう活動していきたい。
これからも「sööt」のアイテムを通して「お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに」なっていただけるような商品展開をしていきたいと考えている。

その他

子ども用のトップスモニターアンケートの際に、ご要望の多かった大人サイズの衣服も新たに開発中である。
今後、モニターアンケートを募集しモニター実施後、アイテムのブラッシュアップを行いたい。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

生活支援係	サービス管理者	小林 規子さん	作業療法士	作山 真弓さん
在宅支援係	社会福祉士	青木 淳さん	理学療法士	安本 弥生さん
作業療法士		庄司 博さん	理学療法士	山岸 保則さん
作業療法士		竹花 絹子さん	理学療法士	小磯 さおりさん
作業療法士		福井 潤子さん		

その他（コミュニケーション障害等）

指伝話コミュニケーションパック（各種オプション）

型番 YCP

指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに!
日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施

開発企業

有限会社オフィス結アジア

担当者　高橋 宣盟
連絡先　TEL 0466-21-7448
E-mail info@yubidenwa.jp

意見交換

交流先

ポリオの会

主担当者　丸橋 達也

実施結果

実　施　日：2022年1月13日

実施方法等：関係者による意見交換会、製品のデモンストレーション

交流のねらい

シーズ側から「こういったシーズがあります」と見せるのではなく、また、ニーズ側から「こういうニーズがあります」と見せるのでもなく、一緒に日常生活の様子を見つめ直し、そこに今ある技術とアイデアを使い、日常生活をより良くするためのきっかけとなる話し合いをする。

交流の成果

丸橋さんがお勤めのミライロハウスをご紹介いただき、製品の紹介と、必要としている人に対する情報提供の仕方について意見交換を行った。
小山さんによると、ポリオの会には様々な障害のある方がおり、それぞれの状況に合った支援機器が必要となるとのことであった。
指伝話コミュニケーションパックは、コミュニケーションだけではなく、エアコンやテレビなどの家電操作のインタフェースとしてお使いいただくなど、様々な用途にご使用いただくことができる。また、手の力が弱い方、目が見えにくい方など、身体の状況も人によって様々であるとのことで、それぞれに使いやすい工夫がし易い仕組みが指伝話には用意されている。
それを双方ともにより理解する機会を創出するために、ミライロハウスでの常設展示や、ポリオの会での体験・相談会の実施などを進めていくこととなった。

今後の見通し

2月10日には、パラマウントベッド社とともにミライロハウスを訪問し、機器の常設展示に向けて協議する予定である。
3月27日のポリオの会の定例会では、指伝話の展示を行い、コミュニケーション機器の活用についての相談を受ける予定である。
現状をお伺いしたところでは、日常生活の中で不便に思われていることの解消方法の一つとして、指伝話がお役に立てると考えている。身体の状態や生活方式に合わせた簡易カスタマイズを行うことで、日常生活をより良くするきっかけとして指伝話をご活用いただけそうである。
きっかけとなるためには、まず可能性を感じていただくことが必要であり、そのために、ちょっとしたカスタマイズによってそのきっかけができるが、その気持ちを掴む「ちょっとした」こととは何かを一緒に考え、具体化していきたい。

その他

これまでは、ポリオの会の方々に指伝話が役立てる場所があるという漠然とした思いがあったものの、具体的に意見交換をしてニーズを伺う機会はなかった。
今回の意見交換を実施して、求められているのは「機能」ではなく「日常生活をより良くするアイデア」だと改めて感じた。もちろん、現在あるニーズに対する解決策も望まれているが、これまで思っていなかったことはニーズとして顕在化していないので、それに対する解決策を探す機会はないままであった。
実際には、ニーズがあり、それに対するシーズもあるが、ニーズ側の考えはシーズ側が考えるニーズと必ずしも一致していない。同様に、ニーズ側が考えている課題の解決方法とは別の解決方法をシーズ側が持っているにも関わらず、ニーズ側が想像していた解決策と違うことから出会えていなかったこともあったのではないか。シーズとニーズのマッチングをする際に、シーズとニーズの内容にそれぞれ注目し過ぎることで、マッチング機会を逃してしまうことになっているのかもしれない。双方で同じ日常生活の場面を見ながら語り合う時間を共有することで、データベースに登録した項目の照合では出会うことができない、課題と解決策が明らかになるのではないか。
今回の意見交換会の成果として、ミライロハウスを会場とした展示や、ポリオの会の集まりでの相談会の開催が進む予定であるが、そこは単なる機器展示をするのではなく、一緒に日常生活の場面を見て考えを共有する場所となる。
今回のシーズニーズマッチング交流会と意見交換会は、単にシーズとニーズの対応づけをするのではなく、共に考える場所と時間を提供いただいた。個々の問題を一つずつ解決していくだけではなく、日常生活全体をより豊かなものにすることを一緒に考えることが必要とされていると考える。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

ポリオの会	丸橋 達也さん
ポリオの会	小山 万里子さん
株式会社ミライロ	金井 勇樹さん

その他（コミュニケーション障害等）

指伝話コミュニケーションパック（各種オプション）

型番 YCP

指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに!
日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施

開発企業

有限会社オフィス結アジア

担当者　高橋 宣盟
連絡先　TEL 0466-21-7448
E-mail info@yubidenwa.jp

意見交換

交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎

主担当者　小磯 さおり

実施結果

実　施　日：2021年11月2日

実施方法等：施設を訪問し、製品概要と考え方をプレゼンした後に、個別の質疑応答に答えた。

交流のねらい

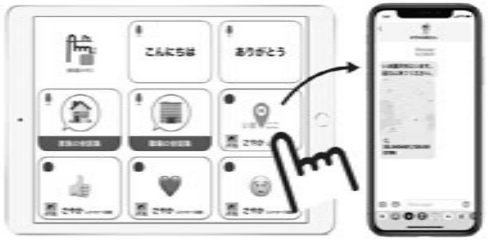
施設での入所・通所・在宅支援の場面で、脳性麻痺や難病の方のコミュニケーション支援について相談を受け、作業療法士がその対応にあたっている中で感じている、機器やスイッチの選定など工学的な面のサポート不足を解消するために、指伝話が役立てるところがあるかを一緒に考える。

交流の成果

実際に製品と事例をご覧いただいたことで、具体的なケースへの対応を含めて、機器利用のイメージを持っていただくことができた。

特に、手の力が弱い人が使用するスイッチ（エアースイッチ AS2）は、実際に触って操作してみることで、スイッチそのものの使い方とともに、それを使って操作する指伝話のコンテンツの良さをご確認いただくことができた。

失語症の方については、その人の障害特性に合わせたコミュニケーションしやすいインタフェースを、よりきめ細やかに用意することが一つの課題として提示された。



今後の見通し

日常生活用具の給付申請手続きも含め、施設利用者への導入を進めていく上で、指伝話コミュニケーションパックのコンテンツを工夫する過程にご協力いただく。
iPadのスイッチコントロールの設定など、弊社の持つノウハウを提供し、施設利用者への導入支援にご活用いただく。

その他

現場で業務にあたるみなさんに実際に時間をとっていただき説明をすると、こんな便利なものがあったのか・知らなかったという話になり、すぐに使いたいと感じていただける。
しかし、同じように全国の施設で説明会をして回ることは不可能であり、必要な情報はウェブや冊子に掲載しているが、そこにたどり着くまで、そして、たどりついた後のフォローアップは、個々の要望に沿った対応が望まれる。

小規模事業者の開発メーカーとして、ニーズのヒアリング・開発・臨床現場でのテスト・サポート・マーケティングなどすべての面においての対応を完璧に行うのは困難であり、重要なことは理解しているが現実問題として難しい。
それができないなら業者として不適格であるということになってしまうと、ニッチな市場でより良い製品を提供することは難しくなる。

例えば「水を手軽に飲みたい」という要望があった時に、製品供給側は「水・ジュース・コーヒー・お茶があります」という返事を提示するかもしれない。
しかし、問題の本質は、部屋が常に乾燥して喉が乾くことかもしれないし、冷たい水を飲むとお腹が痛くなることや、コーヒーのカフェイン摂取は禁止されているとかいう事情があるかもしれない。複数種類の飲料を用意することに力を注いでいる業者よりも、加湿器販売の業者の方が役に立つ、お湯も出るウォーターサーバーの方が役に立つということもある。

今回は、製品が使えるか・使えないかという判断のためだけのマッチングではなく、マッチングする過程で見えてくるさまざまなものを得る機会であったこと考える。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	小磯 さおりさん
れいんぼう川崎・在宅支援室・作業療法士	庄司 博さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・作業療法士	福井 潤子さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・作業療法士	作山 真弓さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	吉本 麻美さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	安本 弥生さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	直井 未和さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・公認心理師／臨床心理士	山﨑 和恵さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・社会福祉士	青木 淳さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・保健師	金 聡美さん

その他（脳性麻痺および脳血管障害）

自分の声ソフトボイスター

あなたの声で作る、自分の声を再現するボイスター。
失語症や構音障害のへの適応の可能性について意見交換の実施。

開発企業

株式会社ヒューマンテクノシステム

担当者　渡辺 聡

連絡先　TEL　03-5847-1206
E-mail　watanabe-sa@kkhts.com

意見交換

交流先

一般社団法人
日本言語聴覚士協会

主担当者　山内 量史

実施結果

実　施　日：2022年1月15日

実施方法等：オンラインにて実施

交流のねらい

本製品の、障害各分野における適用可能性について、特に、現在主として提供している、神経難病分野（ALS等）と喉頭摘出分野（喉頭がん等）以外への分野についての適用可能性を知りたい。現在開発している技術で障害音声の補正が可能になった場合も踏まえて知りたい。

交流の成果

脳性麻痺分野および脳血管障害分野について説明を受けた。特に脳血管障害については、失語症分野と運動障害性構音障害それぞれの分野に対して詳細な説明を受けた。いずれの分野にも適用の可能性があることが分かった。

脳性麻痺分野

- 録音については、発声が困難なケース、発達障害による言語習得の問題があるケースも少なくないことに留意する。
- 文字入力については、文章作成可能でもキーボード操作が困難なケースに留意する。
- 発声や言語コミュニケーションが良好な軽度の成人脳性麻痺のへは適用可能性あり。
  その他でも、声質変換技術、視線入力手段等の利用で適用できるケースあり。

脳血管障害（失語症）

- 失語症の原因の9割以上が脳血管障害であり、失語症患者の職場復帰率は1割にも満たない。
- 録音については、急性発症のため事前は困難、発症後は音読困難な場合あり。
  ➡病前の声をホームビデオから抽出する技術等は有益。
- 文字入力については、キーボードによる文章作成は難しいことが多い。
  ➡中等度の失語症の方は、カテゴリ別に（挨拶語・食事等）にプリセットされたフレーズを選択するシステムにより適用可能。
- 言語や書字にてある程度コミュニケーションを図れる軽度の失語症の方は、リハビリを兼ねた日常生活に適用可能性がある。

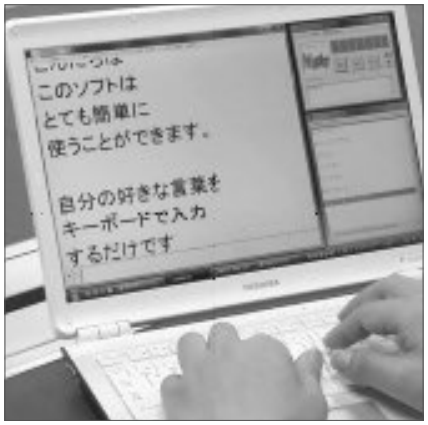
脳血管障害（構音障害）

- 録音については、急性発症のため事前の録音は困難、発症後は呂律障害、声量低下、嗄声等の主症状があるが、
  ➡声質変換技術で対応可能か。
- 文字入力については、キーボード操作で問題ない。
- 言語や書字にてある程度コミュニケーションを図れる軽度の失語症の方は、リハビリを兼ねた日常生活に適用可能性がある。

その他

器質性の構音障害（舌癌による舌切除等）は術前に録音でき、適用可能。
パーキンソン等神経難病は緩徐的に症状が進むため、増悪前録音可能で、適用可能。

なお言語聴覚士によるが病院での訓練場面や家庭での訪問リハビリでの録音は可能と思われるが、そのためには言語聴覚士が本製品を周知していること、ICレコーダーなど簡便な録音システムであることが望まれる。
本製品の導入を悩んでいる方へも将来的な導入を見越して言語聴覚士が録音することは可能と思われるが、その際は家族からの情報提供が不可欠であり、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士がチームで対応する形となるだろう。



今後の見通し

- 脳性麻痺、脳血管障害の分野に対する本製品のニーズ・適用可能性があることについて確認することができた。
- 今後は、言語聴覚士をはじめとする医療・リハビリ・介護スタッフ等、当該分野に関わる方へ本製品の周知を図る。
- まず、障害補正を含めた技術について、周知活動に必要となる実証実験・事例創出を行う。

意見交換やアドバイスに係わった担当者

一般社団法人 日本言語聴覚士協会　副会長　　内山 量史さん

MEMO

障害者自立支援機器のシーズとニーズの意見交換、アドバイス支援

公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823　東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4F
HP：http://www.techno-aids.or.jp
TEL：03-3266-6883

この事業は、厚生労働省から令和3年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。

令和３年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業

令和４年３月　　発行
発　行　者　　公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸１番１号　セントラルプラザ４階
TEL　03-3266-6883　　FAX　03-3266-6885

この事業は、厚生労働省から令和３年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。